

2012 年

認定看護師の活動及び成果に関する調査報告書

平成 25 年 2 月

公益社団法人日本看護協会 認定部

はじめに

認定看護師制度は、1994年と1995年の2度におよぶ日本看護協会総会決議を経て、1995年5月に創設されました。制度の目的には、高度化・専門分化が進む医療現場における看護ケアの広がりや看護の質向上を図ることが掲げられ、特定の看護分野ごとに期待される役割と必要な教育が構築されてきました。本調査を実施した2012年には制度発足から18年目を迎え、認定看護分野は21分野、認定看護師数は8,993名となりました(2012年4月1日現在)。「実践」「指導」「相談」の役割を持つ認定看護師は様々な場で活動を積み重ね、その社会的評価は2002年の緩和ケア診療加算の算定に始まり、2012年4月の診療報酬の改定により計16分野の認定看護師の配置が何らかの診療報酬の算定要件として認められています。また、2007年には「医療に関する広告が可能な医療従事者の専門性に関する資格」として、これまでに18分野の認定看護師資格が認められることになりました。身近にいる認定看護師の活動や社会的評価によって、病院看護管理者の認定看護師配置増へのニーズは高まり、看護師にとっても認定看護師への関心は高く、現場の看護の質を向上させる方法として、キャリアアップや知識技術の習得などの専門性向上のための選択肢の一つとして認定看護師の取得が確実に定着しています。

認定看護師の活躍への期待は、病院だけでなく、訪問看護ステーションや介護施設にも広がっていますが、認定看護師の総数は就業している看護師の1%弱に過ぎず、分野別人数も半数の分野で300人には及ばない状況です。本調査は回収率が62.6%と多くの認定看護師から回答を得られました。92.5%が「病院」に所属、手当の支給が32.6%にあり、その名目は「認定看護師手当」が57.0%と最も多い。教育課程就学中の勤務形態は「出張、研修、休職」が91.0%で、最近の就学者の方が改善され、無給者の割合が低くなる傾向があり、診療報酬をはじめとした認定看護師への社会的評価の影響が推測された。活動範囲は「施設外を含む」が61.1%と多く、活動内容は「講演・講師等依頼」、「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」「認定看護師教育機関における講師・実習指導」の順に多くあげられていました。今後の超高齢社会において、認定看護師が3つの役割を果たすことにより質の高い看護の提供とチーム医療推進や地域連携に貢献することが望まれる中、本調査により得られた結果を活用し、さらなる認定看護師制度推進に向けて取り組みをすすめてまいります。

会員各位および各方面の方々におかれましては、本報告書を、今後の人材活用や認定看護師活動の推進にご利用いただきますよう、よろしくごお願い致します。

本調査にご協力くださった皆様に厚く御礼申し上げます。

公益社団法人日本看護協会
常任理事 洪愛子

2014年4月

目次

I	調査概要	1
1	調査目的	1
2	調査対象	1
3	調査時期	1
4	調査方法	1
5	調査項目	1
6	回収状況	2
7	本報告書の表記方法について	2
II	認定看護師自身について	3
1	認定看護分野	3
2	看護師としての経験年数	4
3	認定看護師としての経験年数	7
4	性別	8
5	所属施設	9
5-1	設置主体（所属先が病院の場合）	9
5-2	病床数（所属先が病院の場合）	12
5-3	病院種別（所属先が病院の場合）	12
6	所属部署・施設の認定看護分野との関連性	13
7	認定資格取得後から現在までの就業場所変更有無	14
7-1	就業場所変更の理由（就業場所変更が有りの場合）	16
8	現在の職位	16
9	認定看護師への手当支給の有無	17
9-1	認定看護師への手当の名目	19
9-2	認定看護師への手当の月額支給金額	20
III	認定看護師を取得するまでの過程について	25
1	認定看護師を目指した動機	25
2	認定看護師教育機関を選択した理由	27
3	教育機関を選択する際、他の認定看護師教育機関の検討有無	29
4	就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い	30
4-1	「出張、研修、休職」中の給与支給状況	33
4-2	「出張、研修、休職」中の給与支給、「一部支給」の場合の比率（%）	36
4-3	「出張、研修、休職」中の賞与支給状況	37
4-4	「出張、研修、休職」中の賞与、「一部支給あり」の場合の比率（%）	40
4-5	「出張、研修、休職」中の特別手当の支給状況	41
4-6	「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給状況	44
4-7	「出張、研修、休職」中の教育課程受験料、「一部支給あり」の場合の比率（%）	47
4-8	「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助状況	48

4-9 「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助、「一部援助あり」の場合の比率 (%)	51
5 認定看護師教育課程入学時の奨学金利用	52
IV 認定看護師としての活動について	53
1 現在の所属施設内における活動範囲	53
1-1 施設外における活動内容	56
2 最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合	59
2-1 最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の平均割合	71
3 現在実施している認定看護分野に関連する活動について	73
4 自身の活動による診療報酬の届出有無	96
4-1 届出を行っている診療報酬について	98
4-2 診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響	100
5 認定看護師としての活動の推進力となっているもの	102
6 認定看護師としての活動にあたり困難が生じた場合に相談する主な相手	103
7 認定看護師のネットワーク所属有無	104
7-1 所属するネットワークの母体	106
7-2 所属するネットワークにて行っている活動	107
V 認定看護師としての活動の成果について	108
1 認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果	108
2 自身の活動の成果や効果を評価するための臨床指標有無	123
2-1 具体的な評価指標	126
3 認定看護師になってよかったと思うか	127
3-1 認定看護師になってよかったかと活動状況、活動成果クロス集計	131
4 他の看護師からの認定看護師資格取得についての相談有無	133
5 認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか	135
VI まとめ	138
VII 参考資料	140
1 調査票	140
2 自由記述（一部抜粋）	148
3 自由記述分析	150
3-1 多忙	150
3-2 上司や周囲の理解が無い	151
3-3 体調への影響	151
3-4 金銭的な負担	151
3-5 家庭への影響	151
3-6 自らの考える理想の認定看護師像との乖離	152
3-7 経験の浅さ	152
3-8 認定制度に否定的な意向	152
3-9 退職・離職	153
3-10 患者と接する機会の減少	153

図表目次

表 1	認定看護師の活動及び成果に関する調査 分野別調査対象及び回収状況	2
図 1	認定看護分野別、回答者数 (n=6, 812)	3
図 2	看護師としての経験年数 (n=6, 812)	4
表 2	認定看護分野別、看護師としての経験年数 (n=6, 812)	5
図 3	認定看護分野別、看護師としての経験年数 (n=6, 812)	6
図 4	認定看護師としての経験年数 (n=6, 812)	7
図 5	性別 (n=6, 812)	8
表 3	所属施設 (n=6, 812)	9
表 4	病院の設置主体 (n=6, 300)	9
表 5	認定看護分野別、病院の設置主体 (n=6, 300)	10
図 6	認定看護分野別、病院の設置主体 (n=6, 300)	11
図 7	病床数 (所属先が病院の場合) (n=6, 300)	12
図 8	病院種別 (所属先が病院の場合) (n=6, 300・複数回答)	12
図 9	所属部署・施設と認定看護分野の関連性 (n=6, 812)	13
図 10	認定資格取得後から現在までの就業場所変更の有無 (n=6, 812)	14
図 11	認定看護分野別、認定資格取得後から現在までの就業場所変更の有無 (n=6, 812)	15
図 12	就業場所変更の理由 (就業場所変更がある場合) (n=2, 909・複数回答)	16
図 13	現在の職位 (n=6, 812)	16
図 14	認定看護師への手当支給の有無 (n=6, 812)	17
図 15	病院設置主体別、認定看護師への手当支給の有無 (n=6, 300)	18
図 16	認定看護師への手当の名目 (n=2, 221)	19
表 6	認定看護師へのその他の手当の名目	19
図 17	認定看護師への手当の月額支給金額 (n=2, 221)	20
表 7	認定看護師への手当の月額支給金額 (n=1, 644)	20
図 18	認定看護分野別、認定看護師への手当支給の有無 (n=6, 812)	21
図 19	認定看護分野別、認定看護師への手当の名目 (n=2, 221)	22
図 20	認定看護分野別、認定看護師への手当の月額平均支給額 (n=1, 644)	23
表 8	認定看護分野別、認定看護師への手当の月額平均支給額 (n=1, 644)	23
図 21	病院設置主体別、認定看護師への手当の月額平均支給額 (n=1, 581)	24
表 9	病院設置主体別、認定看護師への手当の月額平均支給額 (n=1, 581)	24
図 22	認定看護師を目指した動機 (n=6, 812)	25
図 23	認定看護分野別、認定看護師を目指した動機 (n=6, 812)	26
図 24	認定看護師教育機関を選択した理由 (n=6, 812・複数回答)	27
表 10	認定看護分野別、認定看護師教育機関を選択した理由 (n=6, 812)	28
図 25	教育機関を選択する際、入学を検討した他の教育機関の有無 (n=6, 812)	29
図 26	認定看護師教育機関就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い (n=6, 812)	30
表 11	認定看護分野別、就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い (n=6, 812)	31

表 12	病院設置主体別、就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い (n=6, 300)	32
表 13	認定看護師としての経験年数別、就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い (n=6, 812)	32
図 27	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給状況 (n=6, 812)	33
図 28	認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給状況 (n=6, 202)	34
表 14	病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給状況 (n=6, 300)	35
図 29	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給について、「一部支給」の場合の比率 (n=433)	36
表 15	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給について、「一部支給」の場合の比率 (n=392)	36
図 30	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与支給状況 (n=6, 812)	37
図 31	認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与 (n=6, 202)	38
表 16	病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与 (n=5, 854)	39
図 32	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与について、「一部支給あり」の場合の比率 (%) (n=760)	40
表 17	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与について、「一部支給あり」の場合の比率 (%) (n=409)	40
図 33	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当支給状況 (n=6, 812)	41
表 18	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当の支給 主な名目	41
表 34	認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当の支給有無 (n=6, 202)	42
	[病院設置主体別]	43
表 19	病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当の支給有無 (n=5, 854)	43
図 35	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料支給状況 (n=6, 812)	44
図 36	認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給有無 (n=6, 202)	45
	[病院設置主体別]	46
表 20	病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給の有無 (n=5, 854)	46
図 37	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給、「一部支給あり」の場合の比率 (n=230)	47
表 21	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給、「一部支給あり」の場合の比率 (n=230)	47
図 38	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助状況 (n=6, 812)	48
図 39	認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助有無 (n=6, 202)	49
表 22	病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助有無 (n=5, 854)	50
図 40	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助について、「一部援助あり」の場合の比率 (%) (n=1, 059)	51

表 23	認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助について、 「一部援助あり」の場合の比率 (%) (n=1,059)	51
図 41	認定看護師教育課程入学時の奨学金利用 (n=6,812)	52
表 24	認定看護師教育課程入学時の利用奨学金名	52
図 42	現在の所属施設内における活動範囲 (n=6,812)	53
図 43	認定看護分野別、現在の所属施設内における活動範囲 (n=6,812)	54
図 44	病院設置主体別、現在の所属施設内における活動範囲 (n=6,300)	55
図 45	活動範囲が「施設外も含む」場合の、施設外における活動内容 (n=4,164・複数回答)	56
図 46	病認定看護分野別、活動範囲が「施設外も含む」場合の、施設外における活動内容 (n=3,816)	57
図 47	病院設置主体別、活動範囲が「施設外も含む」場合の、施設外における活動内容 (n=3,816)	58
図 48	最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=6,158)	59
図 49	救急看護分野、別最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=388)	60
図 50	皮膚・排泄ケア分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=987)	60
図 51	集中ケア分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=352)	61
図 52	緩和ケア分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=704)	61
図 53	がん化学療法看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=598)	62
図 54	がん性疼痛看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=334)	62
図 55	訪問看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=185)	63
図 56	感染管理分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=946)	63
図 57	糖尿病看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=260)	64
図 58	不妊症看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=58)	64
図 59	新生児集中ケア分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=159)	65
図 60	透析看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=88)	65
図 61	手術看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=137)	66
図 62	乳がん看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=109)	66
図 63	摂食・嚥下障害看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=222)	67
図 64	小児救急看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=88)	67
図 65	認知症看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=145)	68
図 66	脳卒中リハビリテーション看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談 の割合 (n=186)	68
図 67	がん放射線療法看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=62)	69
図 68	慢性呼吸器疾患看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=35)	69
図 69	慢性心不全看護分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=41)	70
図 70	認定看護分野別、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の平均割合 (n=6,812)	71
図 71	認定看護師としての経験年数別、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の 平均割合 (n=6,812)	72
図 72	現在実施している認定看護分野に関連する活動 (n=6,720)	74
図 73	救急看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=419)	75
図 74	皮膚・排泄ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=1,064)	76
図 75	集中ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=398)	77

図 76	緩和ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=783)	78
図 77	がん化学療法看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=653)	79
図 78	がん性疼痛看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=359)	80
図 79	訪問看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=208)	81
図 80	感染管理分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=1,000)	82
図 81	糖尿病看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=283)	83
図 82	不妊症看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=67)	84
図 83	新生児集中ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=168)	85
図 84	透析看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=94)	86
図 85	手術看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=144)	87
図 86	乳がん看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=119)	88
図 87	摂食・嚥下障害看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=247)	89
図 88	小児救急看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=98)	90
図 89	認知症看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=163)	91
図 90	脳卒中リハビリテーション看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=210)	92
図 91	がん放射線療法看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=75)	93
図 92	慢性呼吸器疾患看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=38)	94
図 93	慢性心不全看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=45)	95
図 94	自身の活動による診療報酬の届出有無 (n=6,812)	96
図 95	認定看護分野別、自身の活動による診療報酬の届出有無 (n=6,812)	97
図 96	診療報酬項目該当者に占める届出を行っている診療報酬の割合	98
表 25	認定看護分野別、届け出を行っている診療報酬 (n=3,438・複数回答)	99
図 97	診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響 (n=3,438・複数回答)	100
図 98	認定看護分野別、診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響 (n=3,438・複数回答)	101
図 99	認定看護師としての活動の推進力 (n=6,812・複数回答)	102
図 100	認定看護師としての活動にあたり困難が生じた場合に相談する主な相手 (n=6,812・複数回答)	103
図 101	認定看護師のネットワーク所属有無 (n=6,812)	104
図 102	認定看護分野別、認定看護師のネットワーク所属有無 (n=6,812)	105
図 103	所属するネットワークの母体 (n=5,648・複数回答)	106
図 104	所属するネットワークにて行っている活動 (n=5,648・複数回答)	107
図 105	認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=6,812)	108
図 106	認定看護師としての経験年数 (0-1年) 別、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、 施設に及ぼした成果 (n=2,026)	109
図 107	認定看護師としての経験年数 (2-5年) 別、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、 施設に及ぼした成果 (n=3,333)	110
図 108	認定看護師としての経験年数 (6-9年) 別、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、 施設に及ぼした成果 (n=1,033)	110
図 109	認定看護師としての経験年数 (10年以上) 別、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、 施設に及ぼした成果 (n=379)	111

図 110	救急看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=425)	112
図 111	皮膚・排泄ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=1,077)	112
図 112	集中ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=405)	113
図 113	緩和ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=800)	113
図 114	がん化学療法看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=662)	114
図 115	がん性疼痛看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=367)	114
図 116	訪問看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=210)	115
図 117	感染管理分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=1,013)	115
図 118	糖尿病看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=286)	116
図 119	不妊症看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=69)	116
図 120	新生児集中ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=169)	117
図 121	透析看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=95)	117
図 122	手術看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=145)	118
図 123	乳がん看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=121)	118
図 124	摂食・嚥下障害看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=249)	119
図 125	小児救急看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=99)	119
図 126	認知症看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=166)	120
図 127	脳卒中リハビリテーション看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に 及ぼした成果 (n=210)	120
図 128	がん放射線療法看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした 成果 (n=75)	121
図 129	慢性呼吸器疾患看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした 成果 (n=38)	121
図 130	慢性心不全看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=45)	122
図 131	認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無 (n=6,812)	123
図 132	認定看護分野別、認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無 (n=6,812)	124
図 133	認定看護師としての経験年数別、認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標 の有無 (n=6,812)	125
図 134	認定看護師になってよかったと思うか (n=6,812)	127
図 135	認定看護分野別、認定看護師になってよかったと思うか (n=6,812)	128
図 136	認定看護分野別、認定看護師になってよかったと思うか (平均割合) (n=6,812)	129
図 137	認定看護師としての経験年数別、認定看護師になってよかったと思うか (n=6,812)	130
図 138	認定看護師としての経験年数別、認定看護師になってよかったと思うか (平均割合) (n=6,300)	130

図 139	認定看護師になってよかったと思うか×認定看護分野に関する活動状況（平均点）（n=6, 812）	131
図 140	認定看護師になってよかったと思うか×認定看護師としての活動が関連施設等に及ぼした影響（平均点）（n=6, 812）	132
図 141	他の看護師から認定看護師の資格取得についての相談有無（n=6, 812）	133
図 142	認定看護分野別、他の看護師から認定看護師の資格取得についての相談有無（n=6, 812）	134
図 143	認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか（n=6, 812）	135
図 144	認定看護分野別、認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか（n=6, 812）	136
図 145	認定看護師としての経験年数別、認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか（n=6, 812）	137
表 26	認定看護師になってよかったと思うか（自由記述抜粋）	148
表 27	満足度評価の理由	150
表 28	主な意見（「多忙」関連）	150
表 29	主な意見（「上司や周囲の無理解」関連）	151
表 30	主な意見（「体調への影響」関連）	151
表 31	主な意見（「金銭的な負担」関連）	151
表 32	主な意見（「家庭への影響」関連）	151
表 33	主な意見（「理想像との乖離」関連）	152
表 34	主な意見（「経験の浅さ」関連）	152
表 35	主な意見（「制度に否定的」関連）	152
表 36	主な意見（「退職・離職」関連）	153
表 37	主な意見（「患者と接する機会減少」関連）	153

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、認定看護師の属性や認定看護師取得までの過程、活動状況、活動内容、活動成果の実態を明らかにし、活動ならびに認定看護師制度の推進を図るうえでの、事業や政策提言の基礎資料とすることを目的とした。

2 調査対象

2012年（平成24年）7月26日現在の認定看護師登録者10,875名（表1）

3 調査時期

2012年9月3日～2012年10月9日（当初締切9月28日から延長）

4 調査方法

自記式質問紙郵送法

※本調査の実施にあたっては日本看護協会研究倫理委員会による倫理審査を受け、承認されている。

5 調査項目

- ・ 認定看護師の属性
 - 看護師経験年数、認定看護師経験年数、所属施設、職位、認定看護師手当支給有無等
- ・ 認定看護師資格を取得するまでの過程
 - 認定看護師を目指した理由、認定看護師教育機関選択理由、就学中の勤務形態、処遇等
- ・ 認定看護師の活動状況、活動内容
 - 活動範囲、内容、活動時の推進力、相談相手、ネットワーク等
- ・ 認定看護師の活動成果
 - 所属部署や部門、施設に及ぼした影響、評価指標、満足度等

6 回収状況

有効回収数 6,812（有効回収率 62.6%）（表 1）

表 1 認定看護師の活動及び成果に関する調査 分野別調査対象及び回収状況

分野	配布数	回収数	回収率(%)
1 救急看護	739	425	57.5
2 皮膚・排泄ケア	1,778	1,077	60.6
3 集中ケア	750	405	54.0
4 緩和ケア	1,295	800	61.8
5 がん化学療法看護	1,007	662	65.7
6 がん性疼痛看護	638	367	57.5
7 訪問看護	333	210	63.1
8 感染管理	1,611	1,013	62.9
9 糖尿病看護	438	286	65.3
10 不妊症看護	121	69	57.0
11 新生児集中ケア	287	169	58.9
12 透析看護	151	95	62.9
13 手術看護	235	145	61.7
14 乳がん看護	188	121	64.4
15 摂食・嚥下障害看護	373	249	66.8
16 小児救急看護	159	99	62.3
17 認知症看護	262	166	63.4
18 脳卒中リハビリテーション看護	290	210	72.4
19 がん放射線療法看護	103	75	72.8
20 慢性呼吸器疾患看護	57	38	66.7
21 慢性心不全看護	60	45	75.0
分野名無回答	-	86	-
合計	10,875	6,812	62.6

7 本報告書の表記方法について

- ・回答率（各回答の百分比）は、小数点第 2 位を四捨五入した。このため、回答率の合算が 100 にならない場合がある。
- ・平均値は「不明・無回答」を除いて算出している。
- ・各項目（認定看護分野、病院設置主体、認定取得年数）クロス集計における「全体」は、有効回収数 6,812（病院を対象にする場合 6,300）の集計結果を示す。各項目の集計においては、項目無回答者を除いた集計結果を示す。
- ・本文、図表、統計表等で用いた記号は主に以下のとおりである。
 - n：その質問に対する回答者数であり、比率算出の基数である。
 - 図表、統計表中の「-」：計数がない（回答者もしくは該当者がいない）ことを示す。
 - 図表、統計表中の「0」「0.0」：計数はあるが、四捨五入して 0 である場合を示す。

II 認定看護師自身について

1 認定看護分野

回答した看護師の認定看護分野は、「皮膚・排泄ケア」が1,077名（15.8%）と最も多く、次いで「感染管理」が1,013名（14.9%）、「緩和ケア」が800名（11.7%）の順だった。

各認定看護分野の回収率は概ね6割程度であった。

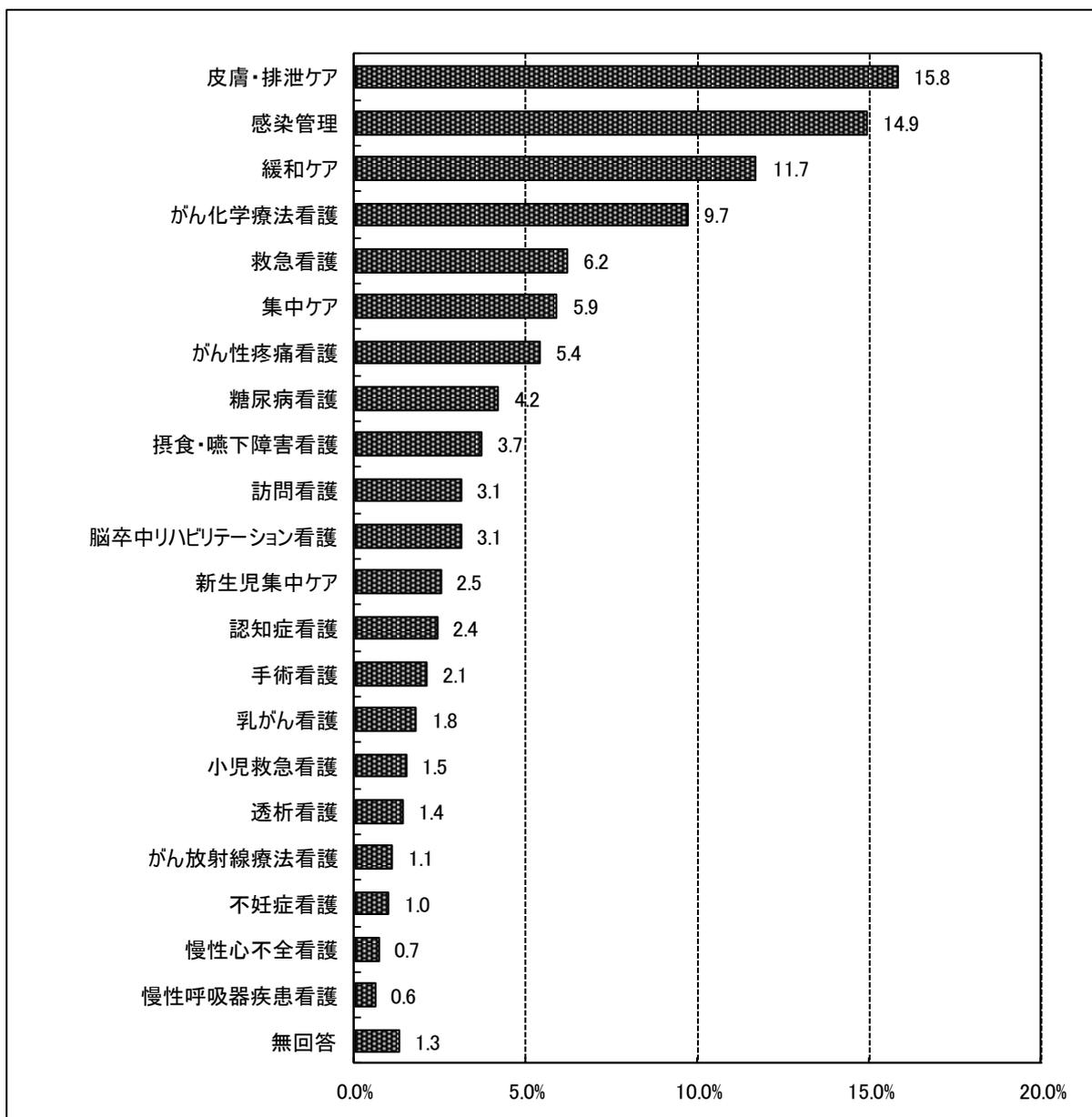


図1 認定看護分野別、回答者数(n=6,812)

2 看護師としての経験年数

看護師としての経験年数は最小値 6 年、最大値 48 年で平均値は 18.0 年、経験年数を 5 年ごとの区分で見ると「16-20 年」が 1,918 名 (28.2%) と最も多く、次いで「11-15 年」が 1,892 名 (27.8%)、「21-25 年」が 1,379 名 (20.2%) の順だった。

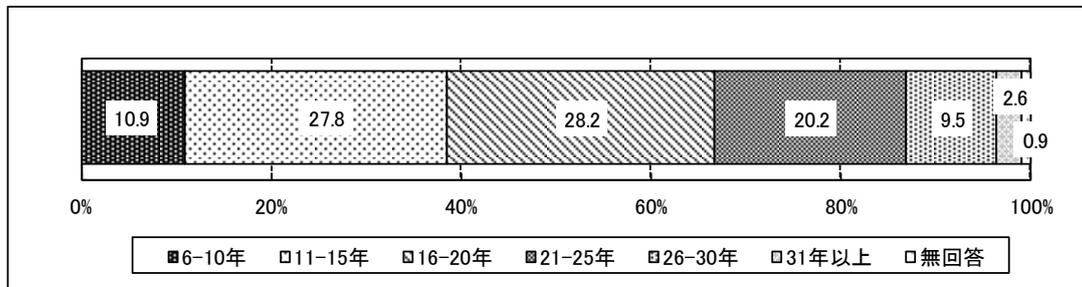


図 2 看護師としての経験年数 (n=6,812)

〔認定看護分野別〕

看護師としての経験年数を認定看護分野別にみると、最も長いのは「訪問看護」分野で平均値は 21.8 年だった。一方、平均の経験年数が短いのは「脳卒中リハビリテーション看護」分野で 14.5 年、「慢性心不全看護」で 13.4 年であった。

表 2 認定看護分野別、看護師としての経験年数と人数 (n=6,812)

	平均値	6-10年	11-15年	16-20年	21-25年	26-30年	31年以上	無回答
全体	18	741	1,892	1,918	1,379	646	176	60
救急看護	17.5	40	126	140	78	33	3	5
皮膚・排泄ケア	18.4	117	283	287	226	115	39	10
集中ケア	16.9	54	126	126	73	19	6	1
緩和ケア	17.9	83	236	237	146	79	16	3
がん化学療法看護	17	95	191	189	134	40	5	8
がん性疼痛看護	17.4	34	123	102	75	27	4	2
訪問看護	21.8	3	31	63	60	37	14	2
感染管理	20.2	60	213	252	261	162	58	7
糖尿病看護	18.8	25	68	90	52	37	9	5
不妊症看護	20.2	4	14	15	27	6	3	-
新生児集中ケア	16.3	20	61	56	20	10	-	2
透析看護	18.7	11	20	29	19	13	3	-
手術看護	17.4	10	41	53	34	5	1	1
乳がん看護	16.4	18	42	35	16	7	2	1
摂食・嚥下障害看護	17.1	41	72	64	42	20	6	4
小児救急看護	15.9	16	32	35	13	3	-	-
認知症看護	17.9	22	48	41	32	15	6	2
脳卒中リハビリテーション看護	14.5	57	82	39	24	7	-	1
がん放射線療法看護	16.7	7	25	24	14	4	-	1
慢性呼吸器疾患看護	15.5	6	14	9	6	1	-	2
慢性心不全看護	13.4	14	18	7	5	-	-	1

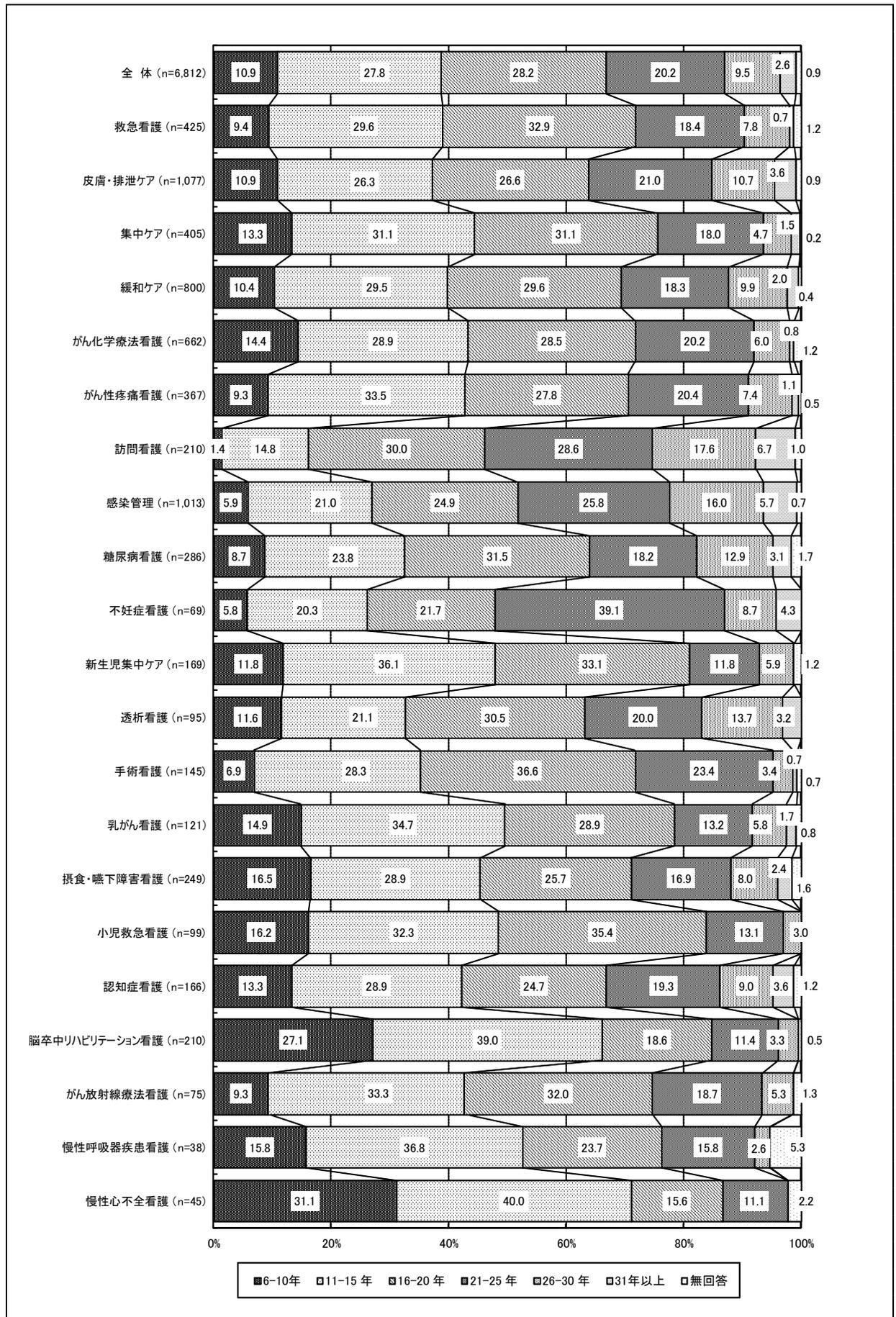


図3 認定看護分野別、看護師としての経験年数 (n=6,812)

3 認定看護師としての経験年数

認定看護師としての経験年数は、「2-5年」が3,333名(48.9%)と最も多く、次いで「0-1年」が2,026名(29.7%)、「6-9年」が1,033名(15.2%)の順だった。また、平均値は3.5年、最小値0年、最大値15年だった。

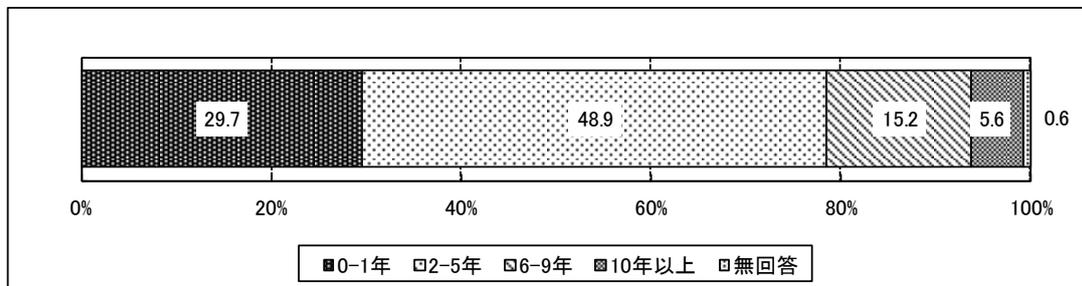


図4 認定看護師としての経験年数(n=6,812)

4 性別

性別は、「女性」が6,311名(92.6%)、「男性」が482名(7.1%)だった。

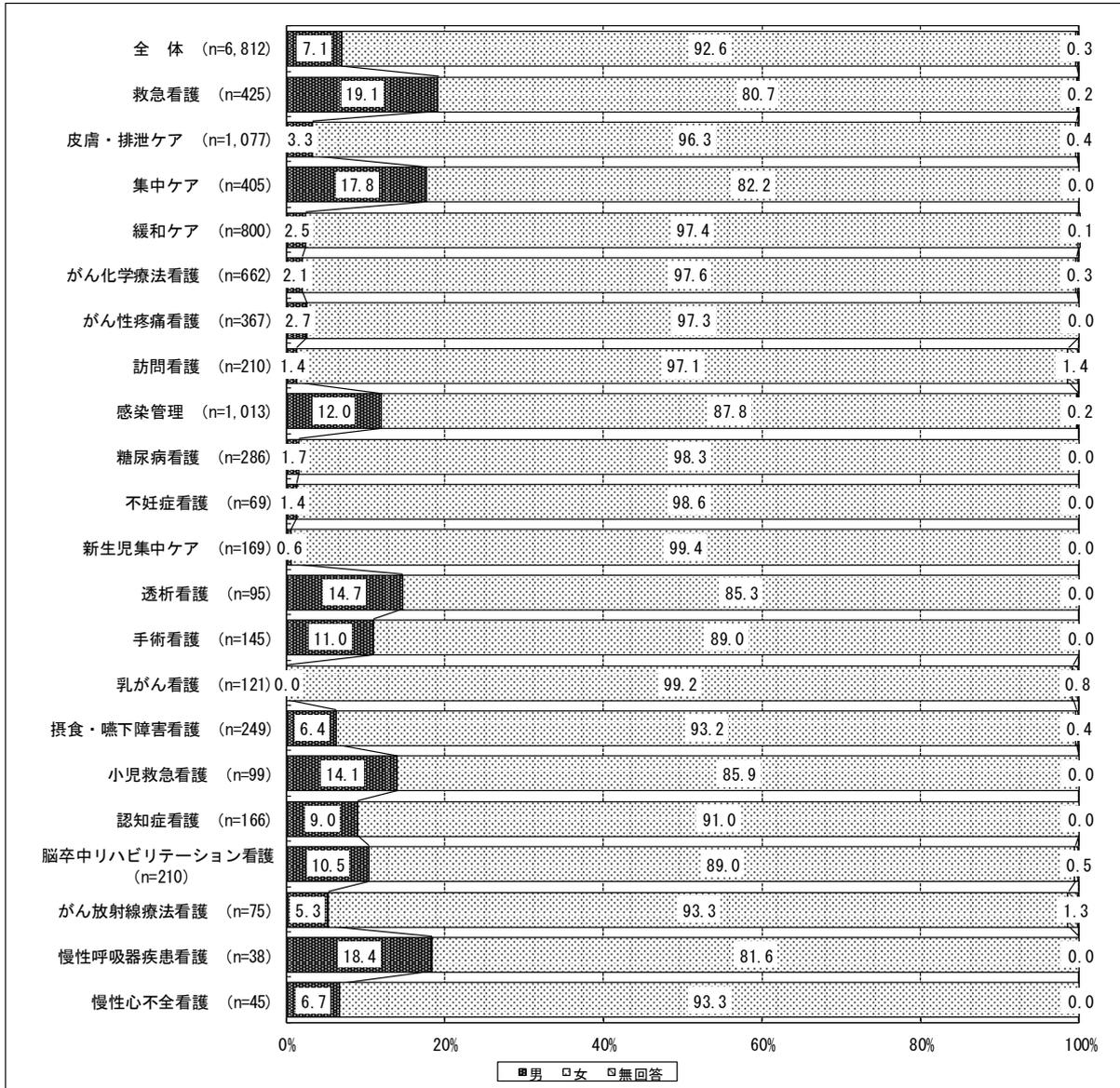


図5 性別 (n=6,812)

5 所属施設

所属施設は、「病院」に所属する者が6,300名（92.5%）と最も多く、次いで「訪問看護ステーション」が222名（3.3%）、「診療所」が65名（1.0%）の順だった。

表3 所属施設(n=6,812)

	全体	病院	訪問看護ステーション	診療所	離職中	教育機関(教員)	教育機関(学生)	福祉施設	企業	その他	無回答
人数	6,812	6,300	222	65	62	62	26	26	10	34	5
割合	100.0%	92.5%	3.3%	1.0%	0.9%	0.9%	0.4%	0.4%	0.1%	0.5%	0.1%

5-1 設置主体（所属先が病院の場合）

所属する病院の設置主体は「都道府県・市町村」が1,572名（25.0%）と最も多く、「医療法人」が13.0%、「学校法人」が10.6%だった。

表4 病院の設置主体(n=6,300)

設置主体	人数	割合
国（独立行政法人国立病院機構含む）	303	4.8%
都道府県・市町村	1,572	25.0%
国立大学法人	403	6.4%
公益法人	254	4.0%
医療法人	822	13.0%
学校法人	666	10.6%
国民健康保険団体連合会	27	0.4%
社会保険関連団体	203	3.2%
日本赤十字社	532	8.4%
済生会	231	3.7%
その他の法人	910	14.4%
その他	342	5.4%
無回答	35	0.6%
全体	6,300	100.0%

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に病院の設置主体をみると、多くの分野で「都道府県」の割合が高かったが、「訪問看護」や「脳卒中リハビリテーション看護」、「慢性呼吸器疾患看護」分野では「医療法人」の割合が高かった。

表 5 認定看護分野別、病院の設置主体(n=6,300)

	国	都道府 県・市町 村	国立大 学法人	公益法 人	医療法 人	学校法 人	国民健 康保険 団体連 合会	社会保 険関連 団体	日本赤 十字社	済生会	その他 の法人	その他	無回答	合計
全 体	303	1,572	403	254	822	666	27	203	532	231	910	342	35	6,300
救急看護	20	120	29	12	41	67	-	6	38	19	39	17	3	411
皮膚・排泄ケア	40	249	61	42	154	93	5	42	83	44	137	76	3	1,029
集中ケア	9	99	34	12	41	67	1	10	37	9	50	18	4	391
緩和ケア	32	175	34	43	138	57	2	10	42	24	117	38	5	717
がん化学療法看護	40	180	44	26	53	64	2	17	69	18	106	29	3	651
がん性疼痛看護	36	81	20	11	34	33	2	28	18	12	56	15	2	348
訪問看護	-	6	-	1	9	2	1	1	4	1	5	1	1	32
感染管理	60	249	49	38	140	75	6	32	72	35	172	62	3	993
糖尿病看護	3	58	17	12	35	34	2	18	24	17	33	19	2	274
不妊症看護	2	6	8	-	3	8	-	3	-	4	4	3	-	41
新生児集中ケア	10	45	23	4	4	32	1	3	18	4	21	4	-	169
透析看護	3	22	2	5	14	11	-	4	5	1	12	3	1	83
手術看護	3	42	12	7	8	22	-	3	17	5	17	4	3	143
乳がん看護	4	36	7	7	5	13	-	3	11	5	15	8	-	114
摂食・嚥下障害看護	9	65	22	4	28	22	-	7	21	10	34	13	-	235
小児救急看護	1	32	7	3	2	14	1	1	13	2	11	4	1	92
認知症看護	3	28	4	5	32	8	-	6	16	4	19	7	-	132
脳卒中リハビリテーション 看護	11	36	7	11	55	21	1	3	16	10	23	11	3	208
がん放射線療法看護	7	15	16	3	7	8	-	1	4	2	8	2	1	74
慢性呼吸器疾患看護	2	2	4	1	10	3	2	-	5	1	5	3	-	38
慢性心不全看護	3	8	1	2	2	7	-	-	6	3	11	2	-	45

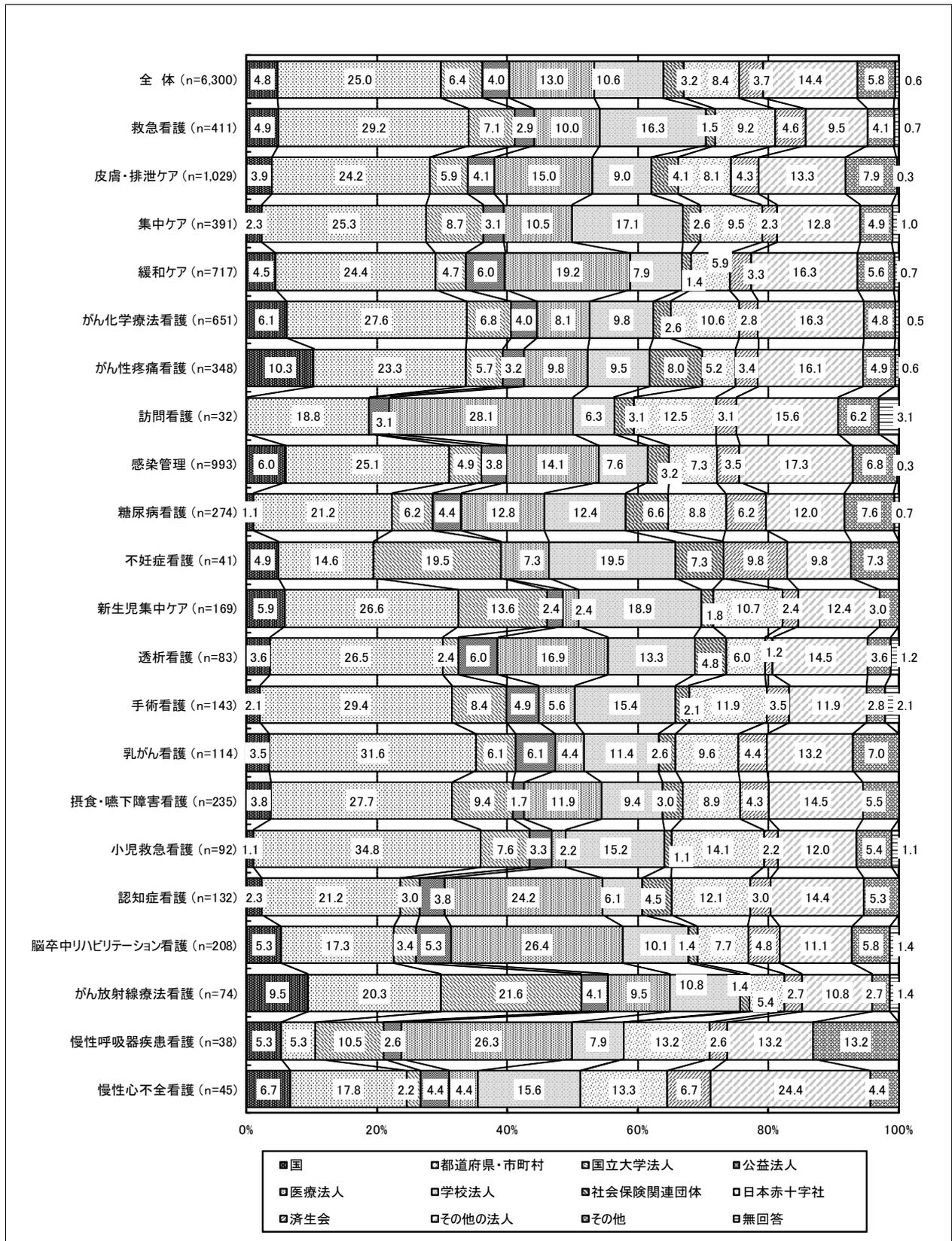


図 6 認定看護分野別、病院の設置主体 (n=6,300)

5-2 病床数（所属先が病院の場合）

所属する「病院の病床数は「300-399床」が1,178名（18.7%）と最も多く、次いで「400-499床」が949名（15.1%）、「500-599床」が788名（12.5%）と続いた。

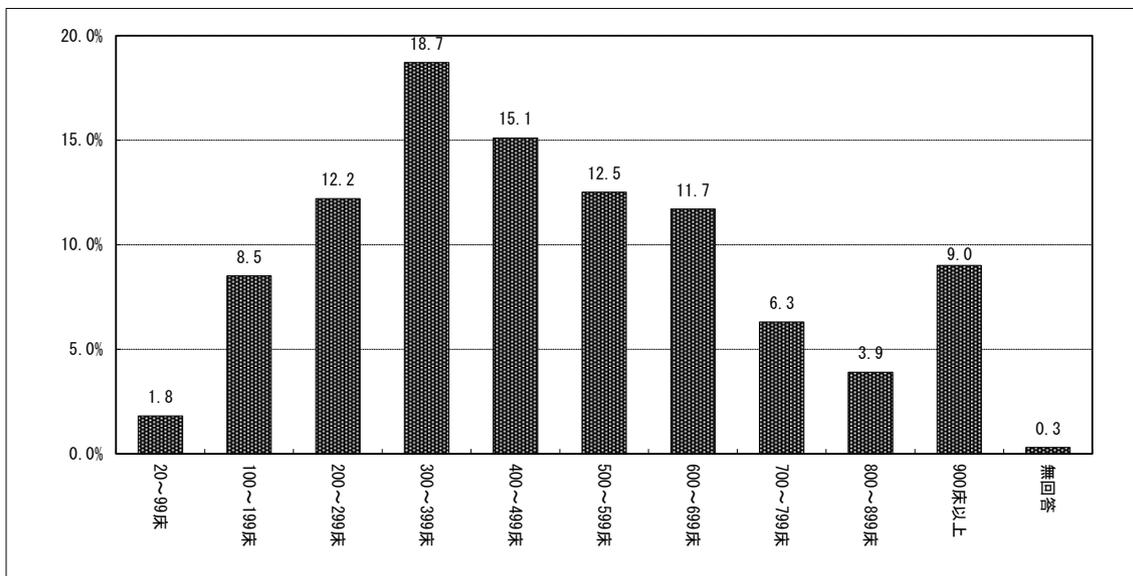


図7 病床数（所属先が病院の場合）(n=6,300)

5-3 病院種別（所属先が病院の場合）

「5 所属施設」で「病院」と回答した者のうち、病院の種別は「がん診療連携拠点病院」が3,091名（49.1%）と最も多く、次いで「地域医療支援病院」が2,656名（42.2%）、「災害拠点病院」が2,649名（42.0%）であった。

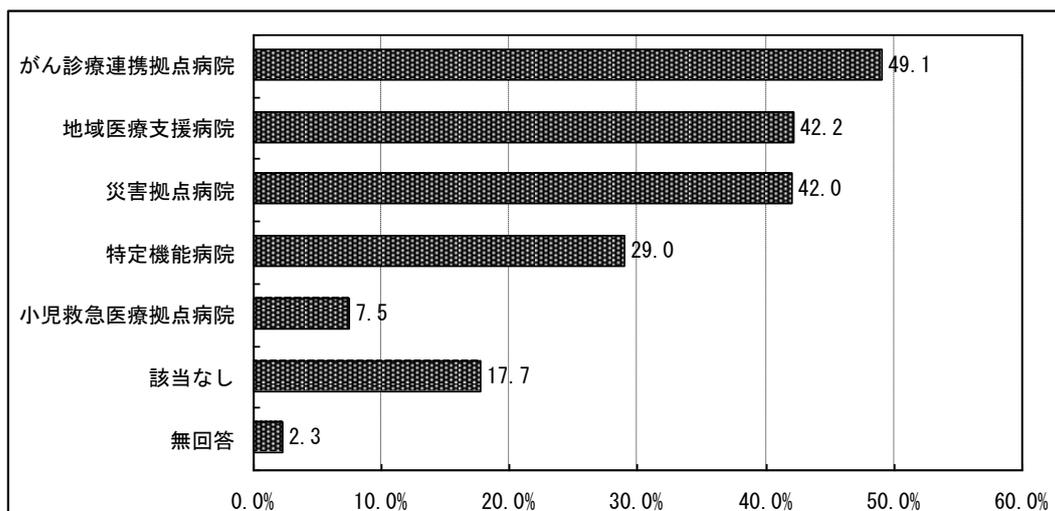


図8 病院種別（所属先が病院の場合）(n=6,300・複数回答)

6 所属部署・施設の認定看護分野との関連性

所属部署・施設の認定看護分野との関連性について、関連性が「あり」と回答した者は6,107名(89.7%)、「なし」と回答した者は547名(8.0%)だった。

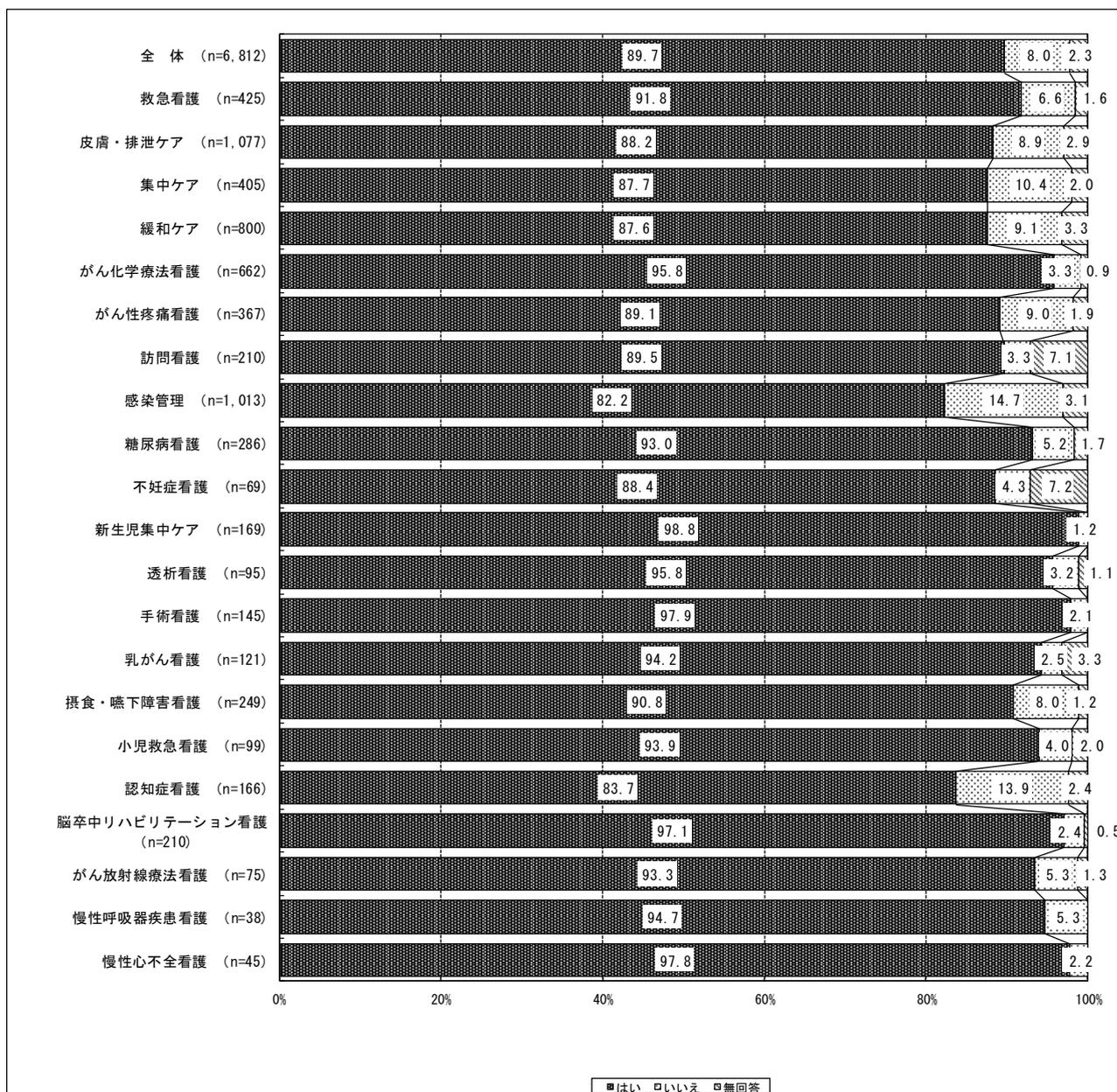


図9 所属部署・施設と認定看護分野の関連性(n=6,812)

7 認定資格取得後から現在までの就業場所の変更の有無

認定資格取得後から現在までの就業場所の変更有無について、「あり」と回答した者が2,909名(42.7%)、「なし」と回答した者が3,839名(56.4%)だった。

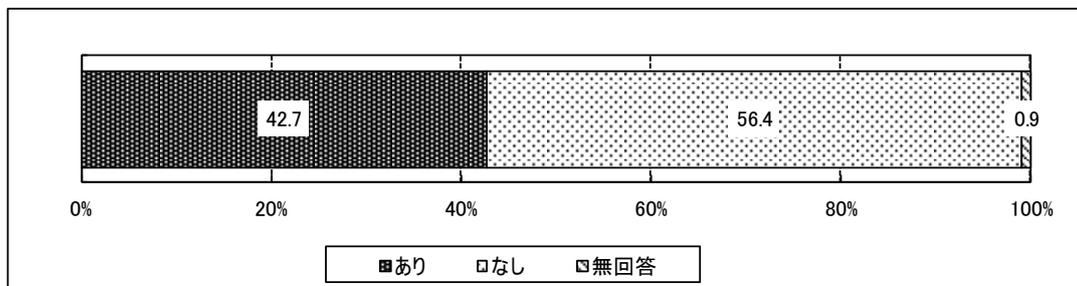


図 10 認定資格取得後から現在までの就業場所の変更の有無(n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に就業場所の変更の有無をみると、「慢性呼吸器疾患看護」、「新生児集中ケア」、「脳卒中リハビリテーション看護」分野では就業場所変更がない者の割合が8割を超えた。一方、「がん性疼痛看護」、「皮膚・排泄ケア」、「感染管理」分野では5割が就業場所の変更があった。

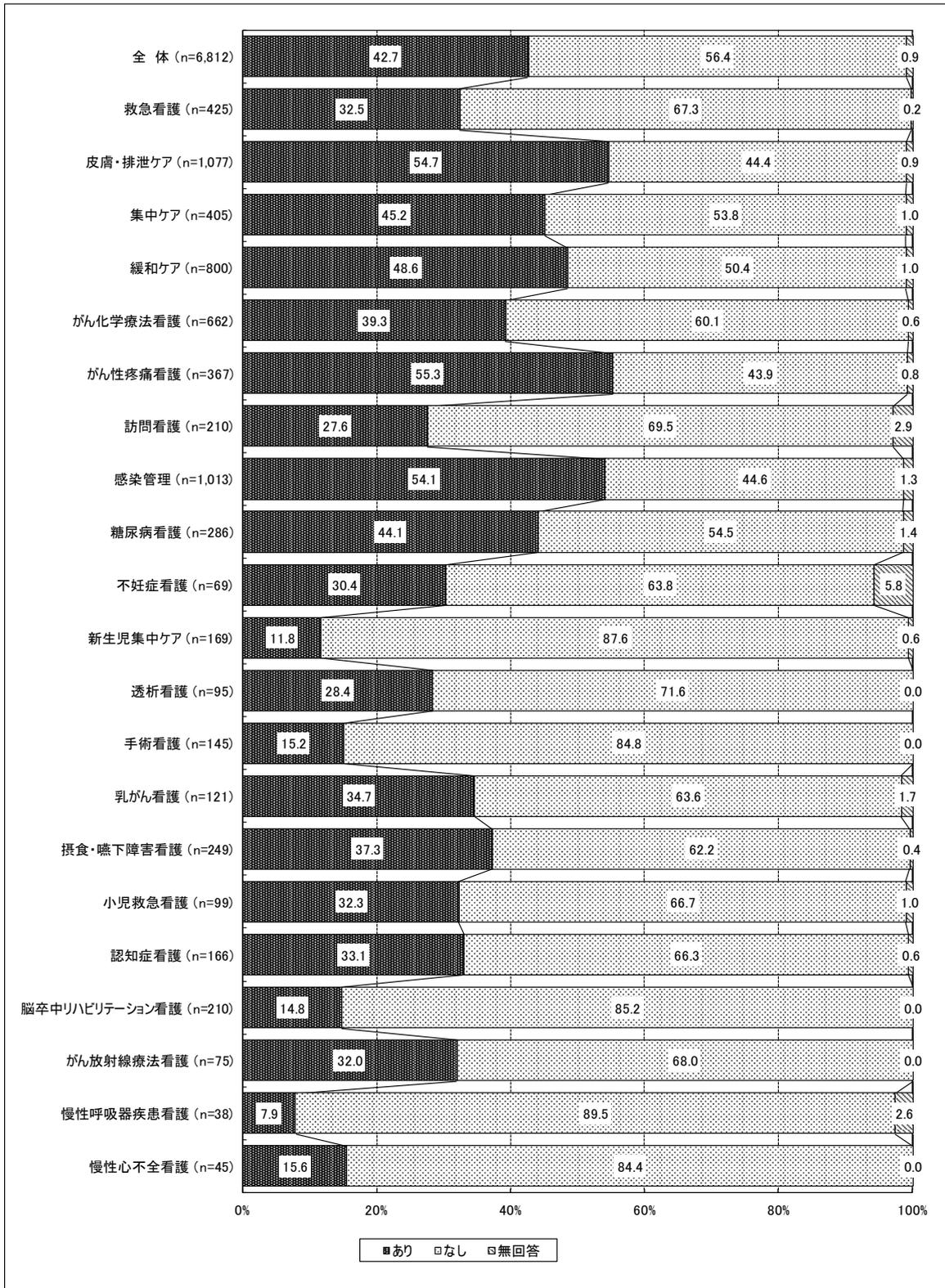


図 11 認定看護分野別、認定資格取得後から現在までの就業場所変更の有無 (n=6,812)

7-1 就業場所変更の理由（就業場所変更が有りの場合）

「7 認定資格取得後から現在までの就業場所変更有無」で「あり」と回答した者のうち、就業場所変更の理由について、「希望しなかったが施設内・同一法人内で異動した」が1,504名(51.7%)と最も多く、次いで「より専門性を発揮できる職場へ転職した」が633名(21.8%)、「自らの希望により施設内・同一法人内で異動した」が614名(21.1%)と続いた。

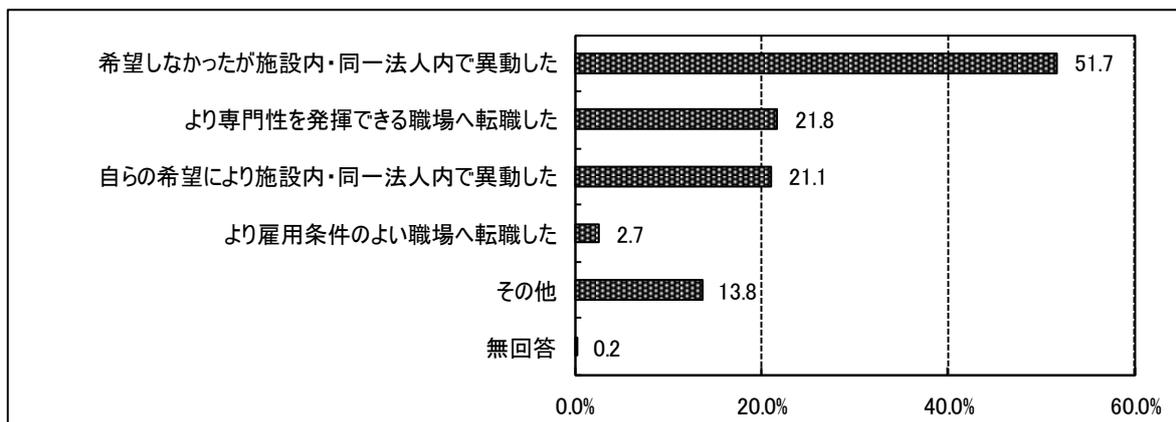


図 12 就業場所変更の理由（就業場所変更が有りの場合）(n=2,909・複数回答)

8 現在の職位

現在の職位について、「スタッフ」が2,720名(39.9%)と最も多く、次いで「主任相当」が2,578名(37.8%)、「看護師長相当」が965名(14.2%)と続いた。

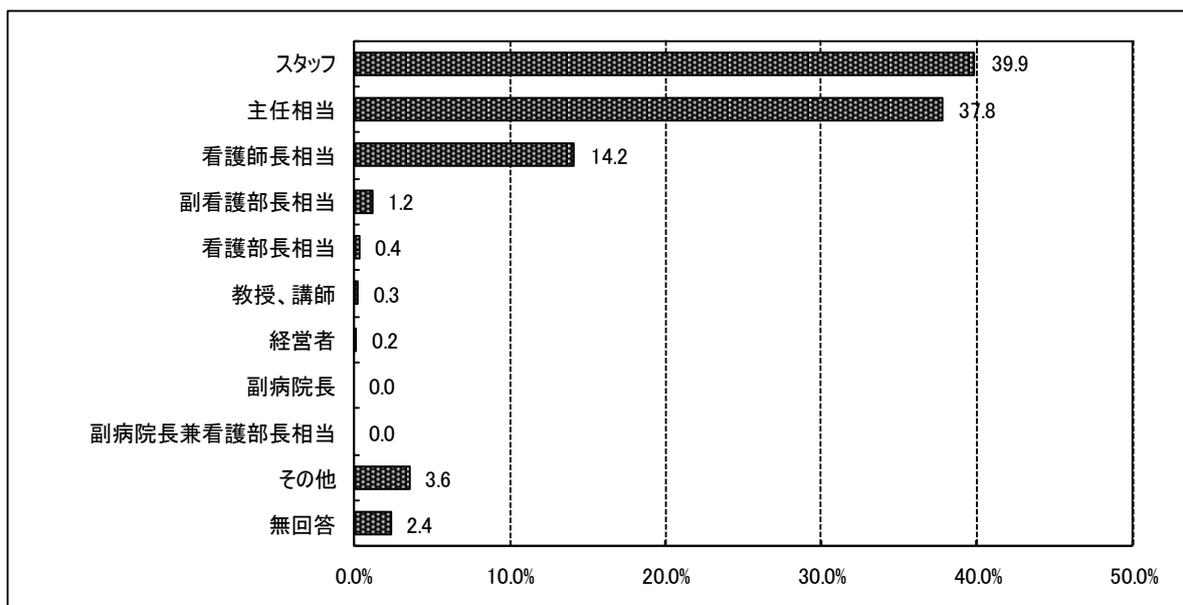


図 13 現在の職位(n=6,812)

9 認定看護師への手当支給の有無

認定看護師への手当支給の有無について、「あり」と回答した者が2,221名(32.6%)「なし」と回答した者が4,513名(66.3%)だった。

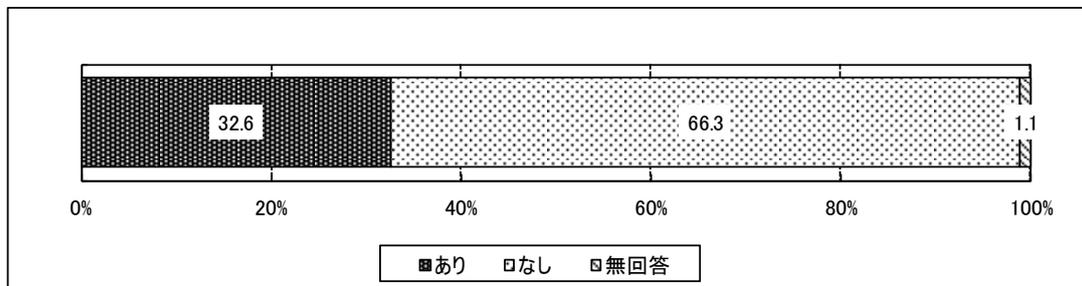
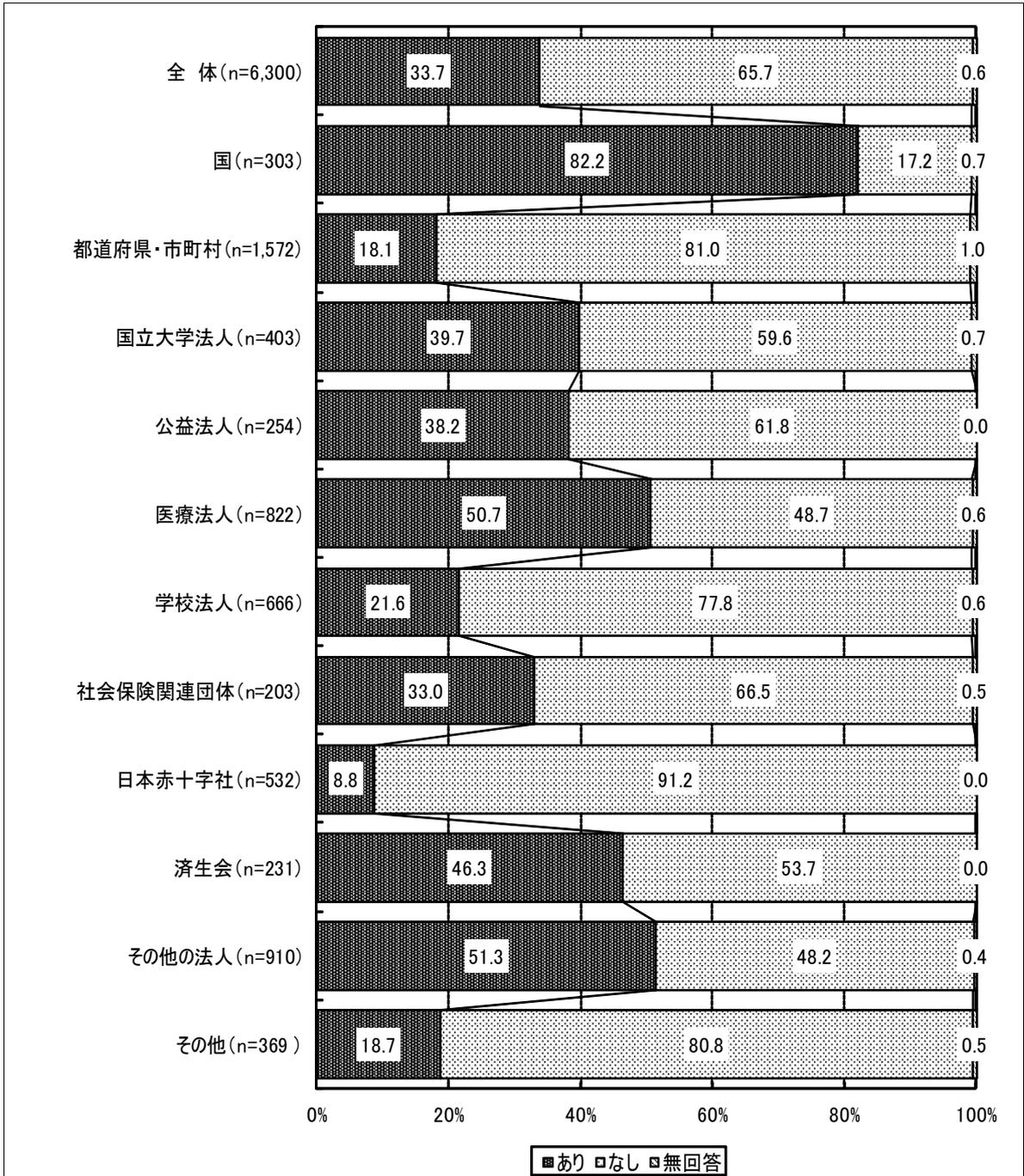


図 14 認定看護師への手当支給有無(n=6,812)

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に認定看護師への手当支給有無をみると、最も多いのは「国」で8割以上、次いで「医療法人」の順であった。



※設置主体の国民健康保険団体連合会は回答数が少ないため、その他に含めて集計。以下、同様とする。

図 15 病院設置主体別、認定看護師への手当支給の有無 (n=6,300)

9-1 認定看護師への手当の名目

認定看護師への手当支給の名目は「認定看護師手当」が1,265名（57.0%）、「専門職手当」が353名（15.9%）、「管理職手当として」が178名（8.0%）だった。

その他の手当名目として「資格手当」や「研究費」、「調整手当」等が挙げられた。

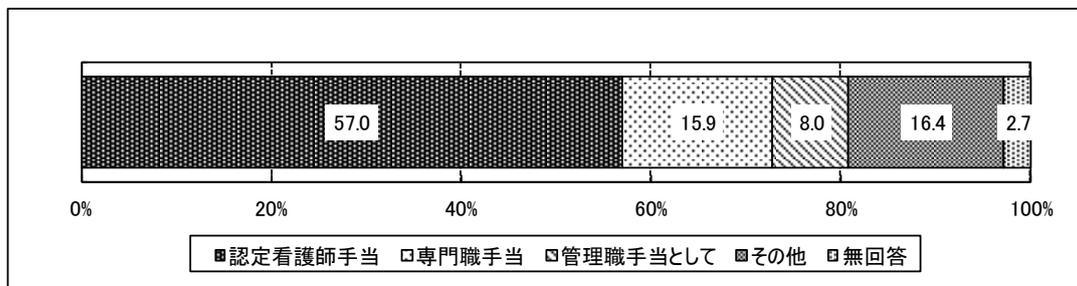


図 16 認定看護師への手当の名目 (n=2,221)

表 6 認定看護師へのその他の手当の名目

手当名目	回答数
資格手当	26
研究費	20
調整手当	14
特殊職務手当	11
職務手当	8

9-2 認定看護師への手当の月額支給金額

認定看護師への手当の月額支給金額は「3,000-5,000円未満」が768名(34.6%)と最も多く、次いで「5,000-1万円未満」が434名(19.5%)、「1万円以上」が338名(15.2%)と続いた。また、平均値は5,224.4円、最小値が1,066円、最大値が19,000円だった。

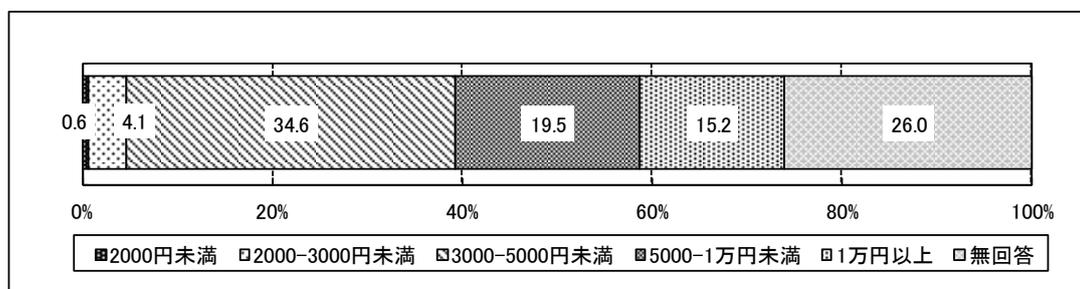


図 17 認定看護師への手当の月額支給金額(n=2,221)

表 7 認定看護師への手当の月額支給金額(n=1,644)

	平均	標準偏差	最小値	最大値
金額(円)	5,224	3,297	1,066	19,000

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に手当の支給されている割合をみると、分野によって概ね2割から4割の範囲であった。

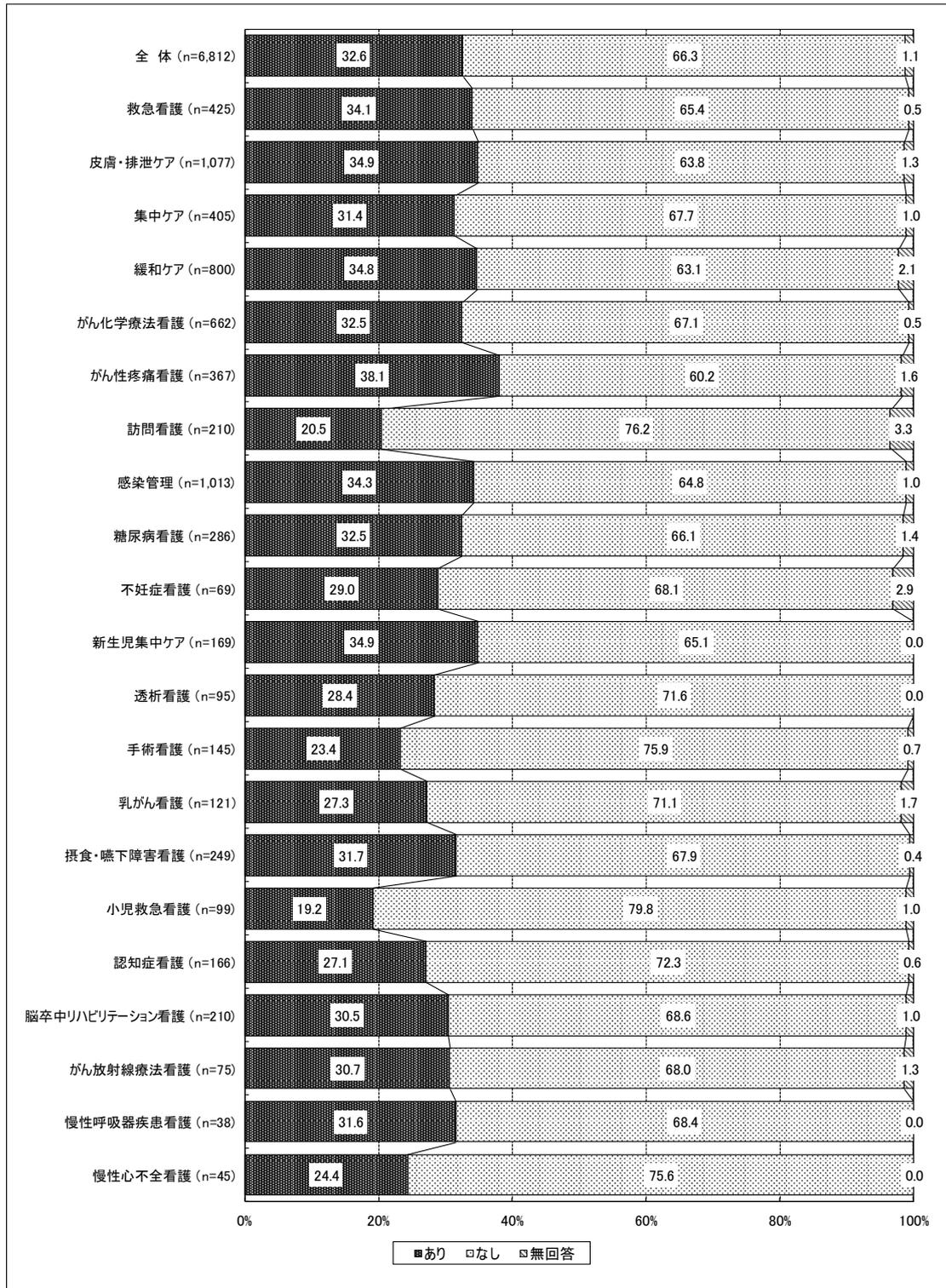


図 18 認定看護分野別、認定看護師への手当支給の有無 (n=6,812)

認定看護分野別に認定看護師への手当の名目をみると、全ての分野で「認定看護師手当」の割合が最も多く、「がん放射線療法看護」、「慢性呼吸器疾患看護」、「慢性心不全看護」分野では8割近くを占めた。

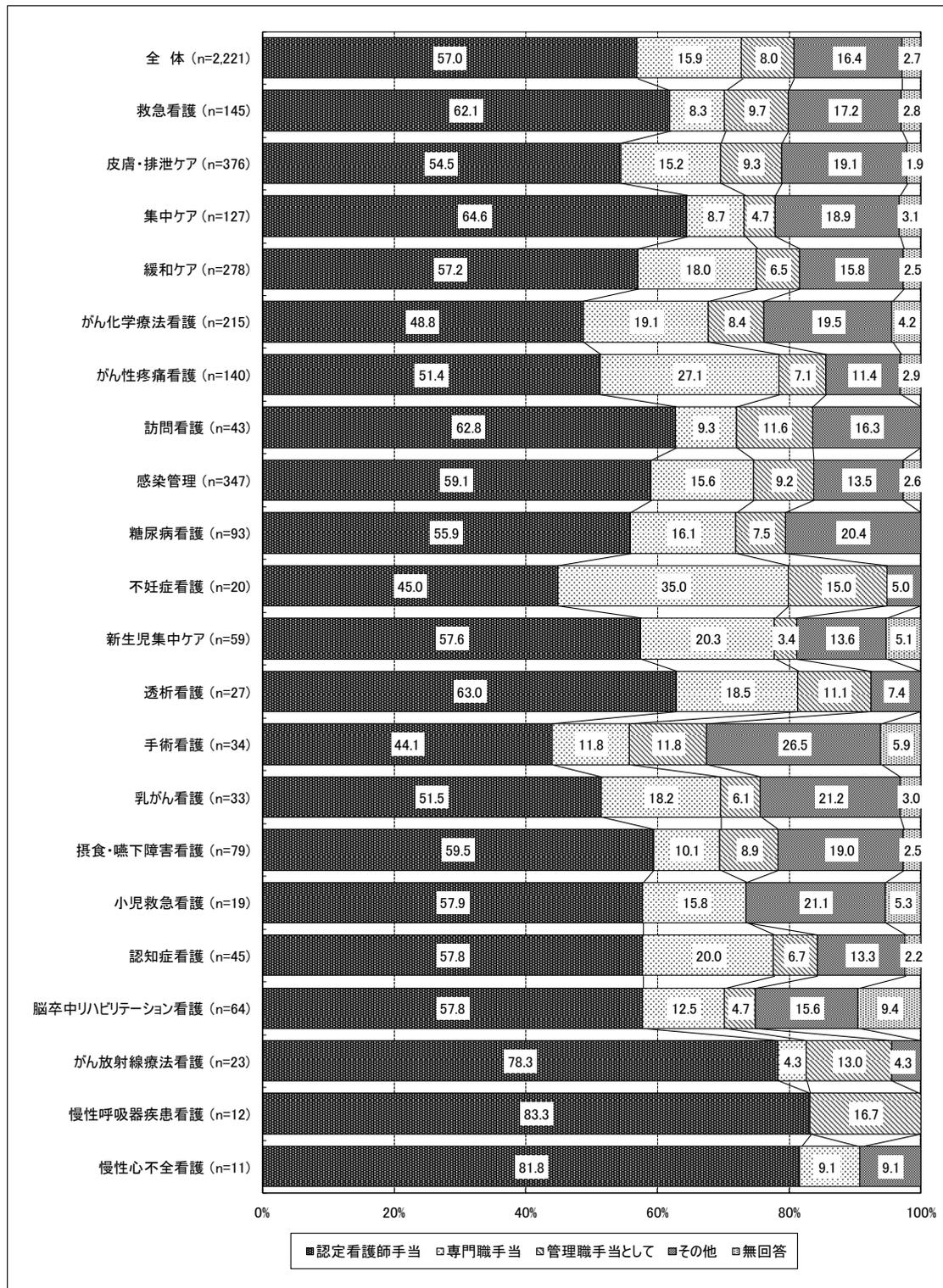
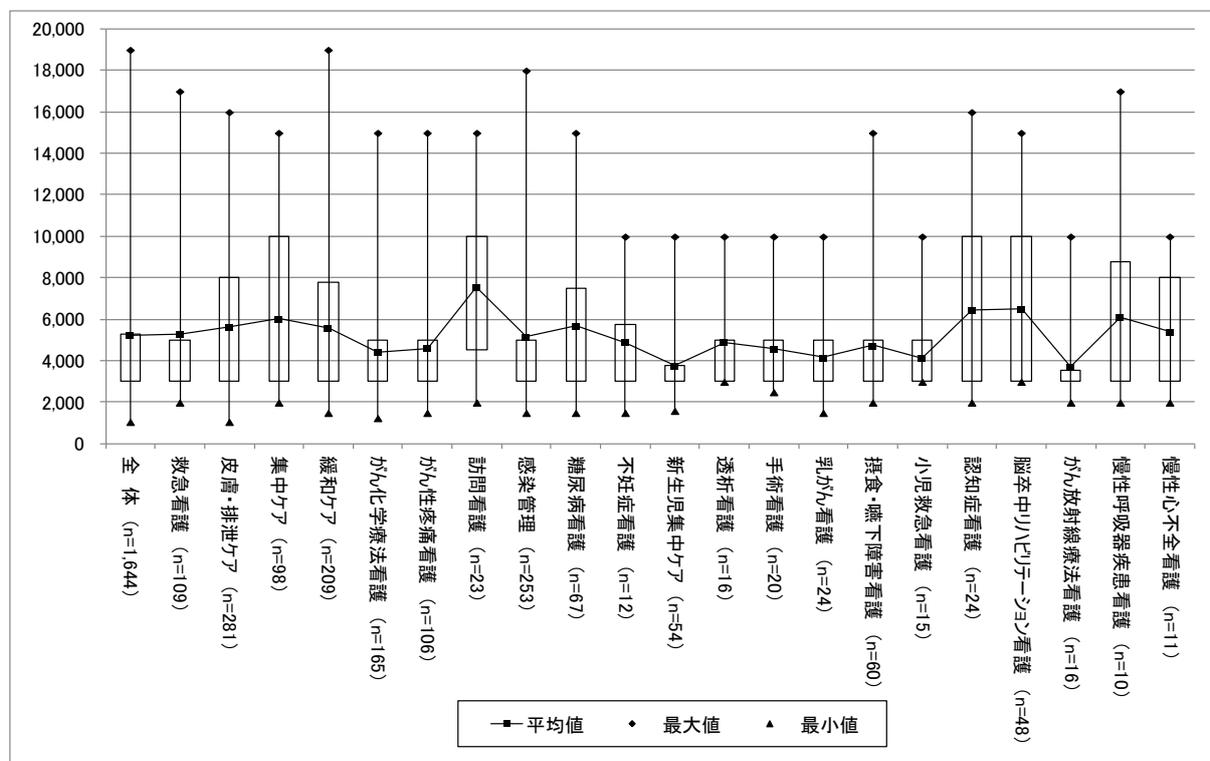


図 19 認定看護分野別、認定看護師への手当の名目 (n=2,221)

認定看護師への手当月額支給額について、全体の平均値は5,224.4円だった。認定看護分野別に平均月額支給額を比較すると、「訪問看護」や「脳卒中リハビリテーション看護」、「認知症看護」分野では全体の平均支給額より1,000～2,000円ほど高く、「がん放射線療法看護」や「新生児集中ケア」分野では全体の平均支給額より1,000円以上低かった。



※箱の上辺は75パーセンタイル値(第3四分位点)、下辺は25パーセンタイル値(第1四分位点)を示し、箱に含まれる部分に全体の50%が含まれることを示す。

図20 認定看護分野別、認定看護師への手当の月額平均支給額(n=1,644)

表8 認定看護分野別、認定看護師への手当の月額平均支給額(n=1,644)

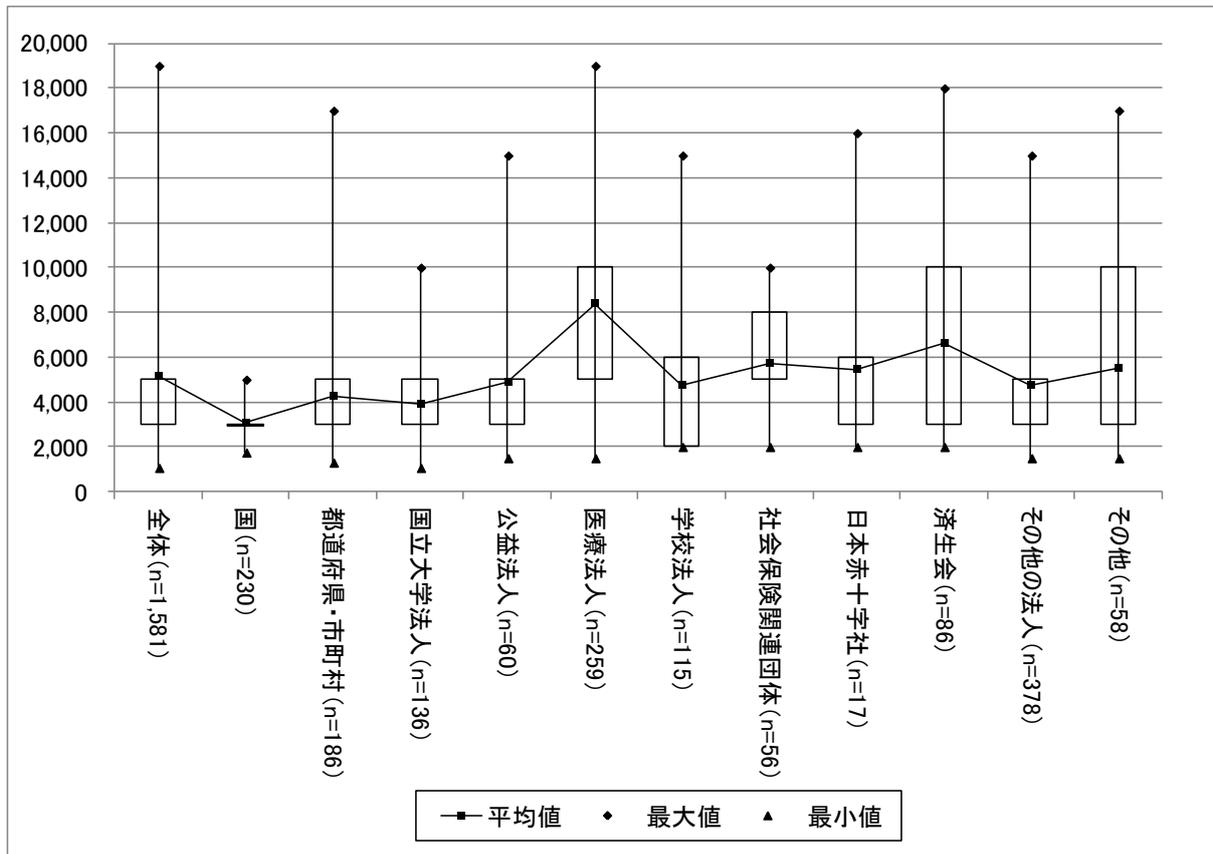
分野	救急看護	皮膚・排泄ケア	集中ケア	緩和ケア	がん化学療法看護	がん性疼痛看護	訪問看護
件数	109	281	98	209	165	106	23
平均支給額(円)	5273.4	5620.6	6015.3	5560.4	4387.5	4581.8	7543.5

分野	感染管理	糖尿病看護	不妊症看護	新生児集中ケア	透析看護	手術看護	乳がん看護
件数	253	67	12	54	16	20	24
平均支給額(円)	5146.5	5675.6	4875	3757.4	4875	4550	4145.8

分野	摂食・嚥下障害看護	小児救急看護	認知症看護	脳卒中リハビリテーション看護	がん放射線療法看護	慢性呼吸器疾患看護	慢性心不全看護
件数	60	15	24	48	16	10	11
平均支給額(円)	4723.3	4133.3	6451.4	6479.2	3687.5	6100	5363.6

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別の認定看護師への手当月額支給額について、全体の平均値は5,160.65円だった。設置主体別に平均月額支給額を比較すると、「医療法人」では全体の平均支給額より3,000円ほど高く、設置主体が「国」の場合、全体の平均支給額より2,000円ほど低かった。



※箱の上辺は75パーセントイル値(第3四分位点)、下辺は25パーセントイル値(第1四分位点)を示し、箱に含まれる部分に全体の50%が含まれることを示す。

図 21 病院設置主体別、認定看護師への手当の月額平均支給額 (n=1,581)

表 9 病院設置主体別、認定看護師への手当の月額平均支給額 (n=1,581)

	国	都道府県・市町村	国立大学法人	公益法人	医療法人	学校法人
件数	230	186	136	60	259	115
平均支給額(円)	3,075.0	4,283.1	3,908.7	4,908.3	8,390.3	4,744.9
	社会保険関連団体	日本赤十字社	済生会	その他の法人	その他	
件数	56	17	86	378	58	
平均支給額(円)	5,730.4	5,462.5	6,640.7	4,749.3	5,529.9	

III 認定看護師を取得するまでの過程について

1 認定看護師を目指した動機

認定看護師を目指した動機について、「自らの希望(キャリアアップや知識・技術の習得など)」が5,028名(73.8%)と最も多く、次いで「所属施設(上司)のすすめ」が1,639名(24.1%)、「その他」が80名(1.2%)だった。

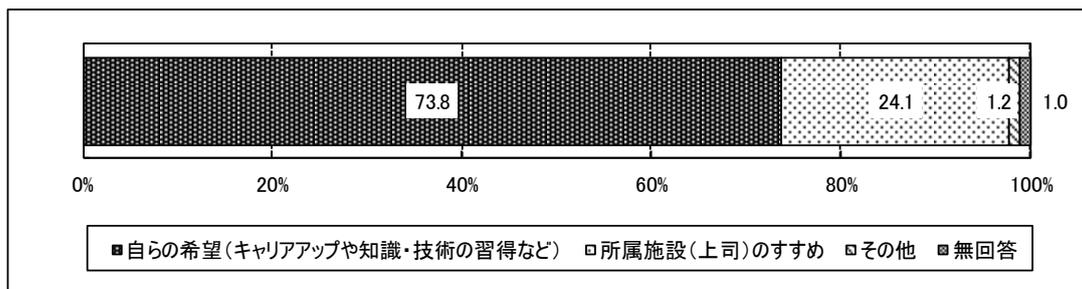


図 22 認定看護師を目指した動機(n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に認定看護師を目指した動機をみると、「自らの希望」の割合が最も高いのは、「訪問看護」分野であった。

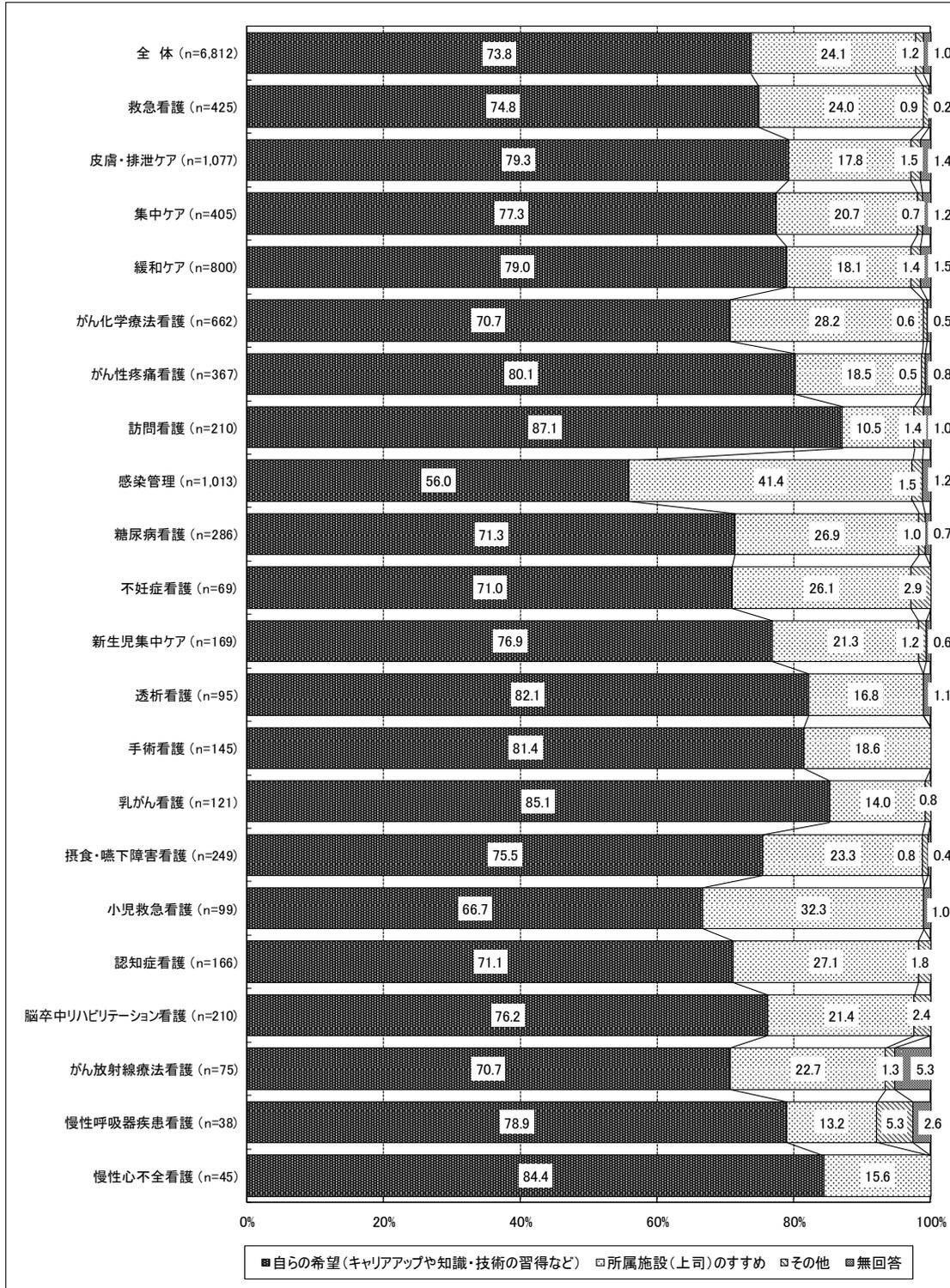
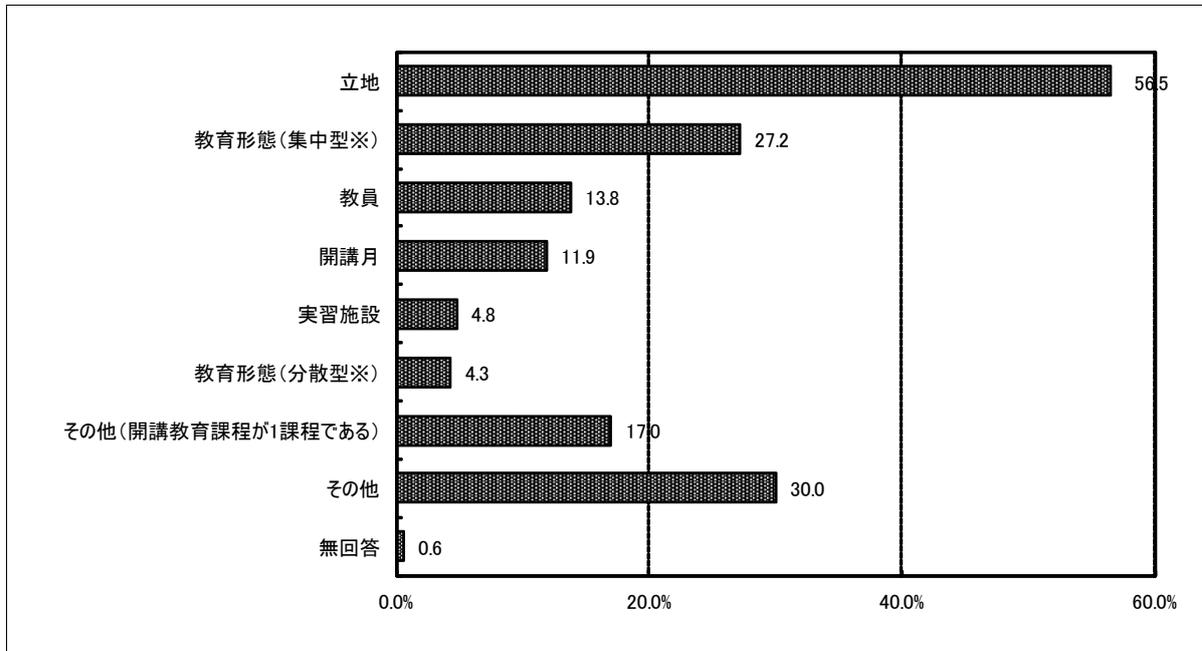


図 23 認定看護分野別、認定看護師を目指した動機 (n=6,812)

2 認定看護師教育機関を選択した理由

認定看護師教育機関を選択した理由について、「立地」が3,850名(56.5%)と最も多く、次いで「教育形態(集中型※)」が1,852名(27.2%)、「開講期間」が1,170名(17.2%)と続いた。「その他」の回答内容は希望分野では教育機関が「1カ所しかない」「上司、先輩の勧め」、「授業料、学費」等が挙げられた。



※集中型とは講義、演習、実習において平日の日中に連続して開講する教育機関を指す。

分散型とは講義において夜間もしくは土日に開講する教育機関を指す。

※なお「1カ所しかない」は回答数が多かったため、コーディングを行い、選択肢として集計した。

図 24 認定看護師教育機関を選択した理由(n=6,812・複数回答)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に認定看護師教育機関への入学を選択した理由をみると、「脳卒中リハビリテーション看護」や「慢性呼吸器疾患看護」、「慢性心不全看護」分野では「立地」の割合が高かった。

表 10 認定看護分野別、認定看護師教育機関を選択した理由(n=6,812)

	立地	開講月	開講期間	教育形態 (集中型※)	教育形態 (分散型※)	教員	実習施設	その他	無回答	合計
全 体	3,850	811	1,170	1,852	294	942	324	2,032	43	6,812
	56.5%	11.9%	17.2%	27.2%	4.3%	13.8%	4.8%	29.8%	0.6%	100.0%
救急看護	251	31	92	157	60	66	22	84	1	425
	59.1%	7.3%	21.6%	36.9%	14.1%	15.5%	5.2%	19.8%	0.2%	100.0%
皮膚・排泄ケア	632	120	171	292	12	245	65	303	7	1,077
	58.7%	11.1%	15.9%	27.1%	1.1%	22.7%	6.0%	28.1%	0.6%	100.0%
集中ケア	176	31	68	169	-	101	18	112	5	405
	43.5%	7.7%	16.8%	41.7%	-	24.9%	4.4%	27.7%	1.2%	100.0%
緩和ケア	578	114	179	232	64	71	35	122	7	800
	72.3%	14.3%	22.4%	29.0%	8.0%	8.9%	4.4%	15.3%	0.9%	100.0%
がん化学療法看護	432	94	122	181	48	112	28	150	2	662
	65.3%	14.2%	18.4%	27.3%	7.3%	16.9%	4.2%	22.7%	0.3%	100.0%
がん性疼痛看護	197	33	53	120	1	13	22	124	4	367
	53.7%	9.0%	14.4%	32.7%	0.3%	3.5%	6.0%	33.8%	1.1%	100.0%
訪問看護	128	11	49	66	78	30	6	28	2	210
	61.0%	5.2%	23.3%	31.4%	37.1%	14.3%	2.9%	13.3%	1.0%	100.0%
感染管理	632	207	240	300	3	121	57	255	4	1,013
	62.4%	20.4%	23.7%	29.6%	0.3%	11.9%	5.6%	25.2%	0.4%	100.0%
糖尿病看護	98	20	29	70	7	46	6	153	1	286
	34.3%	7.0%	10.1%	24.5%	2.4%	16.1%	2.1%	53.5%	0.3%	100.0%
不妊症看護	34	8	17	12	16	6	1	28	1	69
	49.3%	11.6%	24.6%	17.4%	23.2%	8.7%	1.4%	40.6%	1.4%	100.0%
新生児集中ケア	74	9	19	21	1	24	3	82	1	169
	43.8%	5.3%	11.2%	12.4%	0.6%	14.2%	1.8%	48.5%	0.6%	100.0%
透析看護	13	5	6	11	-	1	3	71	2	95
	13.7%	5.3%	6.3%	11.6%	-	1.1%	3.2%	74.7%	2.1%	100.0%
手術看護	12	-	4	14	-	1	3	129	-	145
	8.3%	-	2.8%	9.7%	-	0.7%	2.1%	89.0%	-	100.0%
乳がん看護	12	3	7	14	-	8	3	101	-	121
	9.9%	2.5%	5.8%	11.6%	-	6.6%	2.5%	83.5%	-	100.0%
摂食・嚥下障害看護	171	34	20	48	-	49	27	50	1	249
	68.7%	13.7%	8.0%	19.3%	-	19.7%	10.8%	20.1%	0.4%	100.0%
小児救急看護	9	-	10	20	1	4	1	74	-	99
	9.1%	-	10.1%	20.2%	1.0%	4.0%	1.0%	74.7%	-	100.0%
認知症看護	75	9	15	38	-	8	1	81	3	166
	45.2%	5.4%	9.0%	22.9%	-	4.8%	0.6%	48.8%	1.8%	100.0%
脳卒中リハビリテーション看護	172	40	27	44	-	9	8	23	-	210
	81.9%	19.0%	12.9%	21.0%	-	4.3%	3.8%	11.0%	-	100.0%
がん放射線療法看護	49	9	11	9	-	-	8	25	-	75
	65.3%	12.0%	14.7%	12.0%	-	-	10.7%	33.3%	-	100.0%
慢性呼吸器疾患看護	30	4	8	11	-	10	2	2	-	38
	78.9%	10.5%	21.1%	28.9%	-	26.3%	5.3%	5.3%	-	100.0%
慢性心不全看護	35	13	9	6	-	5	2	7	1	45
	77.8%	28.9%	20.0%	13.3%	-	11.1%	4.4%	15.6%	2.2%	100.0%

3 教育機関を選択する際、他の認定看護師教育機関の検討有無

教育機関を選択する際、他の認定看護師教育機関への入学をした者は1,728名(25.4%)だった。

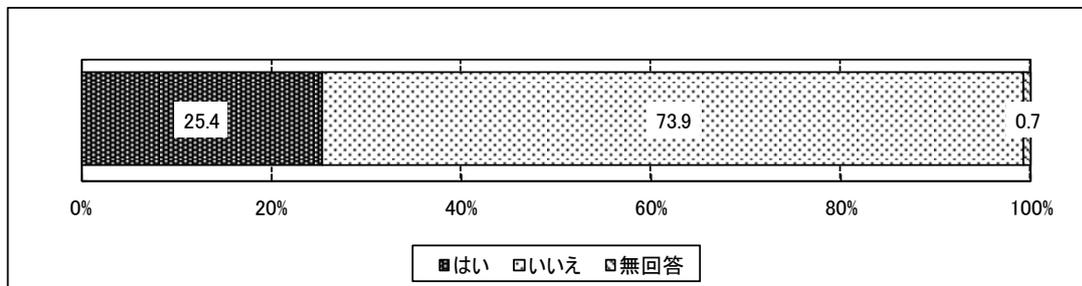


図 25 教育機関を選択する際、入学を検討した他の教育機関の有無(n=6,812)

4 就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い

認定看護師教育機関就学中の所属施設での処遇上の取り扱いは、「出張」が2,990名(43.9%)と最も多く、次いで「研修」が1,966名(28.9%)、「休職」が1,246名(18.3%)であった。退職して就学した者は250名(3.7%)、常勤、非常勤で勤務しながら就学した者は、それぞれ178名(2.6%)、25名(0.4%)であった。

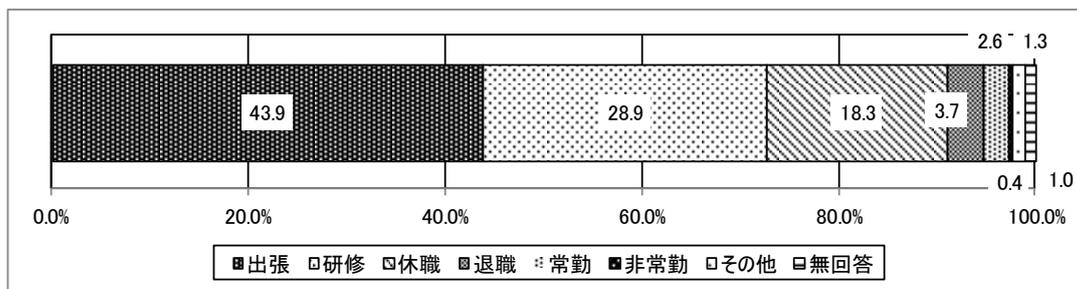


図 26 認定看護師教育機関就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い(n=6,812)

〔認定看護分野別〕

就学中の処遇上の取り扱いについて認定看護分野別にみると、「がん放射線療法看護」や「慢性呼吸器疾患看護」、「慢性心不全看護」分野では「出張」の割合が高かった。

表 11 認定看護分野別、就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い(n=6,812)

	出張	研修	休職	退職	常勤(開講日以外は通)	非常勤	その他	無回答	合計
全 体	2990	1966	1246	250	172	25	87	70	6812
	43.9%	28.9%	18.3%	3.7%	2.5%	0.4%	1.3%	1.0%	100.0%
救急看護	210	110	56	5	32	-	7	3	425
	49.4%	25.9%	13.2%	1.2%	7.5%	-	1.6%	0.7%	100.0%
皮膚・排泄ケア	436	308	233	58	4	-	18	19	1077
	40.5%	28.6%	21.6%	5.4%	0.4%	-	1.7%	1.8%	100.0%
集中ケア	178	111	89	14	1	-	7	4	405
	44.0%	27.4%	22.0%	3.5%	0.2%	-	1.7%	1.0%	100.0%
緩和ケア	291	213	173	57	43	7	8	8	800
	36.4%	26.6%	21.6%	7.1%	5.4%	0.9%	1.0%	1.0%	100.0%
がん化学療法看護	338	195	90	6	19	1	6	7	662
	51.1%	29.5%	13.6%	0.9%	2.9%	0.2%	0.9%	1.1%	100.0%
がん性疼痛看護	166	112	62	14	4	-	6	3	367
	45.2%	30.5%	16.9%	3.8%	1.1%	-	1.6%	0.8%	100.0%
訪問看護	33	44	40	36	39	9	4	5	210
	15.7%	21.0%	19.0%	17.1%	18.6%	4.3%	1.9%	2.4%	100.0%
感染管理	475	345	155	11	1	-	14	11	1013
	46.9%	34.1%	15.3%	1.1%	0.1%	-	1.4%	1.1%	100.0%
糖尿病看護	130	83	57	5	5	2	2	2	286
	45.5%	29.0%	19.9%	1.7%	1.7%	0.7%	0.7%	0.7%	100.0%
不妊症看護	28	9	6	3	15	4	2	2	69
	40.6%	13.0%	8.7%	4.3%	21.7%	5.8%	2.9%	2.9%	100.0%
新生児集中ケア	91	45	30	1	1	-	1	-	169
	53.8%	26.6%	17.8%	0.6%	0.6%	-	0.6%	-	100.0%
透析看護	45	21	22	3	1	1	-	1	95
	47.4%	22.1%	23.2%	3.2%	1.1%	1.1%	-	1.1%	100.0%
手術看護	64	43	33	2	1	-	1	1	145
	44.1%	29.7%	22.8%	1.4%	0.7%	-	0.7%	0.7%	100.0%
乳がん看護	51	44	18	4	-	-	3	1	121
	42.1%	36.4%	14.9%	3.3%	-	-	2.5%	0.8%	100.0%
摂食・嚥下障害看護	121	64	57	5	2	-	-	-	249
	48.6%	25.7%	22.9%	2.0%	0.8%	-	-	-	100.0%
小児救急看護	43	32	15	5	1	-	3	-	99
	43.4%	32.3%	15.2%	5.1%	1.0%	-	3.0%	-	100.0%
認知症看護	58	43	43	15	1	1	3	2	166
	34.9%	25.9%	25.9%	9.0%	0.6%	0.6%	1.8%	1.2%	100.0%
脳卒中リハビリテーション看護	95	82	31	1	-	-	-	1	210
	45.2%	39.0%	14.8%	0.5%	-	-	-	0.5%	100.0%
がん放射線療法看護	47	16	11	-	-	-	1	-	75
	62.7%	21.3%	14.7%	-	-	-	1.3%	-	100.0%
慢性呼吸器疾患看護	22	12	4	-	-	-	-	-	38
	57.9%	31.6%	10.5%	-	-	-	-	-	100.0%
慢性心不全看護	26	11	6	2	-	-	-	-	45
	57.8%	24.4%	13.3%	4.4%	-	-	-	-	100.0%

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に就学中の勤務形態、処遇上の取り扱いをみると、「国立大学法人」や「済生会」、「日本赤十字社」では「出張」の割合が高く、「国」や「医療法人」では「研修」の割合が高かった。

表 12 病院設置主体別、就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い(n=6,300)

	出張	研修	休職	退職	常勤(開講日以外は)	非常勤	その他	無回答	合計
全 体	2,884 45.8%	1,833 29.1%	1,137 18.0%	170 2.7%	120 1.9%	7 0.1%	80 1.3%	63 1.0%	6,300 100.0%
国	135 44.6%	132 43.6%	11 3.6%	12 4.0%	8 2.6%	— —	3 1.0%	2 0.7%	303 100.0%
都道府県・市町村	865 55.0%	444 28.2%	158 10.1%	36 2.3%	26 1.7%	1 0.1%	22 1.4%	19 1.2%	1,572 100.0%
国立大学法人	283 70.2%	81 20.1%	17 4.2%	16 4.0%	2 0.5%	— —	1 0.2%	3 0.7%	403 100.0%
公益法人	89 35.0%	92 36.2%	59 23.2%	7 2.8%	4 1.6%	— —	1 0.4%	2 0.8%	254 100.0%
医療法人	221 26.9%	293 35.6%	230 28.0%	35 4.3%	19 2.3%	3 0.4%	11 1.3%	8 1.0%	822 100.0%
学校法人	307 46.1%	163 24.5%	141 21.2%	14 2.1%	17 2.6%	1 0.2%	18 2.7%	5 0.8%	666 100.0%
社会保険関連団体	77 37.9%	51 25.1%	64 31.5%	6 3.0%	2 1.0%	— —	2 1.0%	1 0.5%	203 100.0%
日本赤十字社	275 51.7%	129 24.2%	102 19.2%	7 1.3%	9 1.7%	2 0.4%	3 0.6%	3 0.6%	532 100.0%
済生会	132 57.1%	56 24.2%	28 12.1%	6 2.6%	4 1.7%	— —	1 0.4%	4 1.7%	231 100.0%
その他の法人	354 38.9%	271 29.8%	206 22.6%	27 3.0%	23 2.5%	— —	13 1.4%	15 1.6%	910 100.0%
その他	130 35.2%	114 30.9%	111 30.0%	3 0.8%	6 1.6%	— —	5 1.4%	— —	369 100.0%

〔認定看護師としての経験年数別〕

認定看護師としての経験年数別に就学中の勤務形態、処遇上の取り扱いをみると、いずれの経験年数をもつ認定看護師の場合にも「出張、研修、休職」が80%以上を占めた。認定看護師を取得してから10年以上の認定看護師では、「退職」の割合が10%と高かった。

表 13 認定看護師としての経験年数別、就学中の勤務形態、処遇上の取り扱い(n=6,812)

	出張	研修	休職	退職	常勤	常勤(週末勤務や夜)	常勤	非常勤	その他	無回答	合計
全 体	2,990 43.9%	1,966 28.9%	1,246 18.3%	250 3.7%	178 2.6%	6 0.1%	184 2.7%	25 0.4%	87 1.3%	70 1.0%	6,812 100.0%
0-1年	918 45.3%	629 31.0%	315 15.5%	44 2.2%	64 3.2%	— —	64 3.2%	13 0.6%	25 1.2%	18 0.9%	2,026 100.0%
2-5年	1,491 44.7%	947 28.4%	600 18.0%	130 3.9%	88 2.6%	4 0.1%	92 2.8%	10 0.3%	36 1.1%	31 0.9%	3,333 100.0%
6-9年	424 41.0%	291 28.2%	232 22.5%	38 3.7%	21 2.0%	2 0.2%	23 2.2%	2 0.2%	14 1.4%	11 1.1%	1,033 100.0%
10年以上	139 36.7%	85 22.4%	92 24.3%	38 10.0%	4 1.1%	— —	4 1.1%	— —	12 3.2%	9 2.4%	379 100.0%

4-1 「出張、研修、休職」中の給与支給状況

「4. 就学中の勤務形態」で「出張、研修、休職」と回答した者のうち、給与支給状況が「基本給のみ支給」が最も多く4,034名（65.0%）、「全額支給」が1,124名（18.1%）、「無給」が561名（9.0%）と続いた。

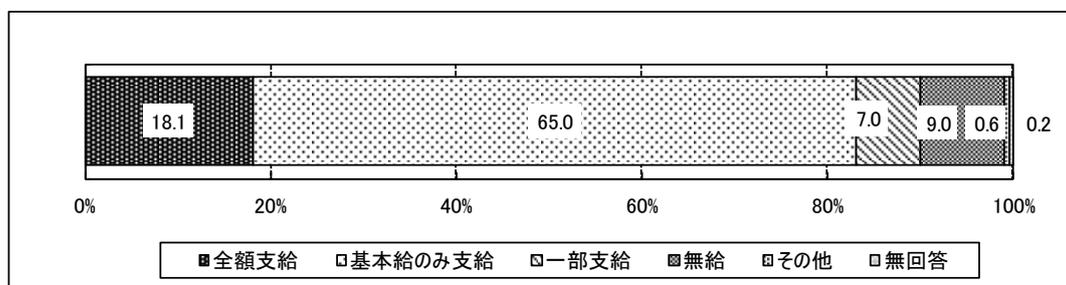


図 27 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給状況 (n=6,202)

〔認定看護分野別〕

「出張、研修、休職」中の給与支給状況を認定看護分野別にみると、「訪問看護」や「不妊症看護」分野では給与全額支給の割合が高かった。また、「慢性呼吸器疾患看護」分野では何らかの支給が行われている割合が最も高かった。

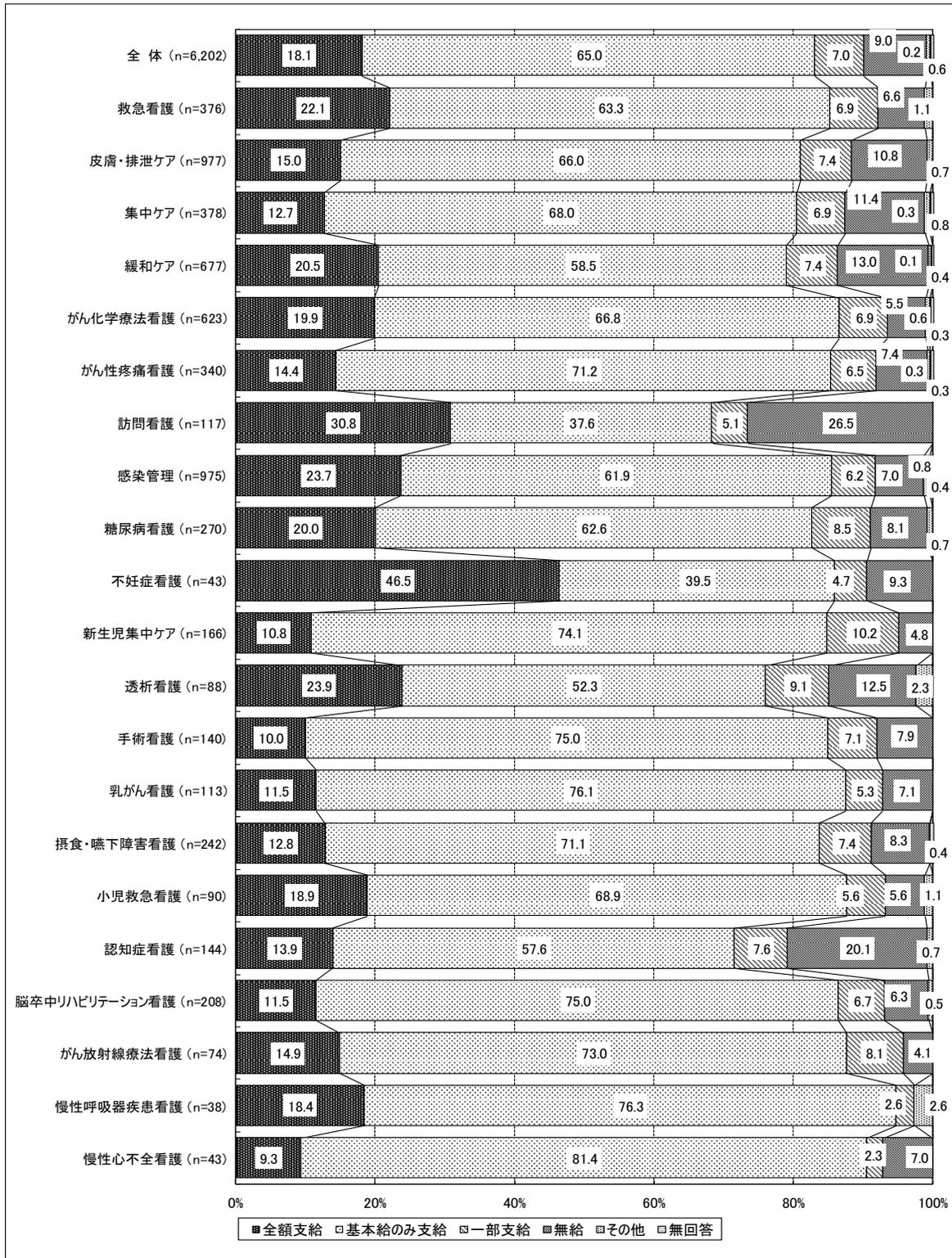


図 28 認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給状況 (n=6,202)

〔病院設置主体別〕

「出張、研修、休職」中の給与支給状況について病院設置主体別にみると、全額支給の割合が最も高いのは「国立大学法人」であった。

表 14 病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給状況 (n=6,300)

	合計	全額支給	基本給のみ 支給	一部支給	無給	その他	無回答
全 体	5,854	1,044	3,873	402	487	38	10
	100.0%	17.8%	66.2%	6.9%	8.3%	0.6%	0.2%
国	278	49	221	6	2	—	—
	100.0%	17.6%	79.5%	2.2%	0.7%	—	—
都道府県・市町村	1,467	359	991	55	56	5	1
	100.0%	24.5%	67.6%	3.7%	3.8%	0.3%	0.1%
国立大学法人	381	38	331	4	7	—	1
	100.0%	10.0%	86.9%	1.0%	1.8%	—	0.3%
公益法人	240	46	147	18	27	1	1
	100.0%	19.2%	61.3%	7.5%	11.3%	0.4%	0.4%
医療法人	744	143	398	61	123	18	1
	100.0%	19.2%	53.5%	8.2%	16.5%	2.4%	0.1%
学校法人	611	82	378	82	67	1	1
	100.0%	13.4%	61.9%	13.4%	11.0%	0.2%	0.2%
社会保険関連団体	192	21	127	20	21	3	—
	100.0%	10.9%	66.1%	10.4%	10.9%	1.6%	—
日本赤十字社	506	72	348	42	41	2	1
	100.0%	14.2%	68.8%	8.3%	8.1%	0.4%	0.2%
済生会	216	44	143	14	15	—	—
	100.0%	20.4%	66.2%	6.5%	6.9%	—	—
その他の法人	831	128	551	59	84	7	2
	100.0%	15.4%	66.3%	7.1%	10.1%	0.8%	0.2%
その他	355	58	219	38	39	1	—
	100.0%	16.3%	61.7%	10.7%	11.0%	0.3%	—

4-2 「出張、研修、休職」中の給与支給、「一部支給」の場合の比率

「4-1「出張、研修、休職」中の給与支給状況」で「一部支給」と回答した者のうち、一部支給の場合の比率は「60-80%未満」が161名（37.2%）と最も多く、次いで「40-60%未満」が101名（23.3%）、「20-40%未満」が78名（18.0%）だった。

また、割合の平均値は53.3%、最小値が10%、最大値が85.0%だった。

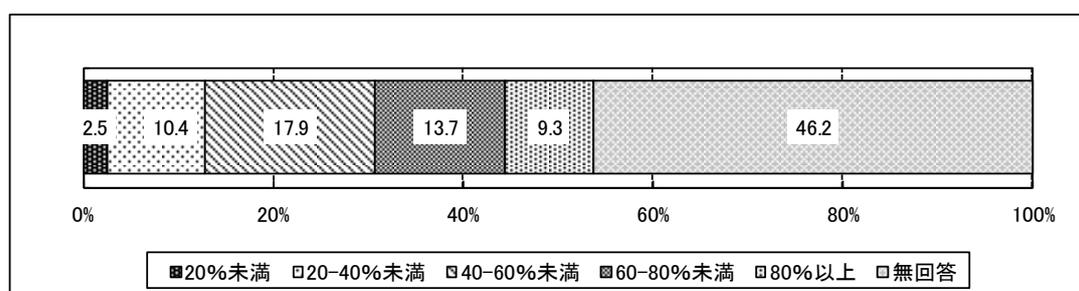


図 29 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の給与支給について、「一部支給」の場合の比率 (n=433)

表 15 認定看護師教育機関就学児の「出張、研修、給食」中の給与支給について、「一部支給」の場合の比率 (n=392)

	平均	標準偏差	最小値	最大値
支給率 (%)	53.3	18.9	1.0	85.0

4-3 「出張、研修、休職」中の賞与支給状況

認定看護師教育機関就学中「出張、研修、休職」であった者の賞与支給は、「全額支給あり」が4,024名(64.9%)、「支給なし」が1,373名(22.1%)、「一部支給あり」が760名(12.3%)だった。

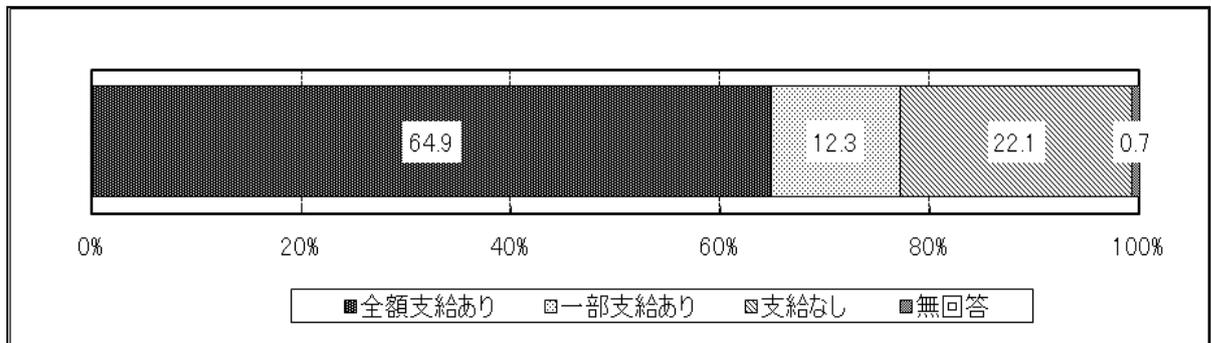


図 30 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与支給状況(n=6,202)

〔認定看護分野別〕

「出張、研修、休職」中の賞与支給状況について認定看護分野別にみると、全額支給の割合が高かったのは「救急看護」や「感染管理」、「不妊症看護」、「小児救急看護」、「慢性呼吸器疾患看護」分野であった。

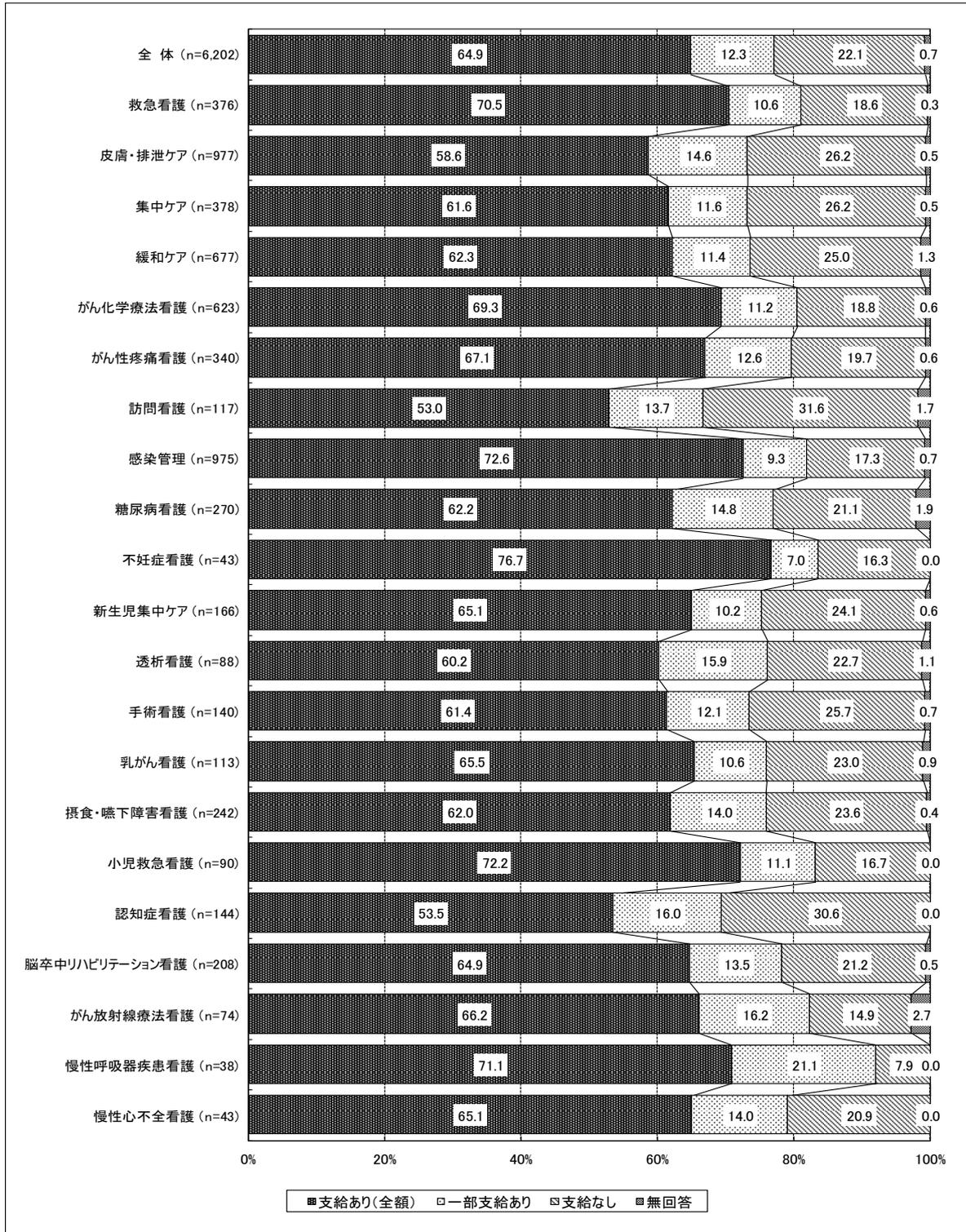


図 31 認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与 (n=6,202)

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に「出張、研修、休職」中の賞与支給状況をみると、「国」では「支給あり」が226名（81.3%）であり、「一部支給あり」と合わせると、約90%が賞与を支給されていた。

表 16 病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与（n=5,854）

	全額支給あり	一部支給あり	支給なし	無回答	合計
全体	3,841 65.6%	713 12.2%	1,258 21.5%	42 0.7%	5,854 100.0%
国	226 81.3%	21 7.6%	30 10.8%	1 0.4%	278 100.0%
都道府県・市町村	1,122 76.5%	125 8.5%	212 14.5%	8 0.5%	1,467 100.0%
国立大学法人	299 78.5%	29 7.6%	49 12.9%	4 1.0%	381 100.0%
公益法人	161 67.1%	19 7.9%	59 24.6%	1 0.4%	240 100.0%
医療法人	405 54.4%	92 12.4%	242 32.5%	5 0.7%	744 100.0%
学校法人	334 54.7%	116 19.0%	157 25.7%	4 0.7%	611 100.0%
社会保険関連団体	96 50.0%	39 20.3%	54 28.1%	3 1.6%	192 100.0%
日本赤十字社	326 64.4%	70 13.8%	107 21.1%	3 0.6%	506 100.0%
済生会	123 56.9%	40 18.5%	50 23.1%	3 1.4%	216 100.0%
その他の法人	539 64.9%	91 11.0%	195 23.5%	6 0.7%	831 100.0%
その他	195 55.0%	65 18.3%	94 26.5%	1 0.3%	355 100.0%

4-4 「出張、研修、休職」中の賞与、「一部支給あり」の場合の比率

4-3 「出張、研修、休職」中の賞与について「一部支給あり」と回答した者のうち、「40-60%未満」が136名(17.9%)と最も多く、次いで「60-80%未満」が104名(13.7%)、「20-40%未満」が79名(10.4%)と続いた。また、割合の平均値は52.8%、最小値は5.0%、最大値は95.0%だった。

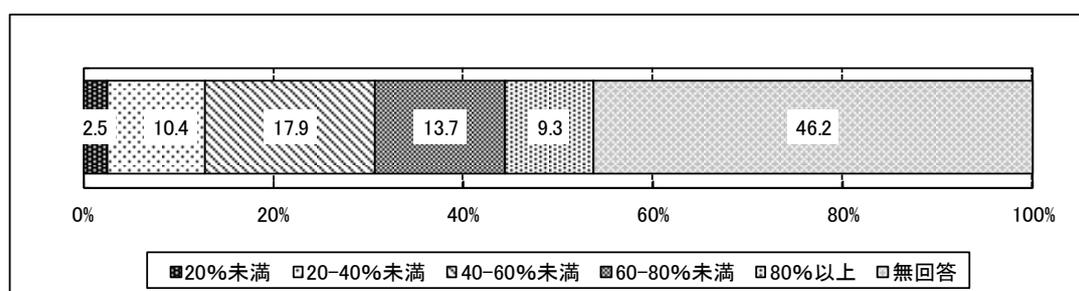


図 32 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与について、「一部支給あり」の場合の比率(n=760)

表 17 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の賞与について、「一部支給あり」の場合の比率(n=409)

	平均	標準偏差	最小値	最大値
支給率(%)	52.8	20.4	5.0	95.0

4-5 「出張、研修、休職」中の特別手当の支給状況

「出張、研修、休職」中の特別手当の支給について、「支給あり」が1,988名(32.1%)、「支給なし」が4,187名(67.5%)だった。支給ありの場合の主な名目は「交通費」、「出張費」、「旅費」等であった。

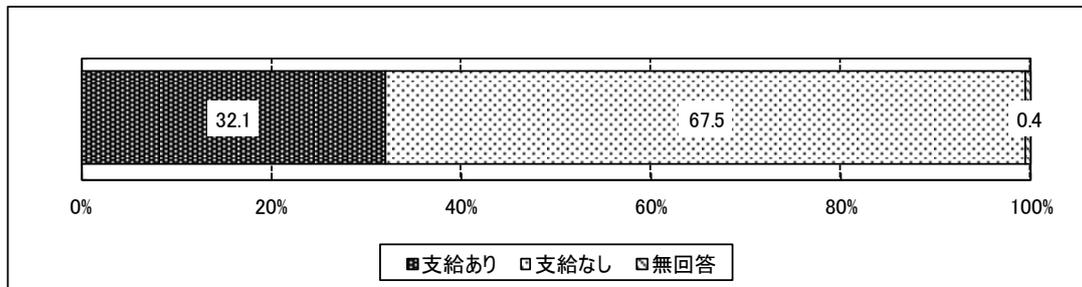


図 33 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当支給状況 (n=6,202)

表 18 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当の主な支給名目

主な名目	件数
交通費	334
出張費	145
旅費	135
赴任旅費	60
出張旅費	46
出張手当	45
研修費	31

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に「出張、研修、休職」中の特別手当の支給の有無をみると、「新生児集中ケア」や「摂食・嚥下障害看護」分野では他の分野と比較して「支給あり」の割合が高かった。

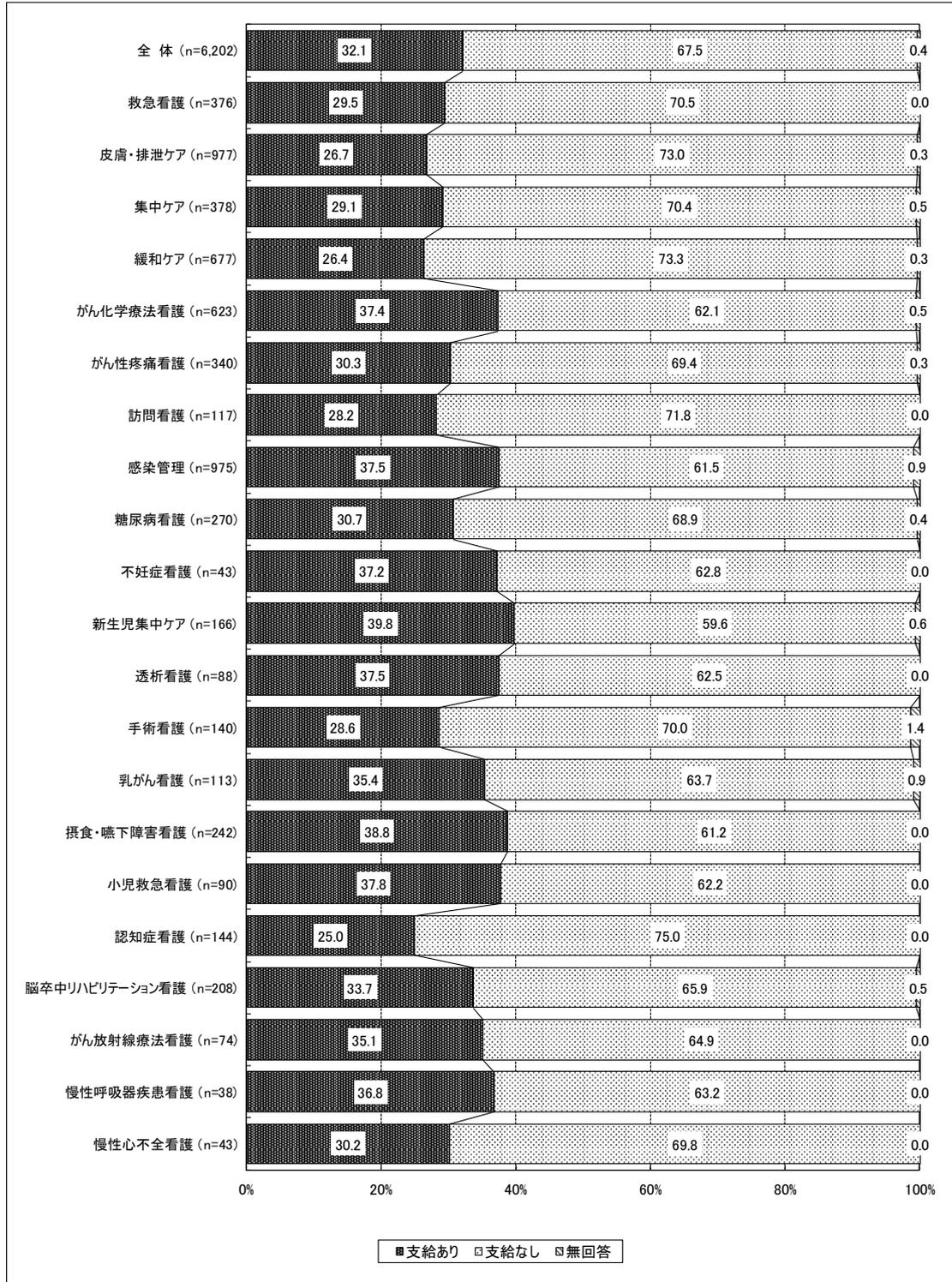


図 34 認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当の支給の有無 (n=6,202)

〔病院設置主体別〕

「出張、研修、休職」中の特別手当の支給状況を病院設置主体別にみると、「支給あり」は「都道府県・市町村」が 675 名（46.0%）と最も高かった。

表 19 病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の特別手当の支給有無(n=5,854)

	支給あり	支給なし	無回答	合計
全 体	1,916	3,911	27	5,854
	32.7%	66.8%	0.5%	100.0%
国	110	168	－	278
	39.6%	60.4%	－	100.0%
都道府県・市町村	675	783	9	1,467
	46.0%	53.4%	0.6%	100.0%
国立大学法人	156	222	3	381
	40.9%	58.3%	0.8%	100.0%
公益法人	71	168	1	240
	29.6%	70.0%	0.4%	100.0%
医療法人	184	559	1	744
	24.7%	75.1%	0.1%	100.0%
学校法人	102	505	4	611
	16.7%	82.7%	0.7%	100.0%
社会保険関連団体	40	151	1	192
	20.8%	78.6%	0.5%	100.0%
日本赤十字社	157	348	1	506
	31.0%	68.8%	0.2%	100.0%
済生会	71	145	－	216
	32.9%	67.1%	－	100.0%
その他の法人	252	574	5	831
	30.3%	69.1%	0.6%	100.0%
その他	91	263	1	355
	25.6%	74.0%	0.3%	100.0%

4-6 「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給状況

「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給について、「支給あり（全額）」は1,267名（20.4%）、「一部支給あり」は230名（3.7%）だった。

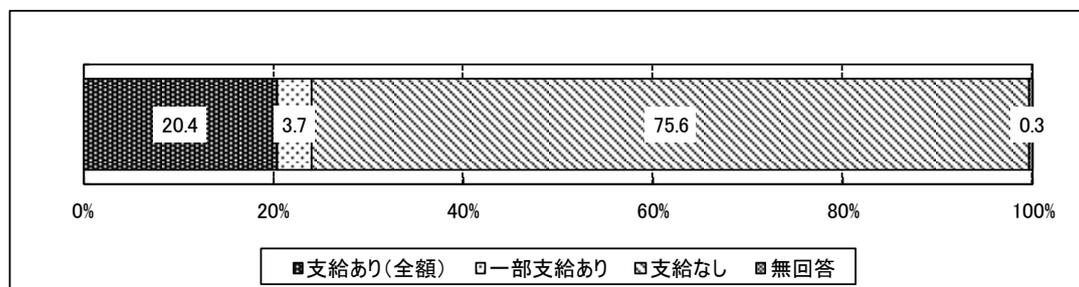


図 35 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料支給状況(n=6,202)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給をみると、他の分野と比較して、「不妊症看護」分野で「支給あり（全額）」の割合が高かった。

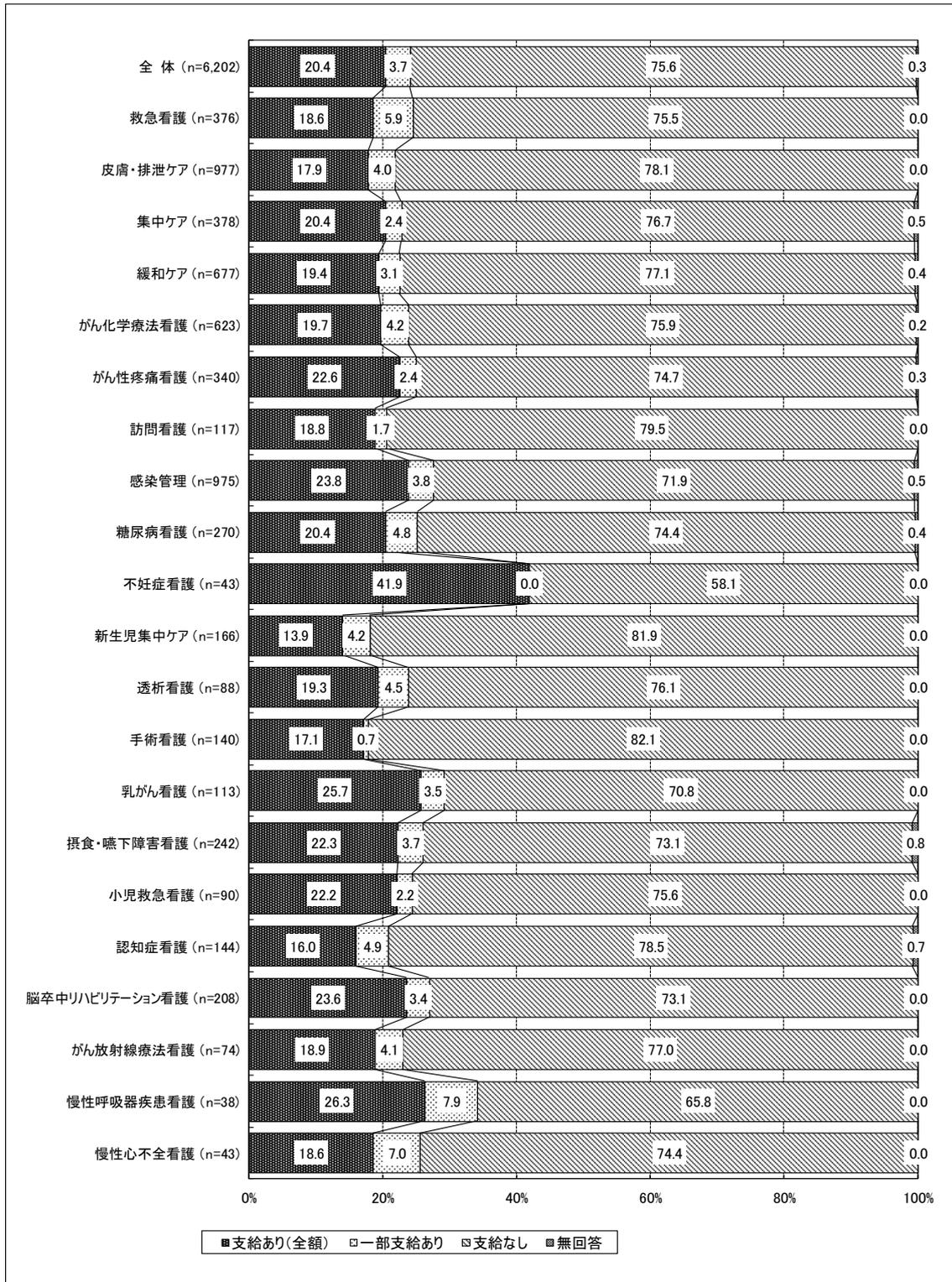


図 36 認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給有無 (n=6,202)

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給状況をみると、「支給あり(全額)」は都道府県・市町村が497名(33.9%)と最も高かった。

表 20 病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給の有無(n=5,854)

	支給あり(全額)	一部支給あり	支給なし	無回答	合計
全 体	1,197 20.4%	217 3.7%	4,426 75.6%	14 0.2%	5,854 100.0%
国	44 15.8%	5 1.8%	228 82.0%	1 0.4%	278 100.0%
都道府県・市町村	497 33.9%	60 4.1%	903 61.6%	7 0.5%	1467 100.0%
国立大学法人	12 3.1%	11 2.9%	357 93.7%	1 0.3%	381 100.0%
公益法人	69 28.8%	5 2.1%	165 68.8%	1 0.4%	240 100.0%
医療法人	197 26.5%	24 3.2%	523 70.3%	— —	744 100.0%
学校法人	26 4.3%	27 4.4%	557 91.2%	1 0.2%	611 100.0%
社会保険関連団体	24 12.5%	3 1.6%	165 85.9%	— —	192 100.0%
日本赤十字社	38 7.5%	14 2.8%	454 89.7%	— —	506 100.0%
済生会	61 28.2%	5 2.3%	150 69.4%	— —	216 100.0%
その他の法人	151 18.2%	39 4.7%	641 77.1%	— —	831 100.0%
その他	110 31.0%	78 22.0%	165 46.5%	2 0.6%	355 100.0%

4-7 「出張、研修、休職」中の教育課程受験料、「一部支給あり」の場合の比率

「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給について、「一部支給あり」と回答した者のうち、「40-60%未満」が154名（67.0%）と最も多く、次いで「20-40%未満」が15名（6.5%）、「60-80%未満」が12名（5.2%）と続いた。また、割合の平均値は50.2%、最小値が1.0%、最大値が80.0%だった。

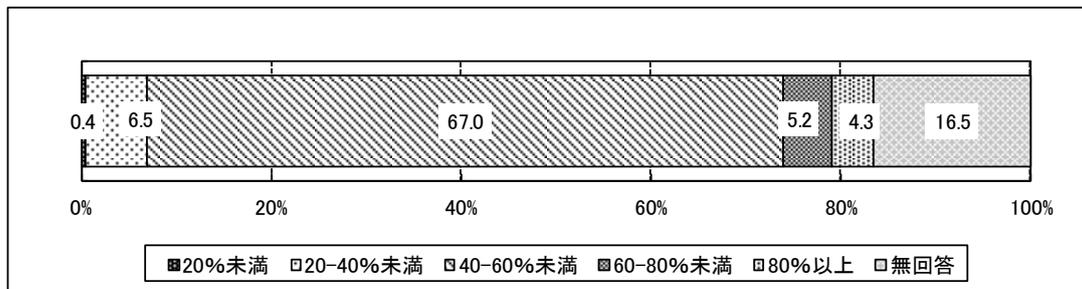


図 37 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給、「一部支給あり」の場合の比率 (n=230)

表 21 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の教育課程受験料の支給、「一部支給あり」の場合の比率 (n=230)

	平均	標準偏差	最小値	最大値
支給率 (%)	52.0	18.5	1.0	95.0

4-8 「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助状況

「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助について、「援助なし」が3,250名（52.4%）、「援助あり（全額）」が1,877名（30.3%）、「一部援助あり」が1,059名（17.1%）だった。

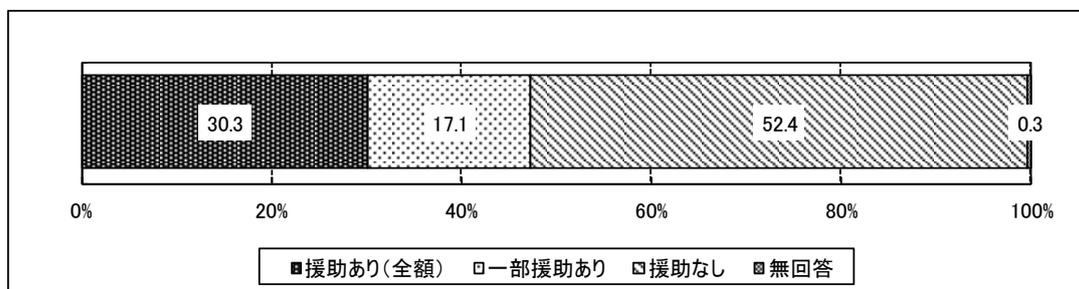


図 38 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助状況 (n=6,202)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助をみると、他の分野と比較して、「不妊症看護」分野で「援助あり（全額）」の割合が高かった。

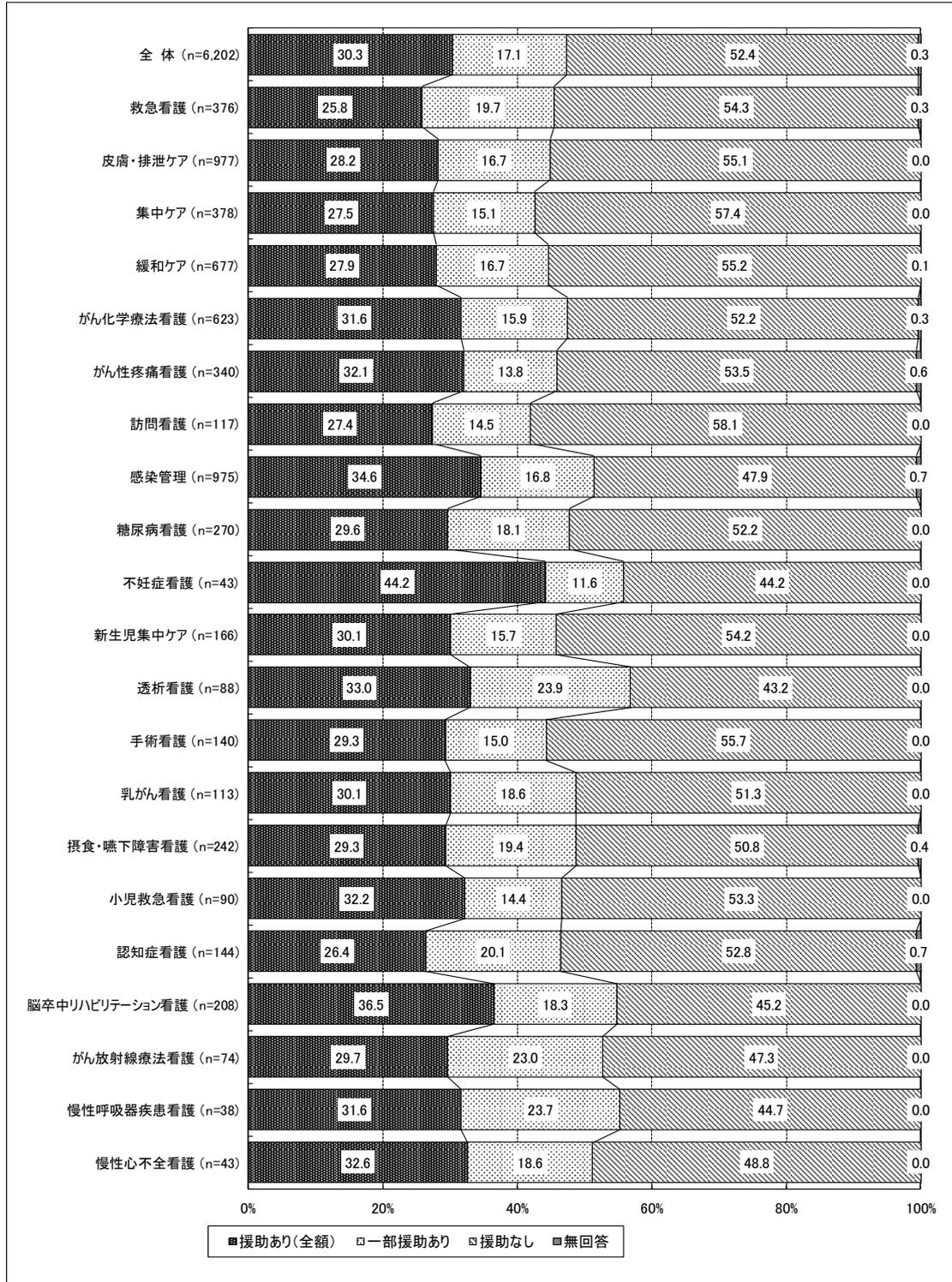


図 39 認定看護分野別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助有無 (n=6,202)

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助の状況をみると、「都道府県・市町村」では708名（48.3%）、「済生会」では91名（42.1%）と40%以上が「援助あり（全額）」だった。

表 22 病院設置主体別、認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助有無(n=5,854)

	援助あり(全額)	一部援助あり	援助なし	無回答	合計
全 体	1,780 30.4%	1,024 17.5%	3,036 51.9%	14 0.2%	5,854 100.0%
国	59 21.2%	26 9.4%	192 69.1%	1 0.4%	278 100.0%
都道府県・市町村	708 48.3%	282 19.2%	473 32.2%	4 0.3%	1,467 100.0%
国立大学法人	30 7.9%	61 16.0%	288 75.6%	2 0.5%	381 100.0%
公益法人	91 37.9%	47 19.6%	101 42.1%	1 0.4%	240 100.0%
医療法人	286 38.4%	109 14.7%	349 46.9%	— —	744 100.0%
学校法人	53 8.7%	97 15.9%	460 75.3%	1 0.2%	611 100.0%
社会保険関連団体	31 16.1%	37 19.3%	124 64.6%	— —	192 100.0%
日本赤十字社	78 15.4%	77 15.2%	351 69.4%	— —	506 100.0%
済生会	91 42.1%	56 25.9%	69 31.9%	— —	216 100.0%
その他の法人	237 28.5%	146 17.6%	446 53.7%	2 0.2%	831 100.0%
その他	110 31.0%	78 22.0%	165 46.5%	2 0.6%	355 100.0%

4-9 「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助、「一部援助あり」の場合の比率 (%)

「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助について、「一部援助あり」の場合の比率 (%) は「40-60%未満」が 472 名 (44.6%) と最も多く、次いで「80%以上」が 136 名 (12.8%)、「20-40%未満」が 109 名 (10.3%) と続いた。また、割合の平均値は 60.0%、最小値が 1.0%、最大値が 95.0%だった。

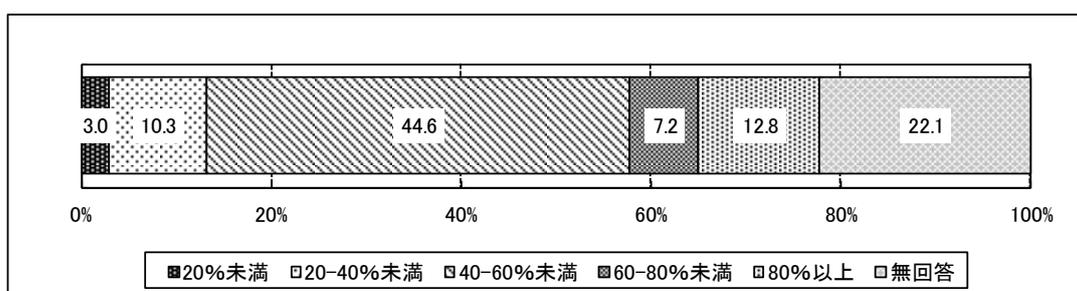


図 40 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助について、「一部援助あり」の場合の比率 (%) (n=1,059)

表 23 認定看護師教育機関就学時の「出張、研修、休職」中の入学金や研修費の援助について、「一部援助あり」の場合の比率 (%) (n=1,059)

	平均	標準偏差	最小値	最大値
支給率 (%)	52.0	18.5	1.0	95.0

5 認定看護師教育課程入学時の奨学金利用

認定看護師教育課程入学時の奨学金利用について、「利用した」が416名（6.1%）、「利用しなかった」が6,316名（92.7%）だった。また、利用した奨学金名としては「国際看護師協会東京大会記念奨学基金」、「日本財団」、「笹川財団」等だった。

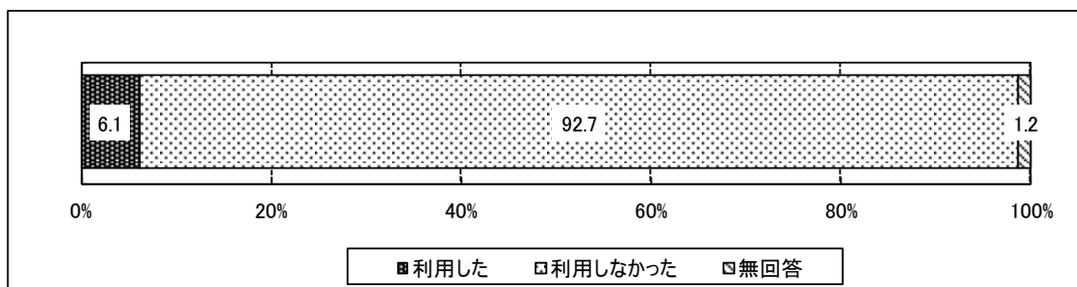


図 41 認定看護師教育課程入学時の奨学金利用 (n=6,812)

表 24 認定看護師教育課程入学時の利用奨学金名

奨学金名	件数
国際看護師協会東京大会記念奨学基金	31
日本財団	27
笹川財団	11
育英会	8
認定看護師教育課程が設ける奨学金	7
日本学生支援機構	7

IV 認定看護師としての活動について

1 現在の所属施設内における活動範囲

現在の所属施設内における活動範囲について、「施設外も含む」が4,164名（61.1%）と最も多く、次いで「施設内全体」が1,924名（28.2%）、「所属部署内に限る」が665名（9.8%）だった。

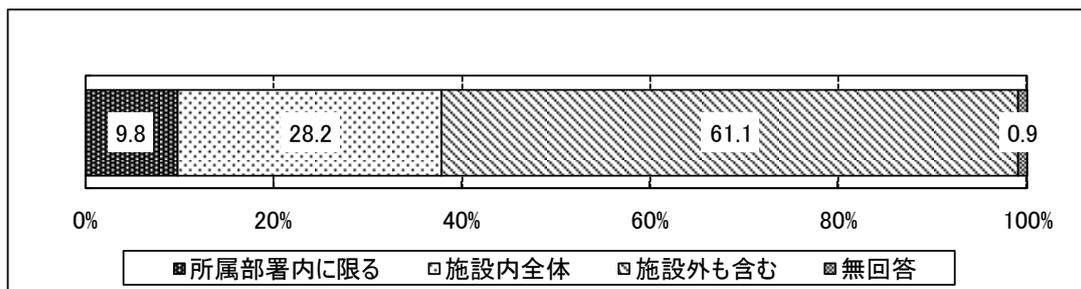


図 42 現在の所属施設内における活動範囲 (n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に現在の所属施設内における活動範囲をみると、「救急看護」や「訪問看護」、「感染管理」、「糖尿病看護」、「手術看護」、「小児救急看護」で分野は活動範囲が「施設外を含む」者が7割を超えた。一方、「新生児集中ケア」や「慢性心不全看護」分野では活動範囲が「所属部署内に限る」者の割合が高かった。

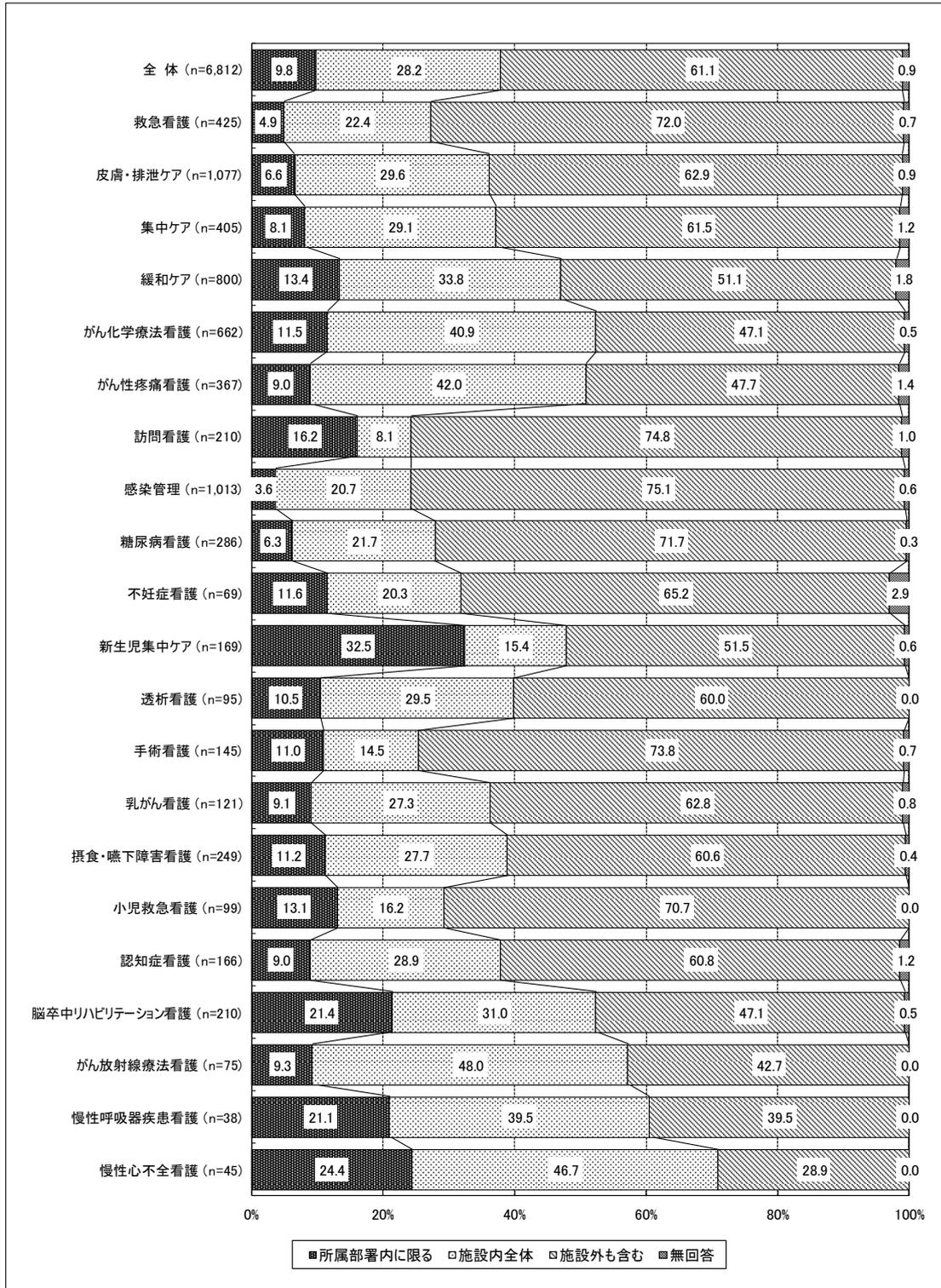


図 43 認定看護分野別、現在の所属施設内における活動範囲 (n=6,812)

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に現在の所属施設内における活動範囲をみると、全ての設置主体で「施設外を含む」と回答した者の割合が過半数であった。

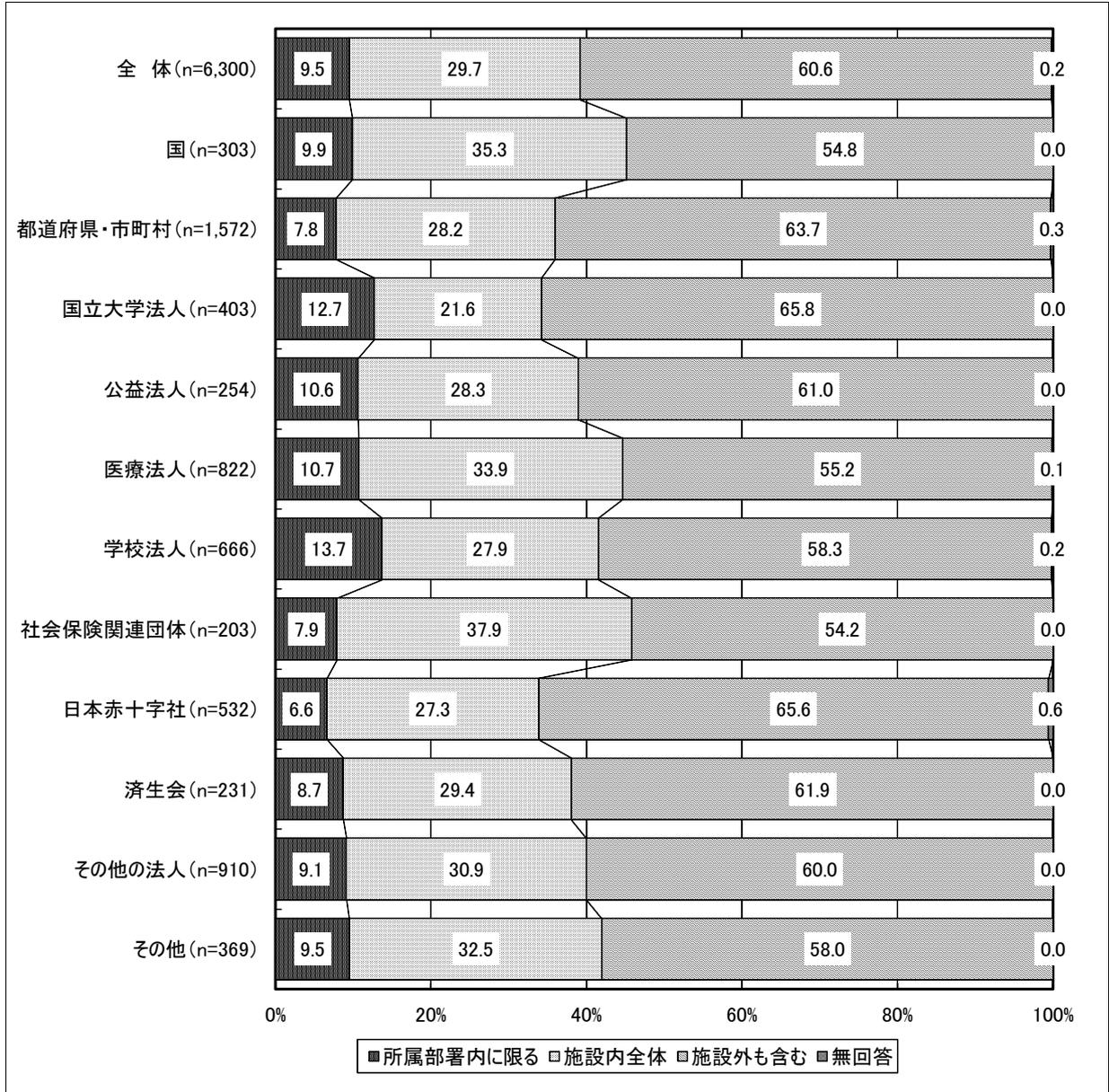


図 44 病院設置主体別、現在の所属施設内における活動範囲 (n=6,300)

1-1 施設外における活動内容

「1. 活動範囲」で「施設外も含む」と回答した者のうち、活動内容は「講演・講師等依頼」が 3,720 名（89.3%）と最も多く、次いで「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」が 1,676 名（40.2%）、「認定看護師教育機関における講師・実習指導等」が 1,170 名（28.1%）の順だった。

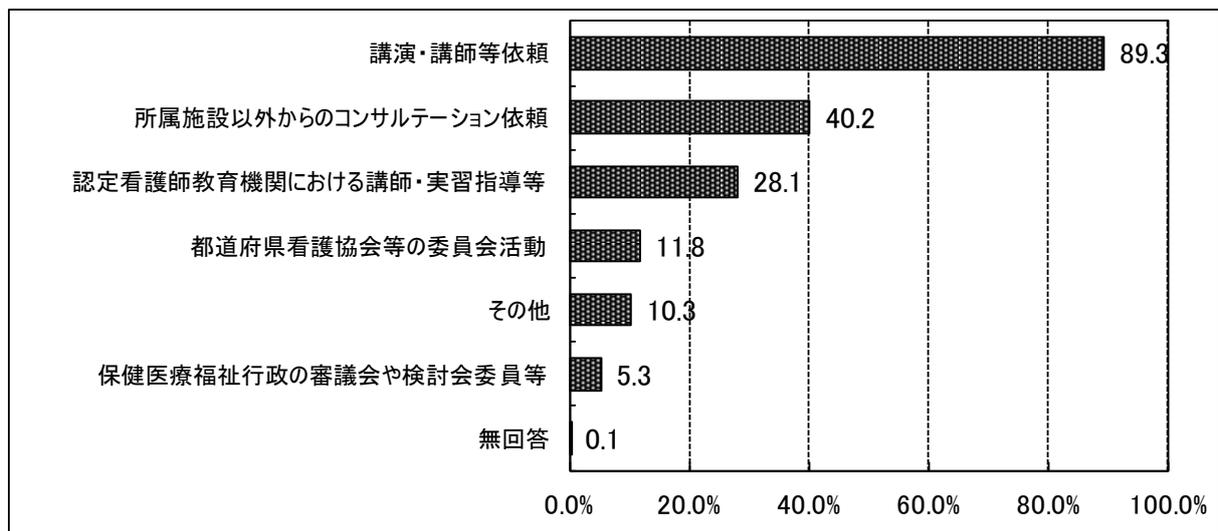


図 45 活動範囲が「施設外も含む」場合の、施設外における活動内容 (n=4,164・複数回答)

〔認定看護分野別〕

全ての認定看護分野において、「講演・講師依頼等」の割合が最も高かった。「皮膚・排泄ケア」や「感染管理」分野では「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」が次いで多いが、複数の分野においては「認定看護師教育機関における講師・実習指導等」の割合が「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」より高かった。

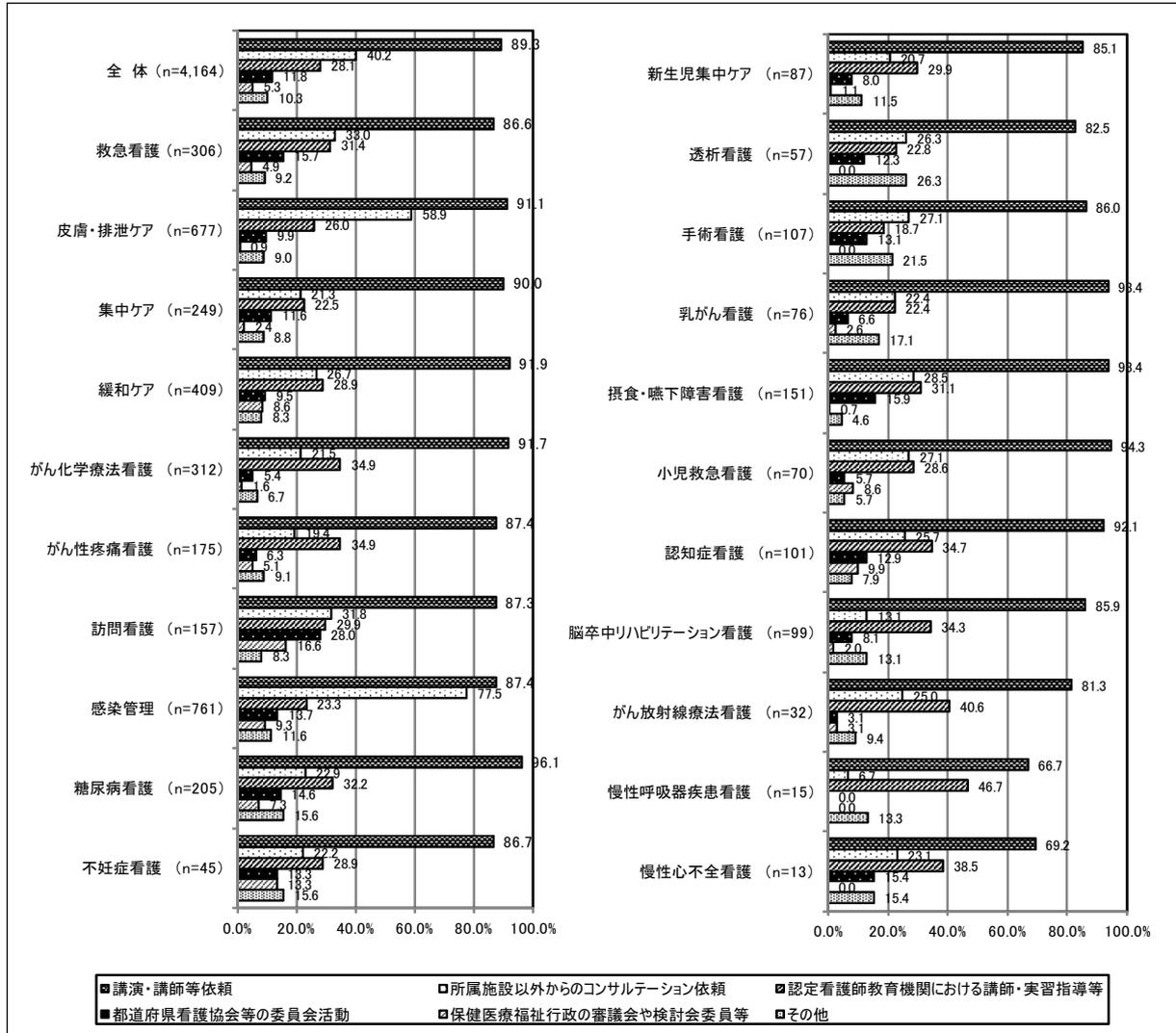


図 46 認定看護分野別、活動範囲が「施設外も含む」場合の、施設外における活動内容 (n=3,816)

〔病院設置主体別〕

病院設置主体別に施設外における活動内容をみると、全ての設置主体で「講演・講師等依頼」の割合が高かった。「国立大学法人」では「認定看護師教育機関における講師・実数指導等」の割合が「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」より高かった。

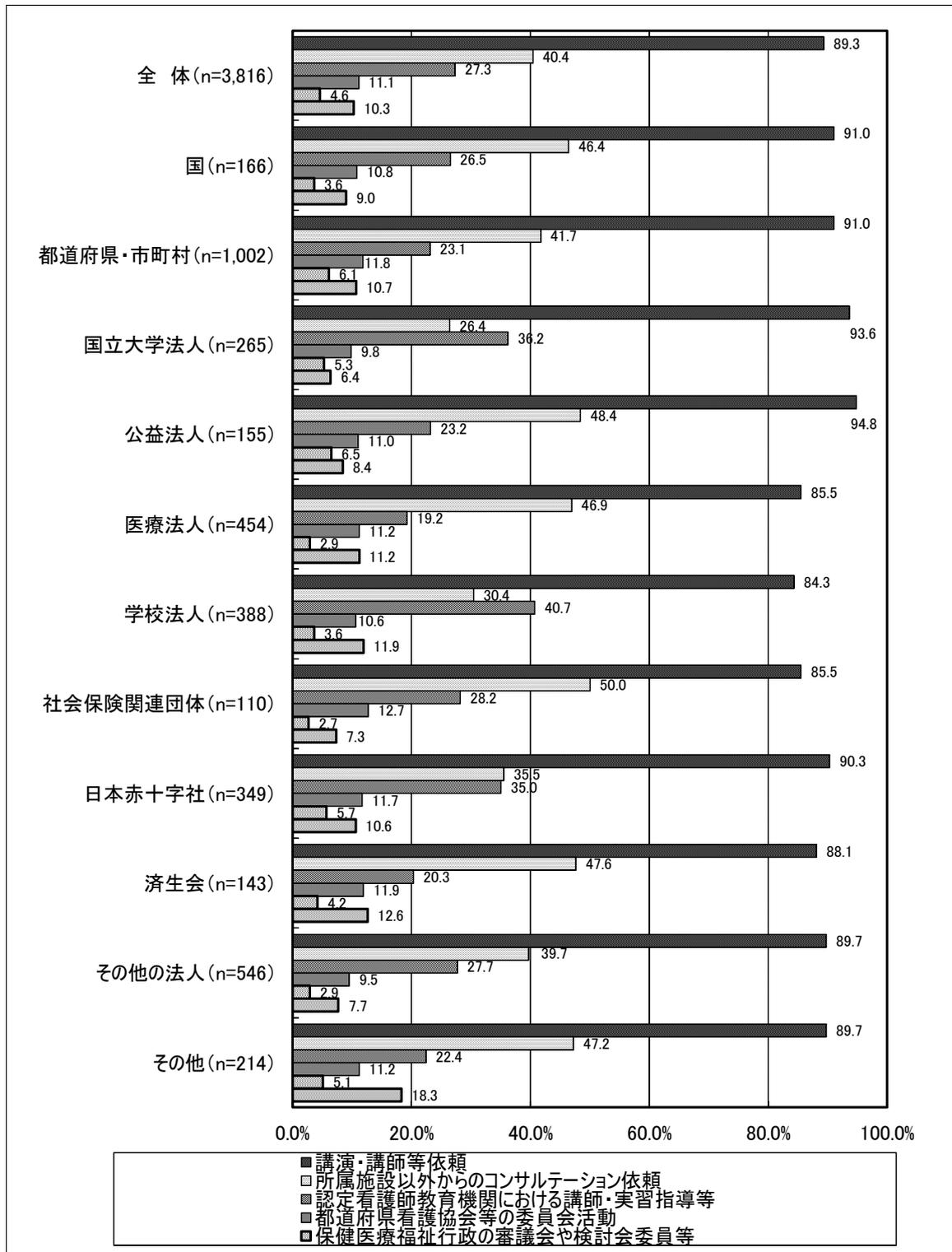


図 47 病院設置主体別、活動範囲が「施設外も含む」場合の、施設外における活動内容 (n=3,816)

2 最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合

最近1週間の仕事における認定看護師の「実践」、「指導」、「割合」の役割の割合について、3つの役割全体を10割として各役割の程度を聞いたところ、「実践」の割合は、「8割」と回答した者が1,420名(20.8%)と最も多く、平均割合は6.0割だった。同じく「指導」の割合は、「2割」と回答した者が2,063名(30.3%)と最も多く、平均割合は2.3割だった。また、認定看護師の「相談」の割合は、「1割」と回答した者が3,191名(46.8%)と最も多く、平均割合は1.6割だった。

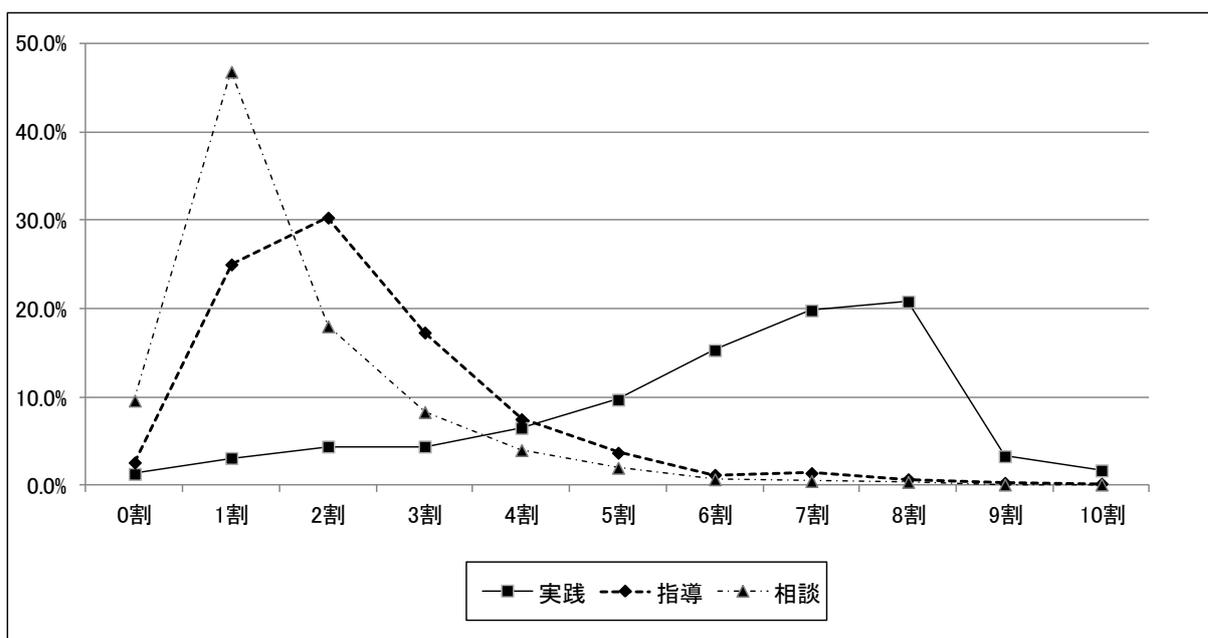


図 48 最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=6,158)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に最近1週間の仕事での、認定看護師の「実践」割合をみると、がん化学療法看護やがん放射線療法看護、慢性心不全看護等で割合が高い傾向にあった。一方、感染管理や新生児集中ケア、摂食・嚥下障害看護では割合が低い傾向にあった。

同じく「指導」割合では、新生児集中ケアを除く認定看護分野で1割～2割と回答した者が最も多く、回答者の約8割が4割以下だった。

同じく「相談」割合では、全ての認定看護分野で「1割」と回答した者が最も多く、2割以下の者が大半を占めた。特に慢性心不全看護では「0割」と回答した者が3割を超えた。

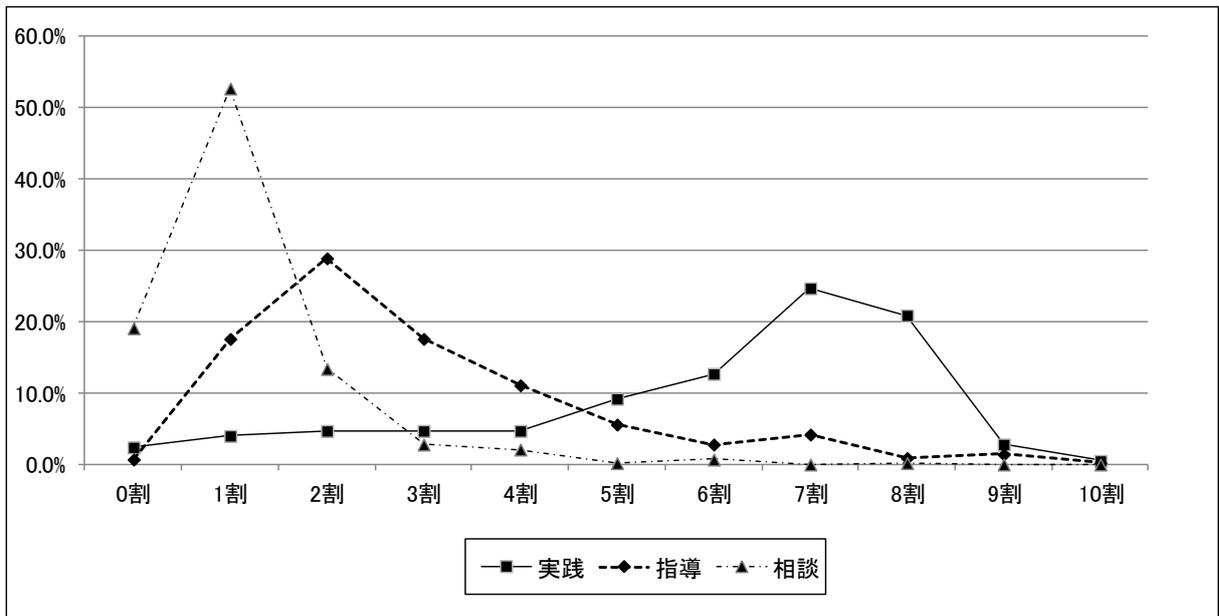


図 49 救急看護分野、別最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=388)

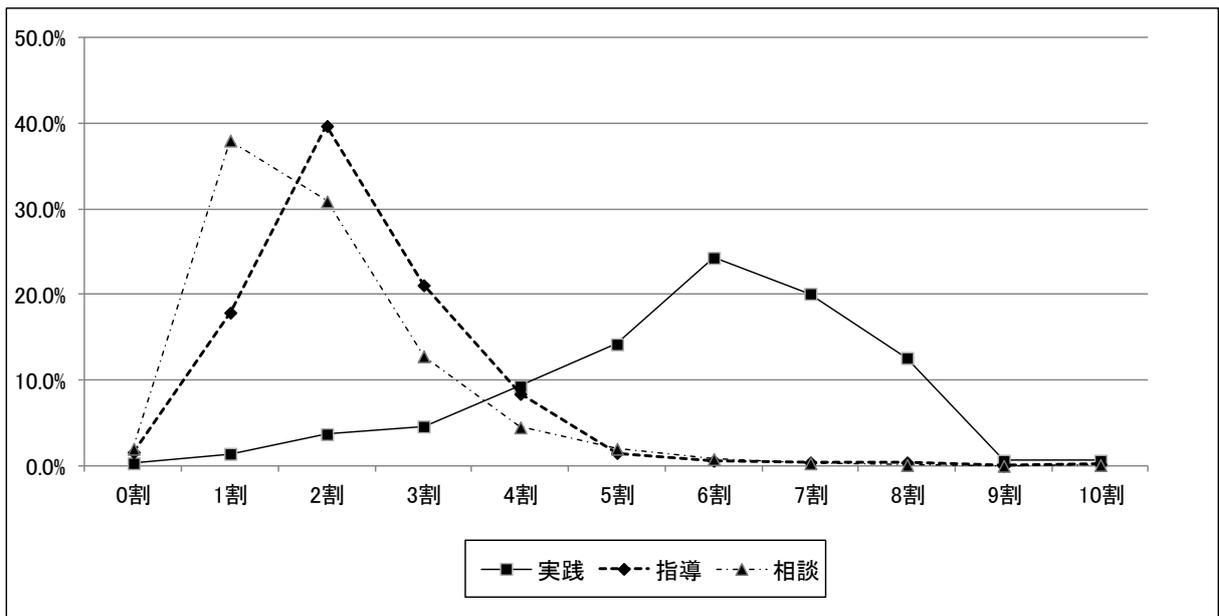


図 50 皮膚・排泄ケア分野、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=987)

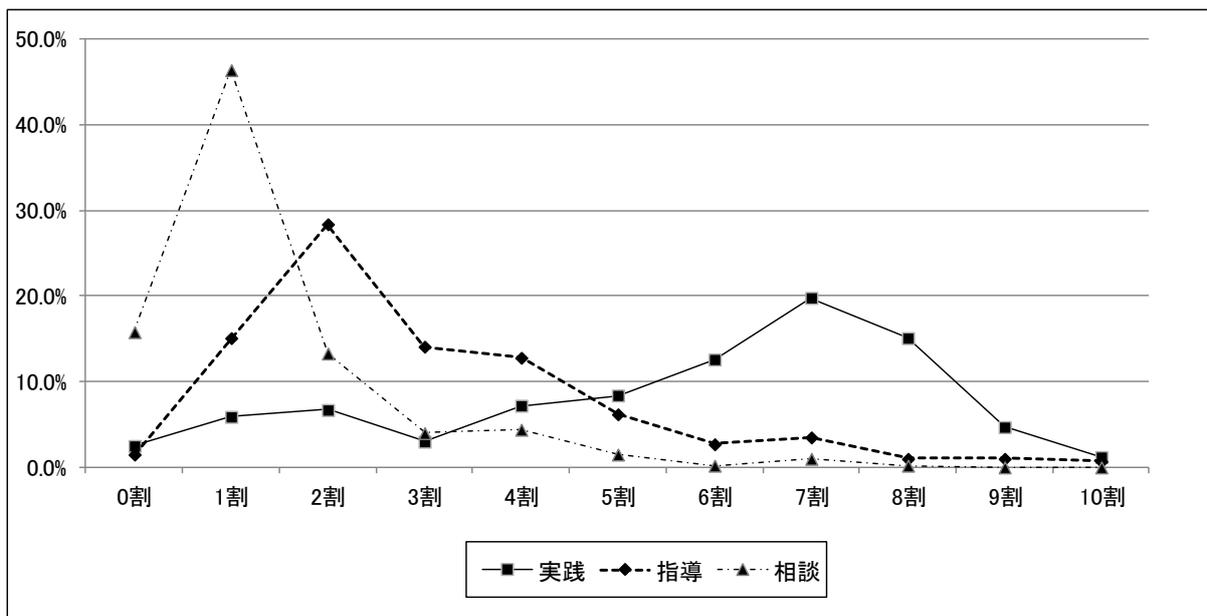


図 51 集中ケア分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=352)

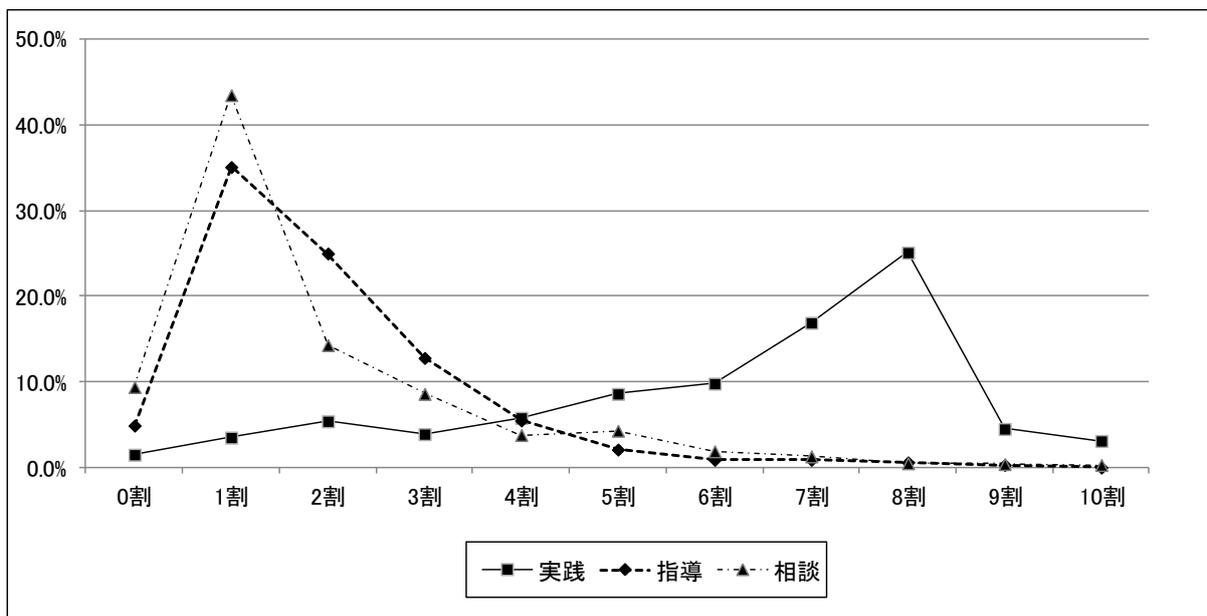


図 52 緩和ケア分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=704)

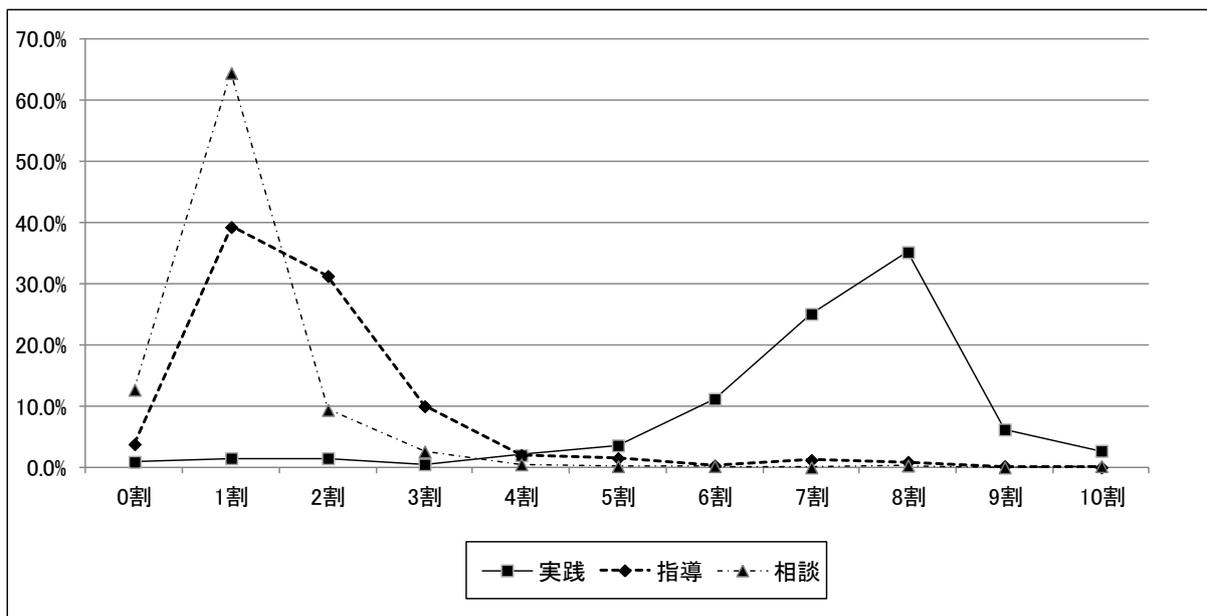


図 53 がん化学療法看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=598)

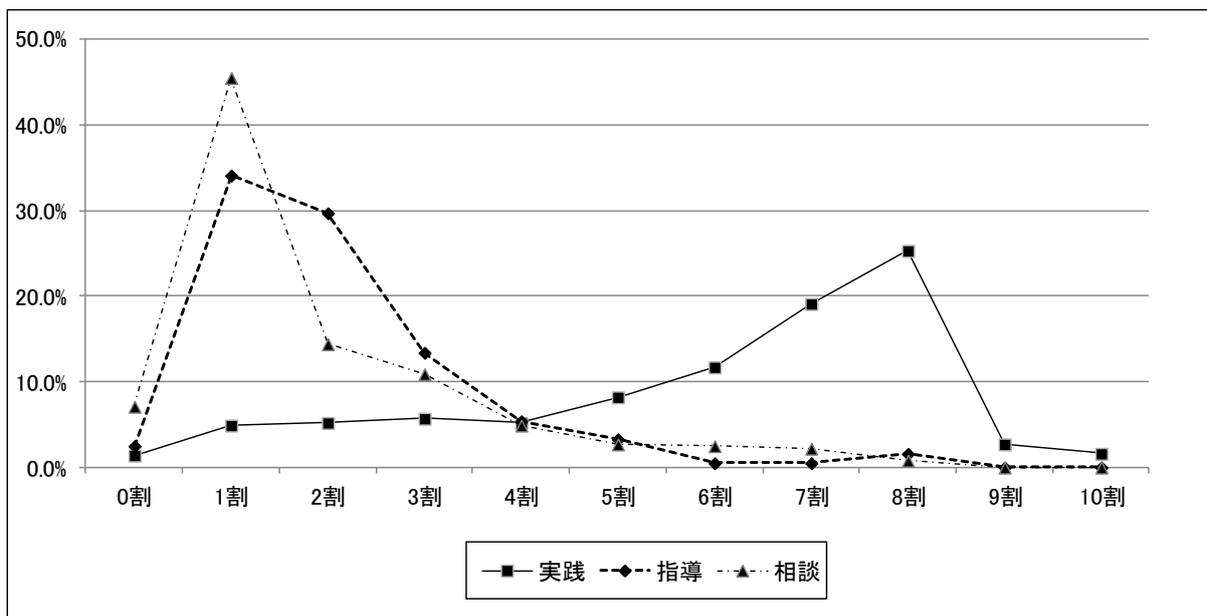


図 54 がん性疼痛看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=334)

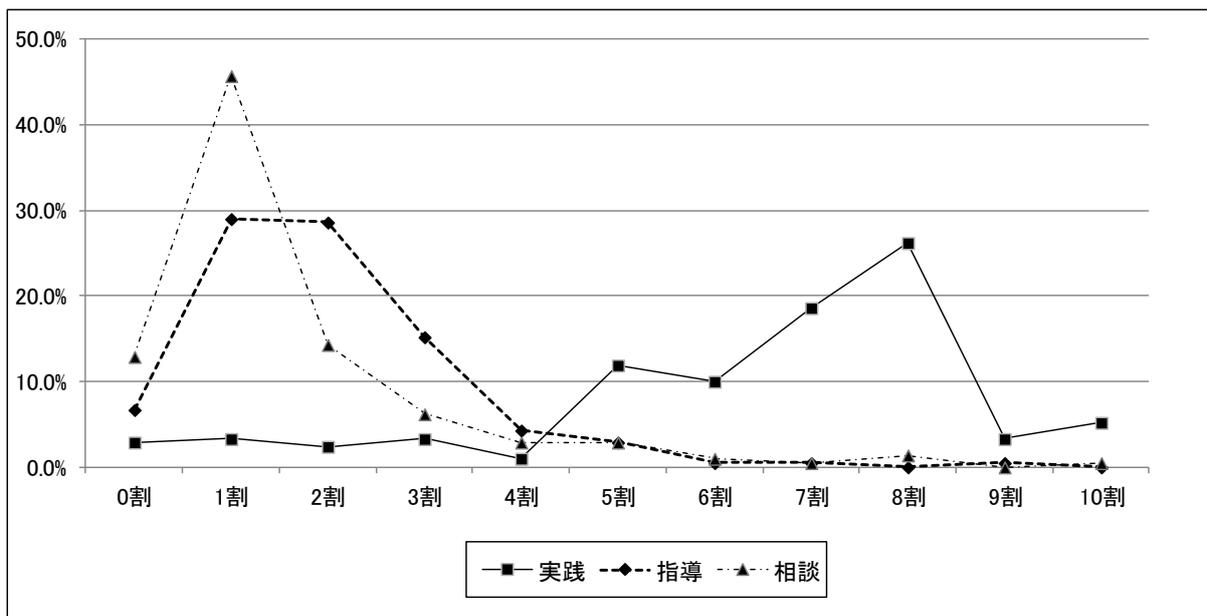


図 55 訪問看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=185)

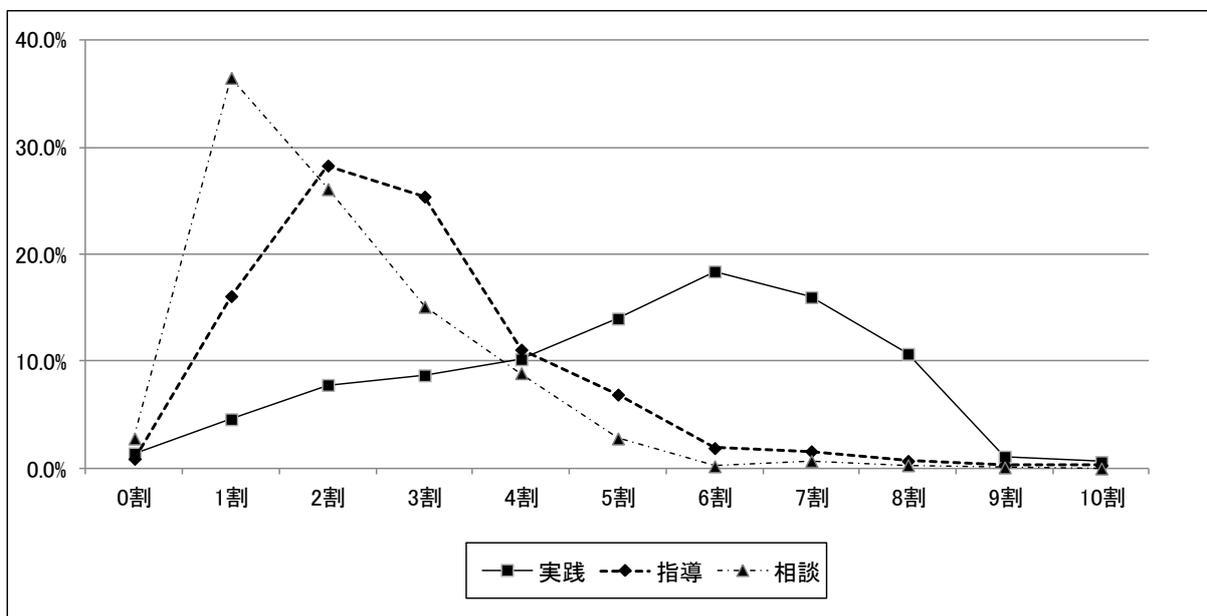


図 56 感染管理分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=946)

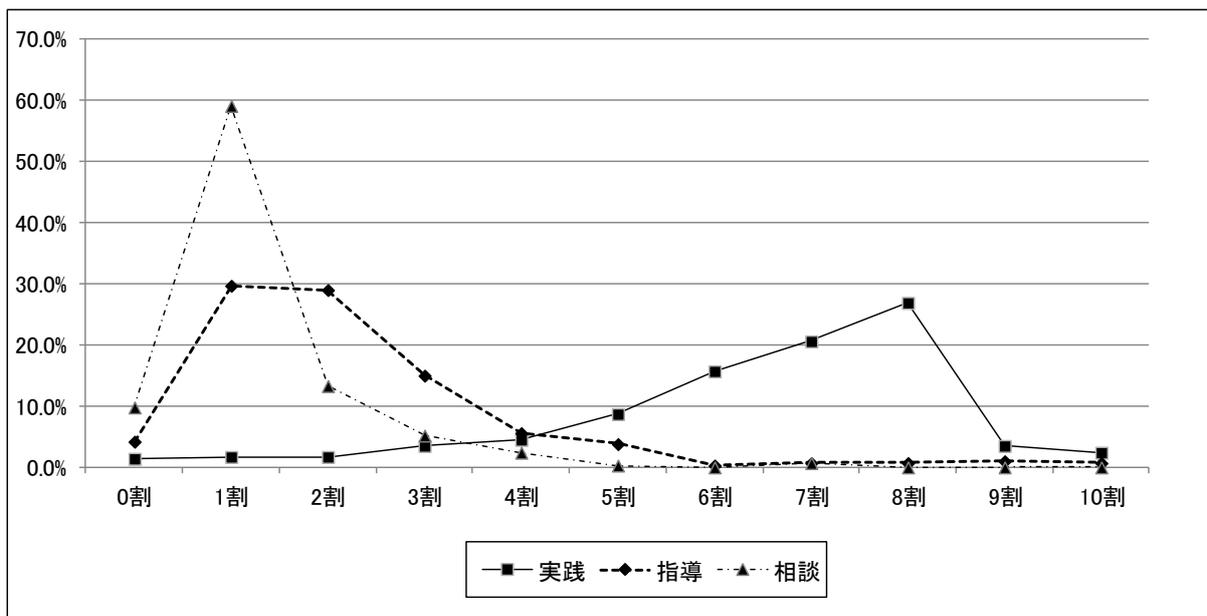


図 57 糖尿病看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=260)

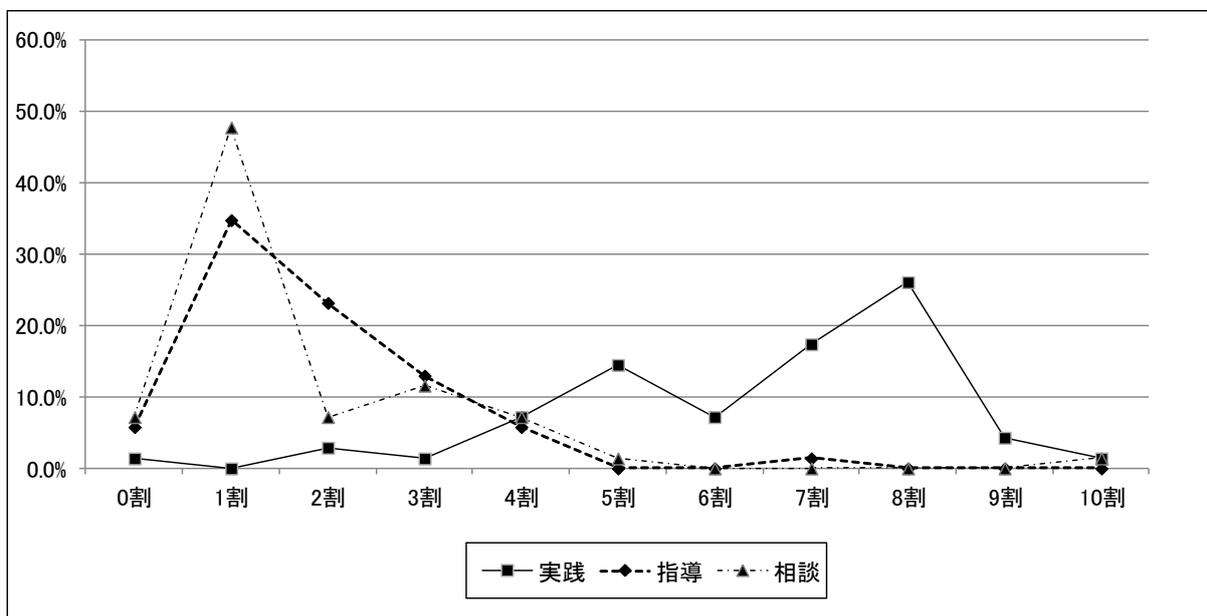


図 58 不妊症看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=58)

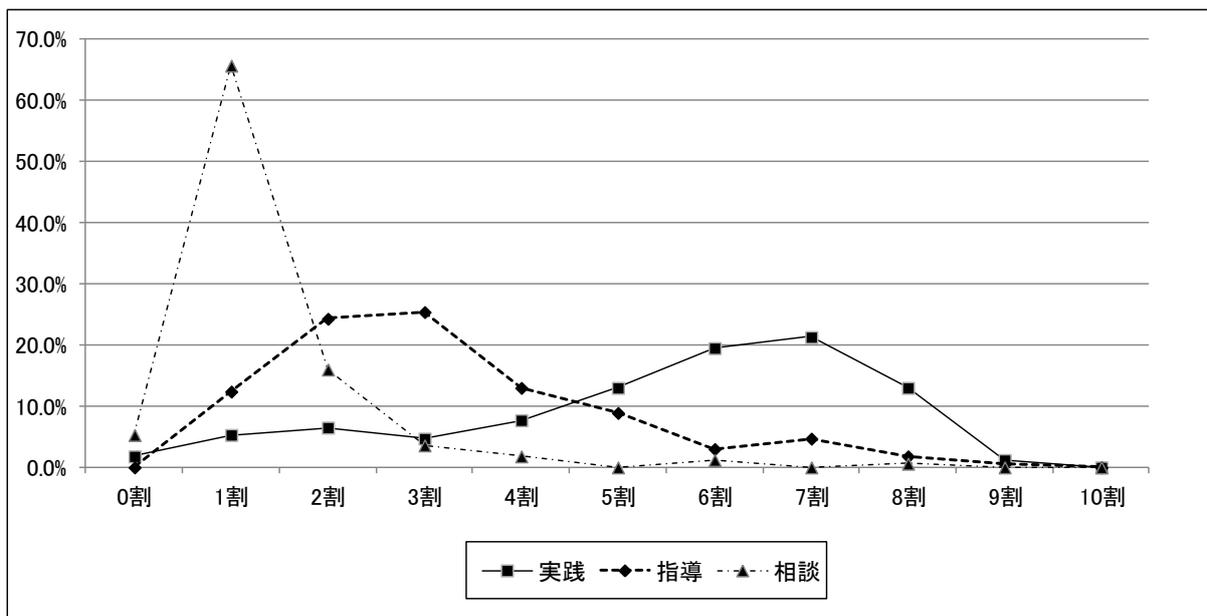


図 59 新生児集中ケア分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=159)

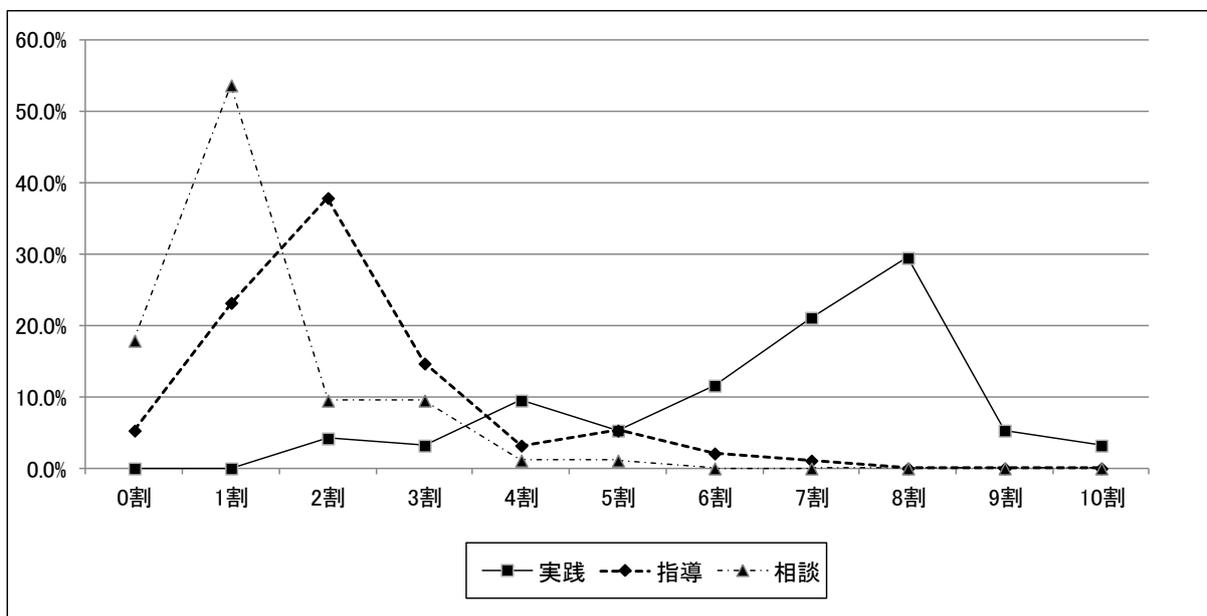


図 60 透析看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=88)

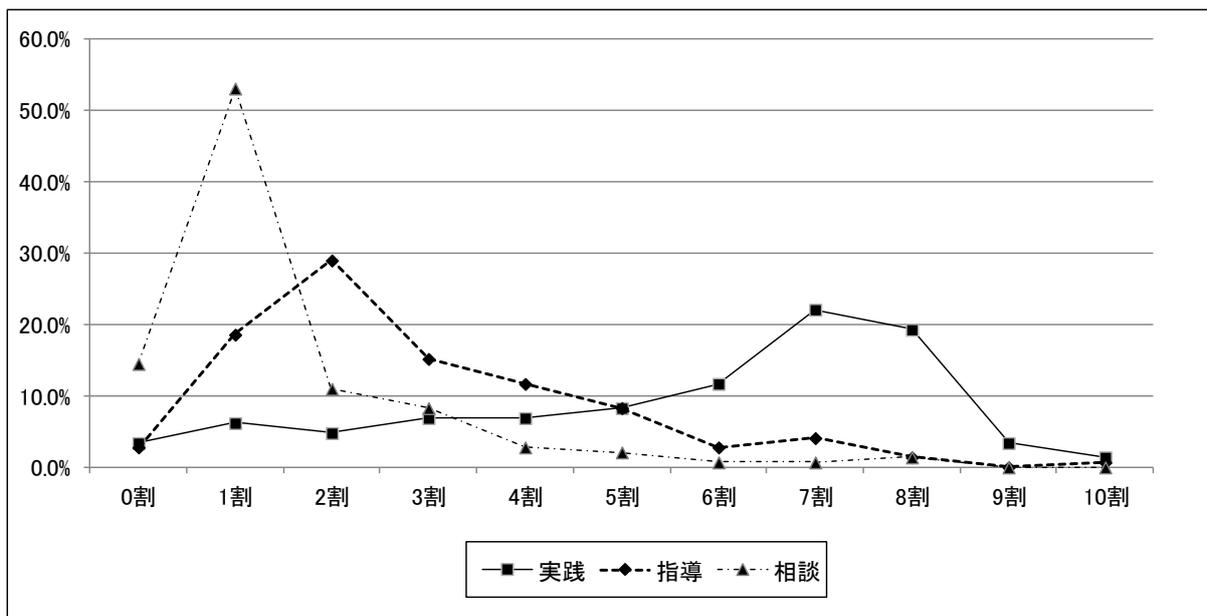


図 61 手術看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=137)

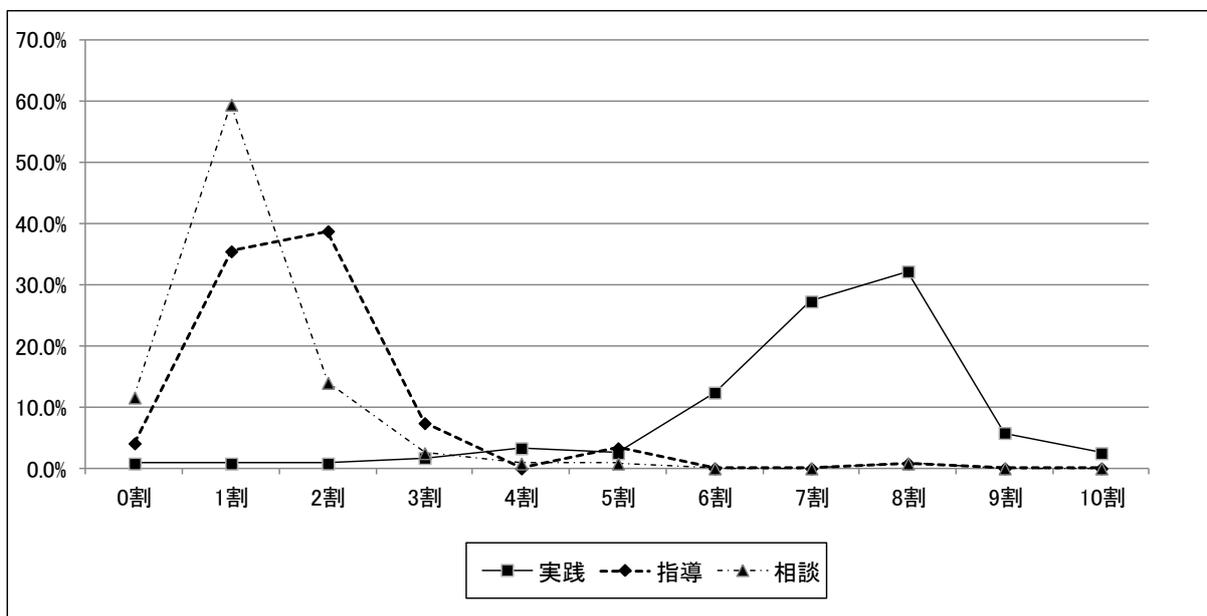


図 62 乳がん看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=109)

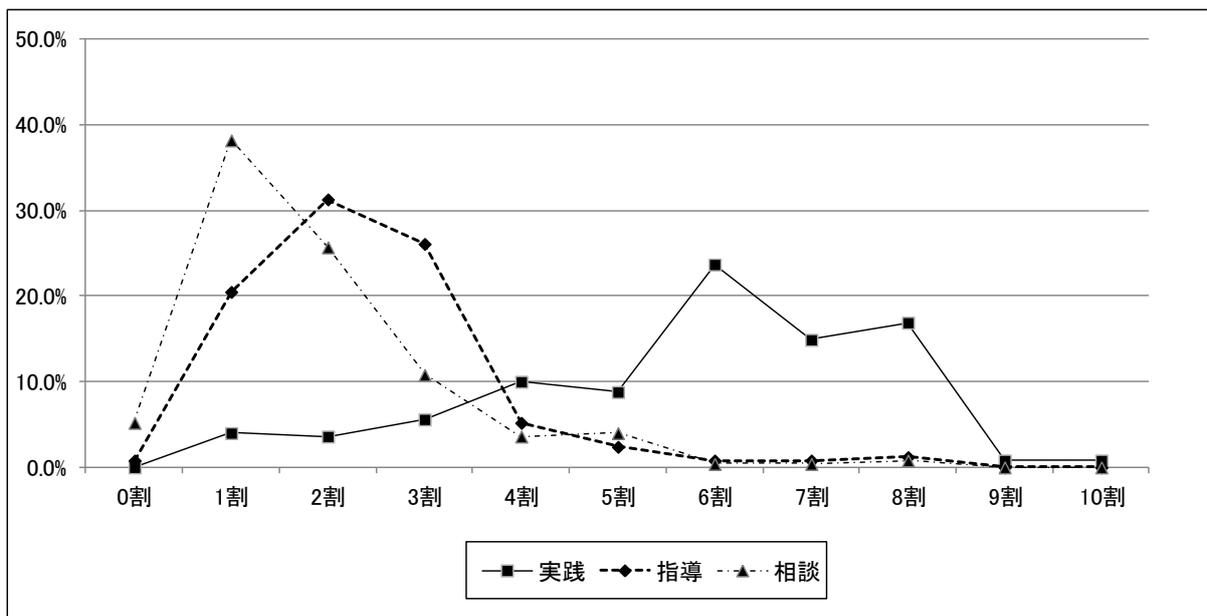


図 63 摂食・嚥下障害看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=222)

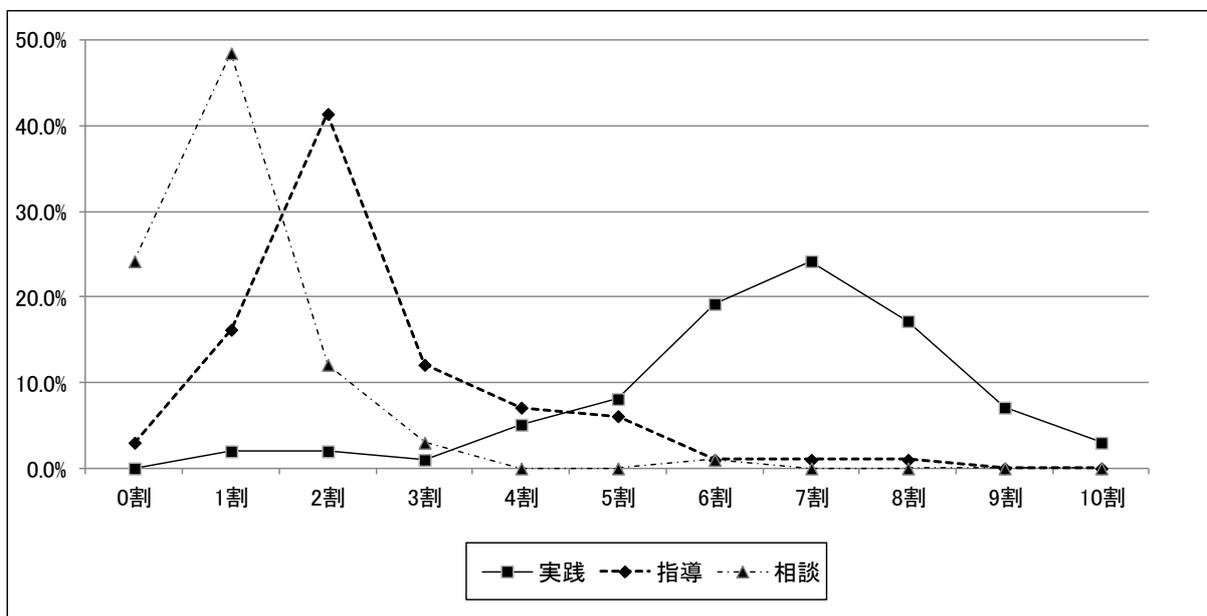


図 64 小児救急看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=88)

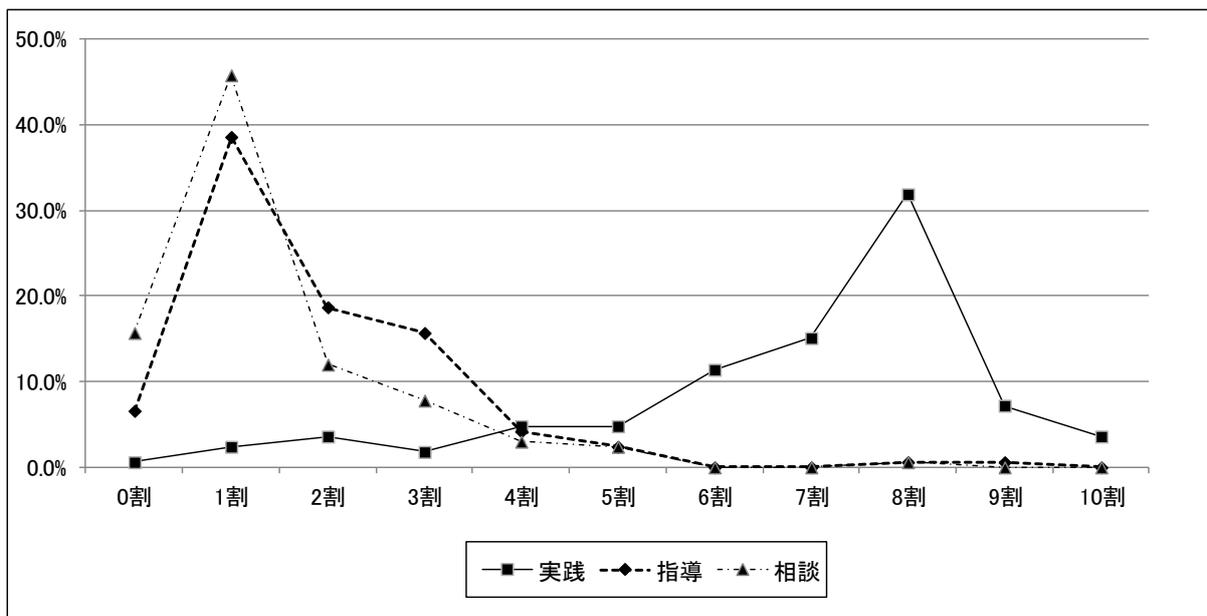


図 65 認知症看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=145)

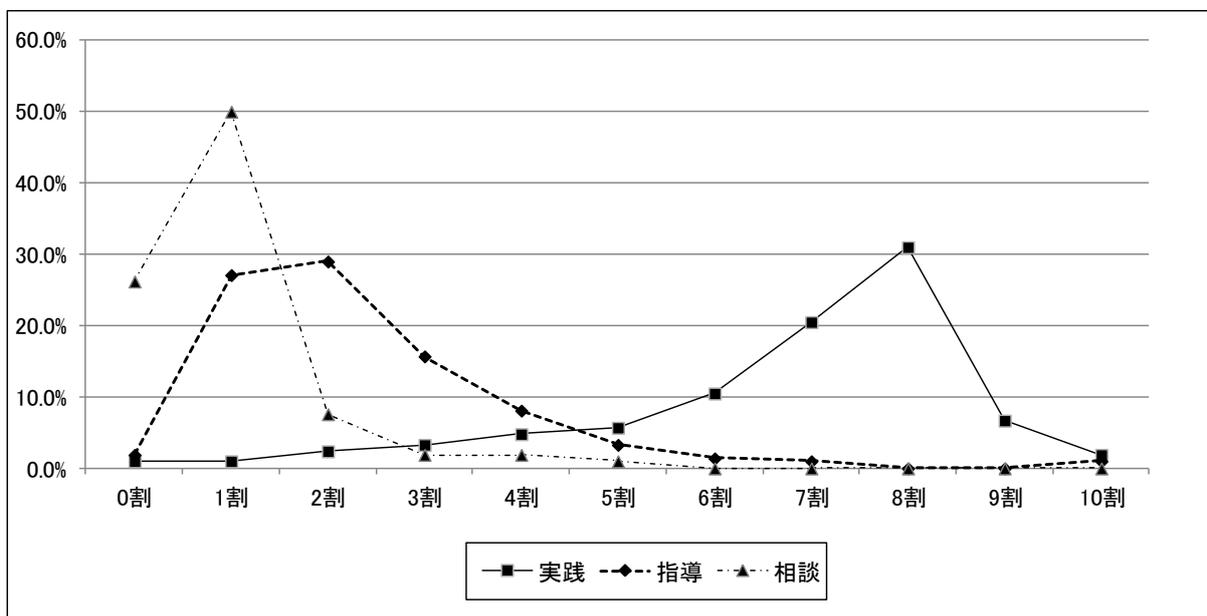


図 66 脳卒中リハビリテーション看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=186)

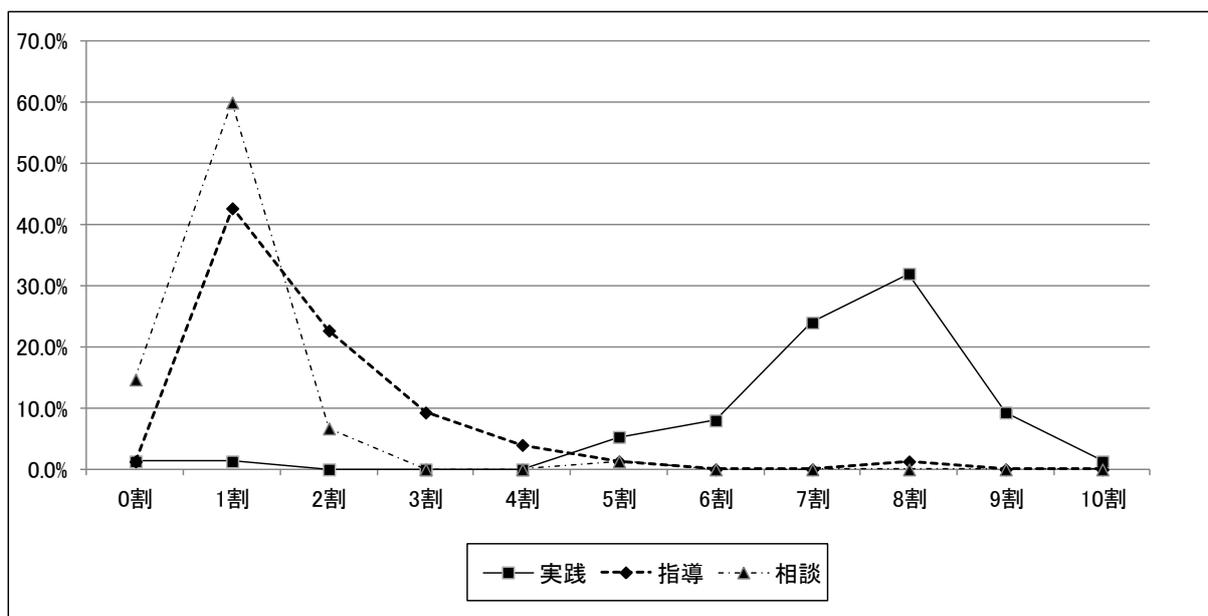


図 67 がん放射線療法看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=62)

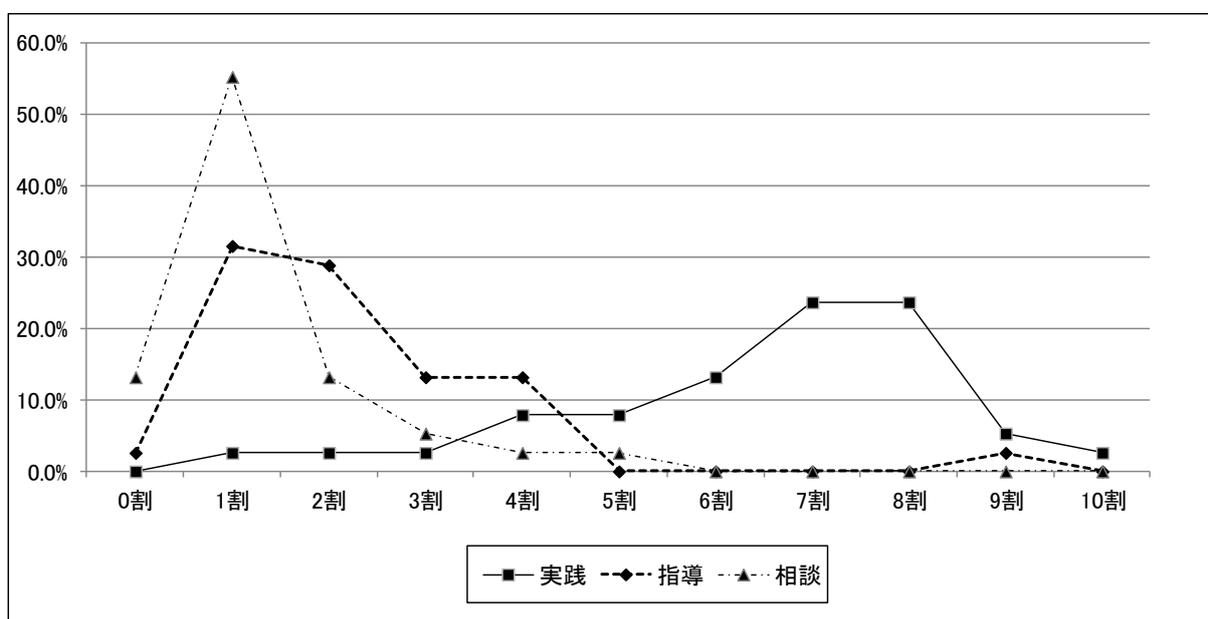


図 68 慢性呼吸器疾患看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=35)

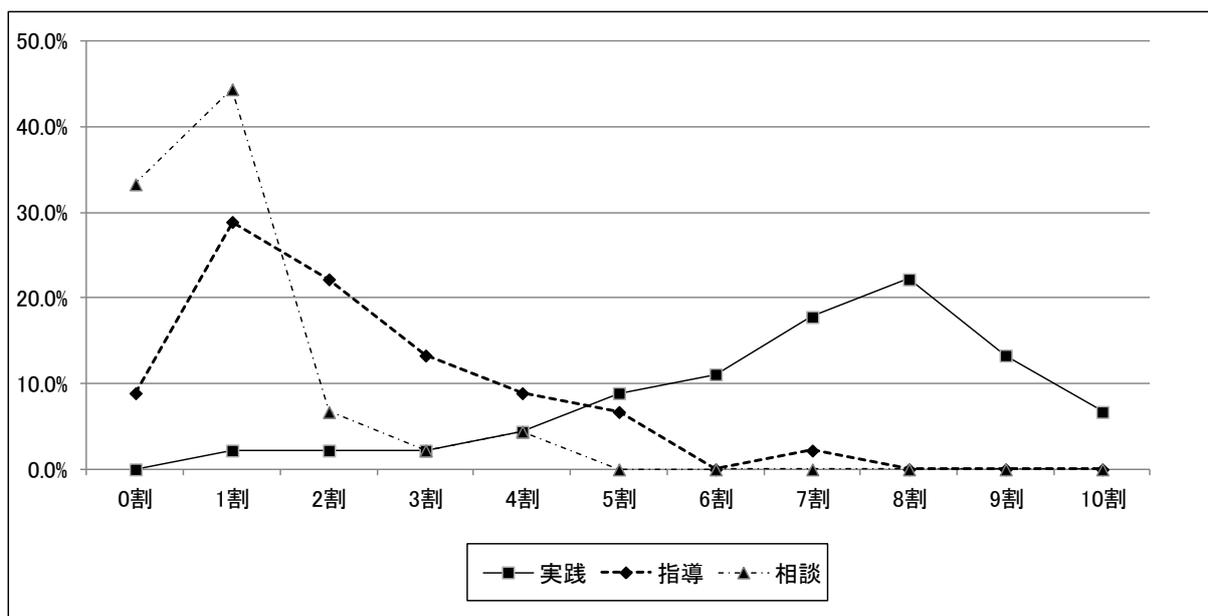


図 69 慢性心不全看護分野、最近 1 週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の割合 (n=41)

2-1 最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の平均割合

〔認定看護分野別〕

認定看護師の実践、指導、相談の平均割合を比較したところ、全ての認定看護分野で実践、指導、相談の順だった。実践が5-7割の範囲内、指導が2-3割の範囲内、相談が1-2割の範囲内だった。

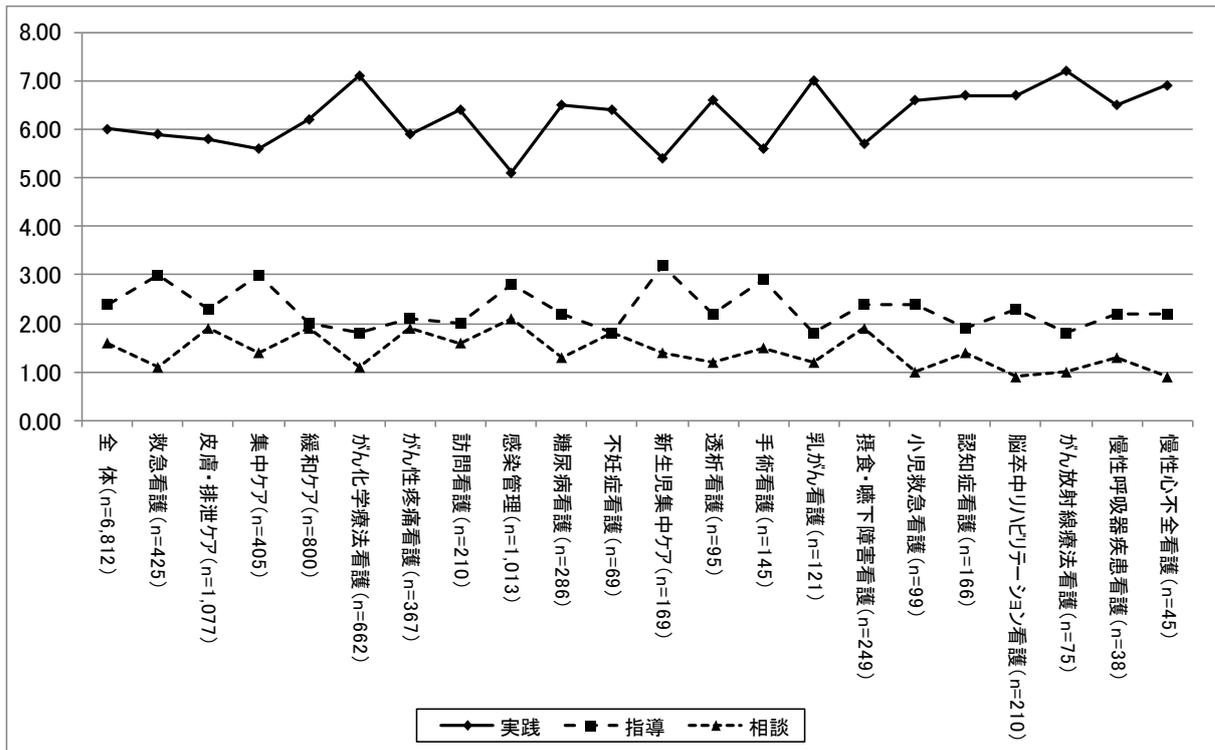


図 70 認定看護分野別、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の平均割合 (n=6,812)

〔認定看護師としての経験年数別〕

認定看護師としての経験年数別に、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導相談の平均割合を比較したところ、経験年数によらず実践、指導、相談の順だった。また、経験年数が長いほど実践の割合が低くなり、指導、相談の割合が高くなった。

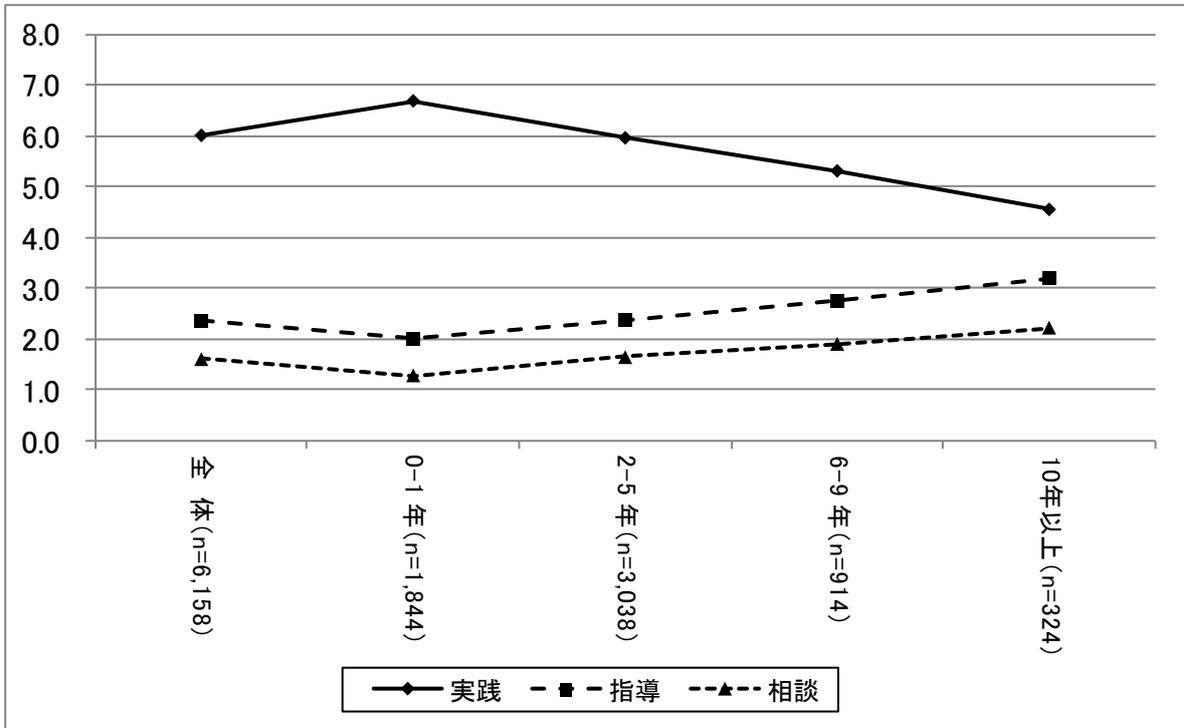


図 71 認定看護師としての経験年数別、最近1週間の仕事での、認定看護師の実践、指導、相談の平均割合 (n=6,812)

3 現在実施している認定看護分野に関連する活動について

現在実施している認定看護分野に関連する活動について、「できている」または「少しできている」と回答した者の割合が高かった項目は、「個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する（実践）」や「知識・技術の根拠に基づき、看護師に対して集団教育・指導を実施している（指導）」、「認定看護師として看護師からの指名によるコンサルテーションを実施している（相談）」、「認定看護分野の活動の場において、リーダーシップを発揮している（リーダーシップ）」、「他職種と共働り、チームの一員として役割を果たしている（チーム医療）」だった。

一方、「全くできていない」または「できていないことが多い」と回答した者の割合が高かった項目は、「知識・技術の根拠に基づき、患者に対して集団教育・指導を実施している（実践）」や「患者からの指名によるコンサルテーションを実施している（実践）」、「認定看護師として他施設からの指名によるコンサルテーションを実施している（相談）」だった。

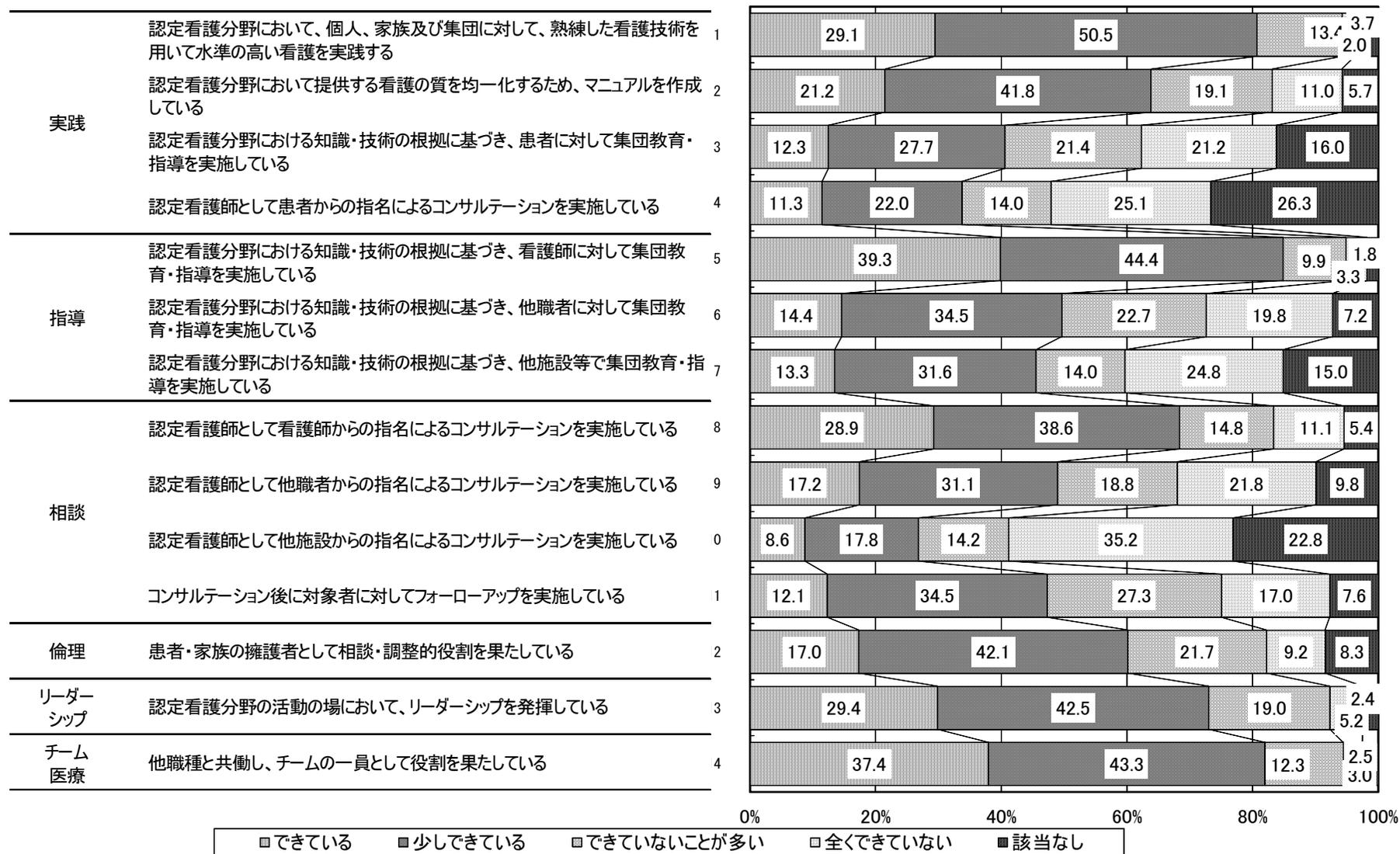


図 72 現在実施している認定看護分野に関連する活動 (n=6,720)

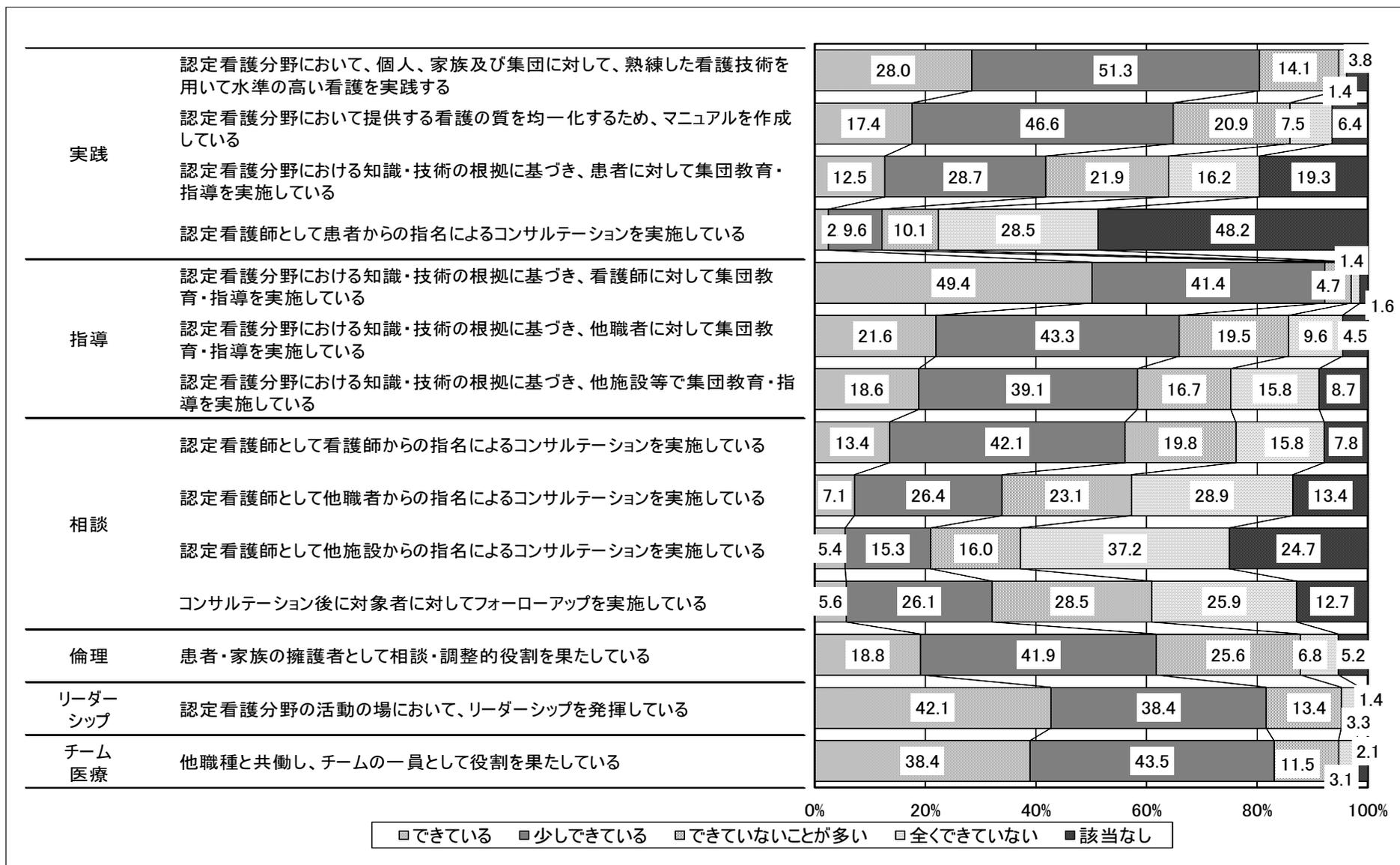


図 73 救急看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=419)

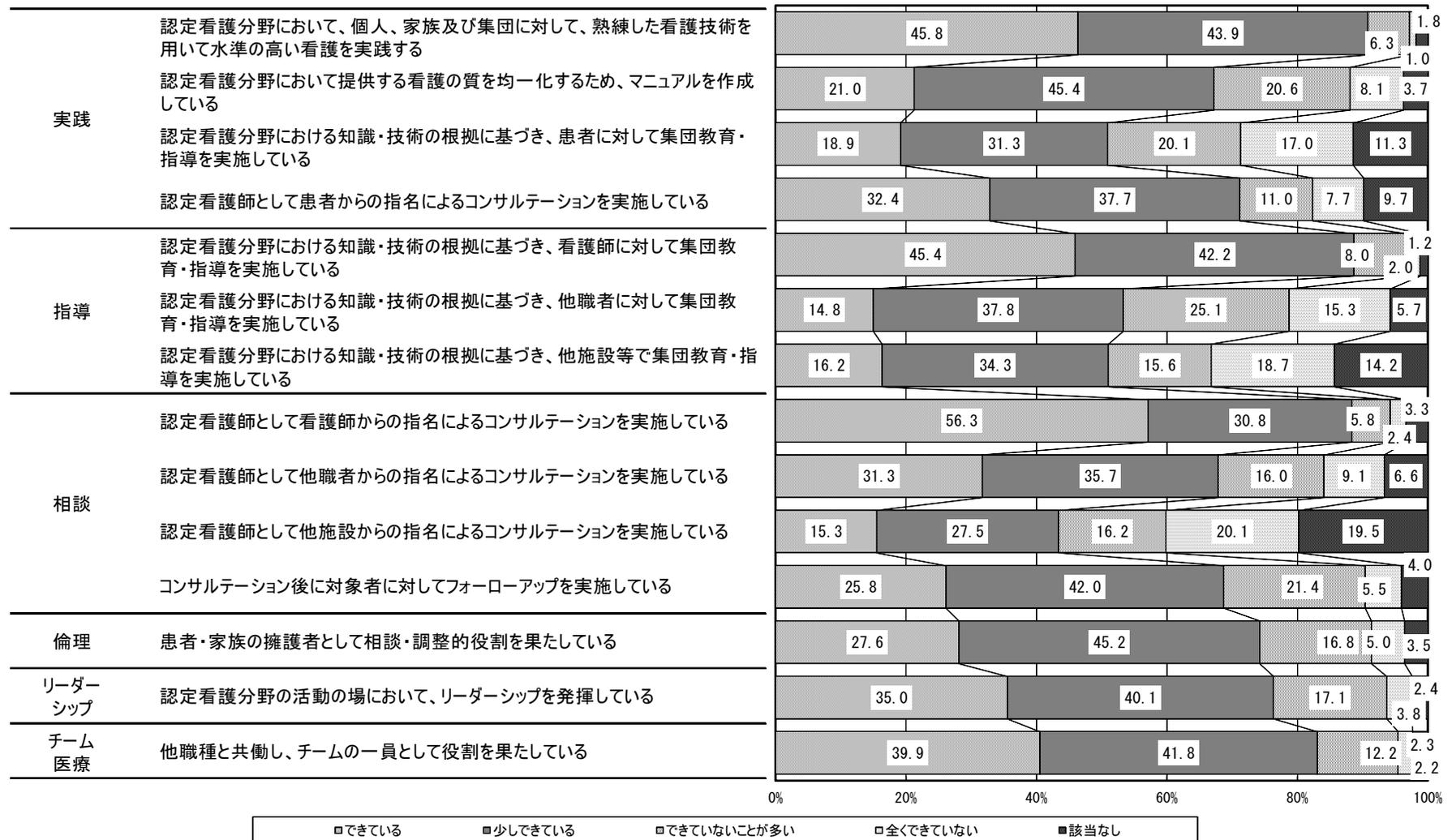


図 74 皮膚・排泄ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=1,064)

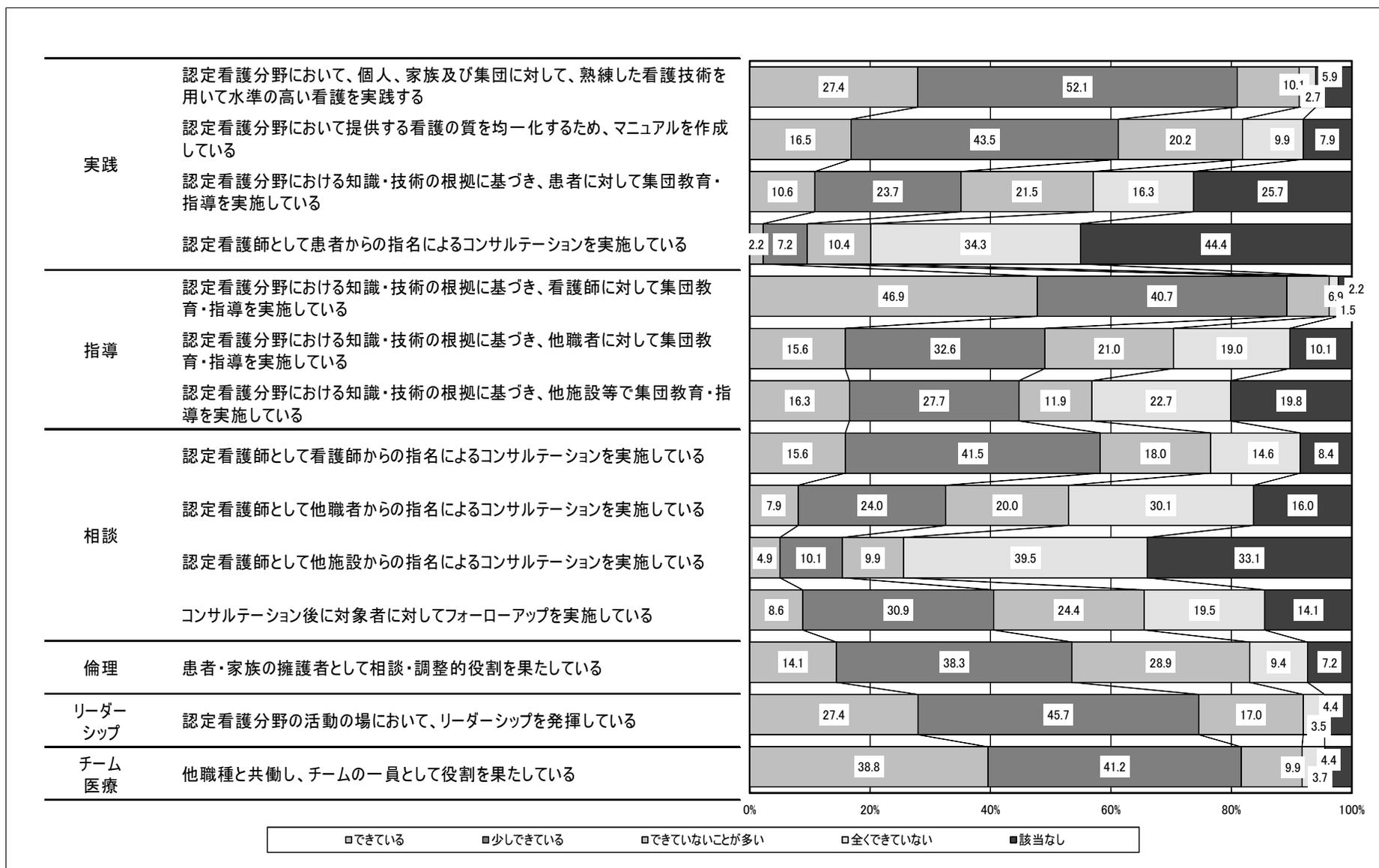


図 75 集中ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=398)

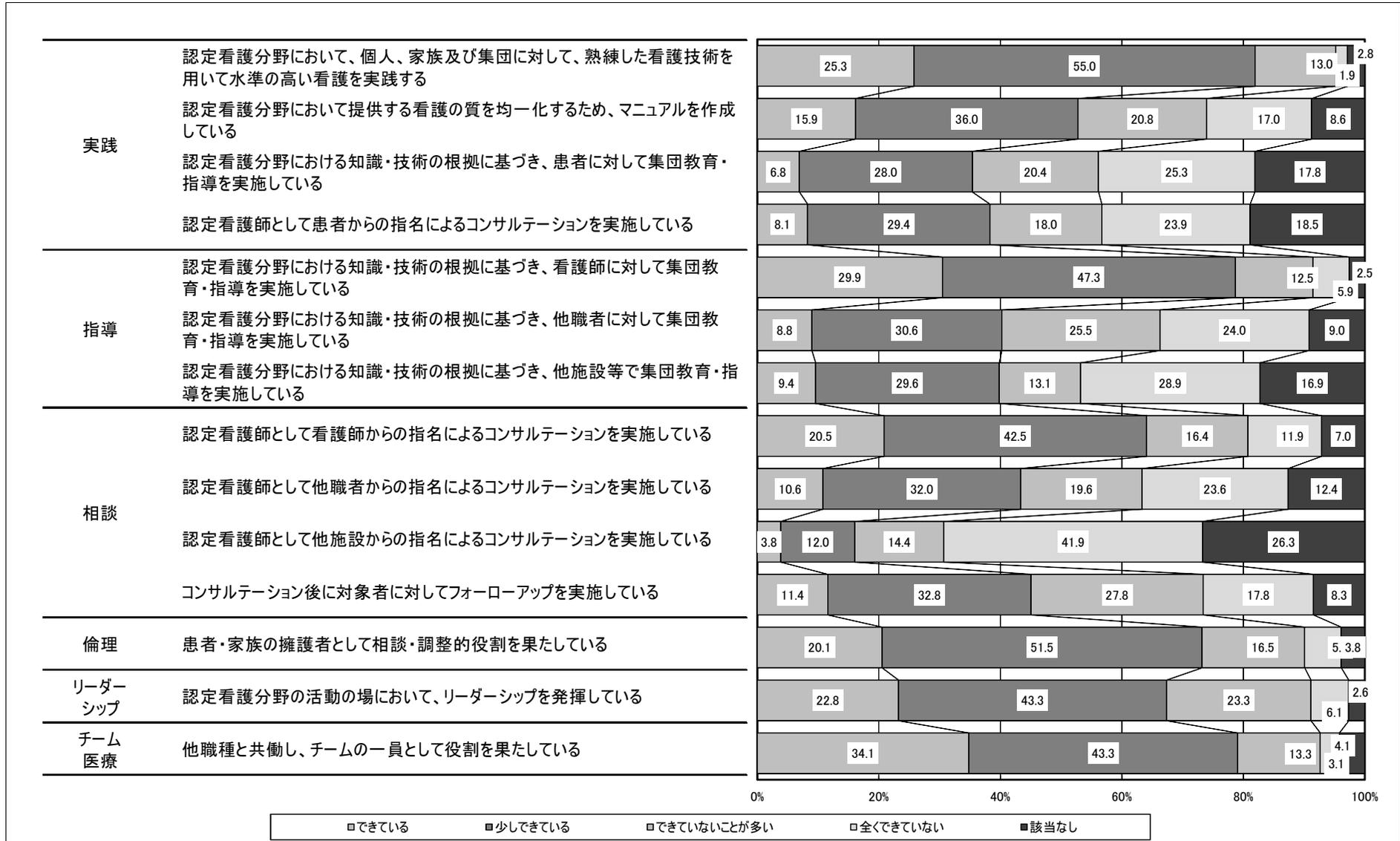


図 76 緩和ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=783)

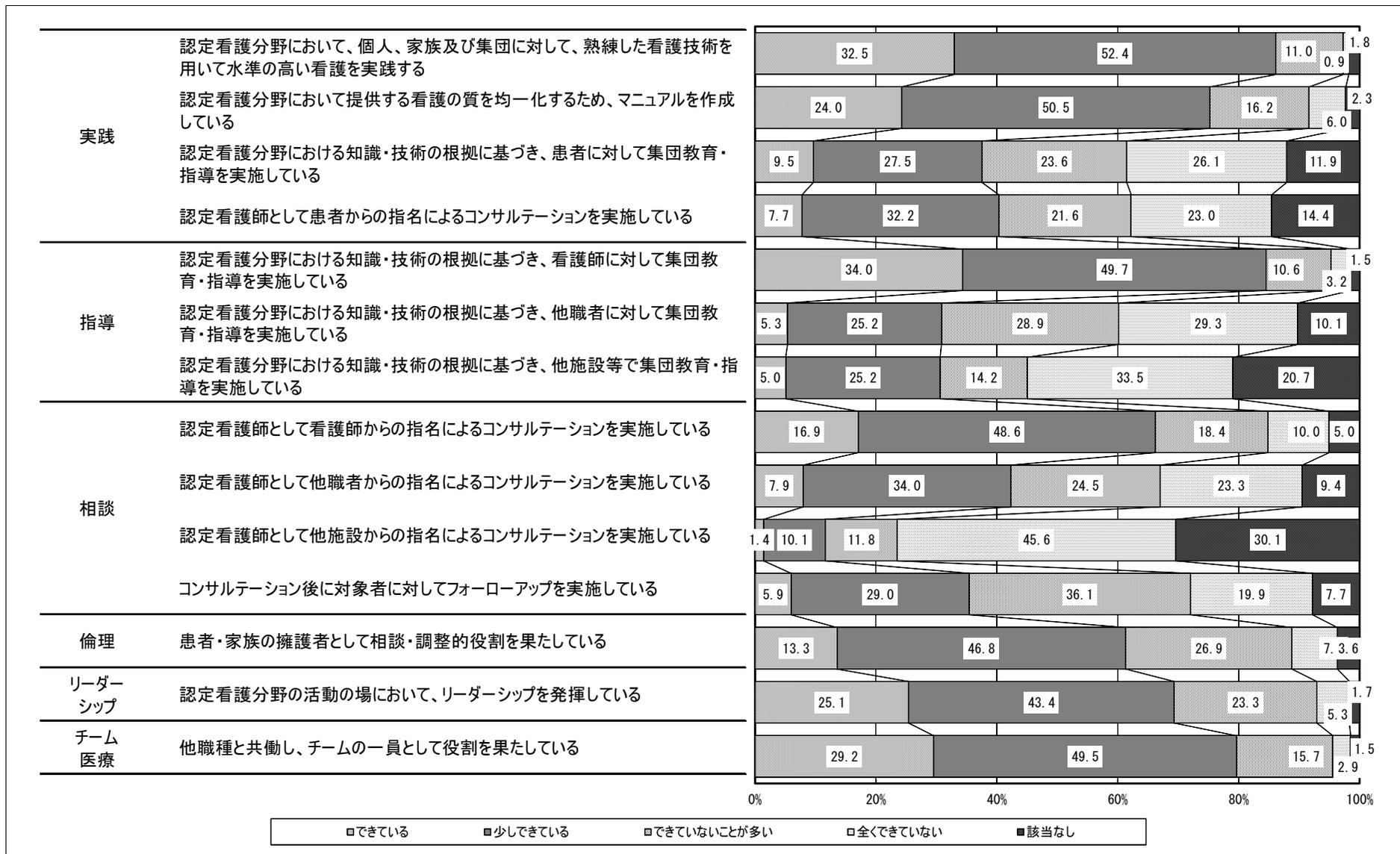


図 77 がん化学療法看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=653)

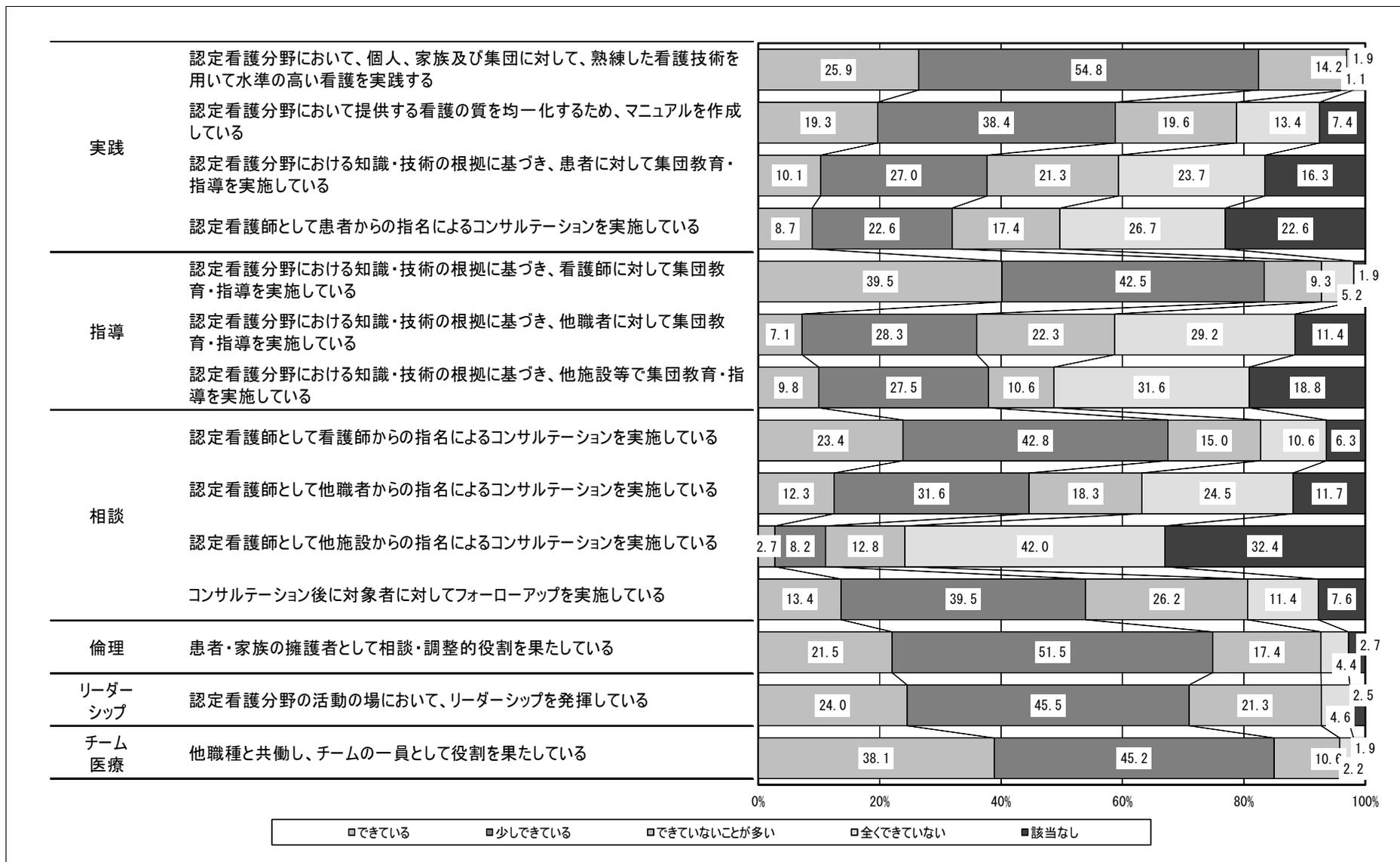


図 78 がん性疼痛看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=359)

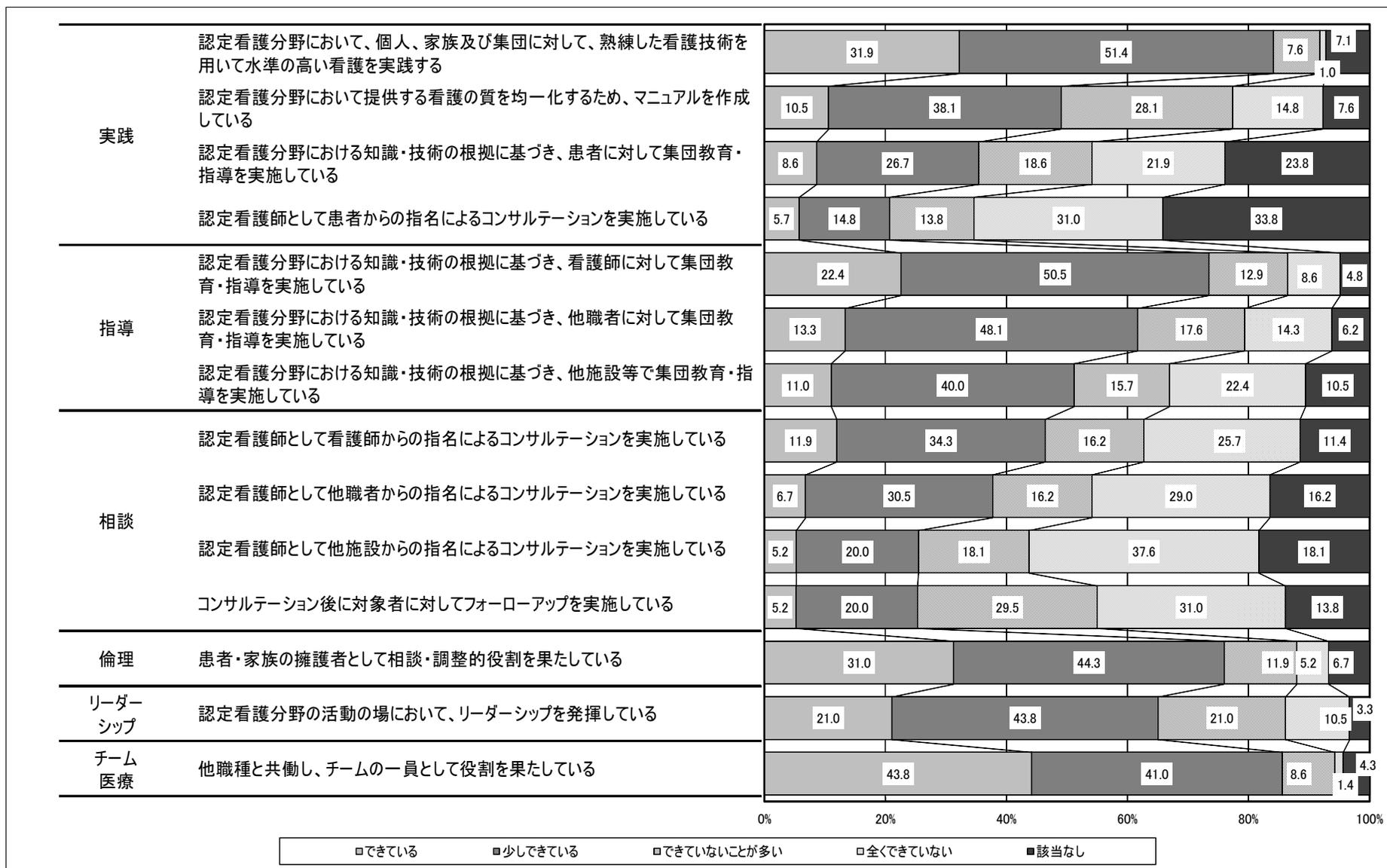


図 79 訪問看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=208)

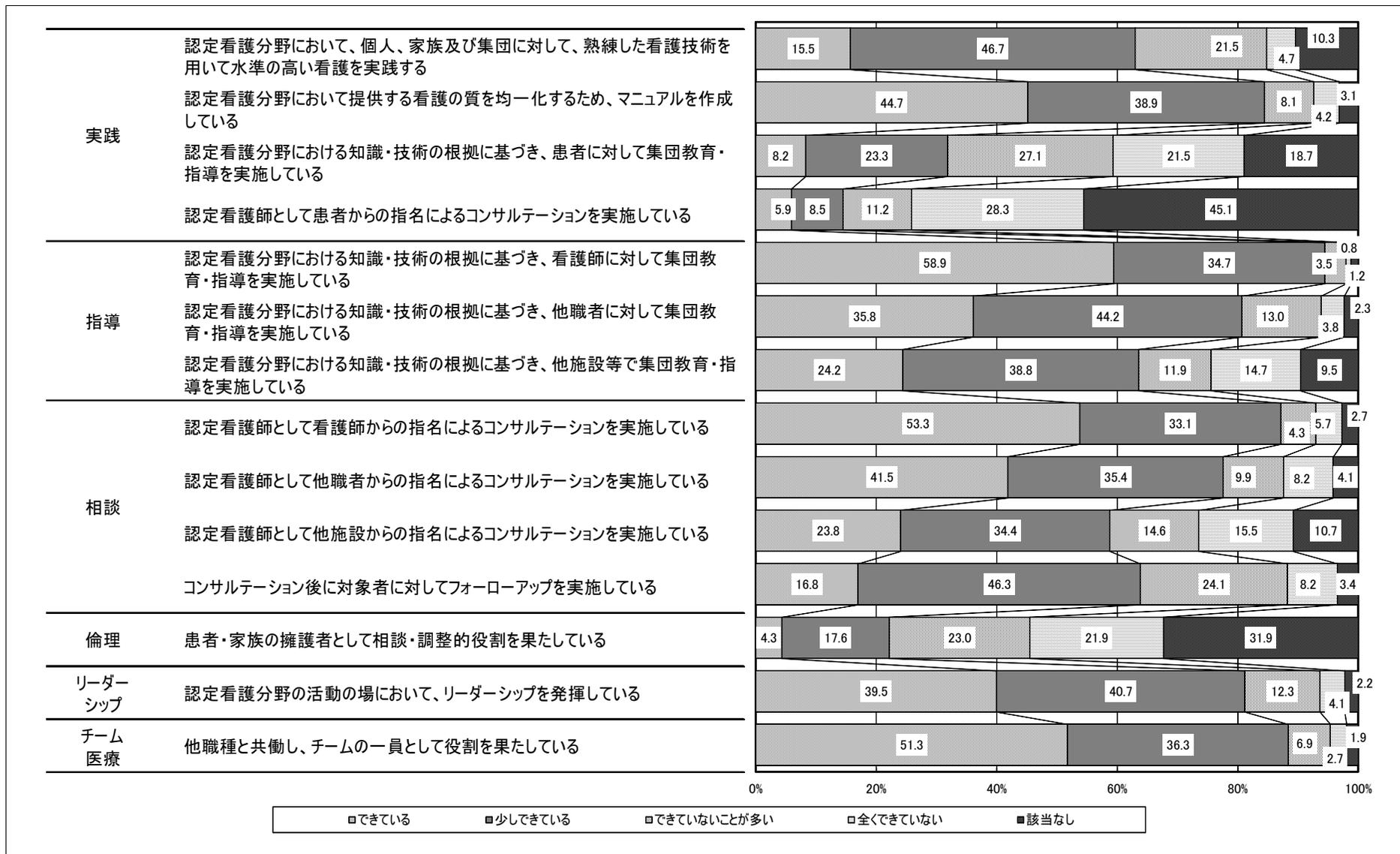


図 80 感染管理分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=1,000)

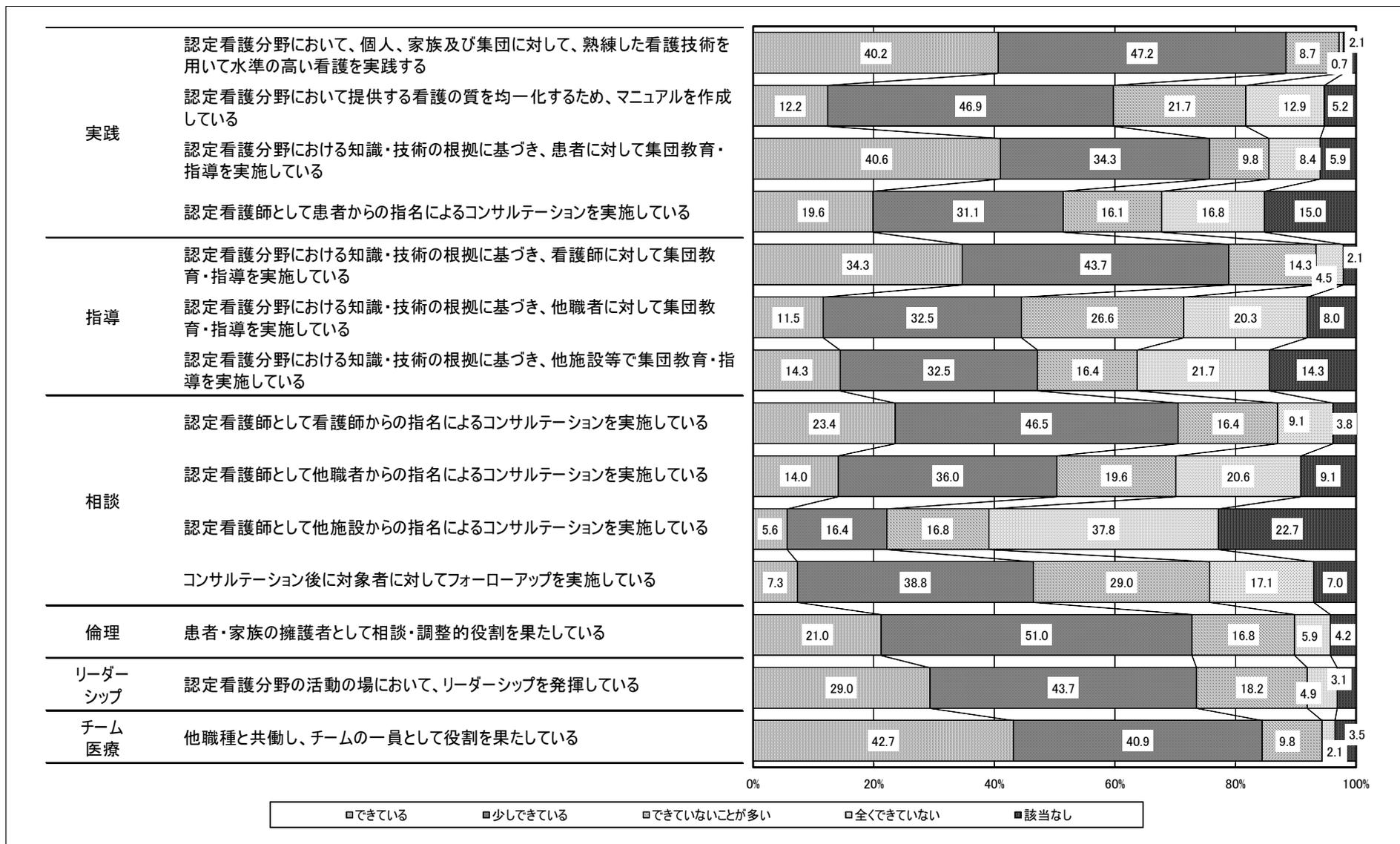


図 81 糖尿病看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=283)

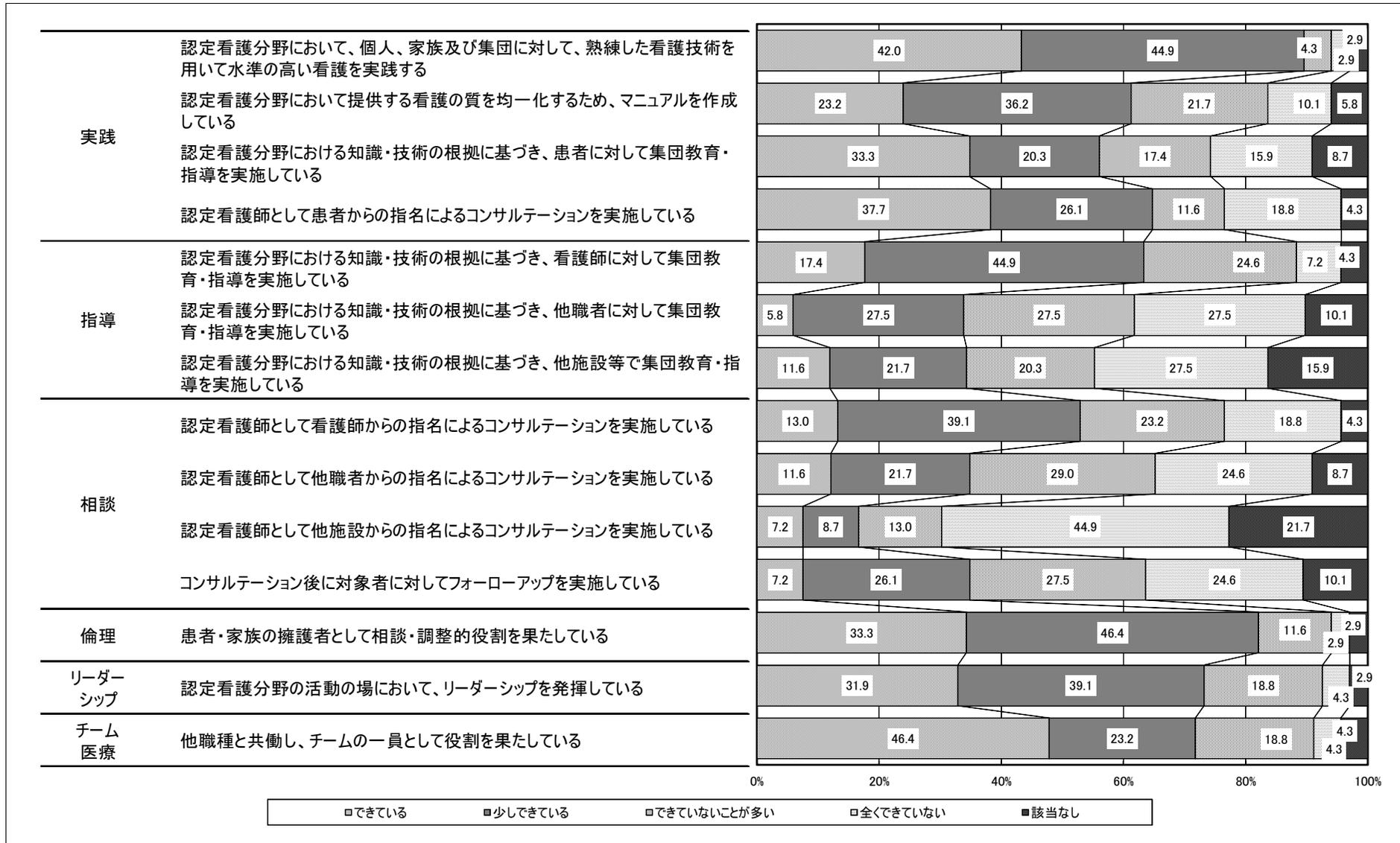


図 82 不妊症看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=67)

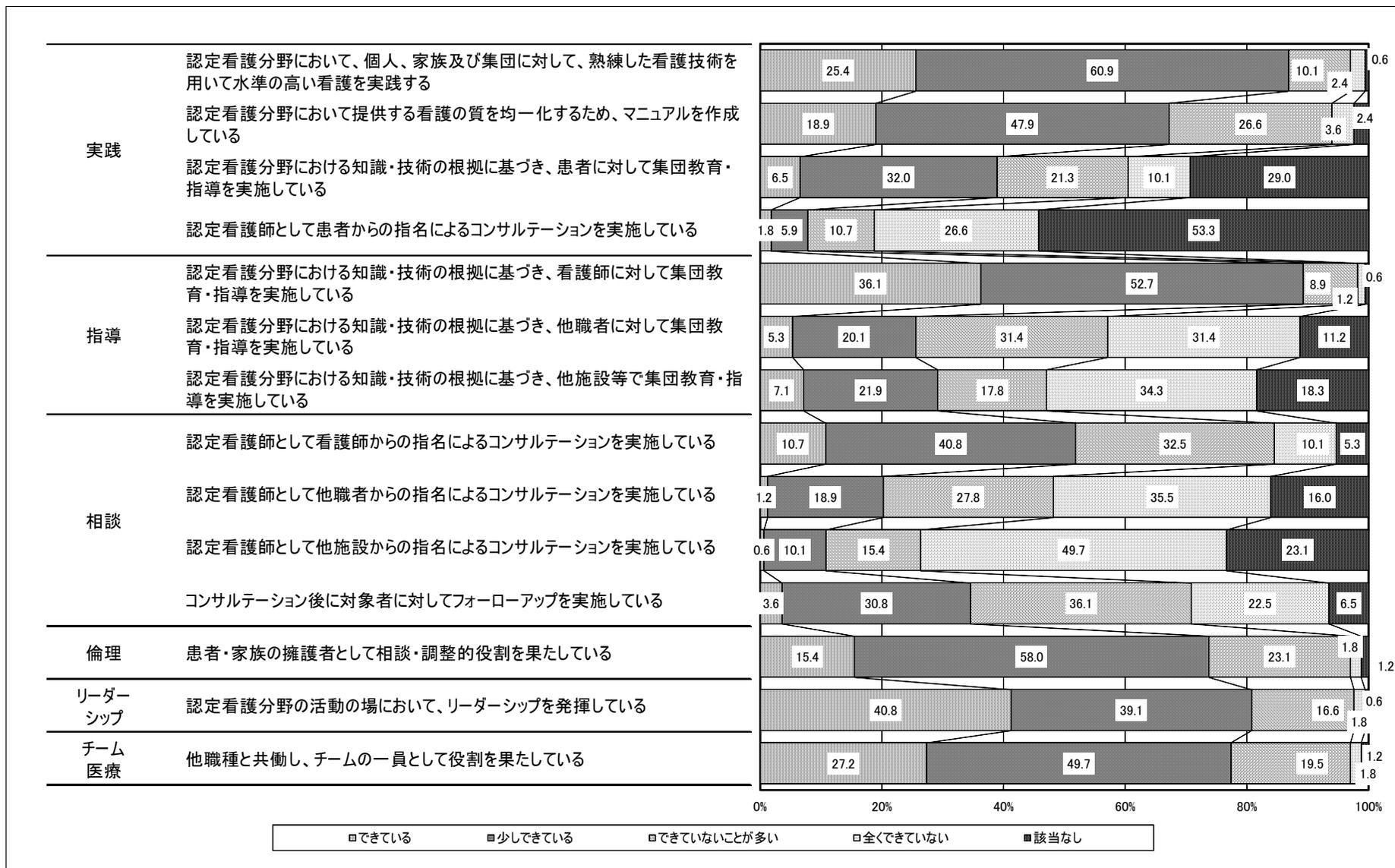


図 83 新生児集中ケア分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=168)

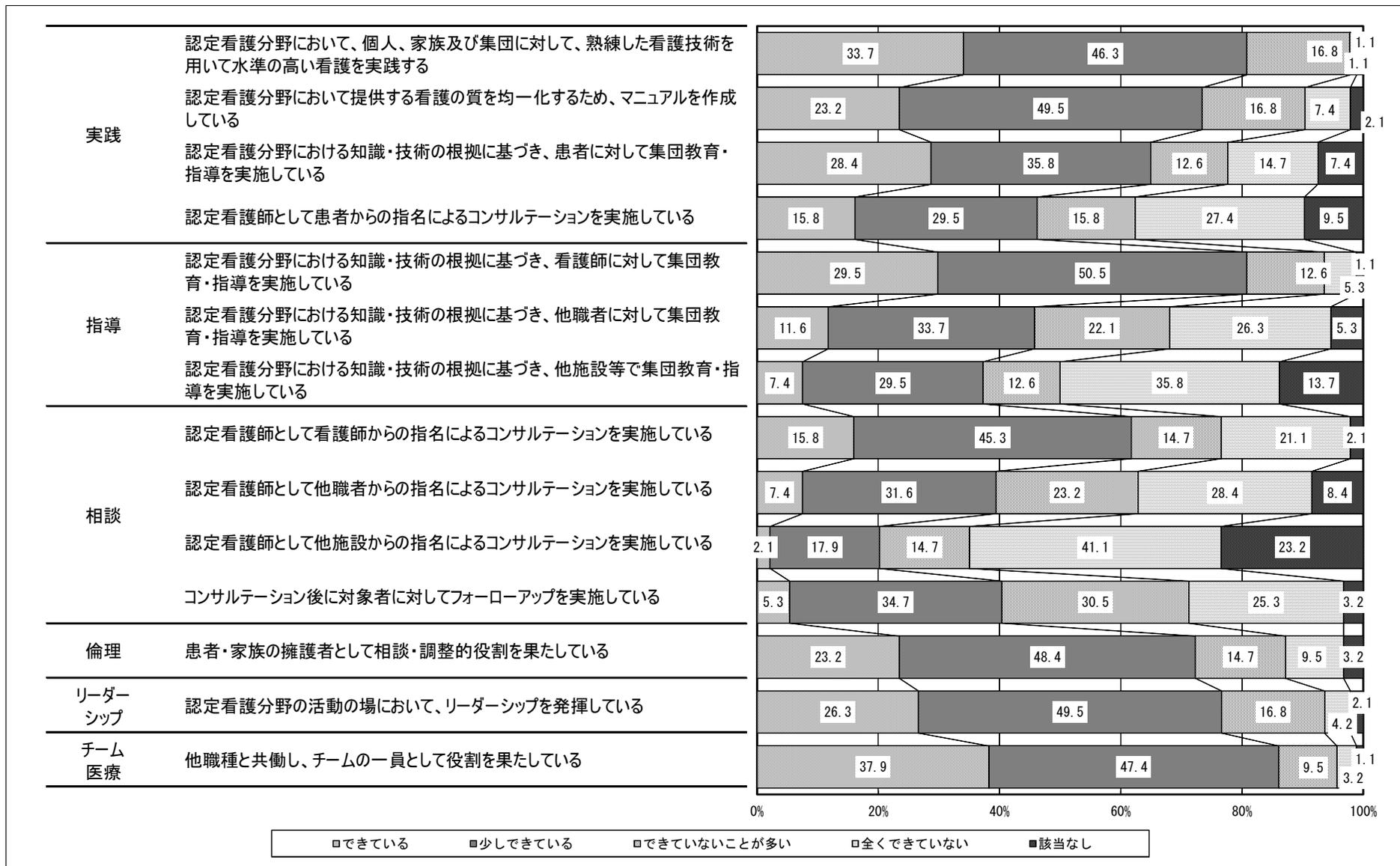


図 84 透析看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=94)

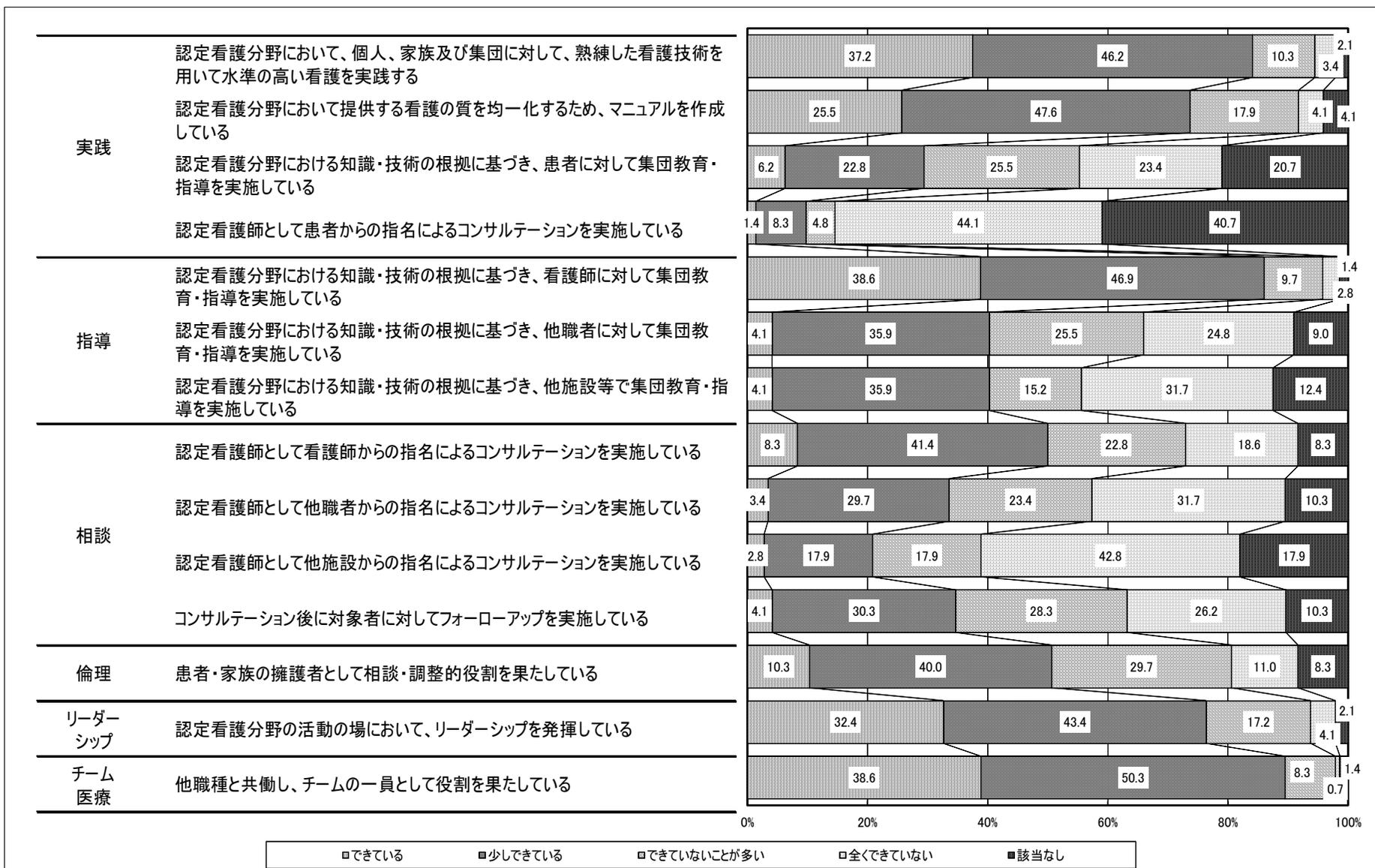


図 85 手術看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=144)

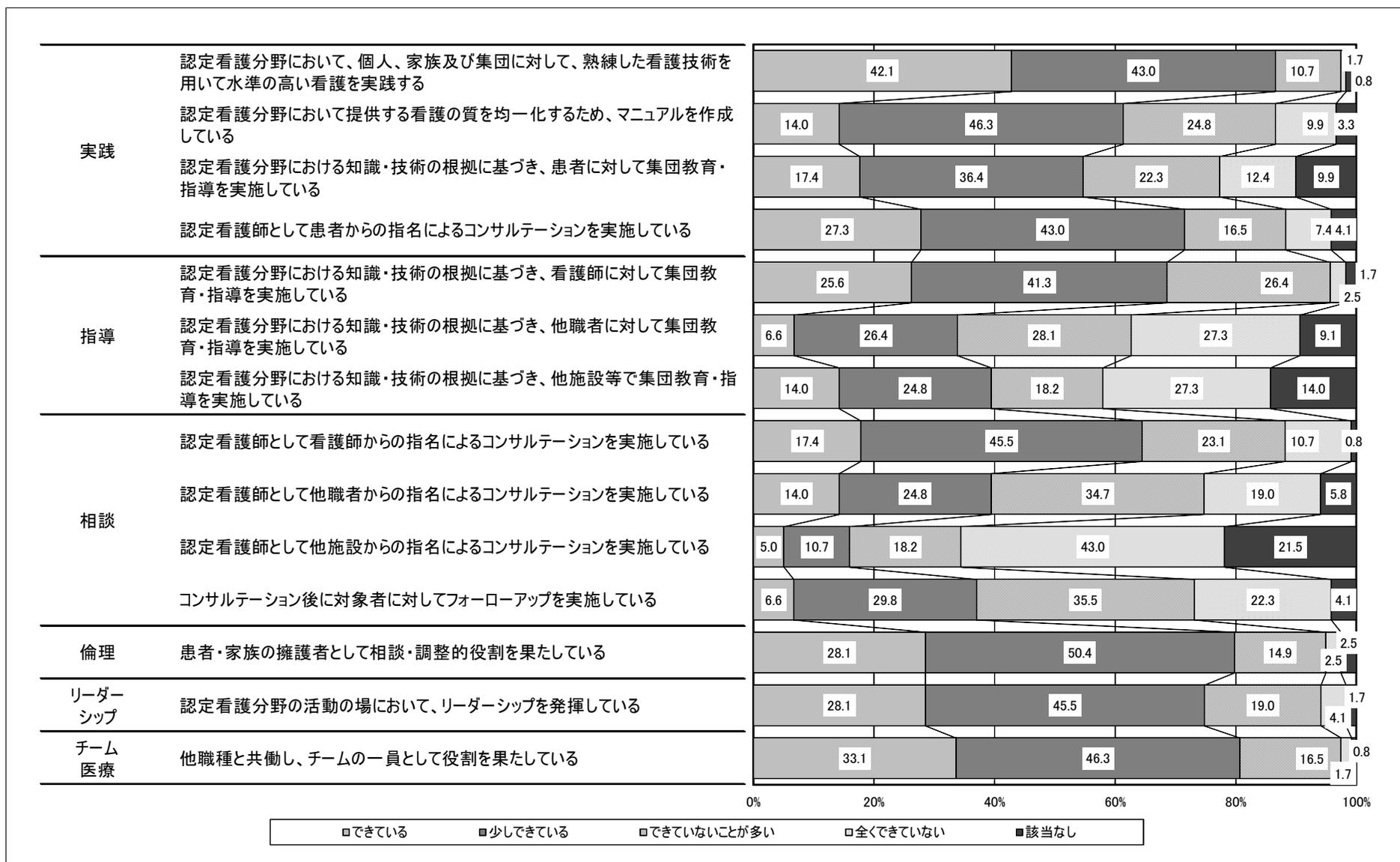


図 86 乳がん看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=119)

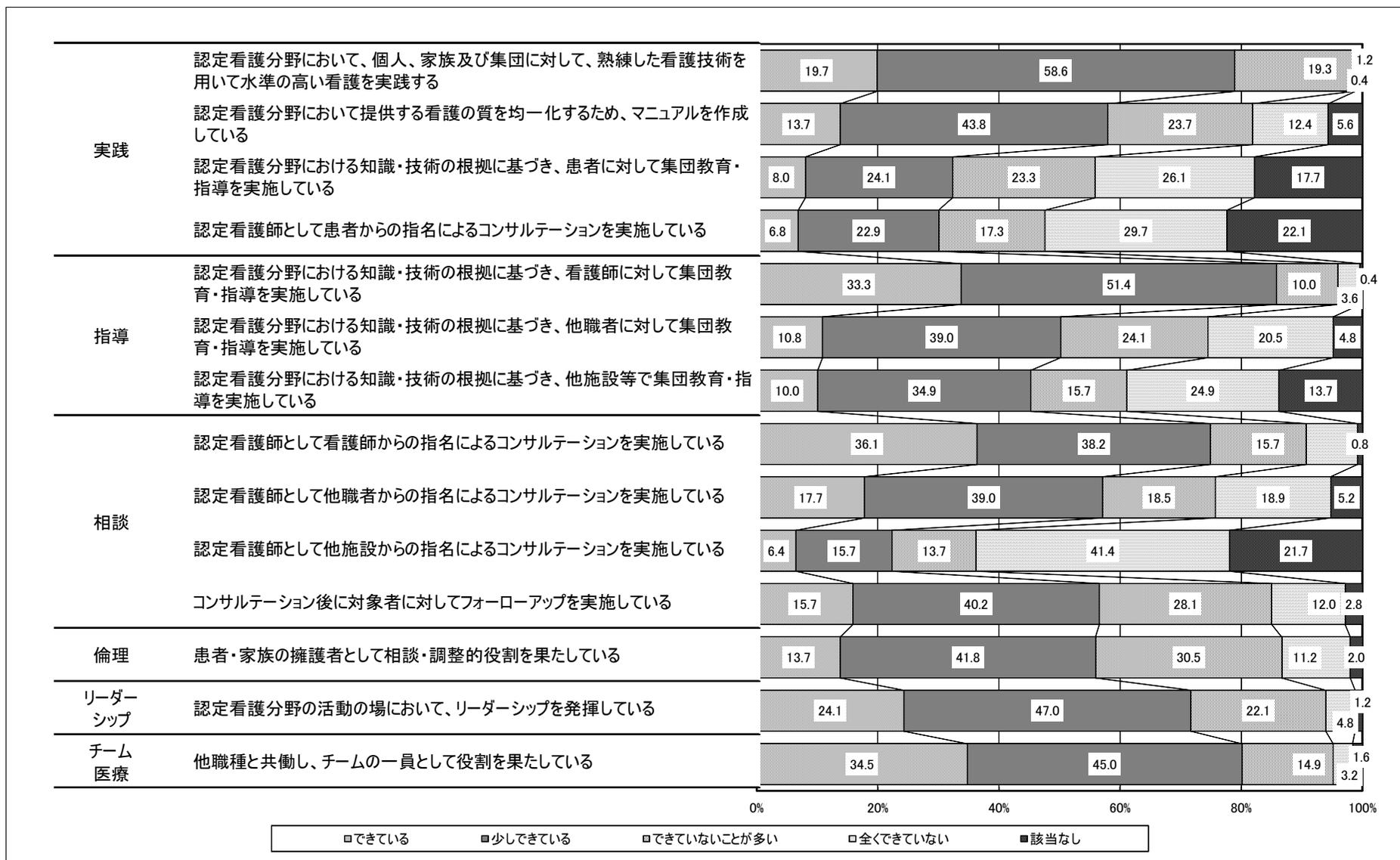


図 87 摂食・嚥下障害看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=247)

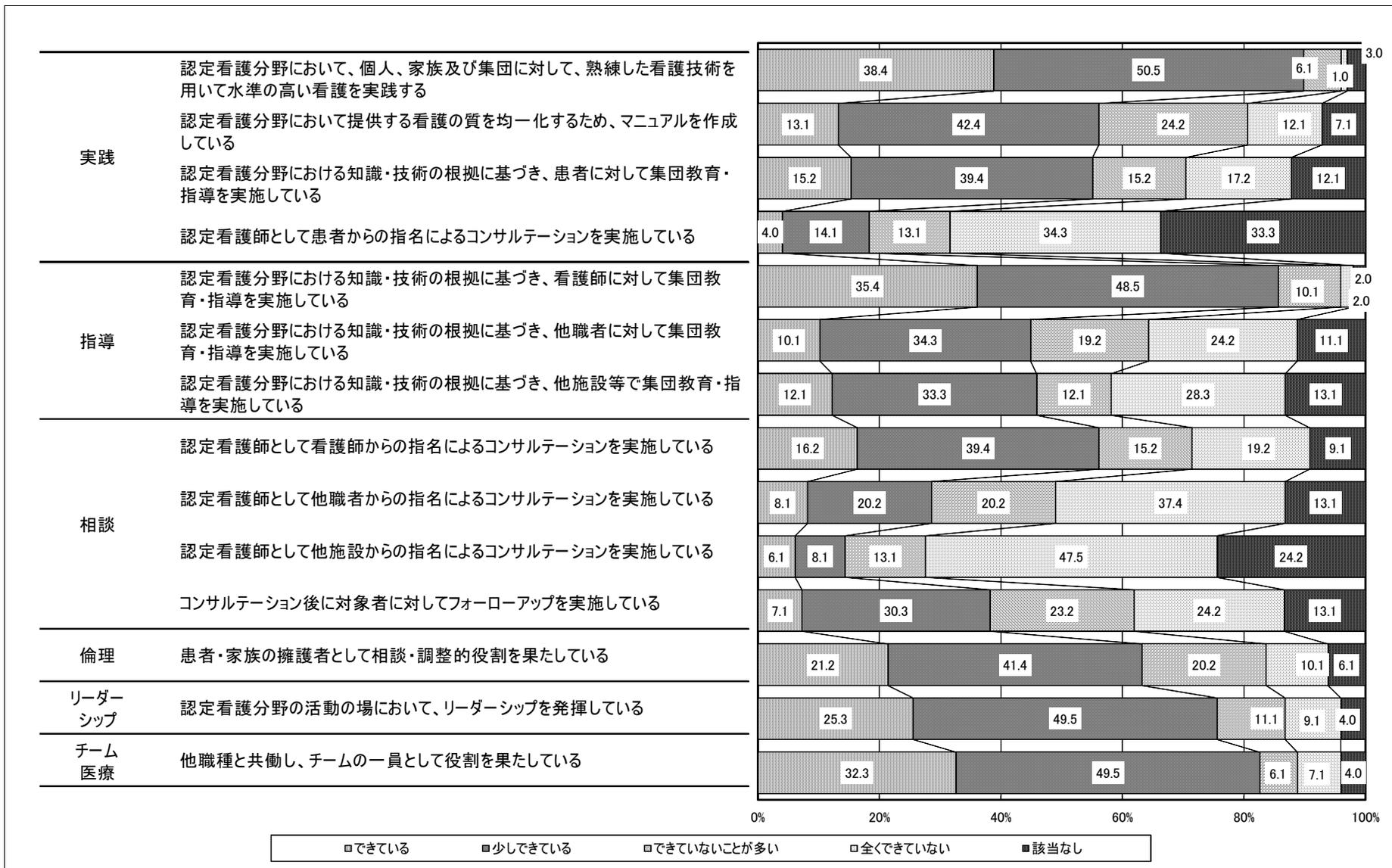


図 88 小児救急看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=98)

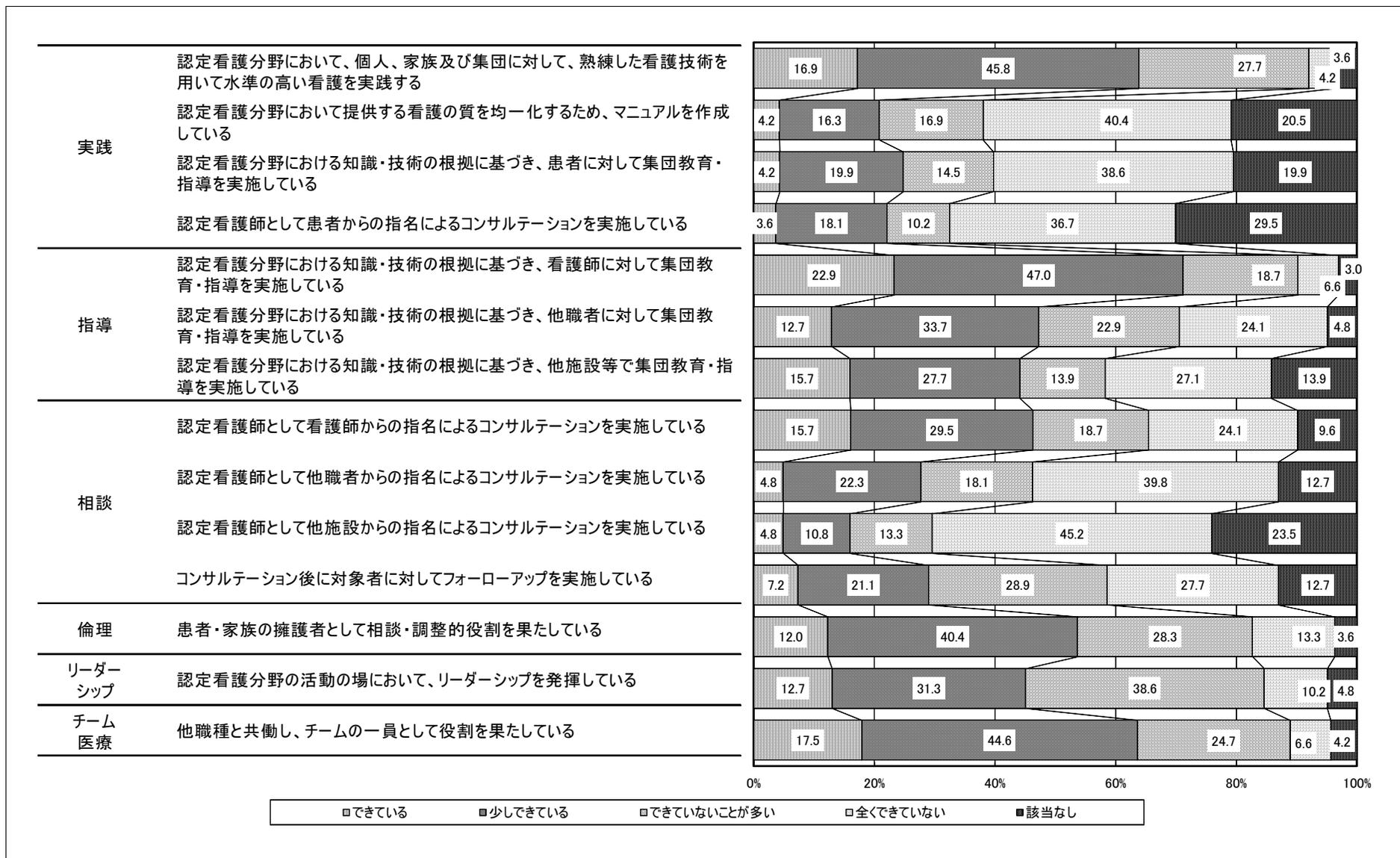


図 89 認知症看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=163)

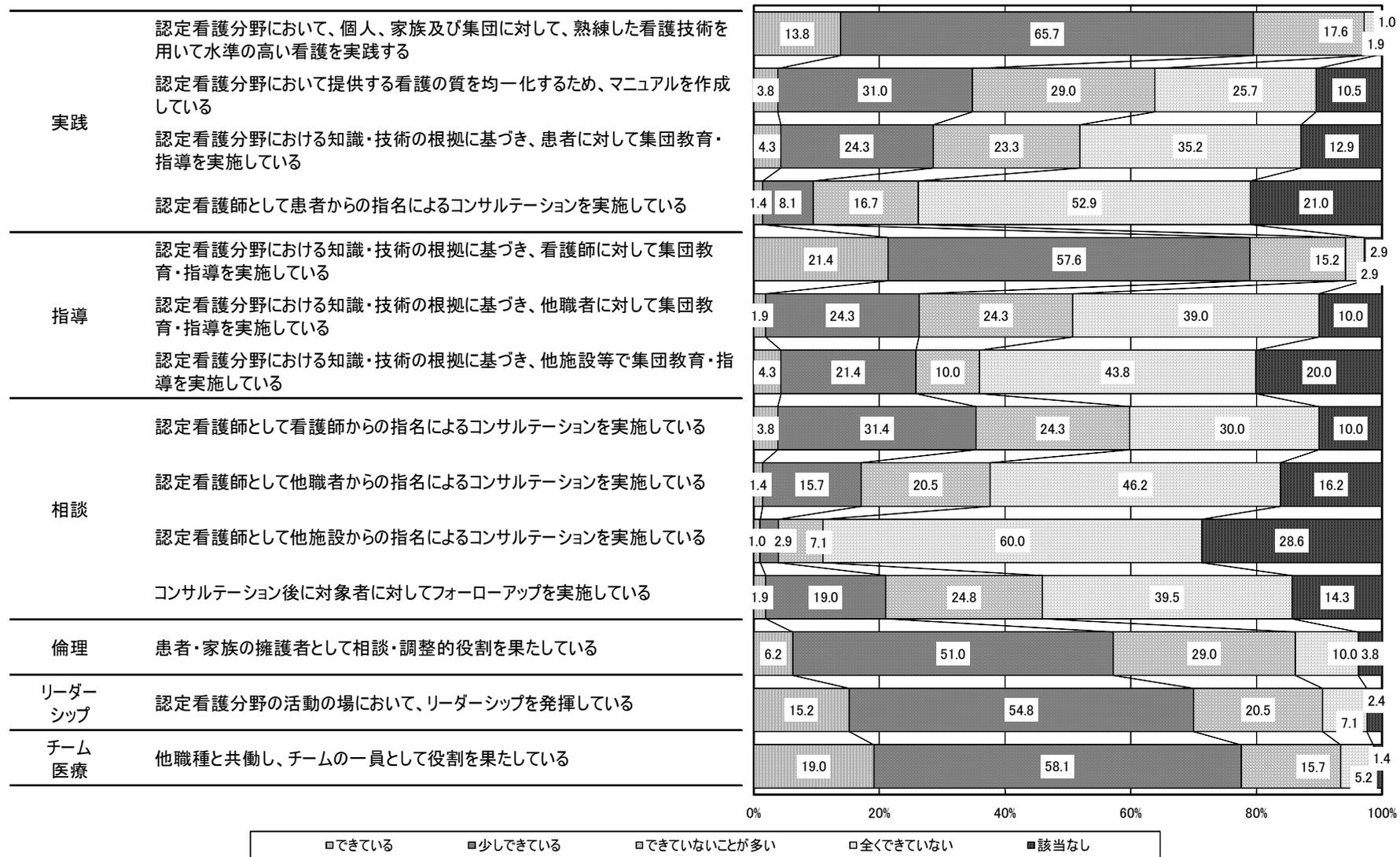


図 90 脳卒中リハビリテーション看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=210)

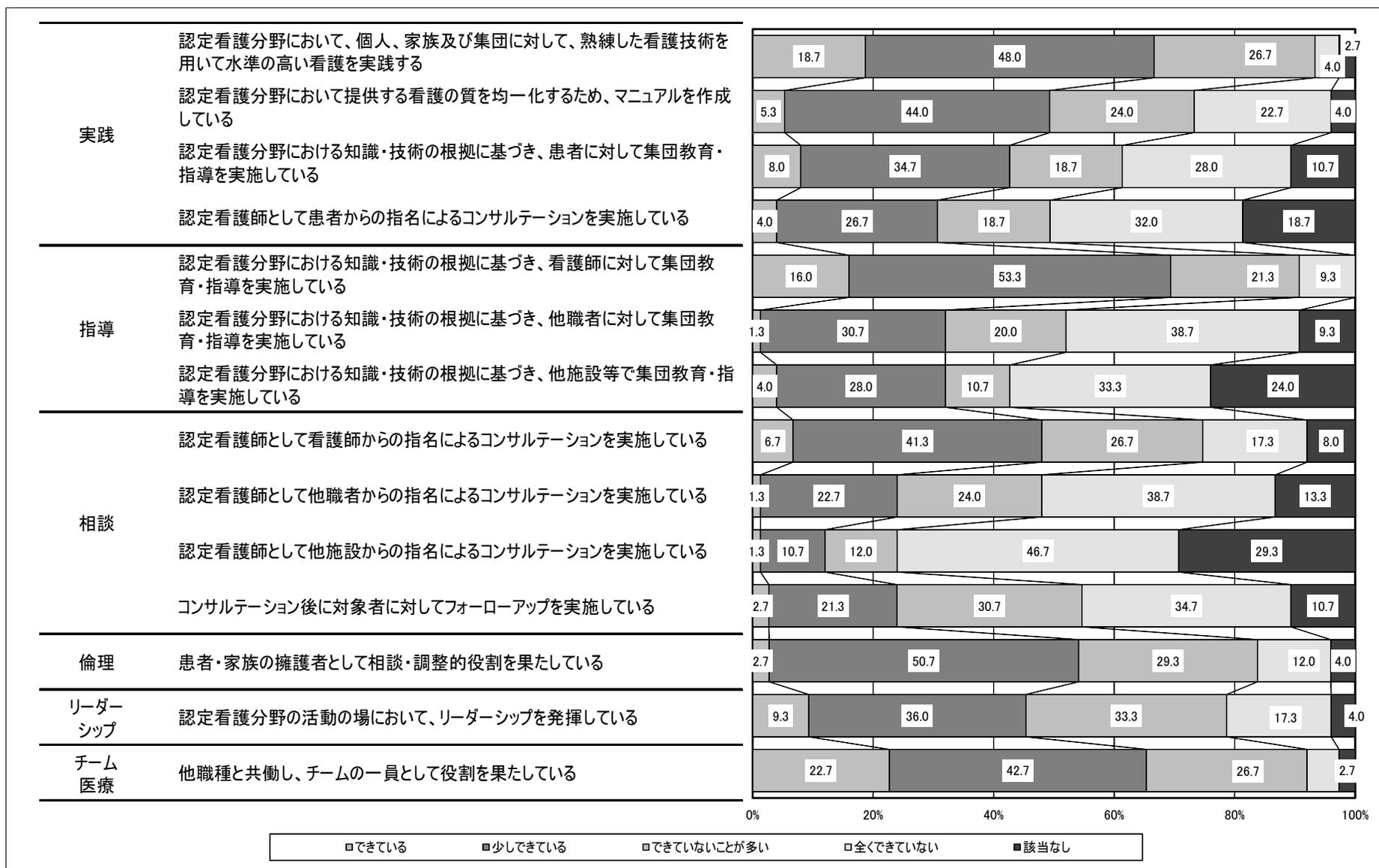


図 91 がん放射線療法看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=75)

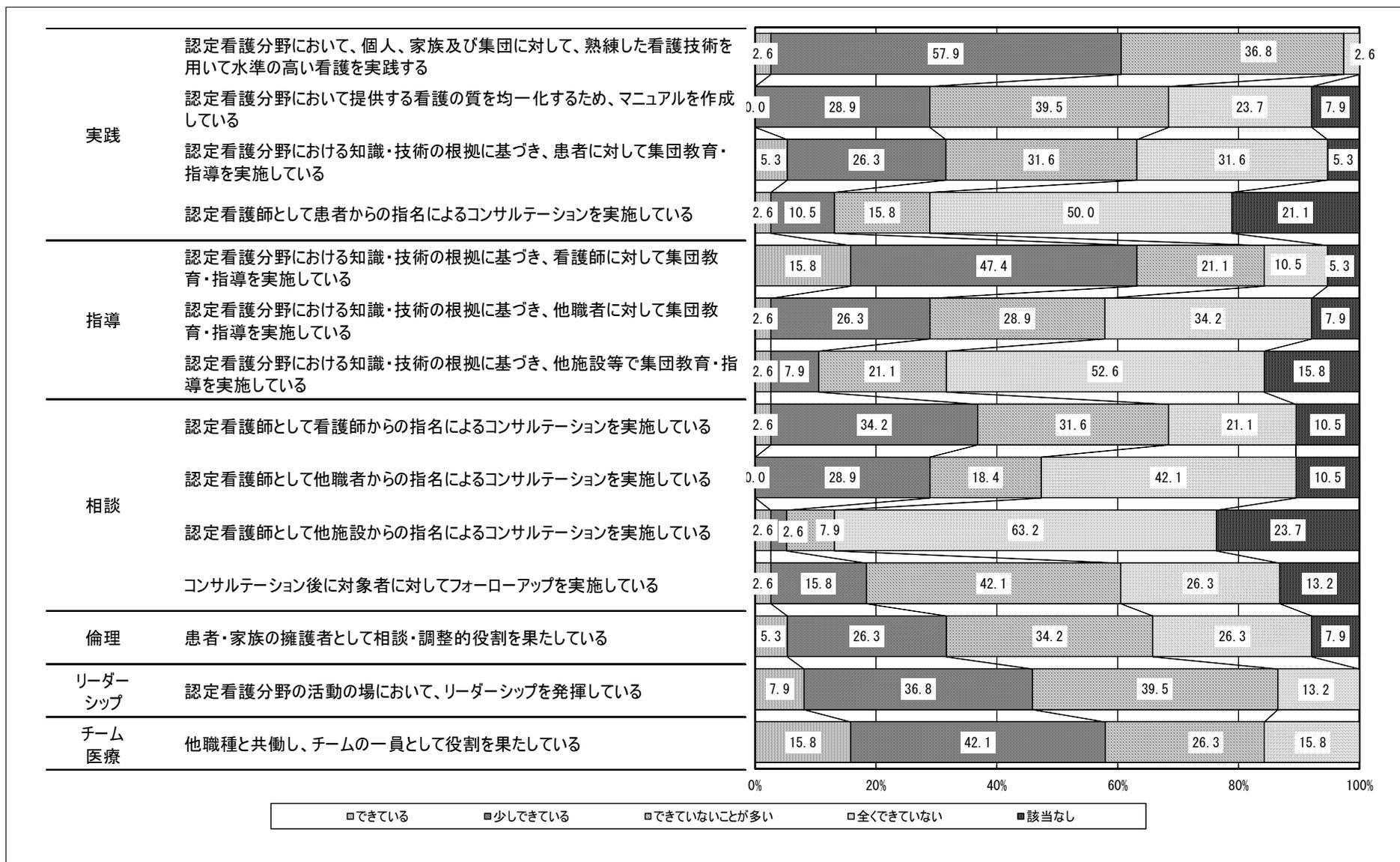


図 92 慢性呼吸器疾患看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=38)

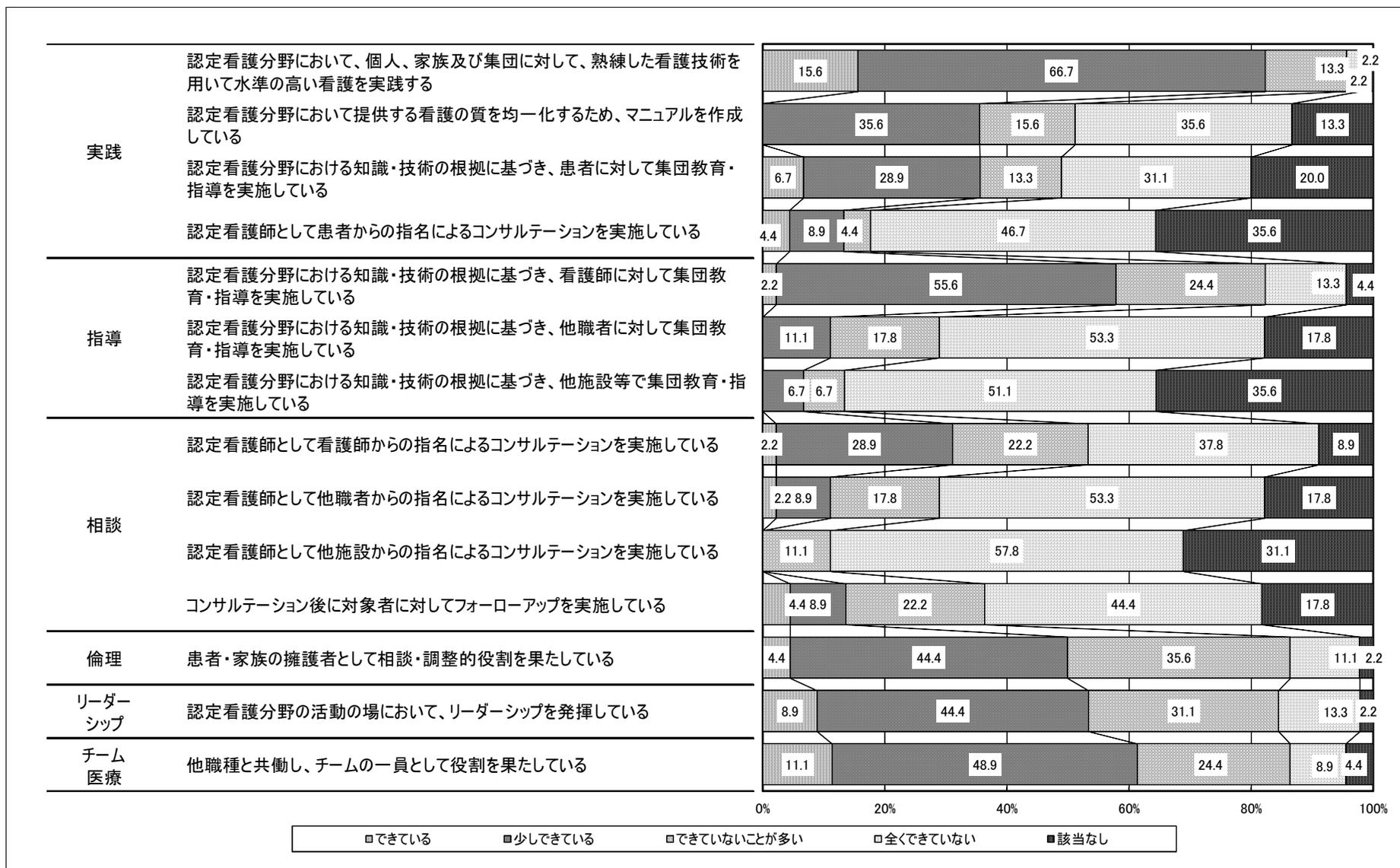


図 93 慢性心不全看護分野、現在実施している認定看護分野に関連する活動の状況 (n=45)

4 自身の活動による診療報酬の届出有無

自身の活動による診療報酬の届出有無について、「あり（はい）」が 3,491 名（51.2%）、「なし（いいえ）」が 3,219 名（47.3%）だった。

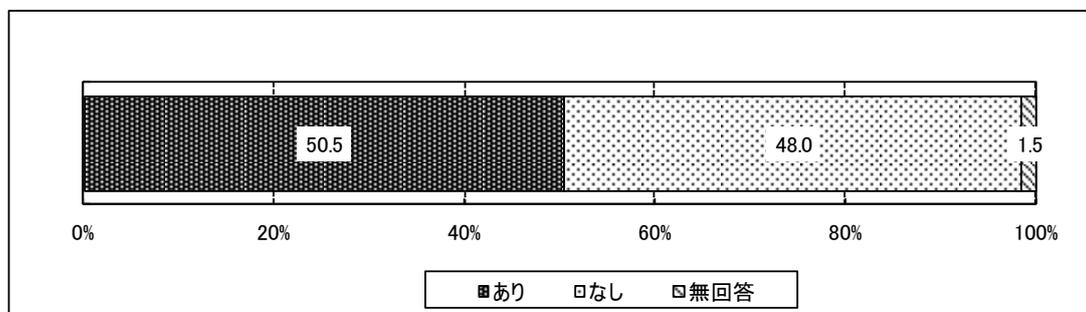
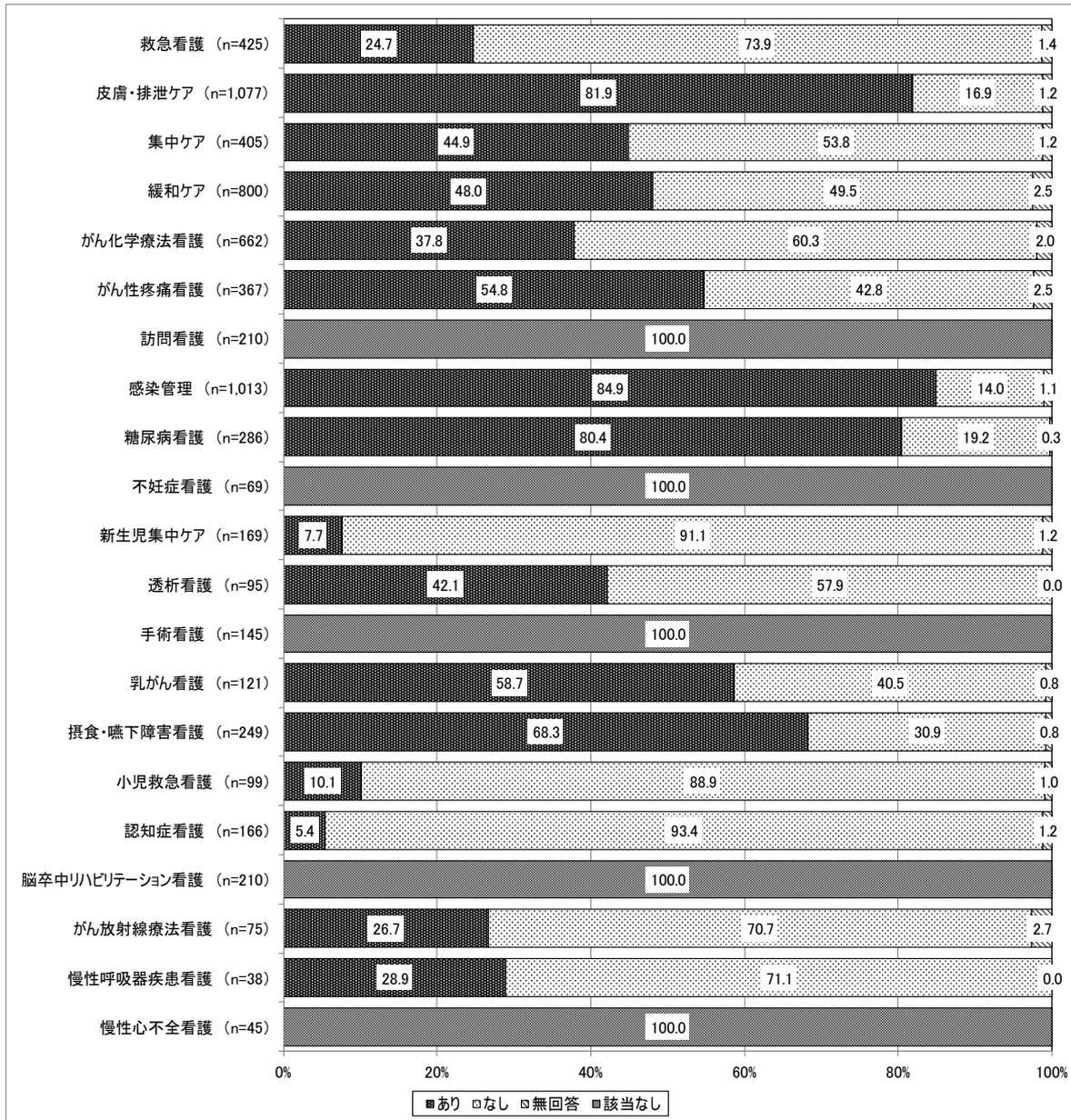


図 94 自身の活動による診療報酬の届出有無 (n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に自身の活動による診療報酬の届出有無をみると、「皮膚・排泄ケア」や「糖尿病看護」、「感染管理」分野では「あり（はい）」と回答した者が8割を超えた。一方で、「新生児集中ケア」や「認知症看護」分野では「あり（はい）」と回答した者が1割未満だった。



※訪問看護、不妊症看護、手術看護、脳卒中リハビリテーション看護、慢性心不全看護は選択肢内に自身の活動により届出を行える項目が無いため、回答を「該当なし」に修正した

図 95 認定看護分野別、自身の活動による診療報酬の届出有無 (n=6,812)

4-1 届出を行っている診療報酬について

届出を行っている診療報酬について、「がん患者カウンセリング料」が985名(28.2%)と最も多く、次いで「感染防止対策加算」が878名(25.2%)、「人工肛門・人工膀胱造設前処置加算」が666名(19.1%)の順だった。

このうち、自身の活動により届出を行える項目の対象分野(者)に占める届出の割合が最も高いのは「感染防止対策加算」が84.9%、次いで「摂食機能療法」が61.8%だった。

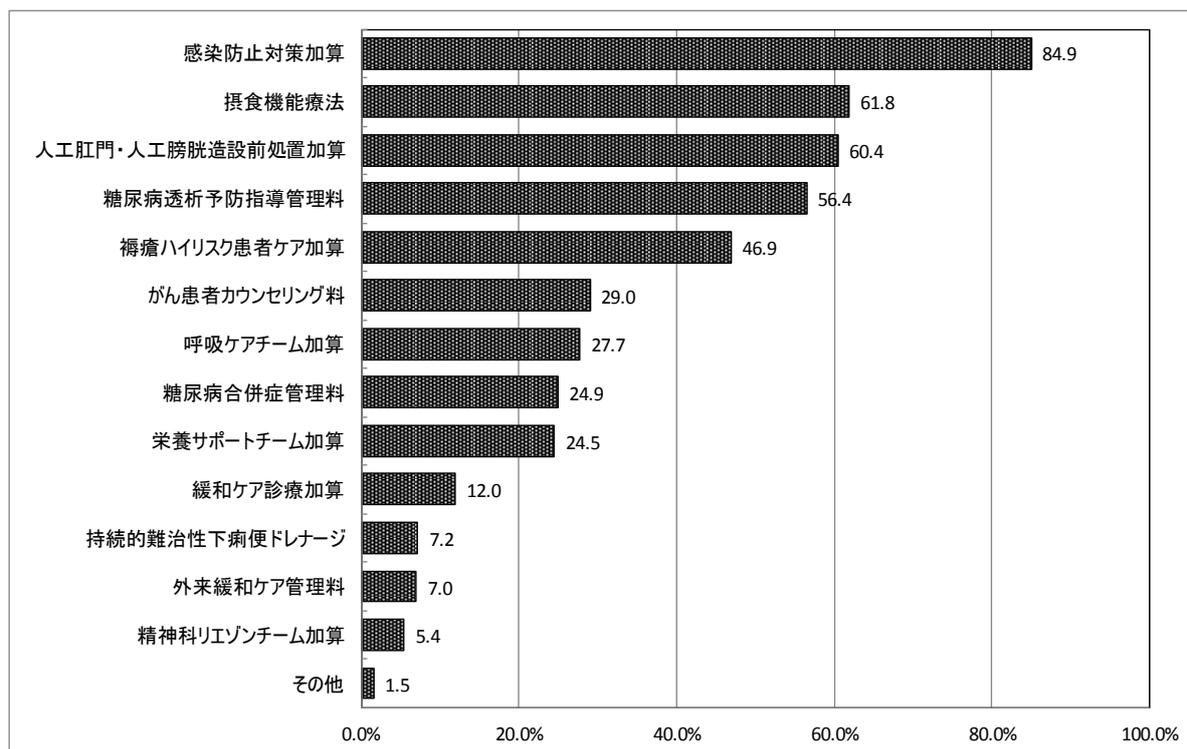


図 96 診療報酬項目該当者に占める届出を行っている診療報酬の割合

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に届け出を行っている診療報酬をみると、項目及び分野により届出状況に差があった。

表 25 認定看護分野別、届け出を行っている診療報酬(n=3,438・複数回答)

	合計	緩和ケア診療 加算	外来緩和ケア 管理料	がん患者カウン セリング料	褥瘡ハイリスク 患者ケア加算	糖尿病合併症 管理料	糖尿病透析予 防指導管理料	栄養サポート チーム加算	呼吸ケアチーム 加算	感染防止対策 加算	精神科リエゾン チーム加算	人工肛門・人 工膀胱造設前 処置加算	持続的難治性 下痢便ドレーナ ー	摂食機能療法	その他
全 体	3,438	242	141	971	505	340	215	61	315	860	9	651	137	154	29
	100.0%	7.0%	4.1%	28.2%	14.7%	9.9%	6.3%	1.8%	9.2%	25.0%	0.3%	18.9%	4.0%	4.5%	0.8%
救急看護	105								103				5		
	100.0%								98.1%				4.8%		
皮膚・排泄ケア	882			167	505	119						651	121		13
	100.0%			18.9%	57.3%	13.5%						73.8%	13.7%		1.5%
集中ケア	182								178				11		
	100.0%								97.8%				6.0%		
緩和ケア	384	135	75	295											16
	100.0%	35.2%	19.5%	76.8%											4.2%
がん化学療法看護	250	32	16	238											
	100.0%	12.8%	6.4%	95.2%											
がん性疼痛看護	201	65	40	169											
	100.0%	32.3%	19.9%	84.1%											
訪問看護															
感染管理	860									860					
	100.0%									100.0%					
糖尿病看護	230					221	175								
	100.0%					96.1%	76.1%								
不妊症看護															
新生児集中ケア	13								13						
	100.0%								100.0%						
透析看護	40						40								
	100.0%						100.0%								
手術看護															
乳がん看護	71	7	8	70											
	100.0%	9.9%	11.3%	98.6%											
摂食・嚥下障害看護	170			13				61						154	
	100.0%			7.6%				35.9%						90.6%	
小児救急看護	10								10						
	100.0%								100.0%						
認知症看護	9											9			
	100.0%											100.0%			
脳卒中リハビリテーション看護															
がん放射線療法看護	20	3	2	19											
	100.0%	15.0%	10.0%	95.0%											
慢性呼吸器疾患看護	11								11						
	100.0%								100.0%						
慢性心不全看護															

※グレー網掛け箇所は自身の活動による診療報酬届出が行えない分野

4-2 診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響

診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響について、「活動の範囲が広がった」が1,613名(46.9%)と最も多く、次いで「活動の場が確保された」が1,355名(39.4%)、「活動時間が確保された」が1,115名(29.5%)の順だった。

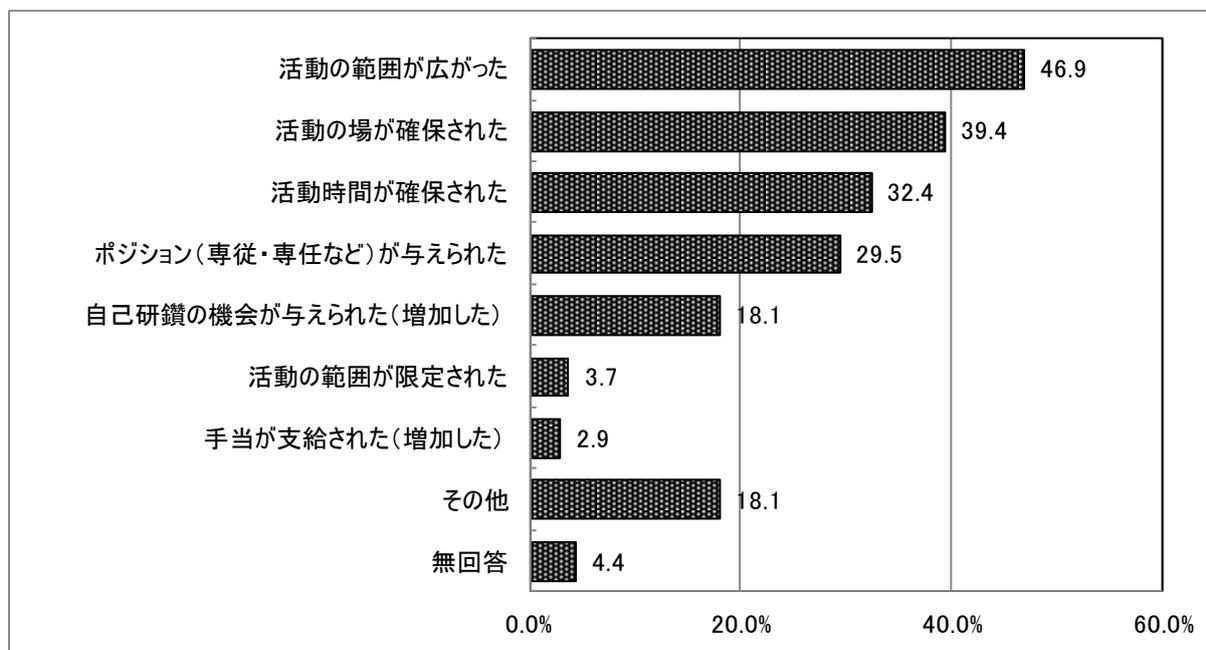


図 97 診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響 (n=3,438・複数回答)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に、診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響をみると、多くの分野で活動範囲や活動の場、活動時間の確保等の影響があり、「皮膚・排泄ケア」や「感染管理」分野ではポジション（専従・専任など）が与えられた割合が高かった。

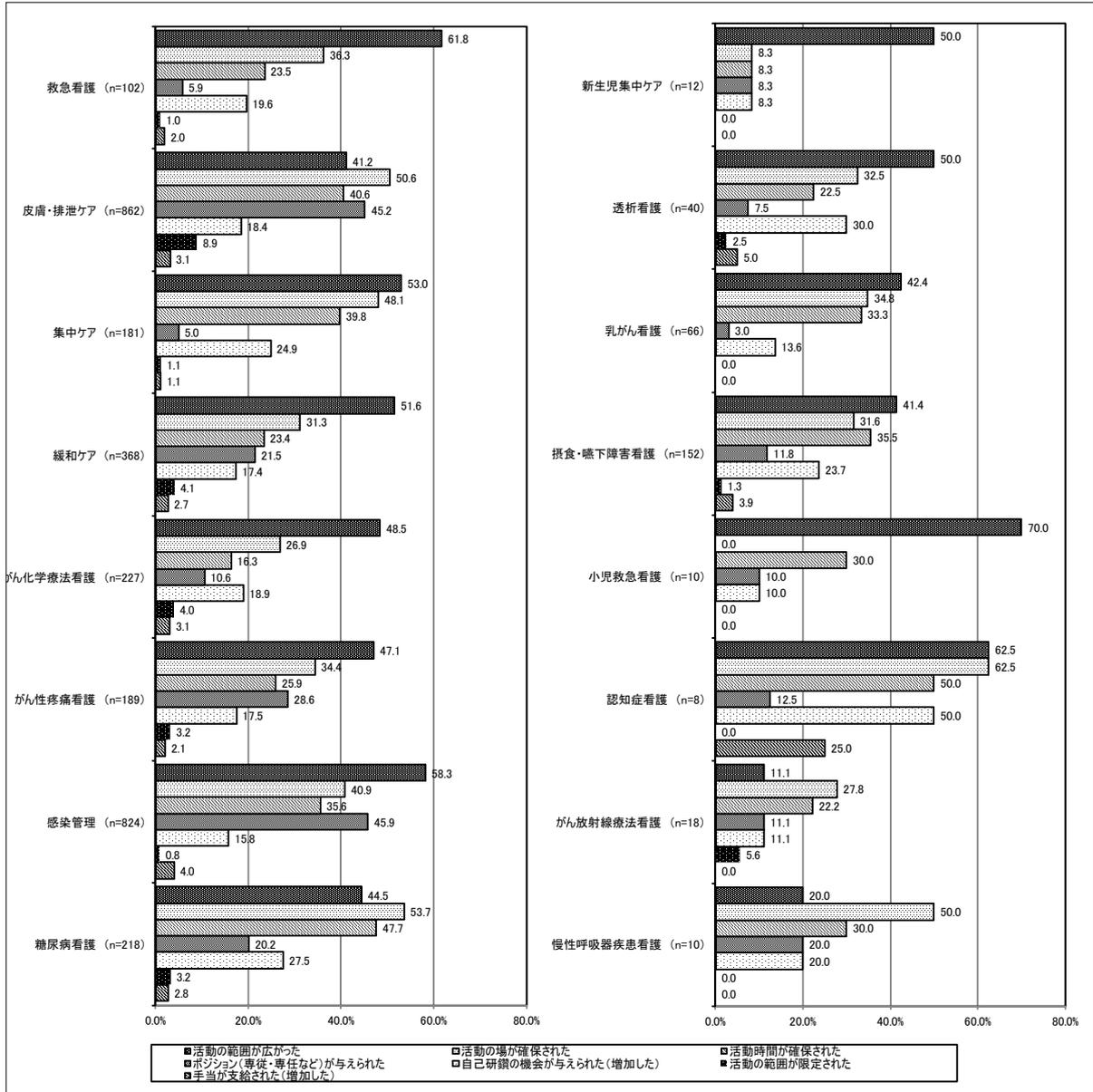


図 98 認定看護分野別、診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響 (n=3,438・複数回答)

5 認定看護師としての活動の推進力となっているもの

認定看護師としての活動の推進力となっているものは、「活動に対する同僚看護師の理解（評価）」が 4,086 名（60.0%）と最も多く、次いで「認定看護師とのネットワーク」が 4,017 名（59.0%）、「活動に対する上司の理解（評価）」が 3,434 名（50.4%）の順だった。

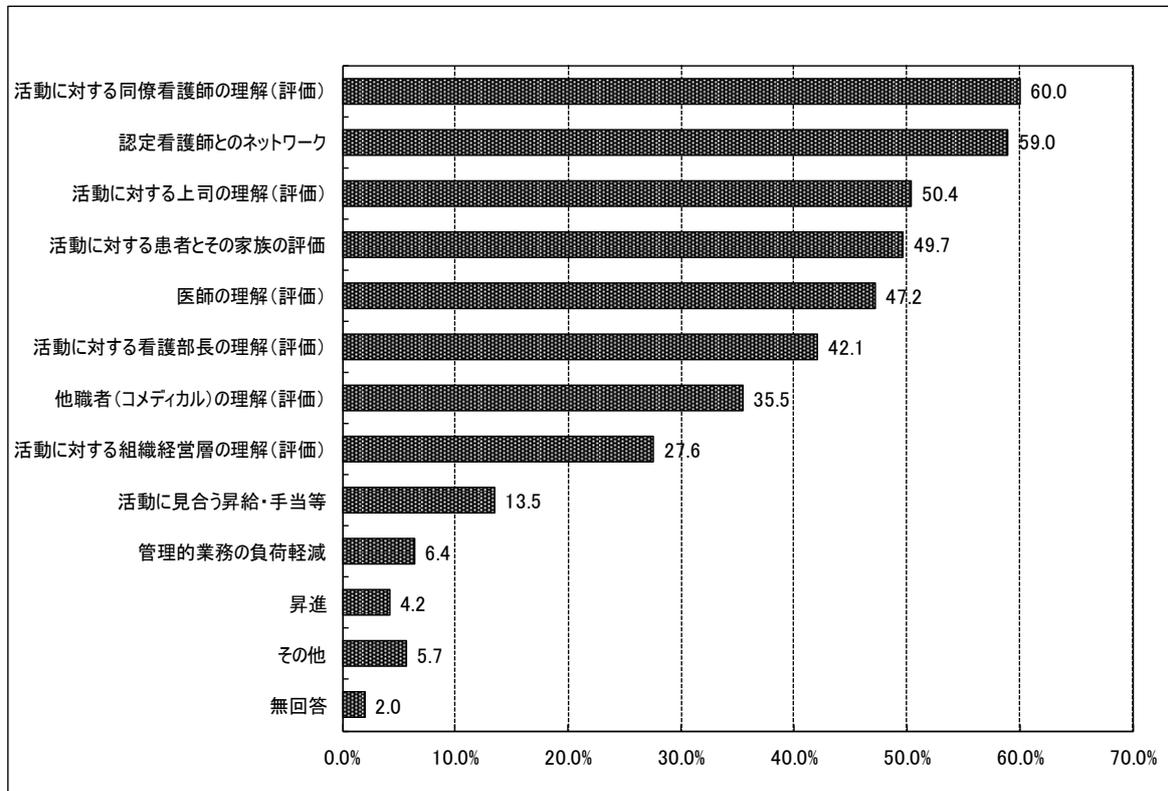


図 99 認定看護師としての活動の推進力 (n=6,812・複数回答)

6 認定看護師としての活動にあたり困難が生じた場合に相談する主な相手

認定看護師としての活動にあたり困難が生じた場合に相談する主な相手は、「同分野の認定看護師」が3,016名(44.3%)と最も多く、次いで「同僚の認定看護師」が2,669名(39.2%)、「所属部署の上司」が2,438名(35.8%)の順だった。

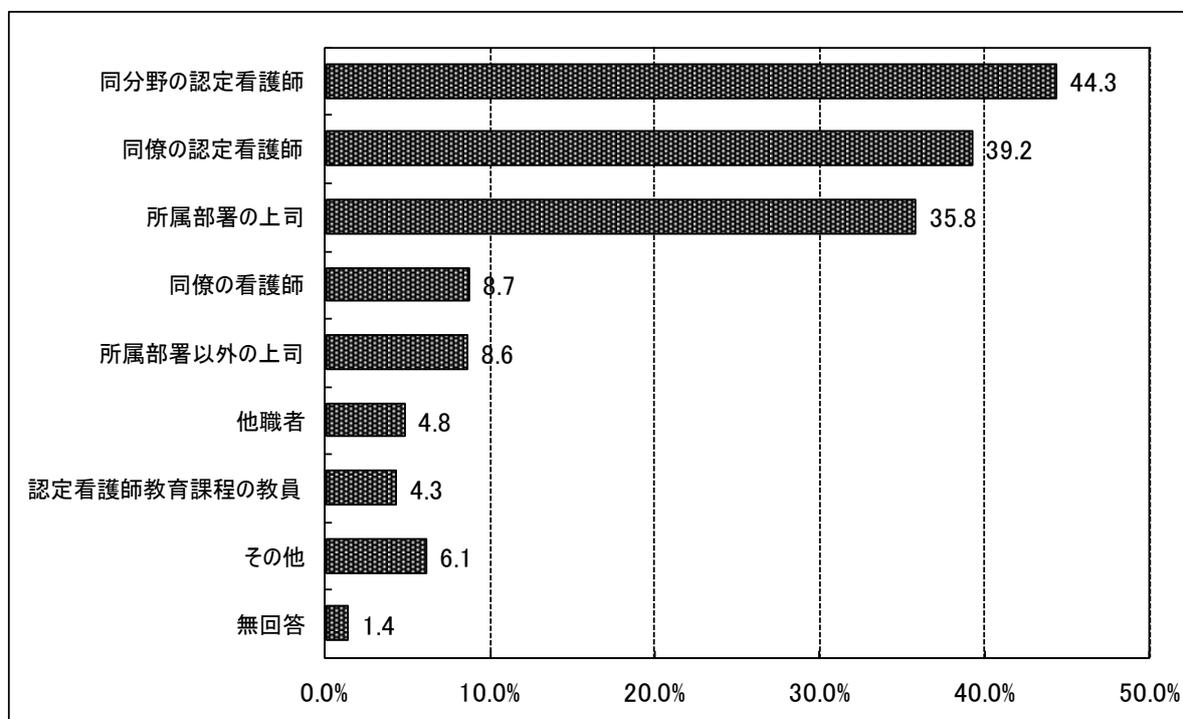


図 100 認定看護師としての活動にあたり困難が生じた場合に相談する主な相手 (n=6,812・複数回答)

7 認定看護師のネットワーク所属有無

所属施設内外の認定看護師のネットワークの所属の有無について、「あり（はい）」が5,648名（82.9%）、「なし（いいえ）」が1,115名（16.4%）だった。

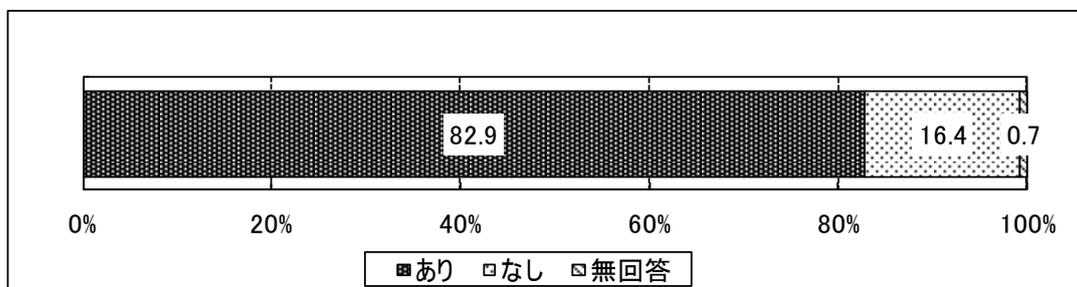


図 101 認定看護師のネットワーク所属の有無(n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に認定看護師のネットワーク所属有無をみると、全ての認定看護分野で「あり(はい)」と回答した割合が多く、分野によっては9割を超えた。

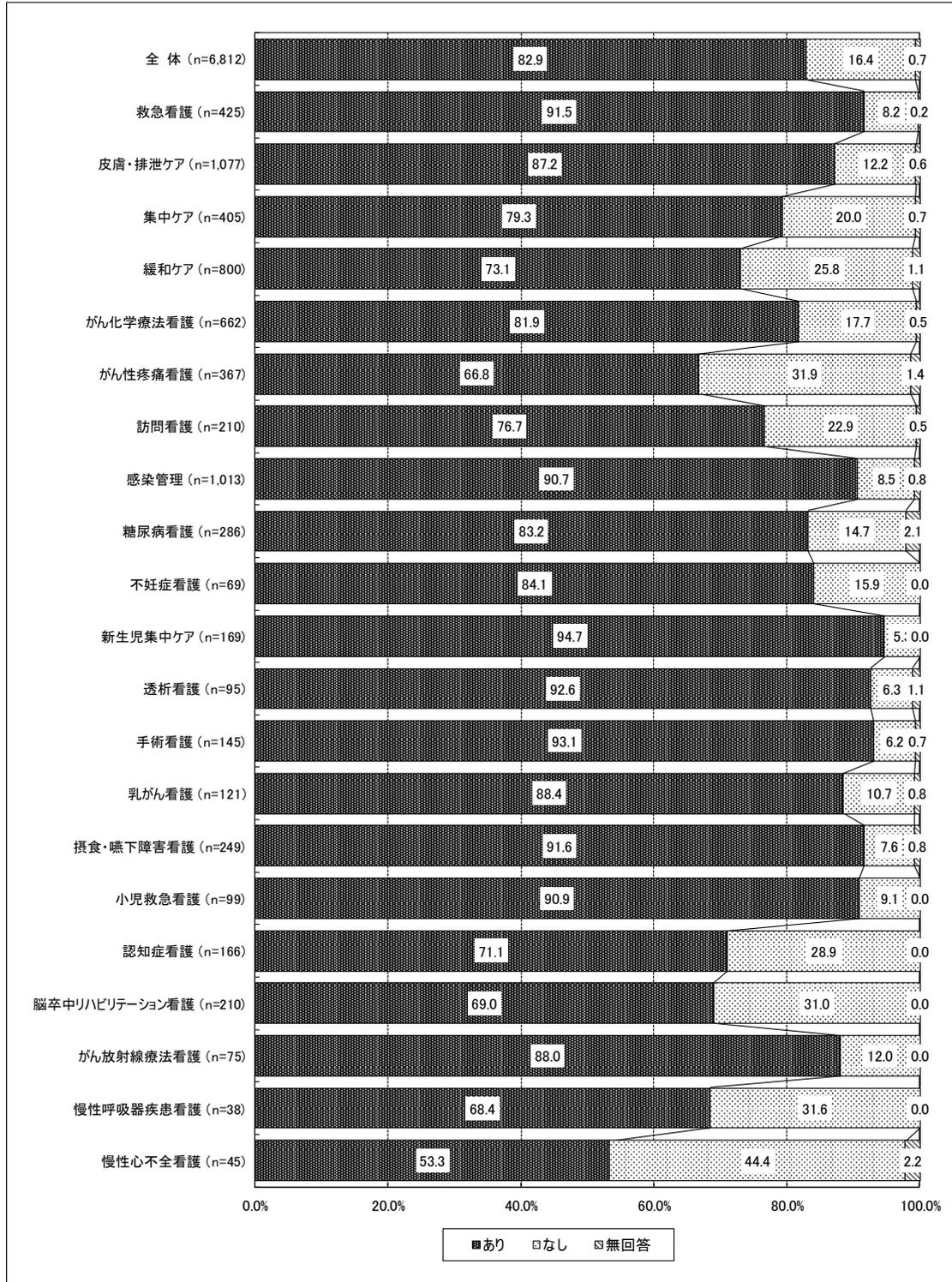


図 102 認定看護分野別、認定看護師のネットワーク所属の有無 (n=6,812)

7-1 所属するネットワークの母体

所属するネットワークの母体について、「学会・研究会」が3,635名(64.4%)と最も多く、次いで「所属施設」が2,118名(37.5%)、「教育機関」が1,741名(30.8%)の順だった。

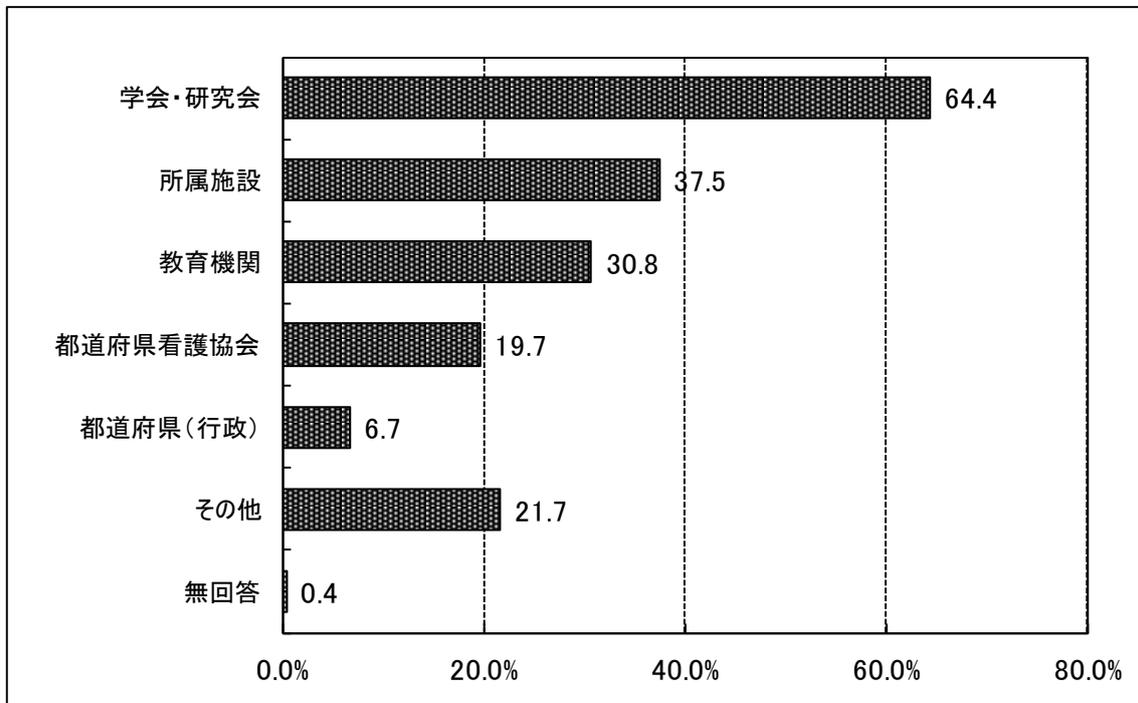


図 103 所属するネットワークの母体 (n=5,648・複数回答)

7-2 所属するネットワークでの活動

所属するネットワークでの活動は、「認定看護師間での情報共有」が4,896名(86.7%)と最も多く、次いで「認定看護師間での勉強会の実施」が2,883名(51.0%)、「看護師を対象とした勉強会の実施」が2,344名(41.5%)の順だった。

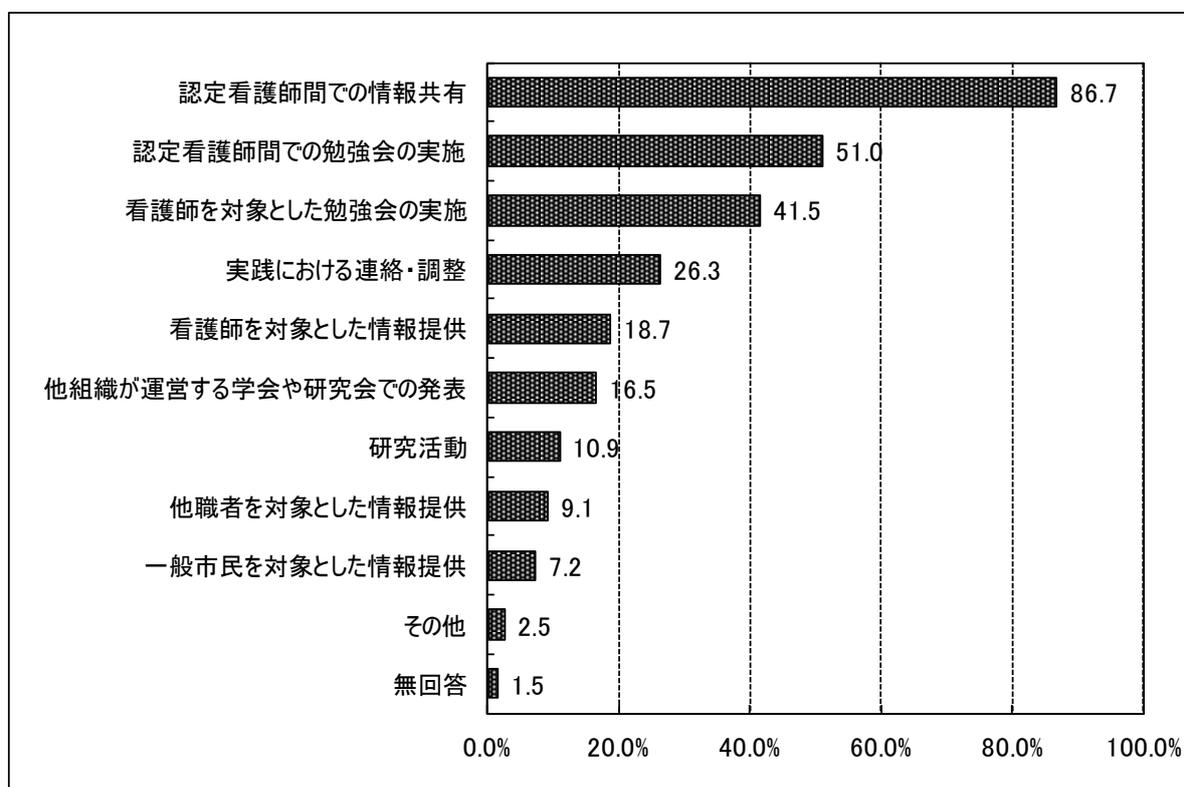


図 104 所属するネットワークでの活動(n=5,648・複数回答)

V 認定看護師としての活動の成果について

1 認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果

認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果として、「適切なケアの選択」、「意図的なケアの実施」、「他職者との連携推進」ができるようになったことを挙げた者の割合が高かった。一方、「在院日数の短縮」、「看護計画の充実」や「ケアプランの増加」については、成果としての認識が低かった。

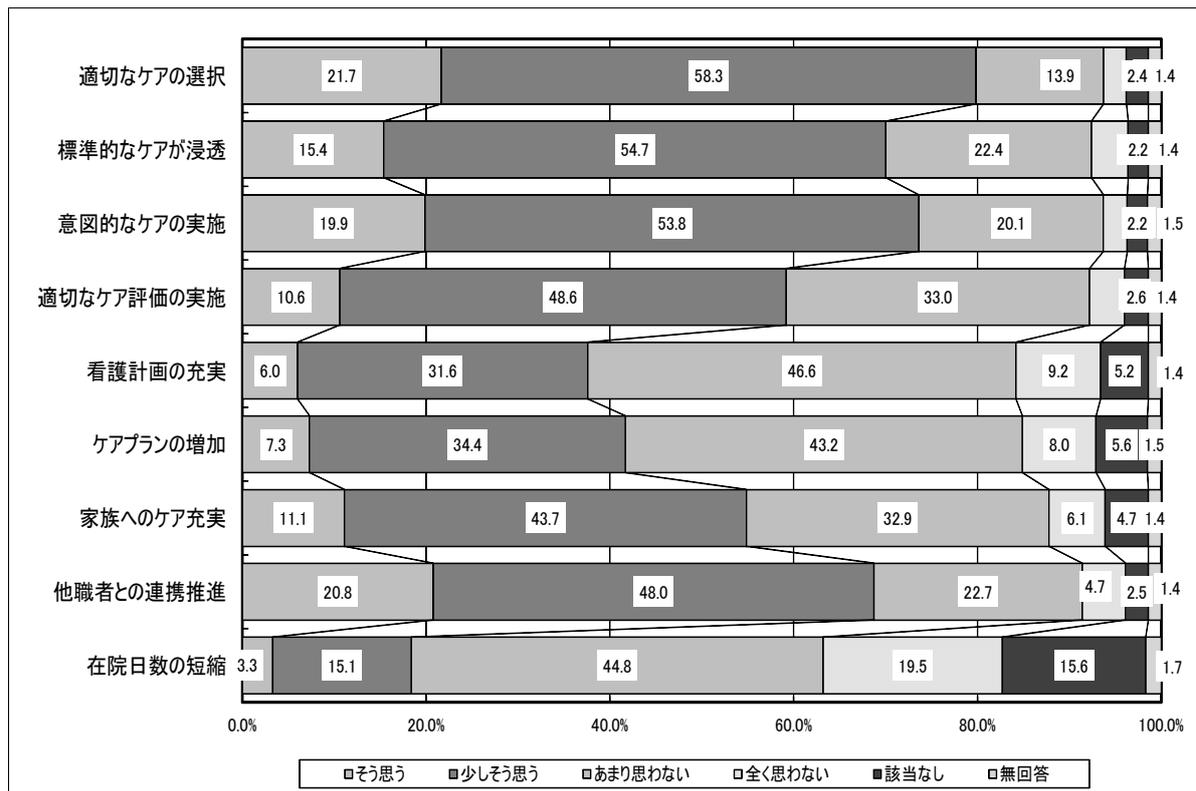


図 105 認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=6,812)

〔認定看護師としての経験年数別〕

認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果について認定看護師としての経験年数別にみると、成果として認識する項目の順に差はみられなかった。

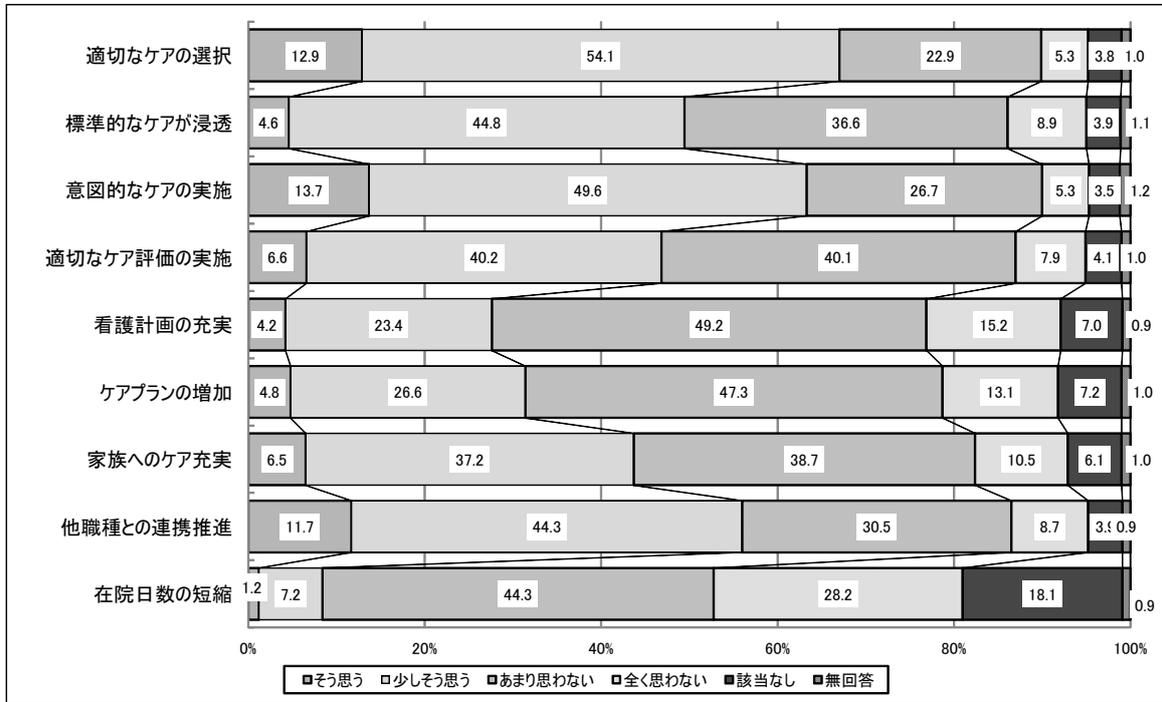


図 106 認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果認定看護師としての経験年数 0-1 年 (n=2,026)

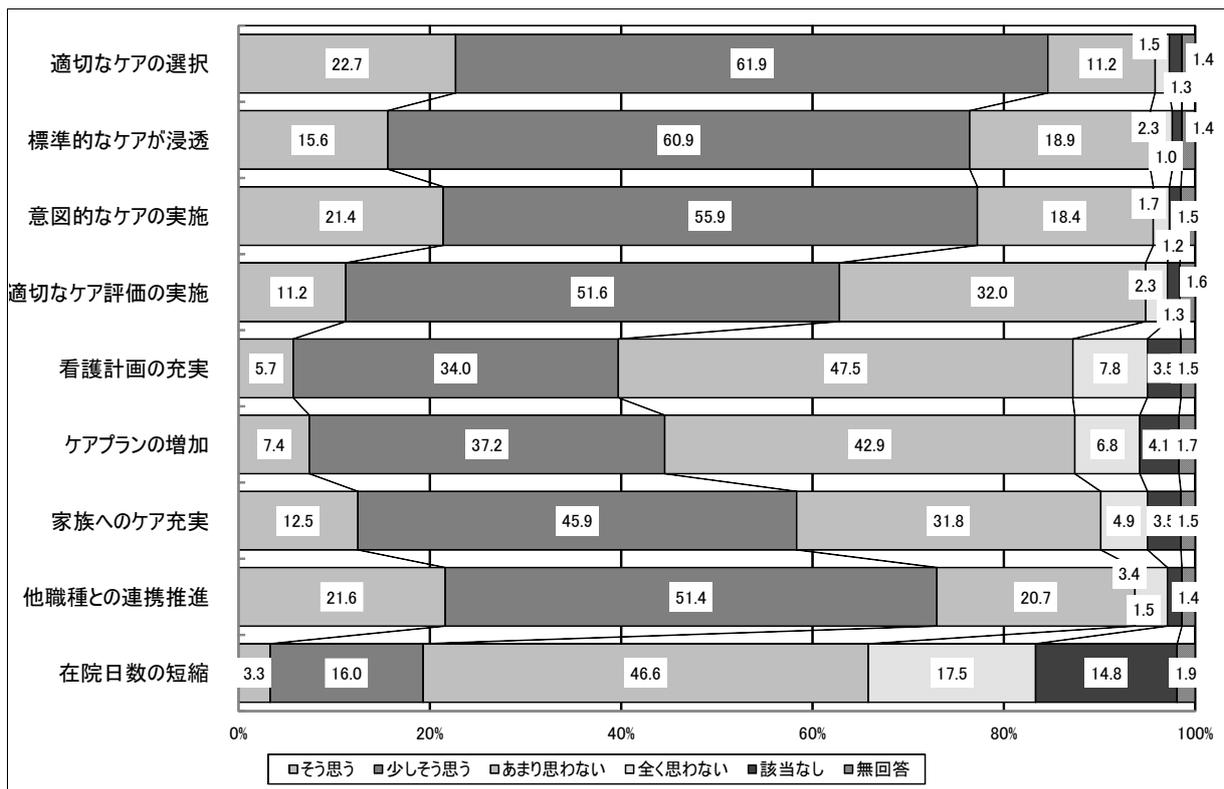


図 107 認定看護師としての経験年数、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (2-5 年) (n=3,333)

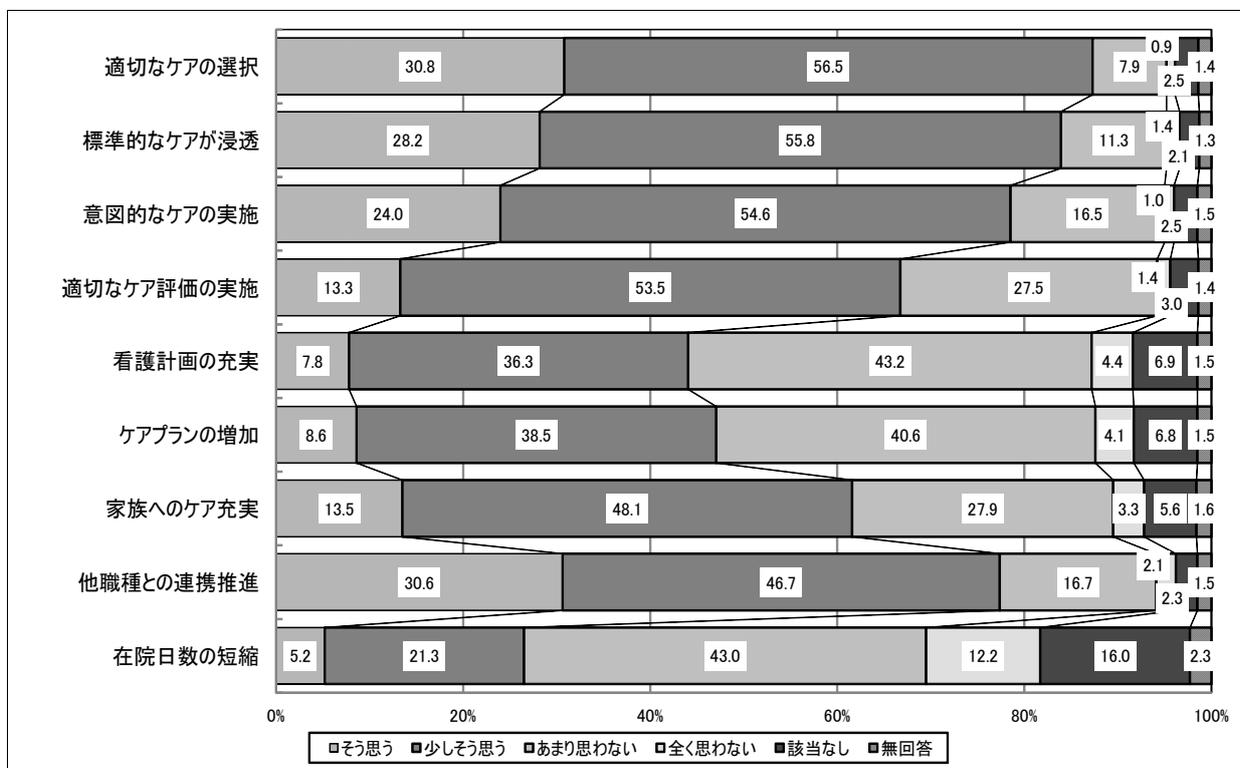


図 108 認定看護師としての経験年数、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (6-9 年) (n=1,033)

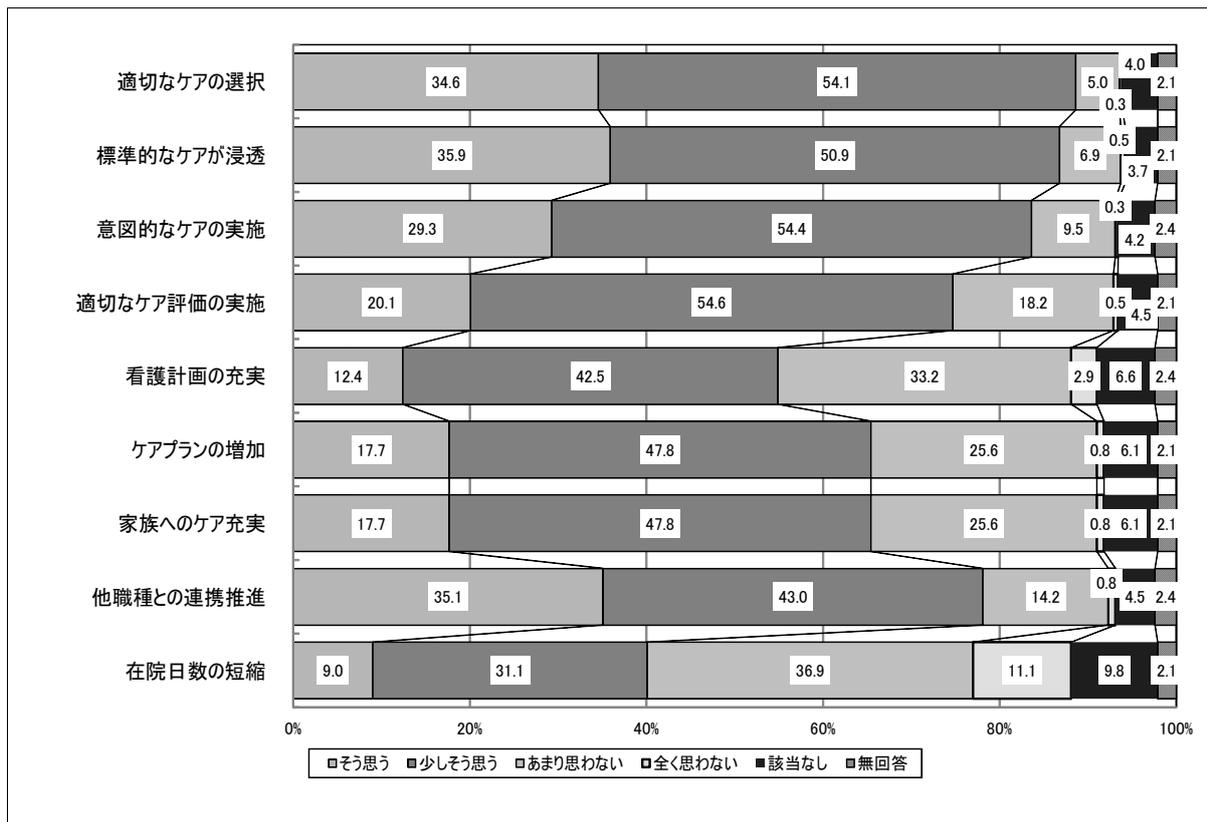


図 109 認定看護師としての経験年数、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (経験年数 10 年以上) (n=379)

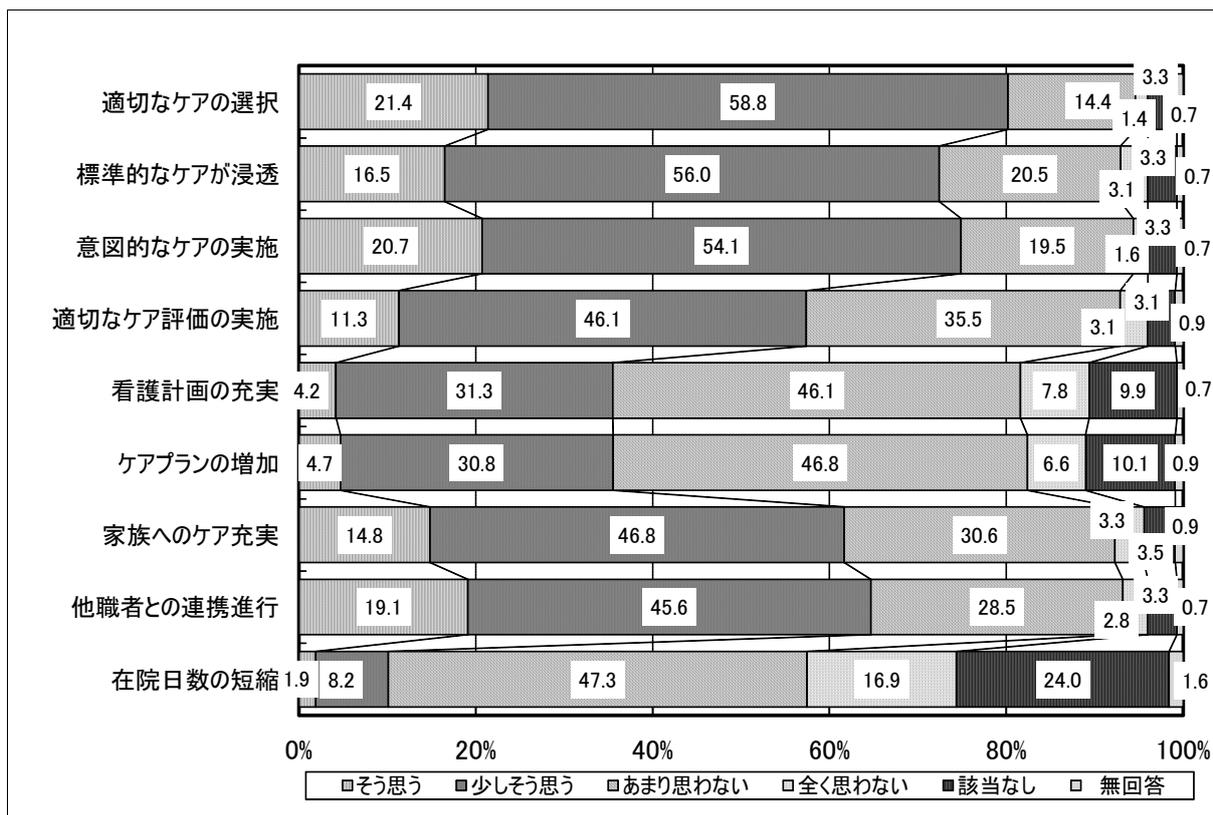


図 110 救急看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=425)

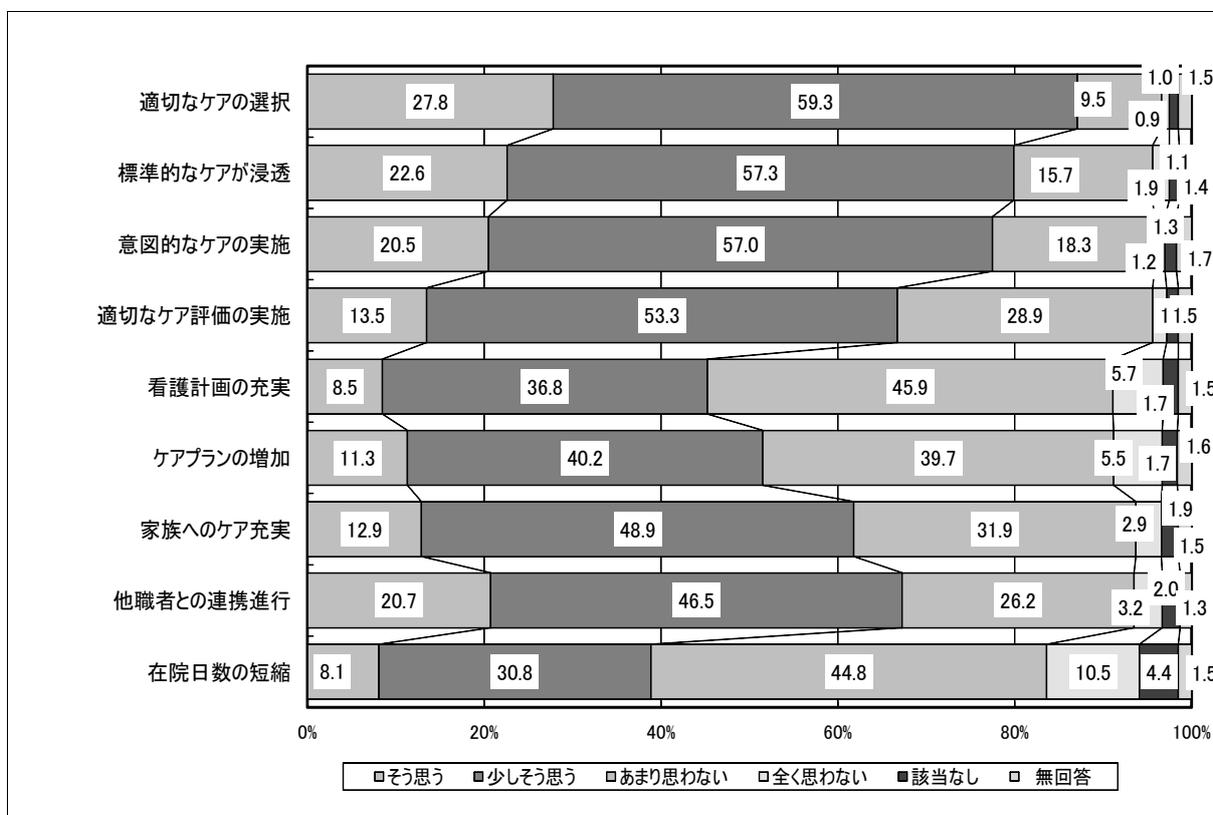


図 111 皮膚・排泄ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=1,077)

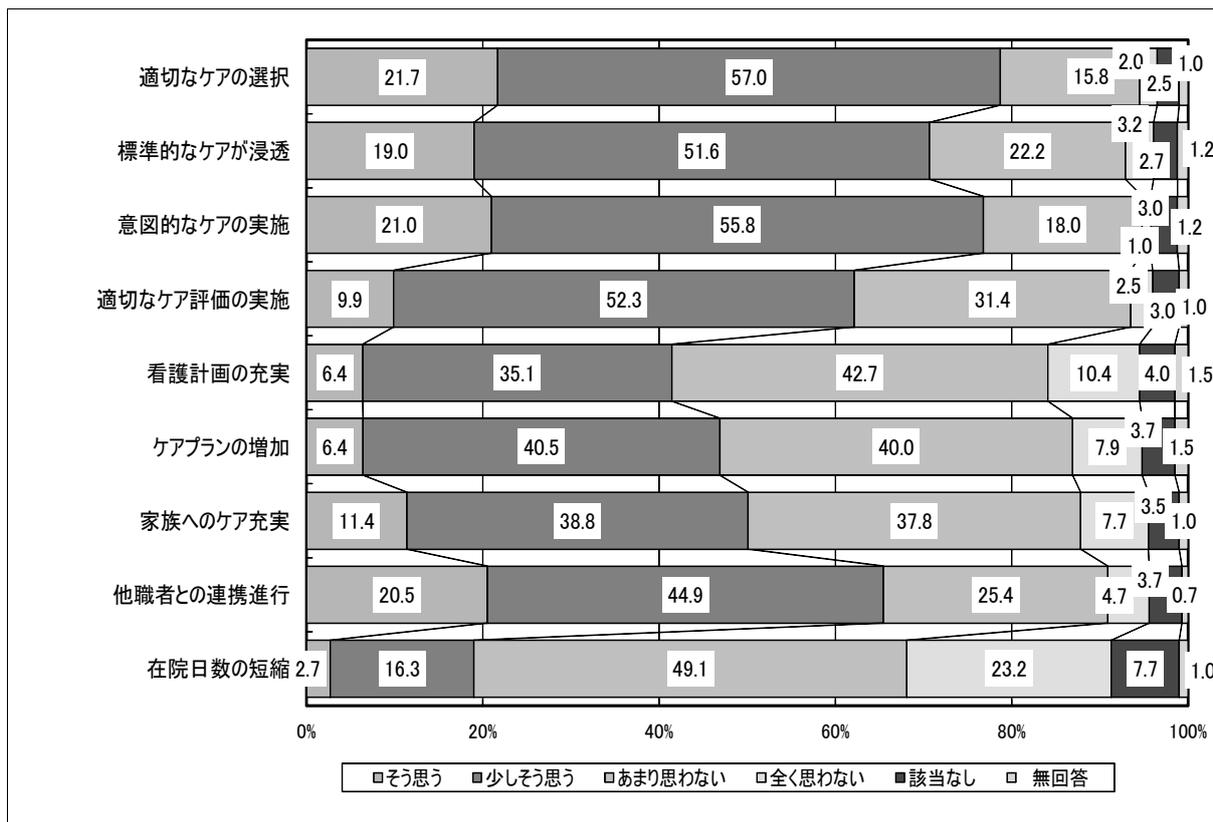


図 112 集中ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=405)

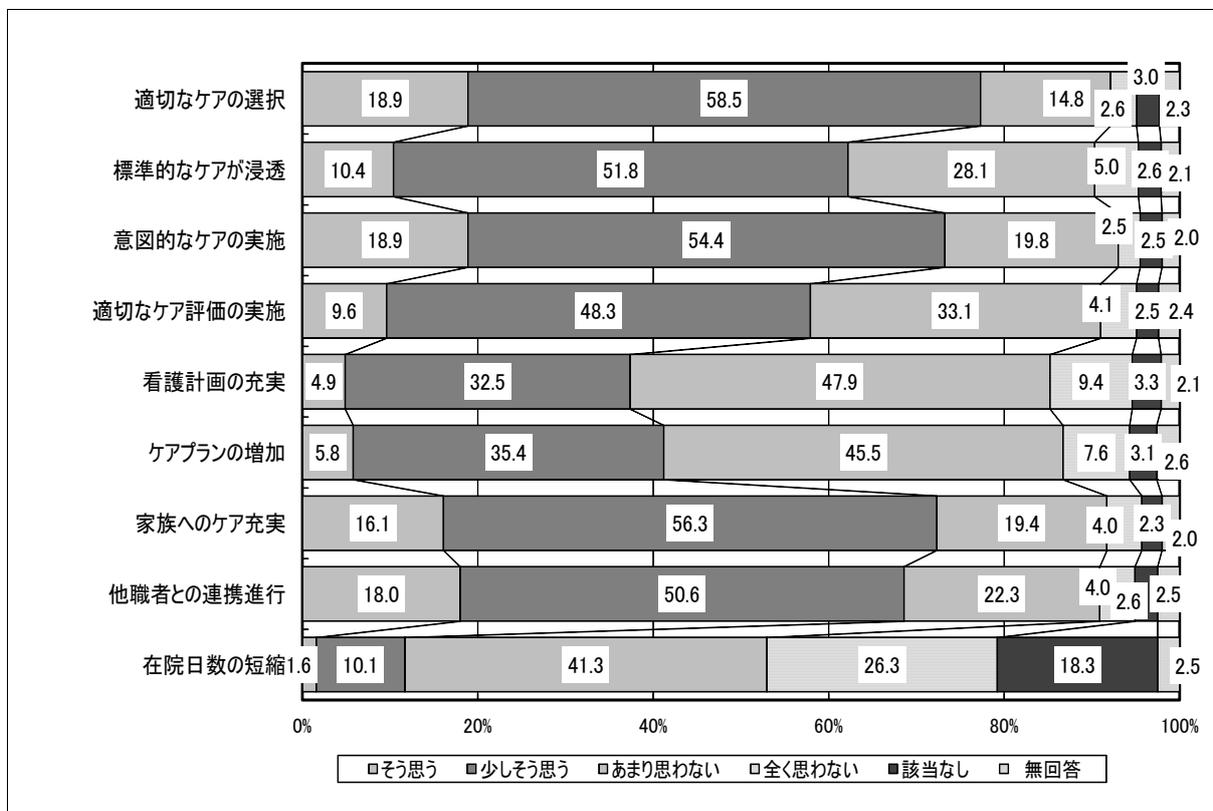


図 113 緩和ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=800)

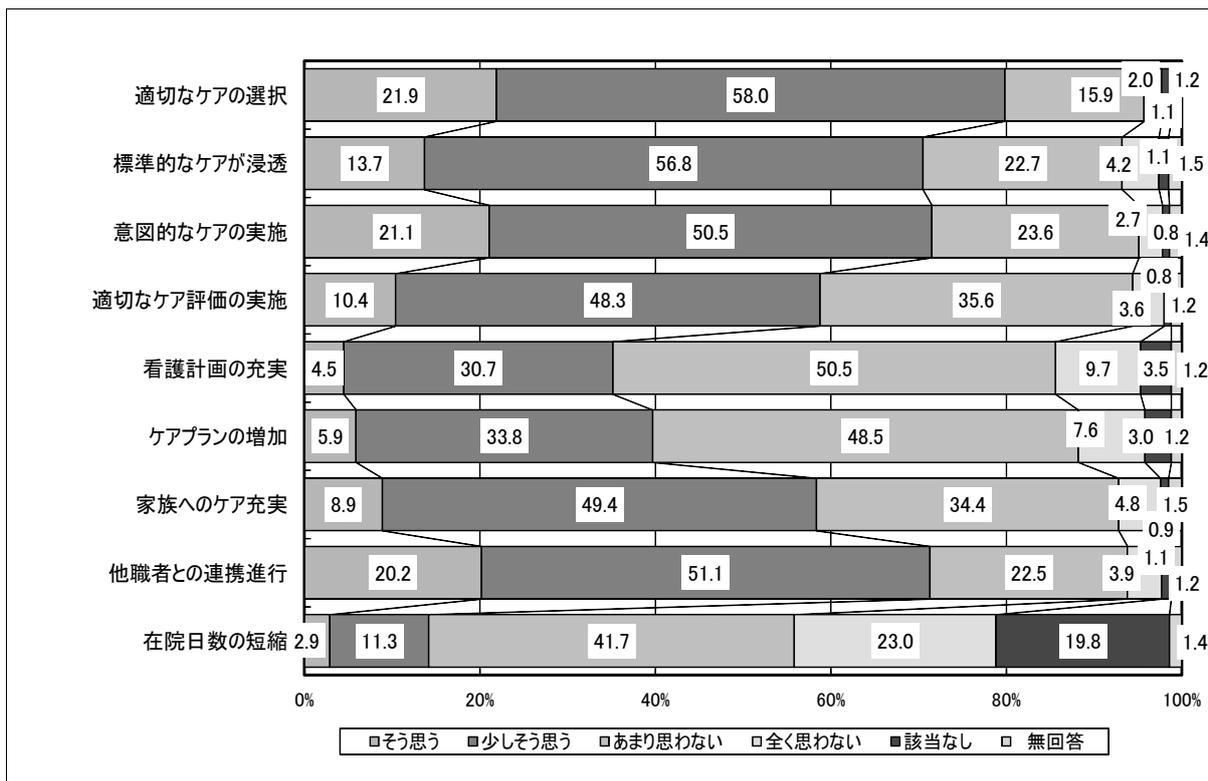


図 114 がん化学療法看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成 (n=662)

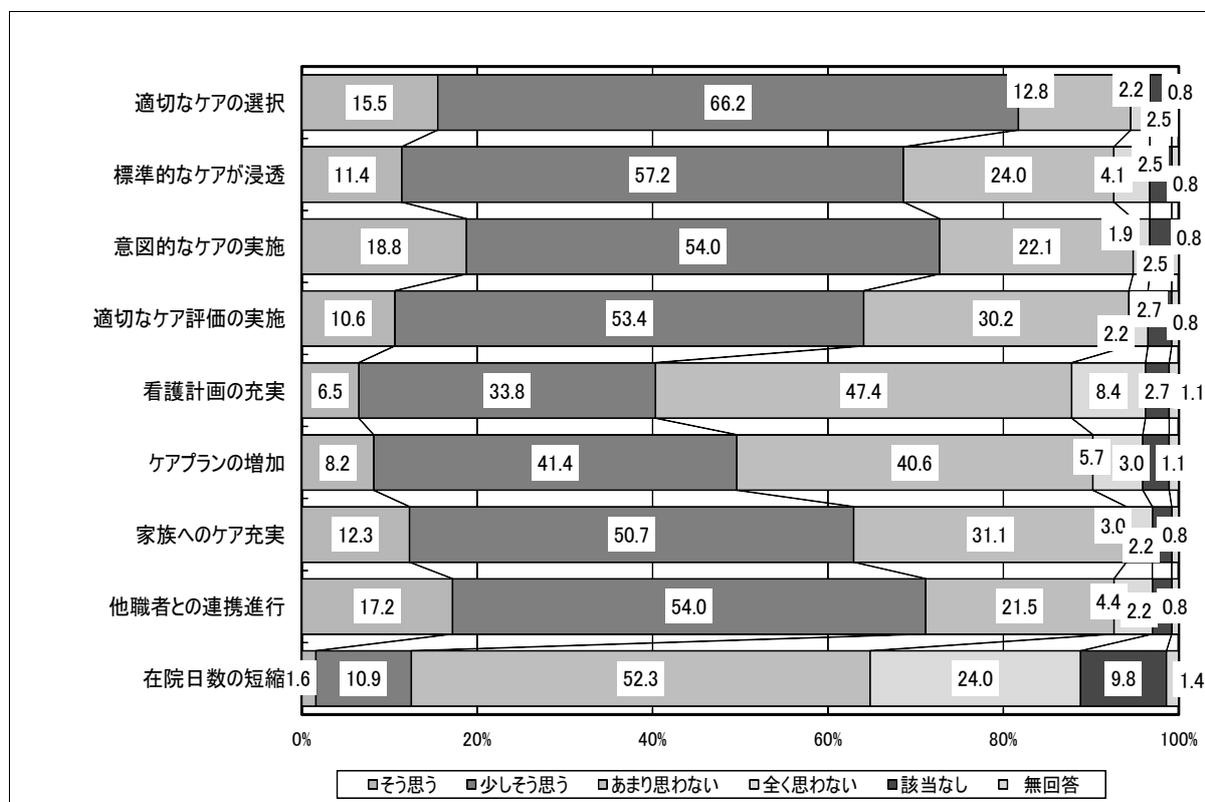


図 115 がん性疼痛看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=367)

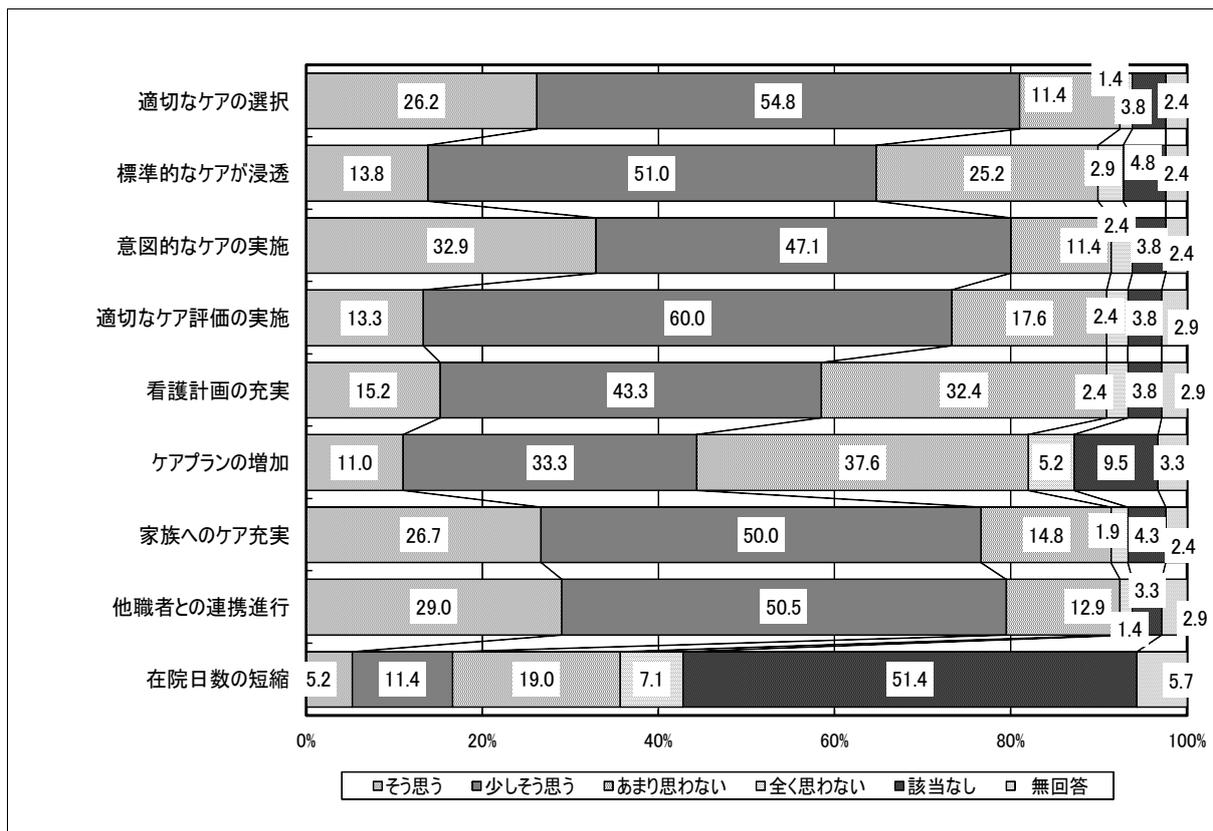


図 116 訪問看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=210)

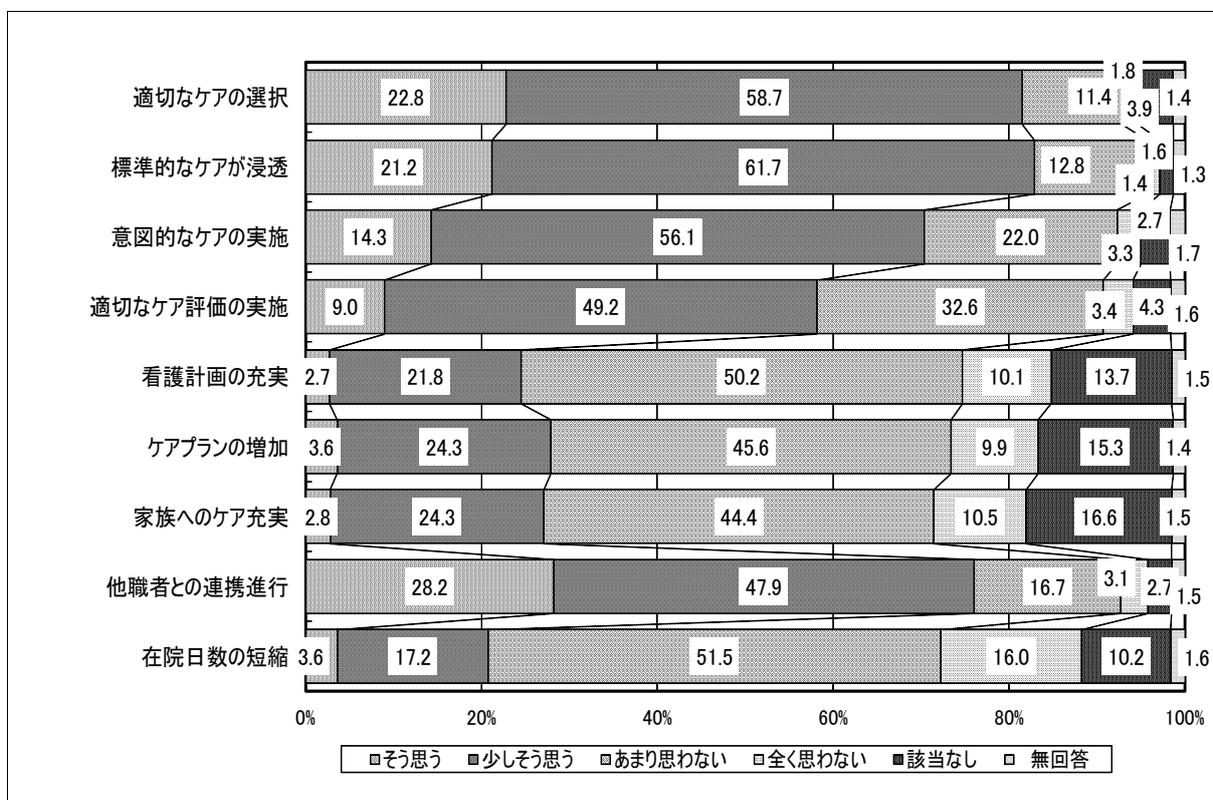


図 117 感染管理分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=1,013)

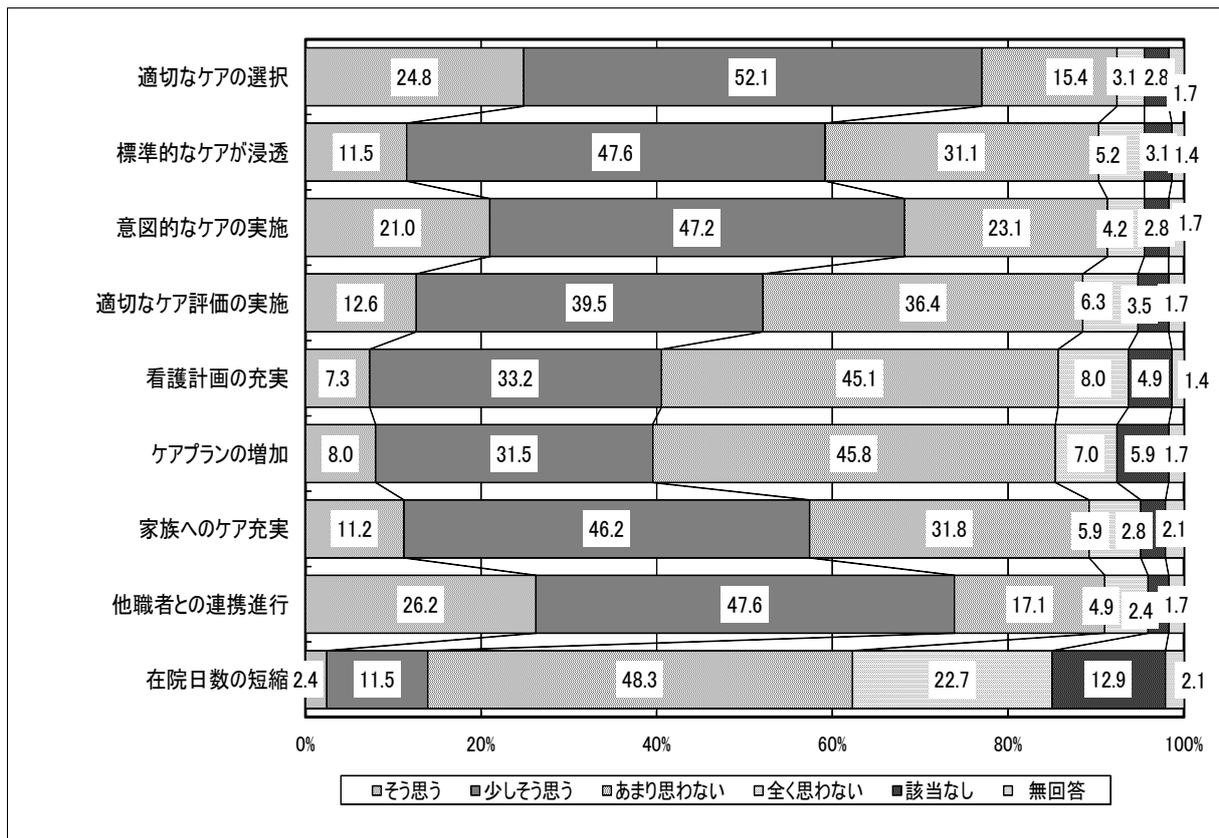


図 118 糖尿病看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=286)

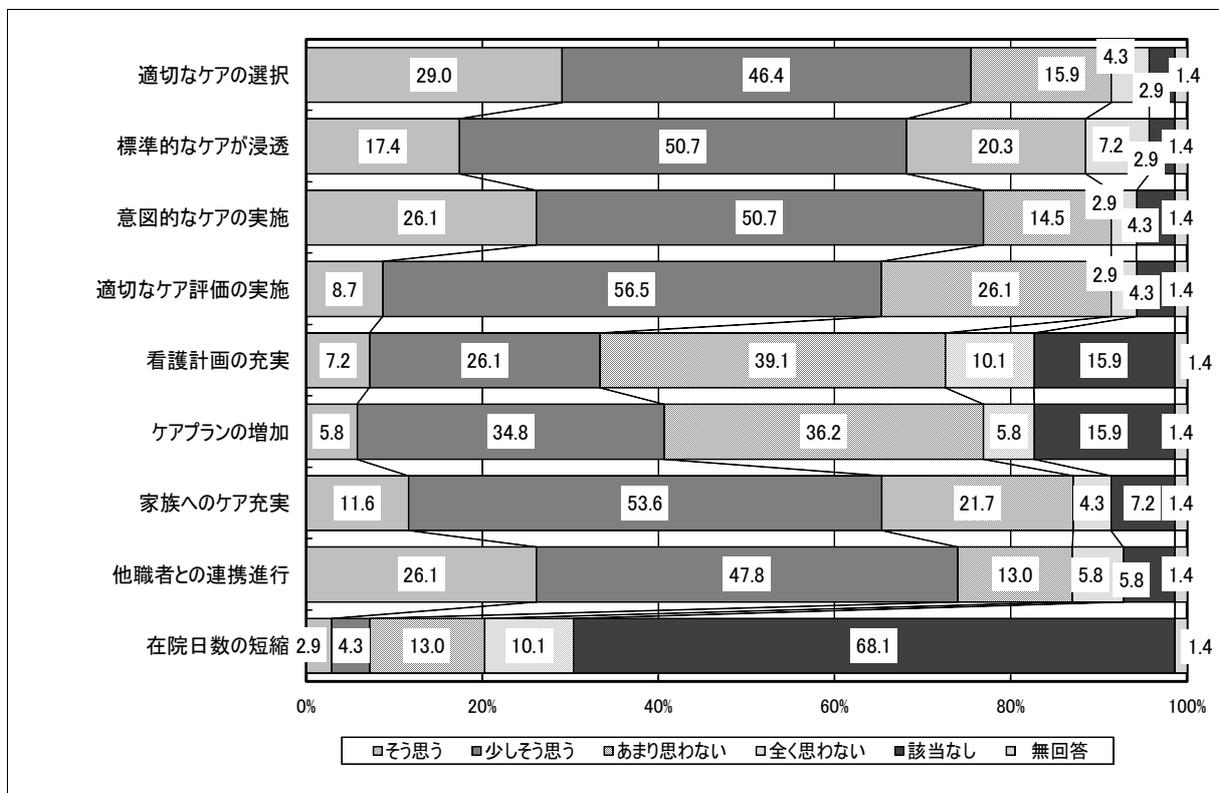


図 119 不妊症看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=69)

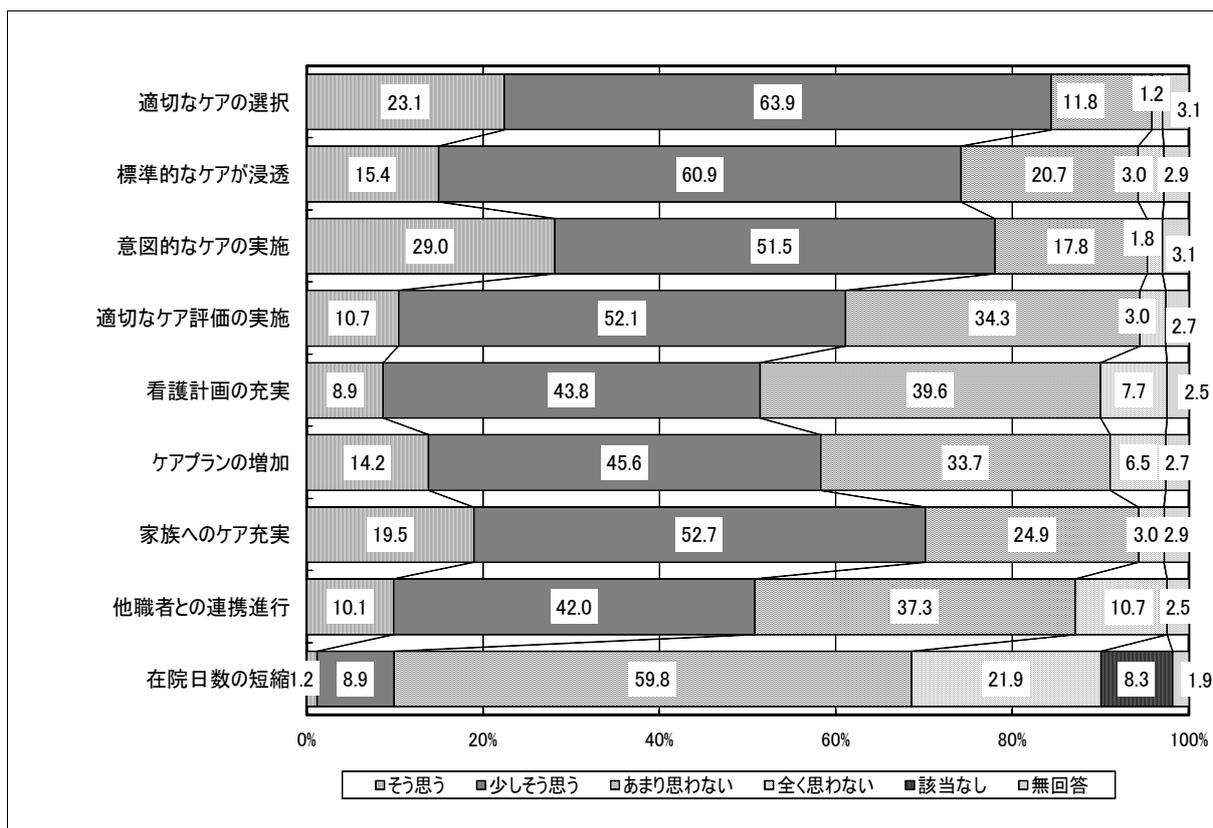


図 120 新生児集中ケア分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=169)

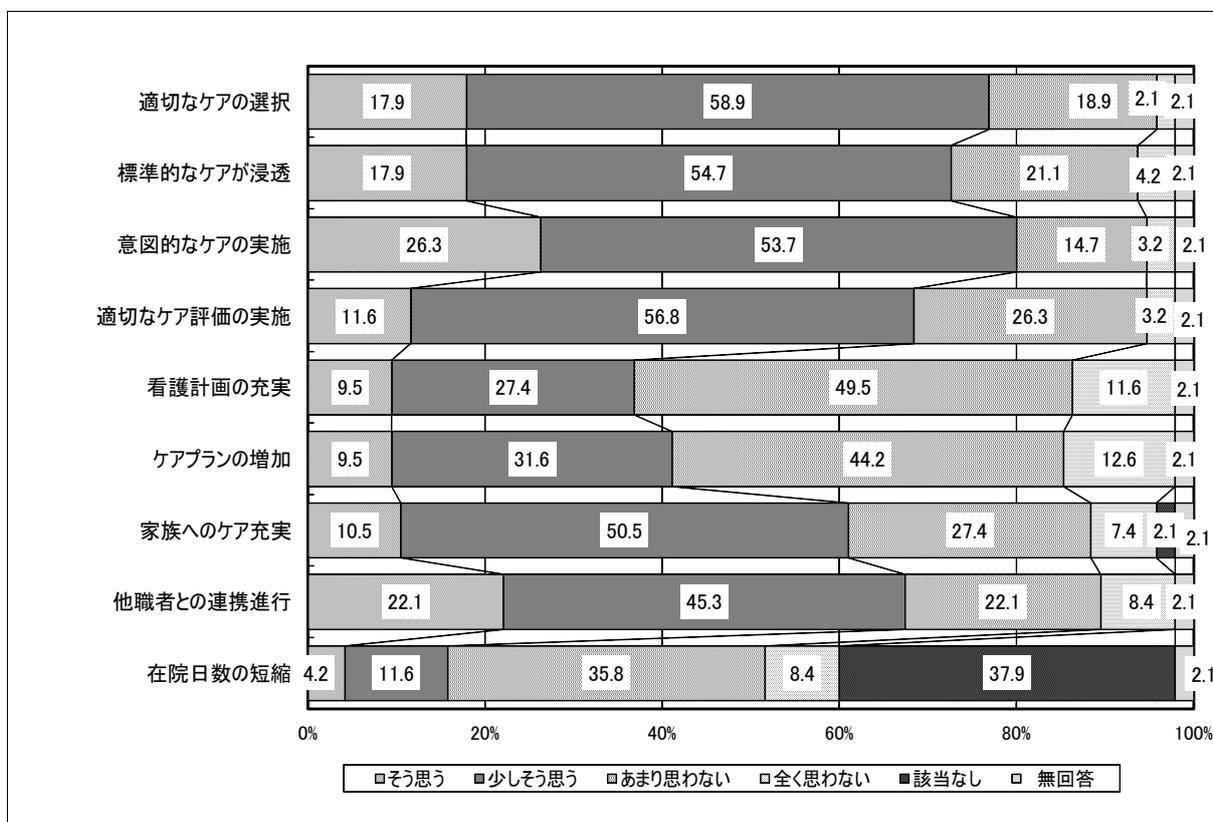


図 121 透析看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=95)

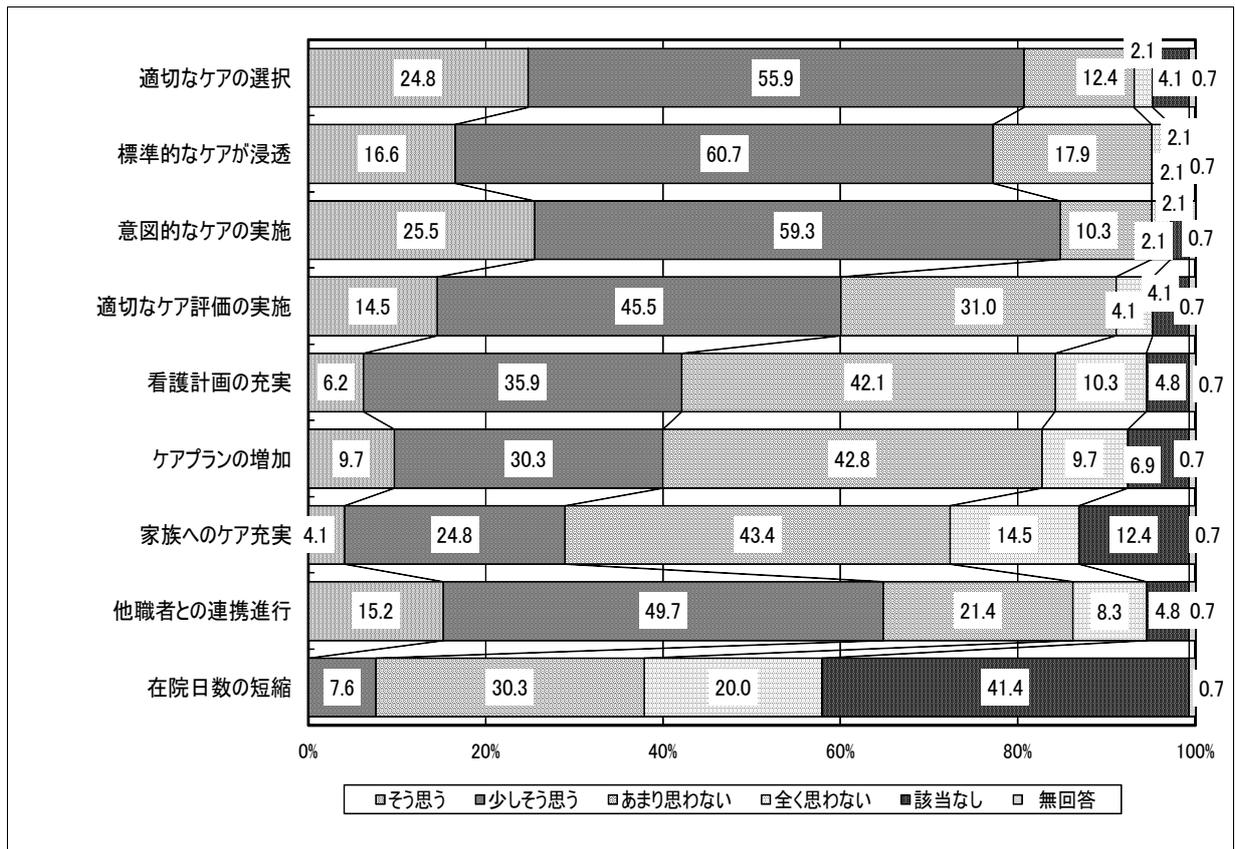


図 122 手術看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=145)

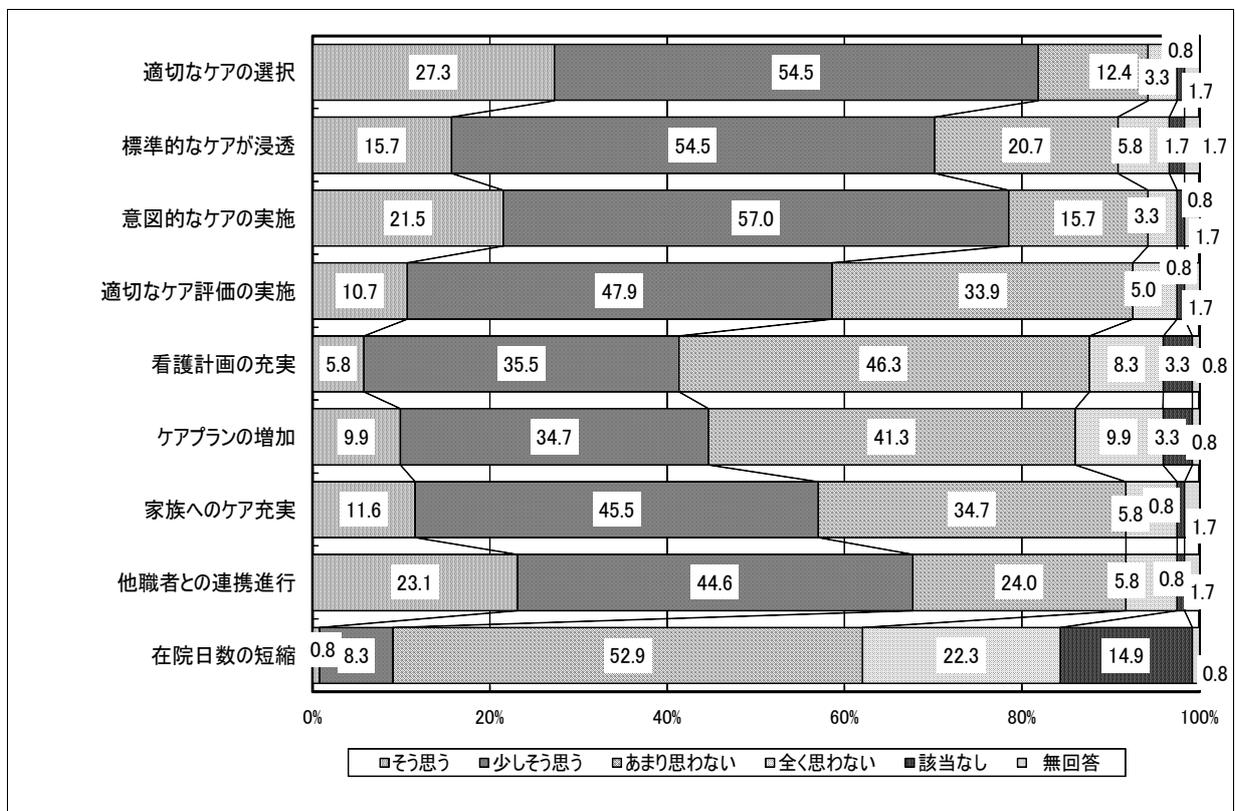


図 123 乳がん看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=121)

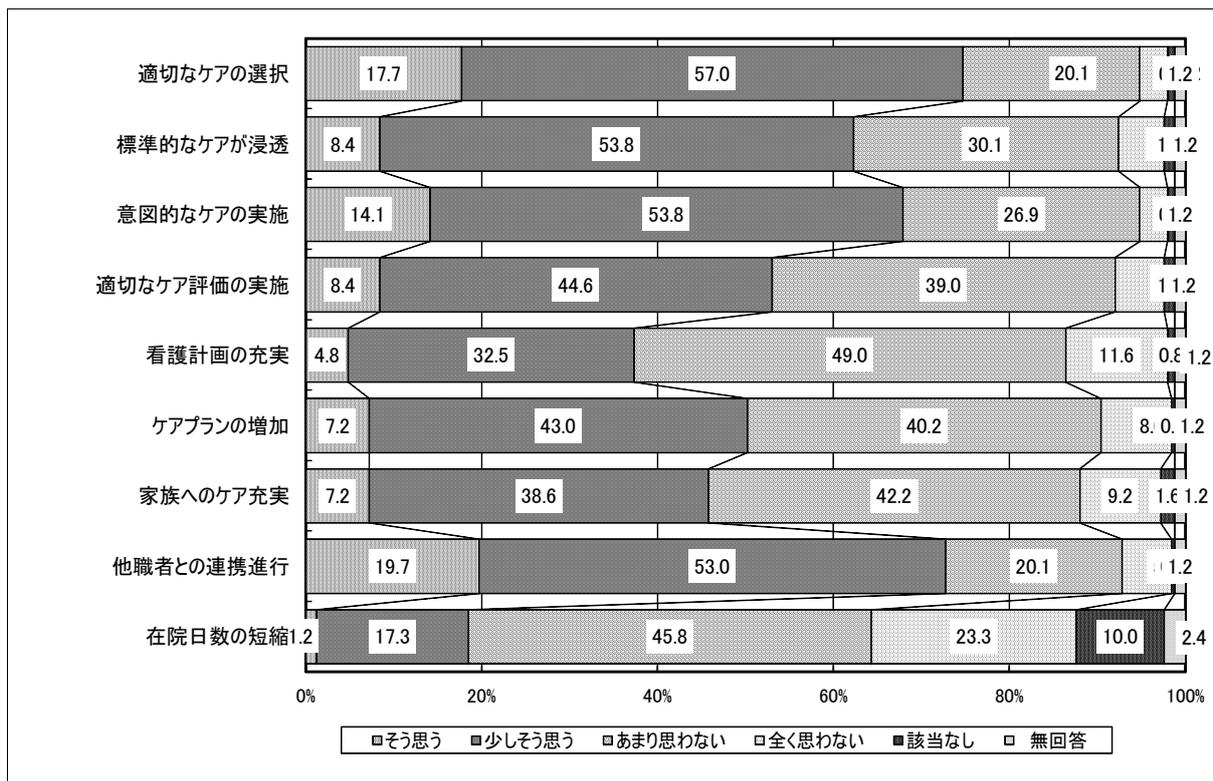


図 124 摂食・嚥下障害看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=249)

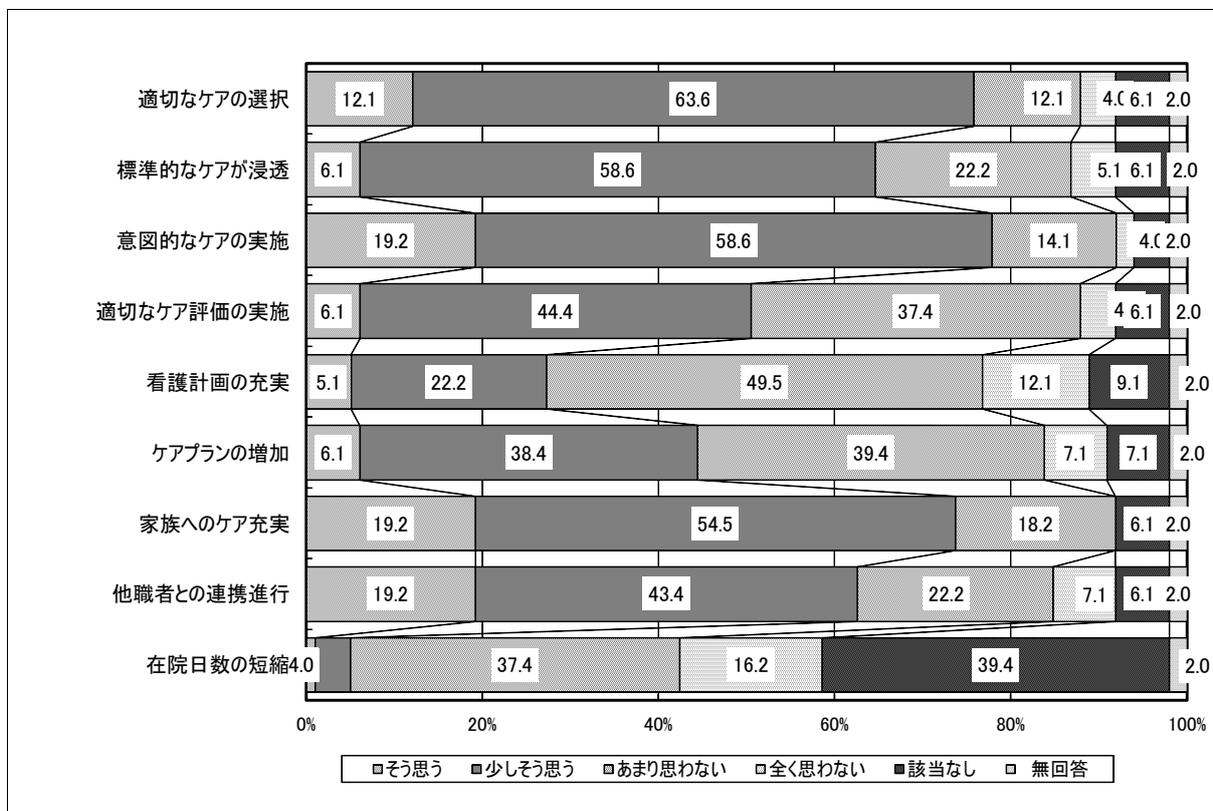


図 125 小児救急看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=99)

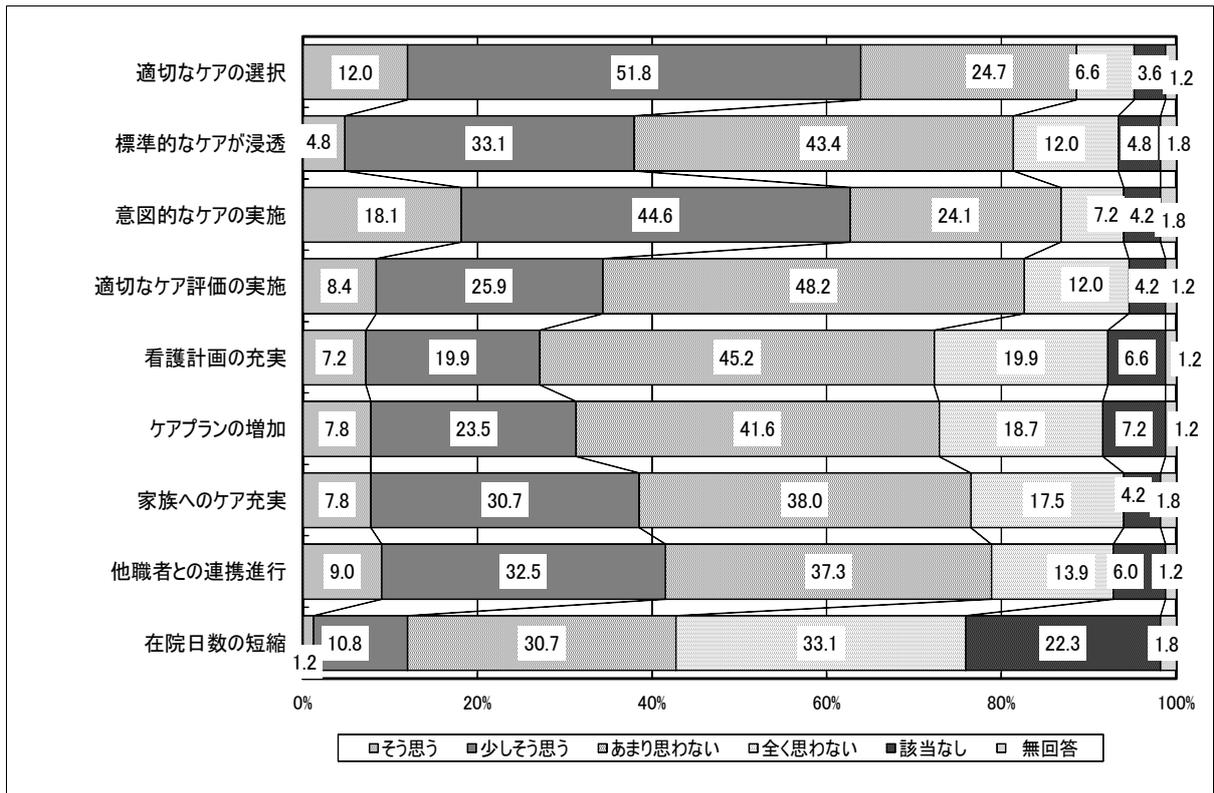


図 126 認知症看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=166)

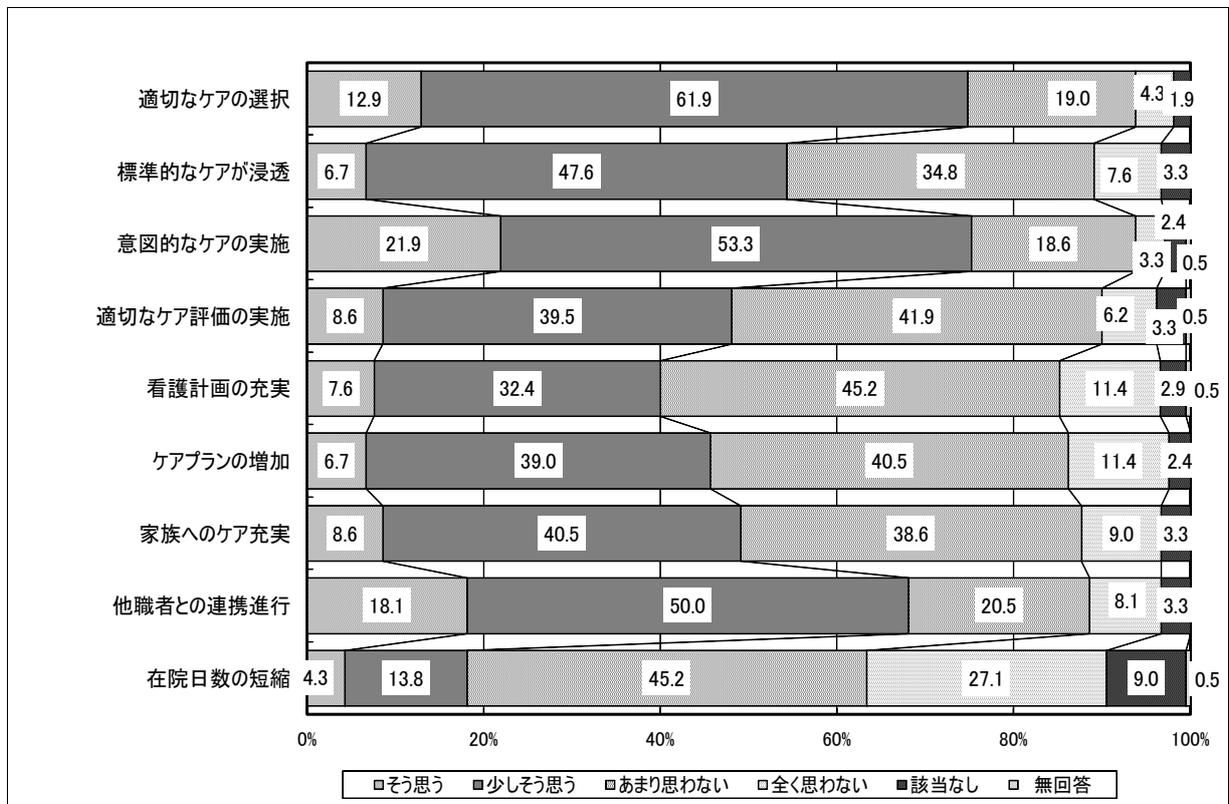


図 127 脳卒中リハビリテーション看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=210)

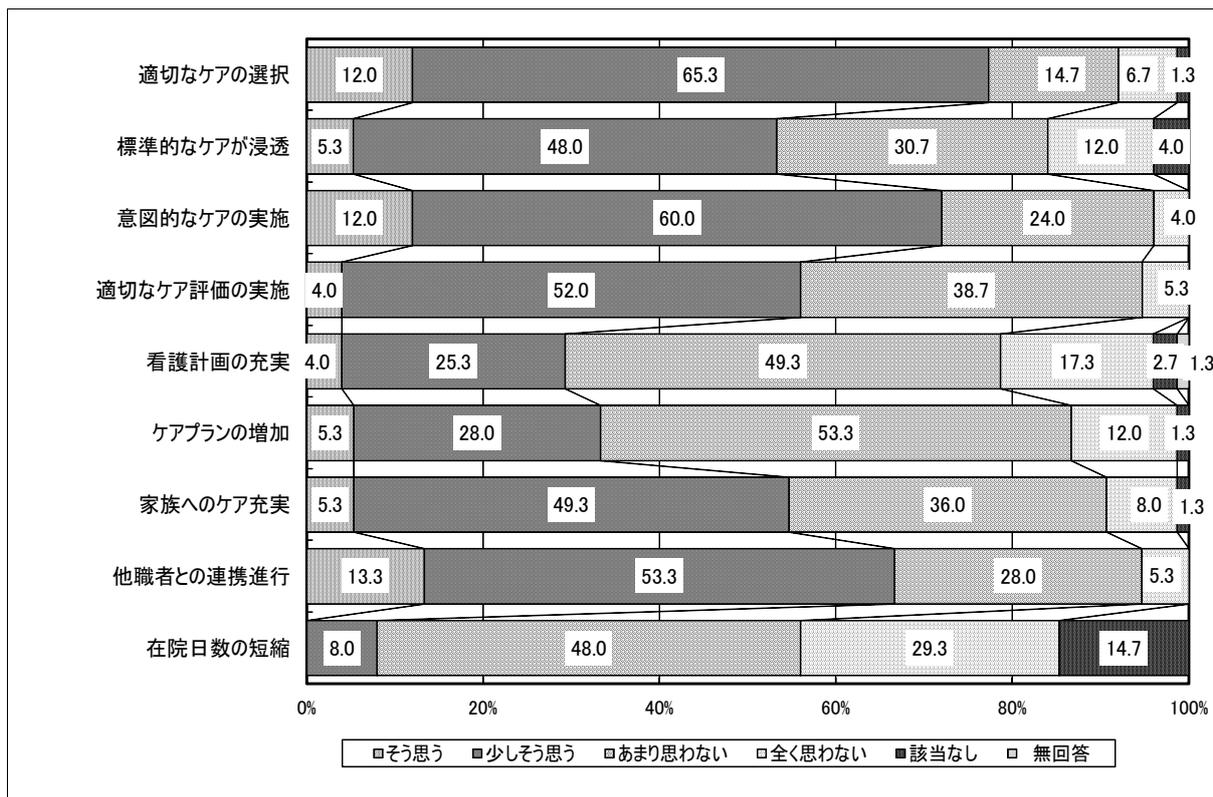


図 128 がん放射線療法看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=75)

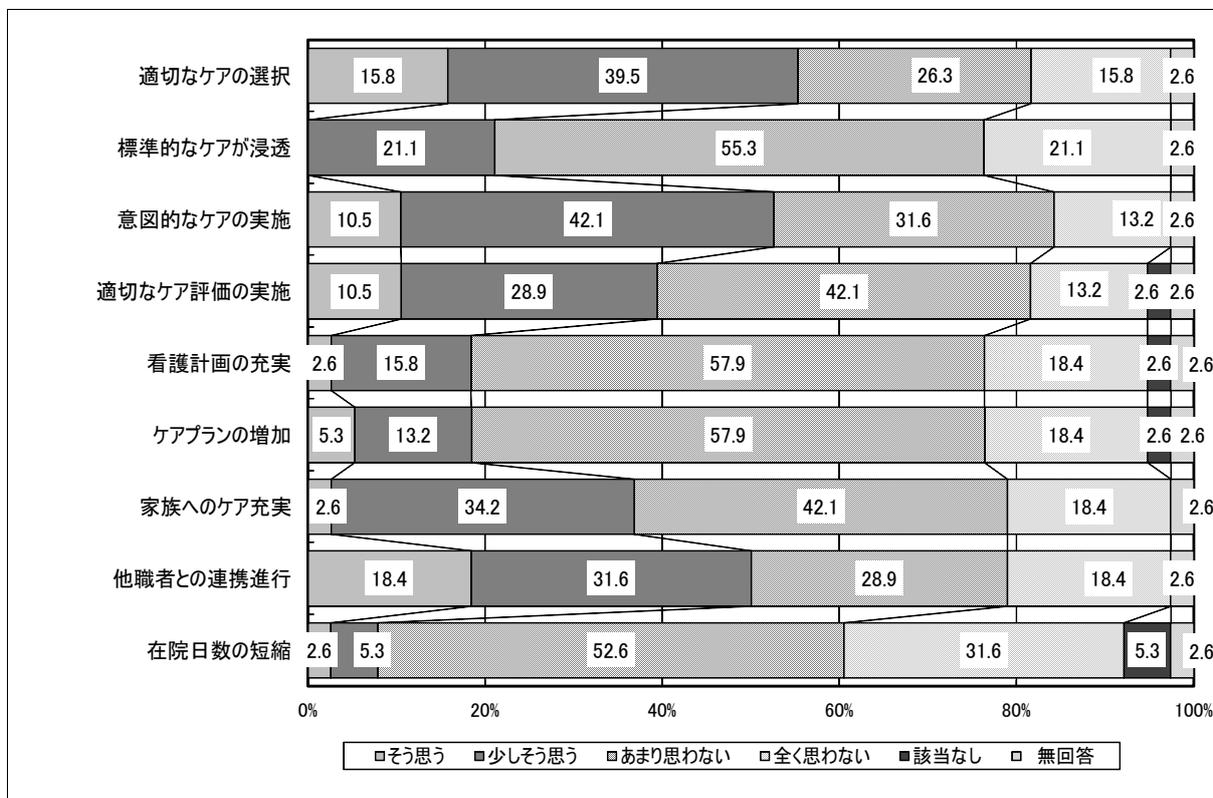


図 129 慢性呼吸器疾患看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=38)

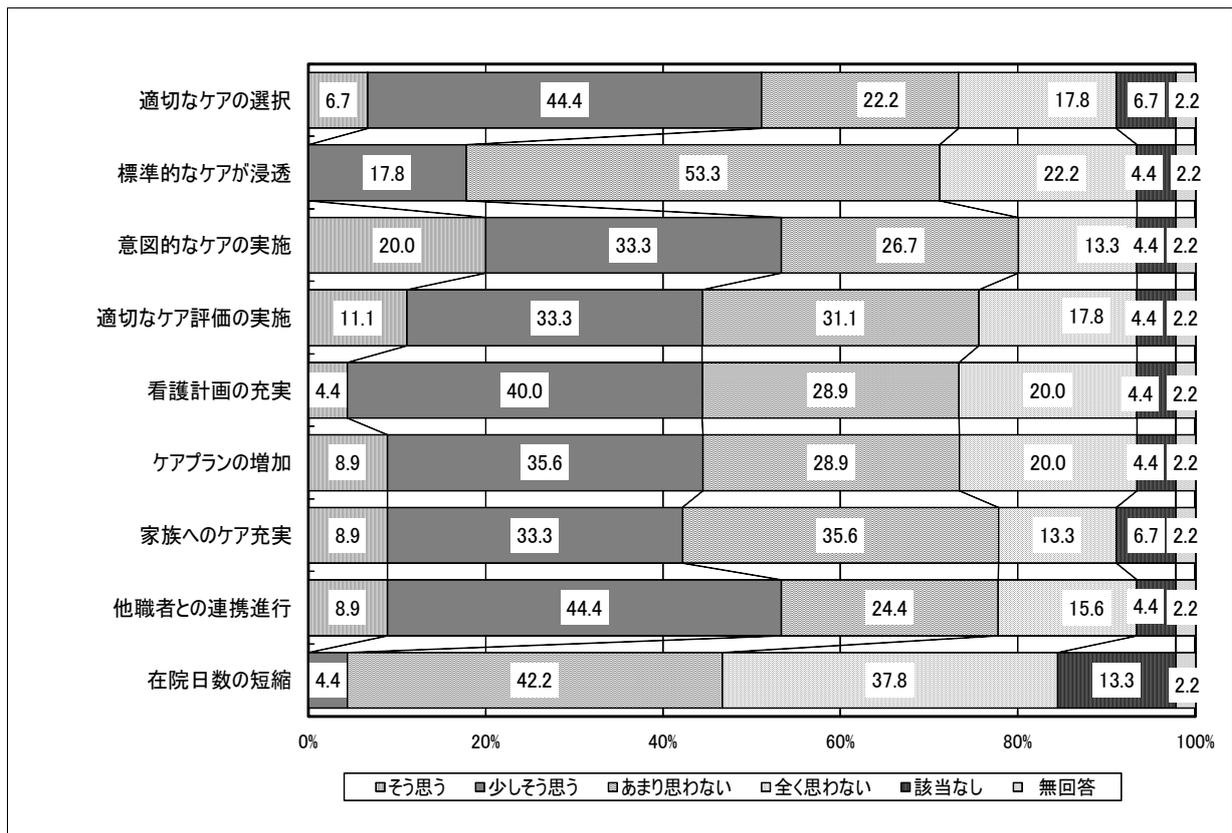


図 130 慢性心不全看護分野、認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果 (n=45)

2 自身の活動の成果や効果を評価するための臨床指標有無

自身の活動の成果や効果を評価するための臨床指標有無は、「はい(あり)」が1,470名(21.6%)、「なし(いいえ)」が4,939名(72.5%)だった。

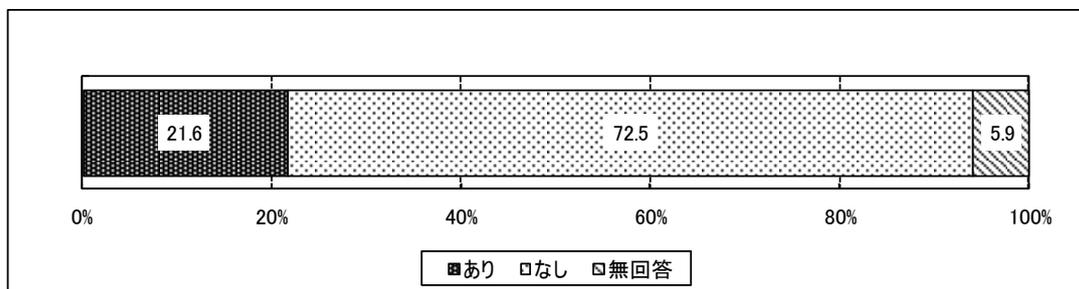


図 131 認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無 (n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に、認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無をみると、「皮膚・排泄ケア」や「感染管理」分野で「あり（はい）」と回答した割合が高かった。

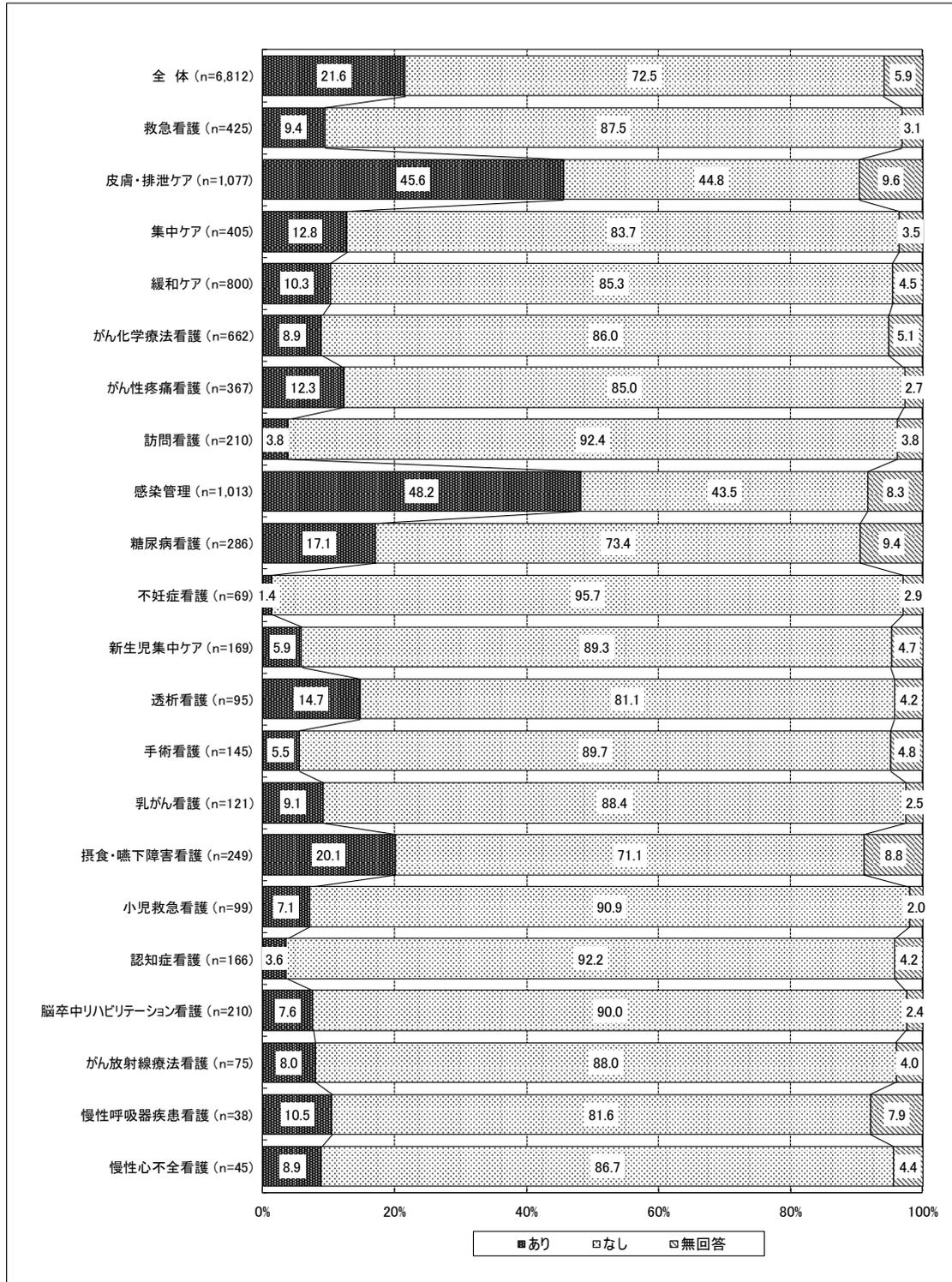


図 132 認定看護分野別、認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無 (n=6,812)

〔認定看護師としての経験年数別〕

認定看護師としての経験年数別に、認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無をみると、経験年数が長いほど、「あり（はい）」の割合が高かった。

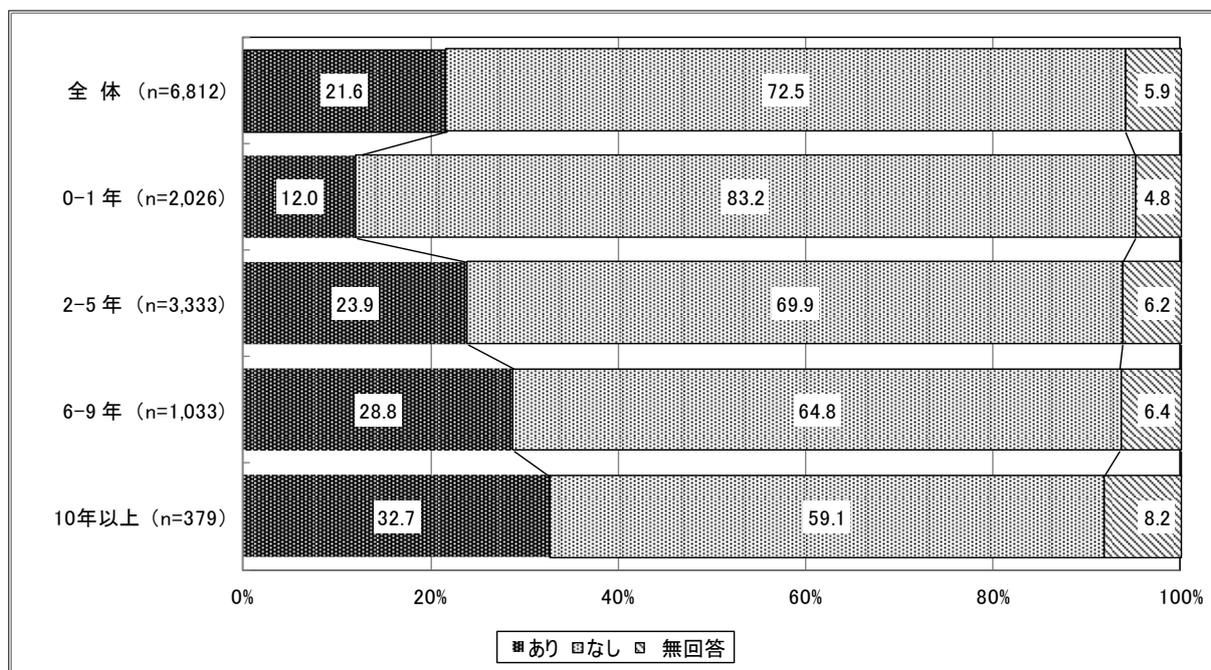


図 133 認定看護師としての経験年数別、認定看護師としての活動の成果や効果を評価するための臨床指標の有無 (n=6,812)

2-1 具体的な評価指標

「2 自身の活動の成果や効果を評価するための臨床指標であり有無」で「あり（はい）」と回答した者のうち、具体的な評価指標とその評価方法、解決を分野別にみるとは以下のようなものが挙げられた。

救急看護	
指標	評価方法・解釈
トリアージにおける、オーバー・アンダー率の低下	オーバートリアージ、アンダートリアージを減少させ、適切なトリアージを実施する。低下することにより、検証が生かされていることを示す。
院内急変死亡率低下	急変する前の(Vitalsign)変調に気づき、急変を予防する。そのために、院内看護スタッフの教育を行い、質の向上を目指す。救急看護CNの教育、指導によって、院内死亡率低下(院内のウツタインを利用)につながる。
人工呼吸関連肺炎発生率の低下	呼吸ケアチームのラウンドや、研修会等の働きかけにより、発生率が変化しているか、評価する。サーベイランスは、感染チームと協力して行う。低下していれば、有効。

皮膚・排泄ケア	
指標	評価方法・解釈
褥瘡推定発生率の低下	定点日における入院患者の入院後の褥瘡発生率の経時的変化により、褥瘡の発生、予防に対するケアの成果、効果を図る。低下は、予防的介入が有効であることを示す

がん化学療法看護	
指標	評価方法・解釈
血管外漏出などインシデント発生率の低下。CVポート感染率の低下など	マニュアルの作成や浸透により、インシデントやポートトラブルが減少しているかどうか、効果判定している。

感染管理	
指標	評価方法・解釈
MRSA新規発生率の低下	入院患者のMRSA新規発生率が低下することは、適切な感染防止対策がなされているといえる。
手指消毒剤使用量の増加・耐性菌感染率の低下	月ごと使用量集計。月ごと感染率集計
手術部位感染率の低下	サーベイランス実施により感染率の把握、ケア改善の介入前後の感染率の把握

3 認定看護師になってよかったと思うか

認定看護師になってよかったと思うかを、11段階（0：全くそう思わない～10：非常に思う）で評価したところ、「8」が最も多く1,196名（17.6%）であり、次いで「5」が1,141名（16.7%）だった。全体の平均割合は「6.5」だった。

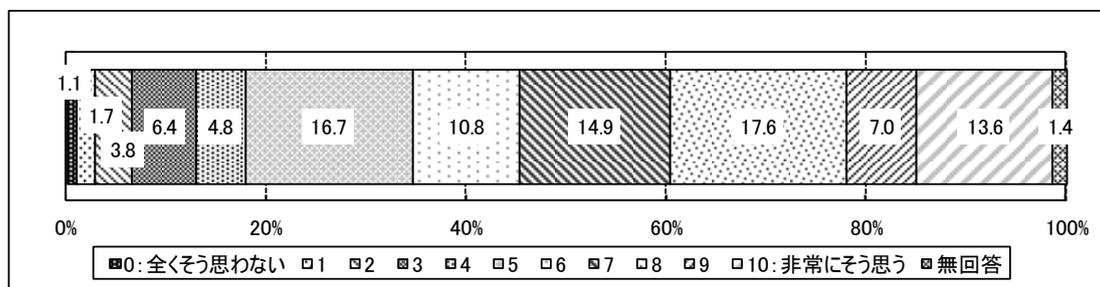


図 134 認定看護師になってよかったと思うか(n=6,812)

認定看護師になってよかったかと思うので、数値が高い（8～10）者の理由は、「自分自身のキャリアアップにつながった」、「医療者として視野が広がった」、「医師との連携がとて良くなった」、「患者、家族へ質の高い看護を提供できるようになった」「自分の興味ある分野の専門知識を得ることができ、活動もできた」等が挙げられた。

一方、数値が低い（0～3）者の理由は、「多忙なため（手当無しの残業、休日等の作業）」、「上司や周囲の理解がない」、「体調への影響が大きい」「金銭的な負担が大きい」、「家庭への影響が大きい」等が挙げられた。

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に、認定看護師になってよかったかをみると、全体の割合平均は 6.0 から 7.1 の範囲内だった。「非常にそう思う」と回答した方の割合は「不妊症看護」、「訪問看護」、「糖尿病看護」分野の順に高かった。

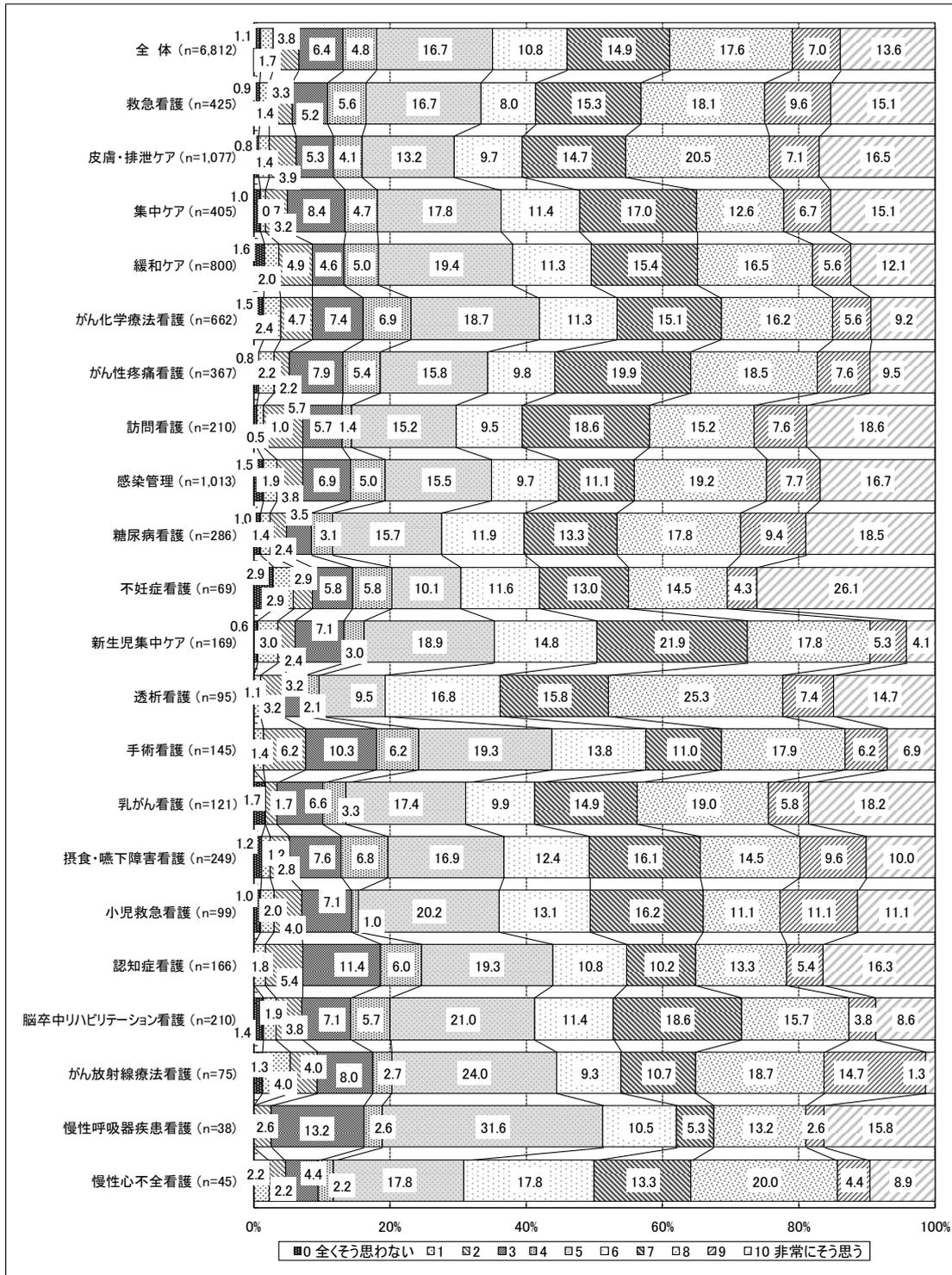


図 135 認定看護分野別、認定看護師になってよかったと思うか (n=6,812)

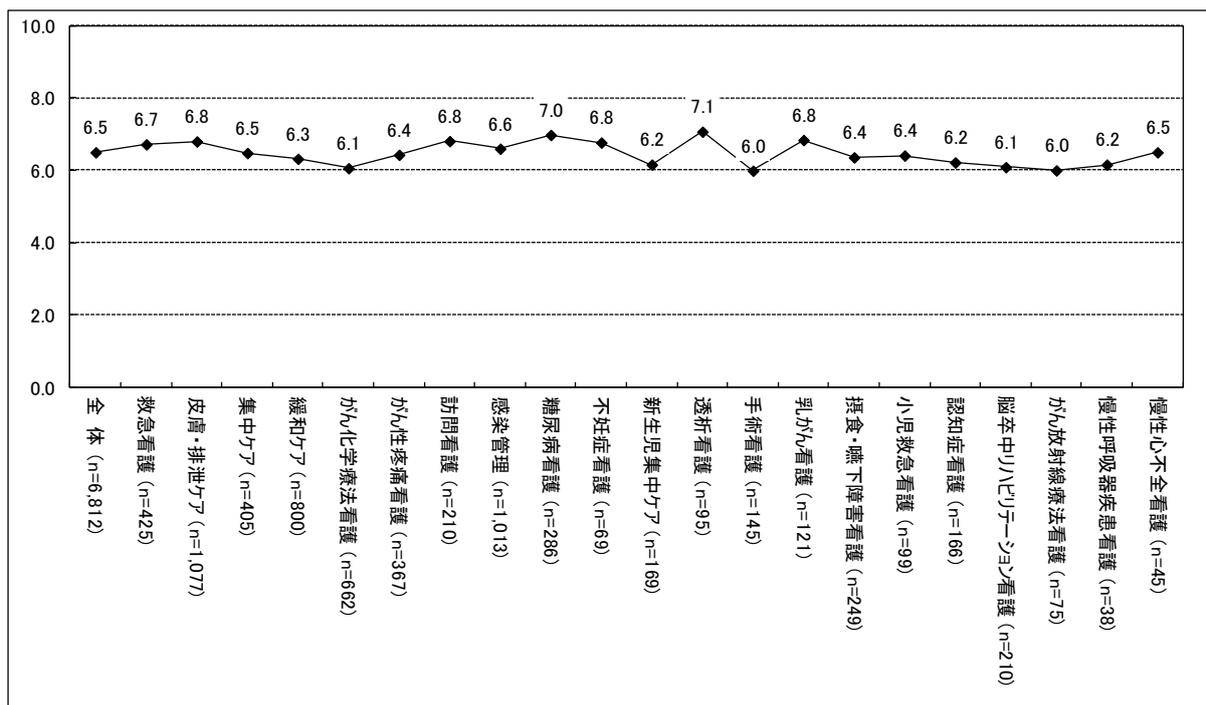


図 136 認定看護分野別、認定看護師になってよかったと思うか(平均割合)(n=6,812)

〔認定看護師としての経験年数別〕

認定看護師としての経験年数別に、認定看護師になってよかったかをみると、経験年数が増えるにつれて、高得点者の割合が高かった。

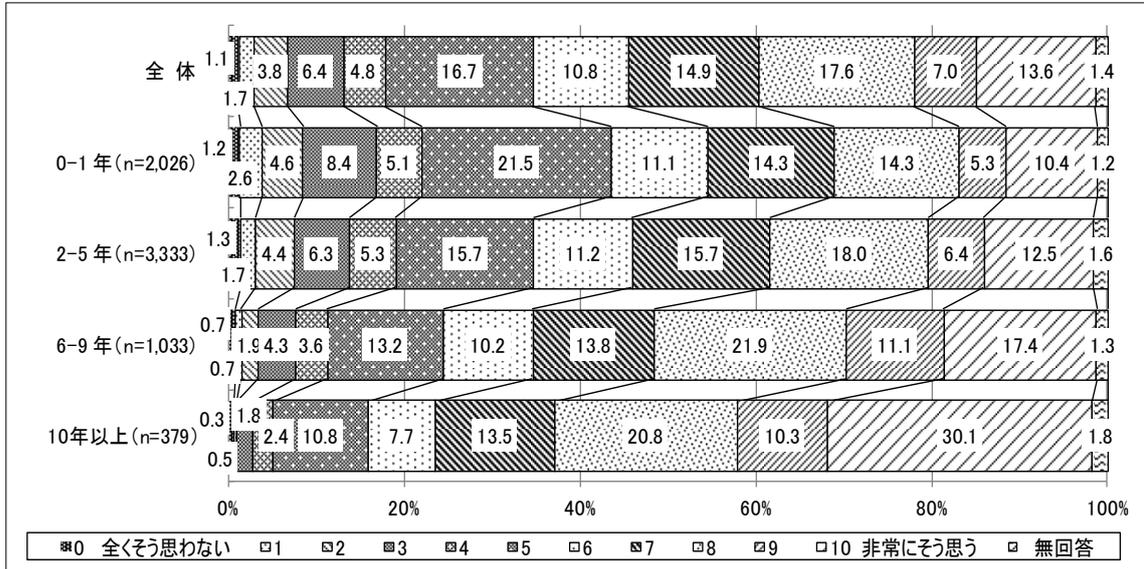


図 137 認定看護師としての経験年数別、認定看護師になってよかったと思うか (n=6,812)

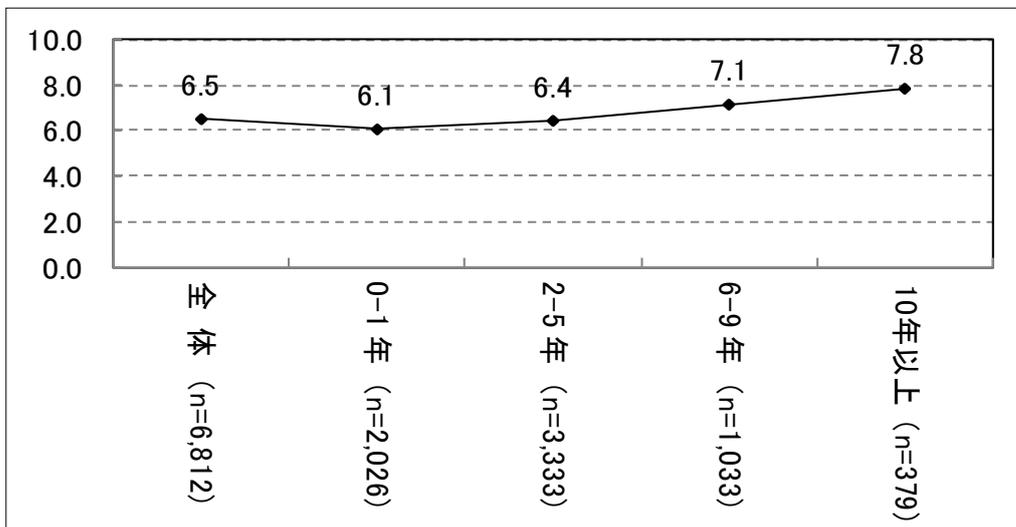


図 138 認定看護師としての経験年数別、認定看護師になってよかったと思うか (平均割合) (n=6,300)

3-1 認定看護師になってよかったかと活動状況、活動成果クロス集計

「V 3 認定看護師になってよかったか」（以後「満足度」という）を0から10点で得点化した値と、「IV 3 認定看護分野における活動状況」を1.0点から4.0点で得点化した値によるクロス集計を行った。なお、満足度は「0-3点」、「4-7点」、「8-10点」の3つでグループ化し、活動状況は得点を0.3点ごとに区分して集計に用いた。

満足度0-3のグループは活動状況（平均点）が1.9-2.1点区分の回答割合が18.2%と最も高く、満足度4-7のグループは2.5-2.7点区分の回答割合が19.4%と最も高かった。また、満足度8-10のグループは2.8-3.0点区分の回答割合が19.6%と最も高かった。満足度の高いグループは、活動状況基準の平均得点が高い傾向にあった。

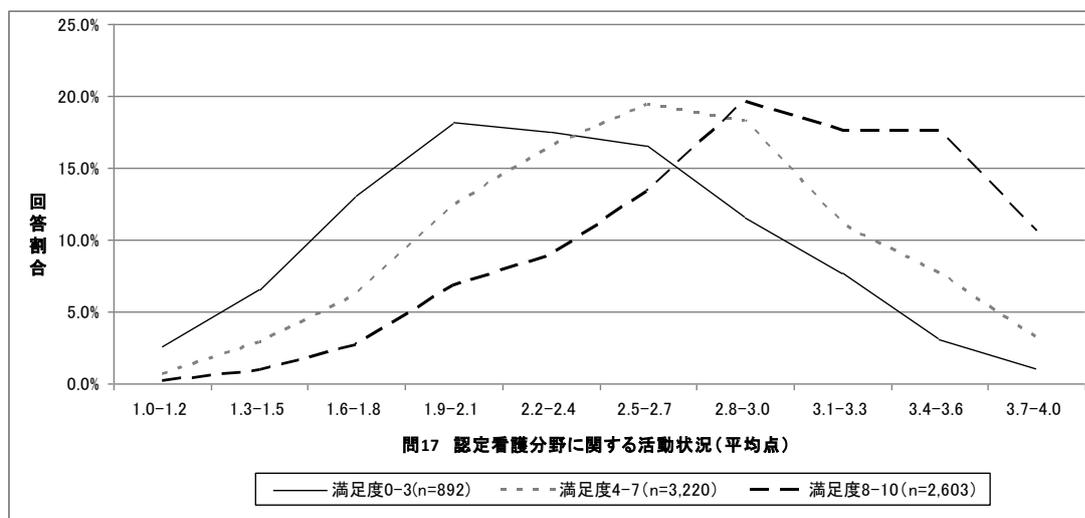


図 139 認定看護師になってよかったと思うか × 認定看護分野に関する活動状況 (平均点) (n=6,812)

同じく、「V 1 認定看護師としての活動成果」を 1.0 点から 4.0 点で得点化した値と満足度によるクロス集計を行った。なお、満足度は「0-3 点」、「4-7 点」、「8-10 点」の 3 つでグループ化し、集計に用いた。活動成果は得点を 0.3 点ごとに区分して集計に用いた。

満足度 0-3 のグループは活動成果 (平均点) が 2.2-2.4 点区分の回答割合が 24.4%と最も高く、満足度 4-7 のグループは 2.8-3.0 点区分の回答割合が 23.3%と最も高かった。また、満足度 8-10 のグループは 2.8-3.0 点区分の回答割合が 27.2%と最も高かった。満足度の高いグループは、活動成果基準の平均得点が高い傾向にあった。

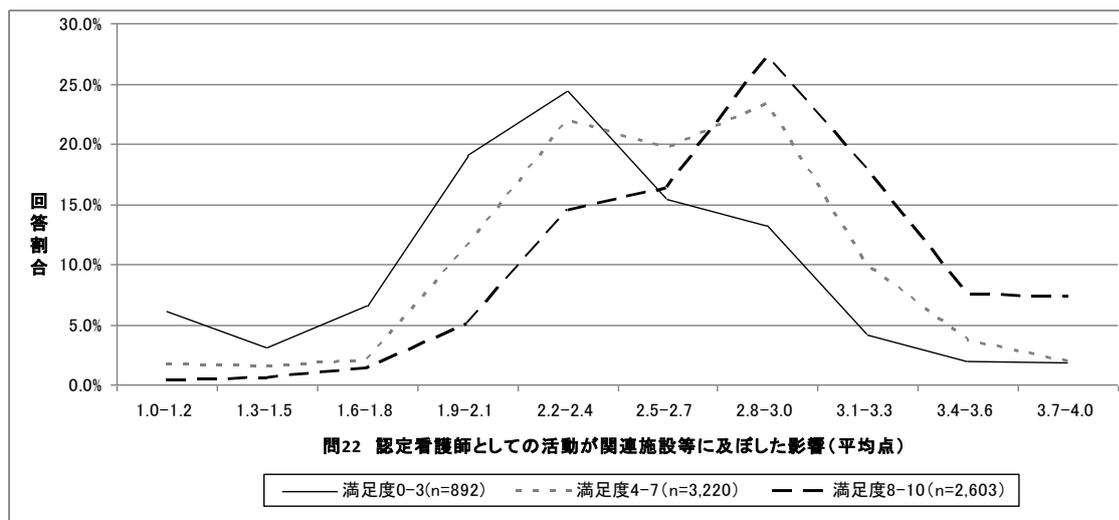


図 140 認定看護師になってよかったと思うか × 認定看護師としての活動が関連施設等に及ぼした影響 (平均点) (n=6,812)

4 他の看護師からの認定看護師資格取得についての相談有無

他の看護師から認定看護師の資格取得についての相談の有無は、「あり（はい）」が 5,821 名（85.5%）、「なし（いいえ）」が 964 名（14.2%）だった。

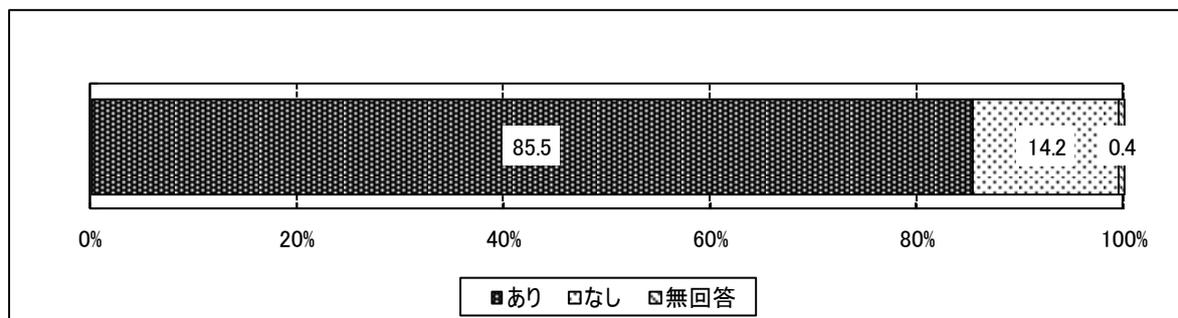


図 141 他の看護師から認定看護師の資格取得についての相談有無 (n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に他の看護師から認定看護師の資格取得についての相談の有無をみると、特に救急看護や手術看護で「あり」と回答した方の割合が高く 9 割を超えた。

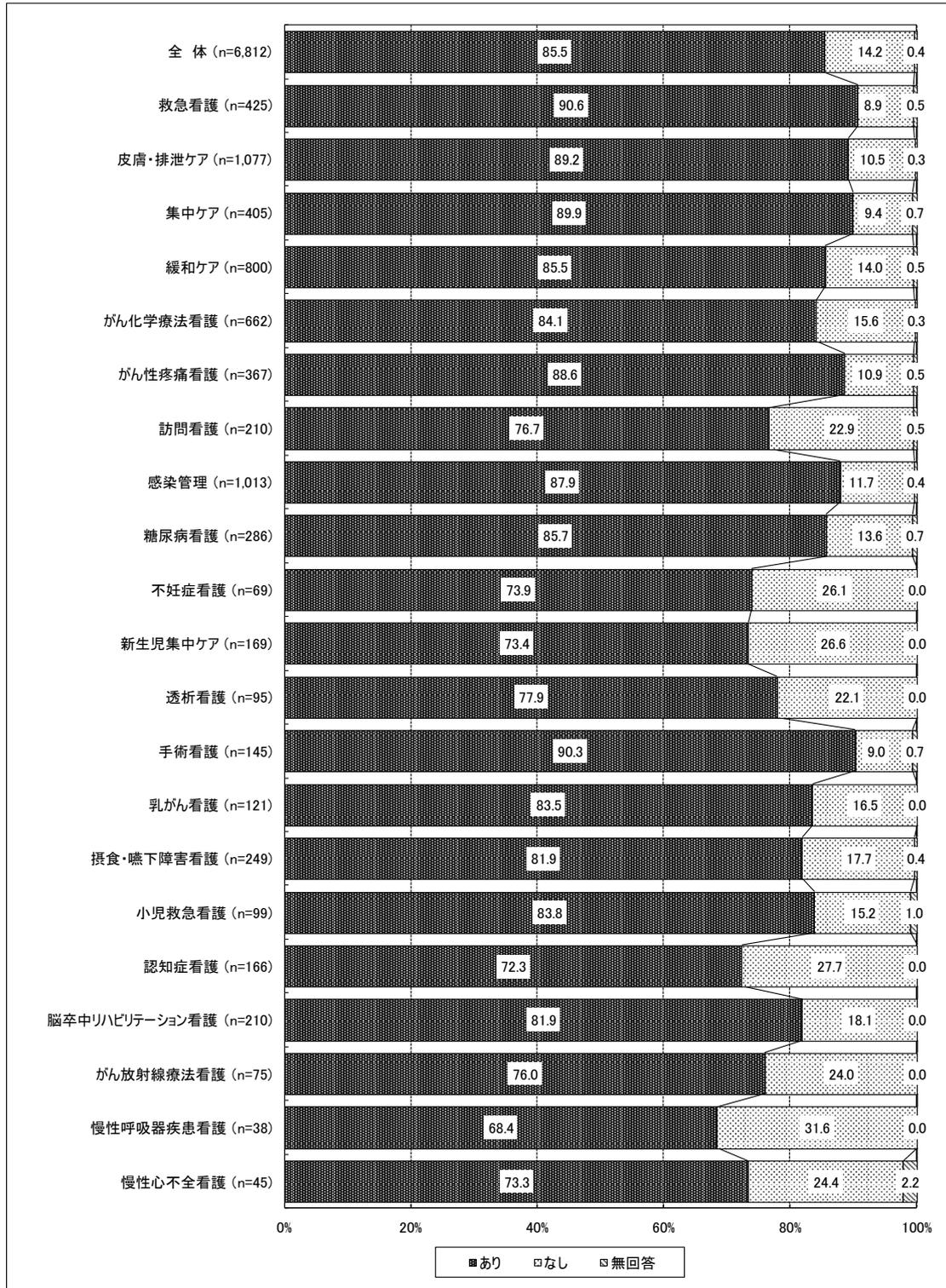


図 142 認定看護分野別、他の看護師から認定看護師の資格取得についての相談の有無 (n=6,812)

5 認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか

認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるかは、「はい」が 5,321 名 (78.1%)、「いいえ」が 1,264 名 (18.6%) だった。

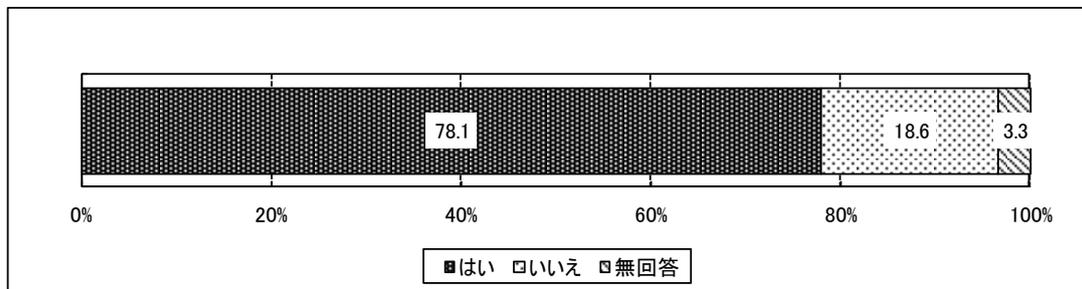


図 143 認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか (n=6,812)

〔認定看護分野別〕

認定看護分野別に認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるかをみると、分野により大きな差はなく、「はい」の割合は69.0%から84.3%の範囲だった。

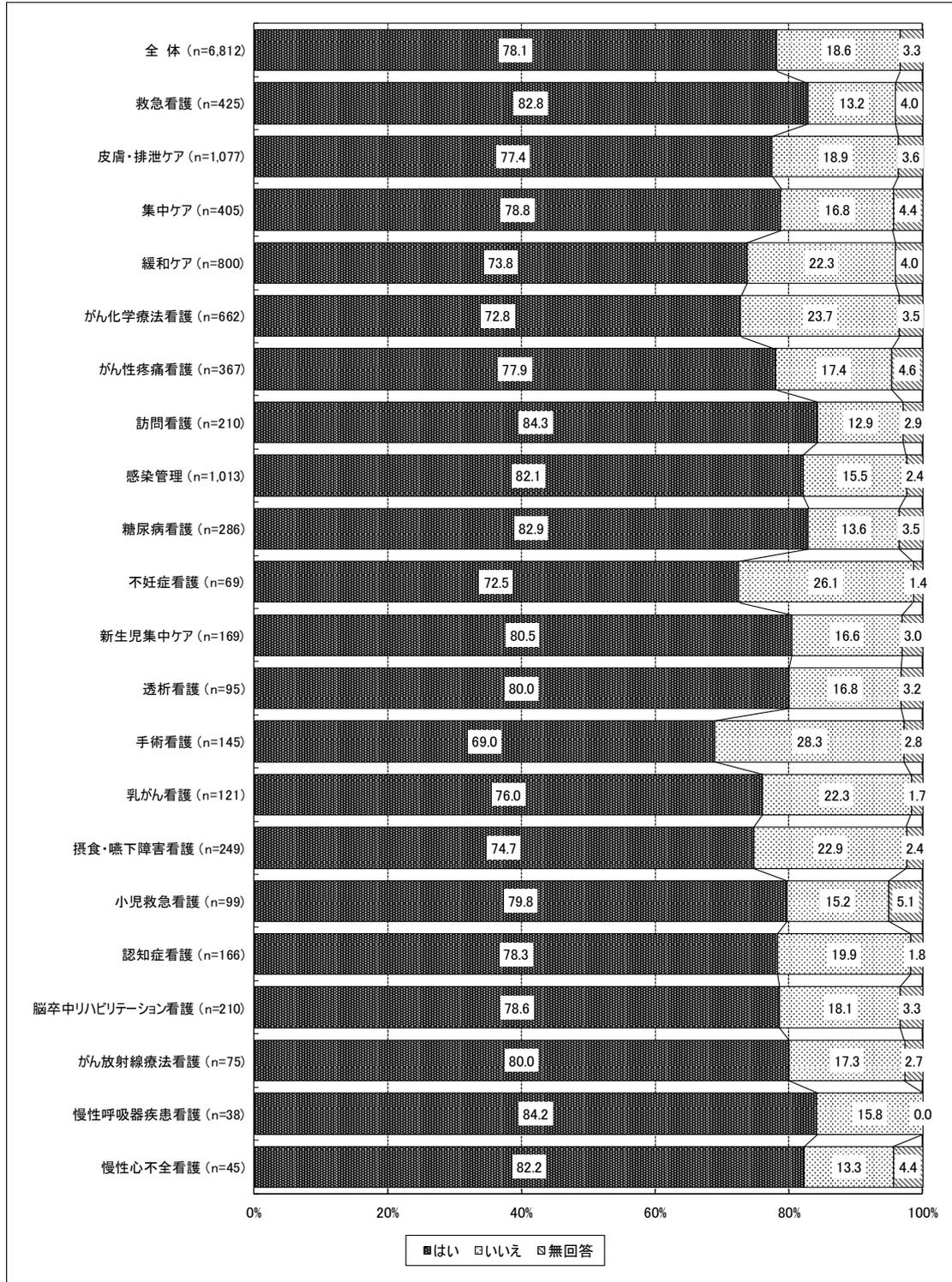


図 144 認定看護分野別、認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか (n=6,812)

〔認定看護師としての経験年数別〕

認定看護師としての経験年数別に認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるかをみると、「はい」の割合が最も高いのは「10年以上」で320名（84.4%）だった。

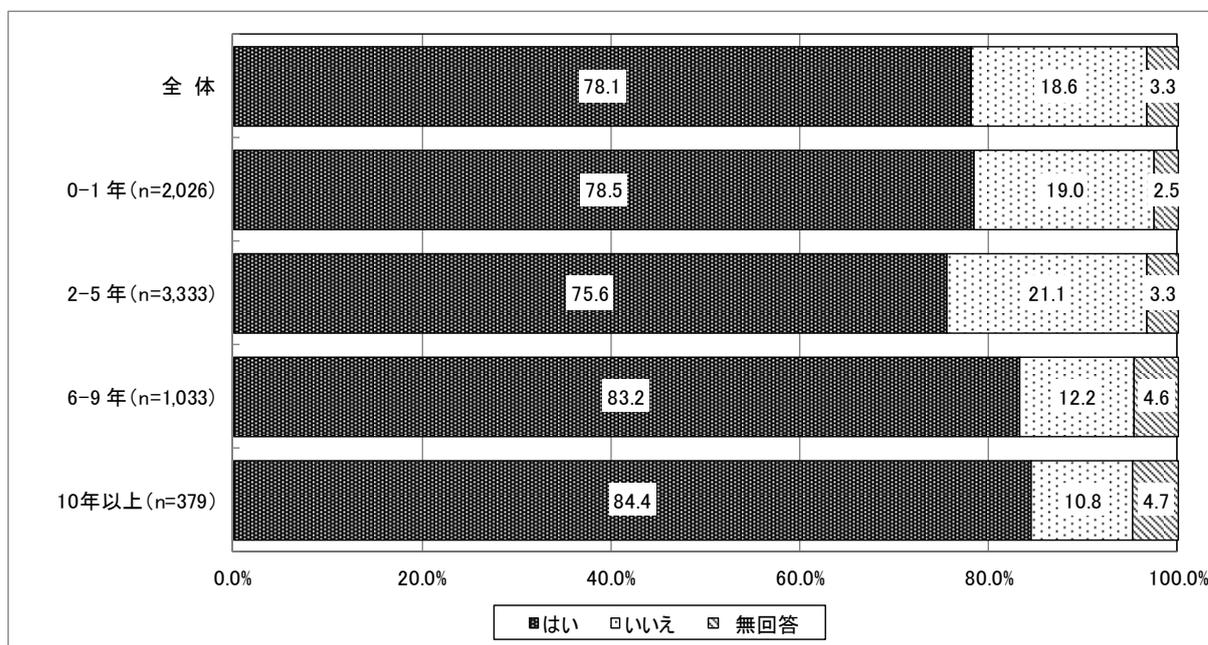


図 145 認定看護師としての経験年数別、認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めるか(n=6,812)

VI まとめ

調査により、認定看護師の属性、認定看護師資格を取得するまでの過程、活動状況、活動内容、活動成果について以下の結果を得た。

■認定看護師の属性

- ・ 看護師としての経験年数は9割近くが11年以上であり、平均は18.0年だった。認定看護師としての経験年数は半数近くが「2-5年」で、平均は3.5年だった。
- ・ 所属先は9割以上が「病院」で、次に多いのは「訪問看護ステーション」の3.3%であった。なお、0.9%（62名）が「離職中」であった。
- ・ 病院の設置主体は25.0%が「都道府県・市町村」であった。
- ・ 認定看護師は、概ね8割が病床数300床以上の病院に、約半数が「がん診療連携拠点病院」に、それぞれ所属していた。
- ・ 職位は39.9%が「スタッフ」と最も多く、次いで「主任相当」が37.8%、「看護師長相当」が14.2%であった。
- ・ 手当が支給されている認定看護師は32.6%で、最小1,066円/月、最大19,000円/月、平均5,224円/月であった。手当の有無は、設置主体による違いが大きく、分野による違いは小さかった。

■認定看護師資格を取得するまでの過程

- ・ 就学中の勤務形態は「出張」が43.9%と最も多く、次いで「研修」が28.9%、「休職」が18.3%であった。この期間の給与支給状況は、「基本給のみ」が65.0%を占め、賞与については「支給なし」が22.1%であった。また特別手当については「支給なし」が67.5%であった。
- ・ 教育課程受験料の支給は「支給なし」が75.6%、「支給あり（全額）」は20.4%、入学金や研修費の援助は「援助なし」が最も多く52.4%、「援助あり（全額）」は30.3%だった。
- ・ 認定看護師教育課程入学時に奨学金を利用した者は6.1%であった。
- ・ 認定看護師教育機関の選択理由で最も多かったのは「立地」の56.5%であった。

■活動状況

- ・ 所属部署・施設の認定看護分野との関連性は約9割が関連性「あり」と回答した。
- ・ 認定資格取得後の就業場所は変更有りと変更無しがそれぞれ半数でほぼ同数だった。「変更有り」とした回答者のうち、「希望しなかったが施設内・同一法人内で異動した」者が51.7%であった。
- ・ 61.1%の者が「施設外も含む」の活動範囲であり、そのうち9割近くが「講演・講師等依頼」であった。
- ・ 認定看護師活動の時間割合は、高い順に、実践、指導、相談であった。この順番は分野に拠らず同じだった。
- ・ 活動の推進力は「活動に対する同僚看護師の理解（評価）」及び「認定看護師とのネットワーク」が、それぞれ6割を占めた。
- ・ 活動を行う際に困難が生じた場合の相談相手は「同分野の認定看護師」及び「同僚の認定看

護師」が、それぞれ4割近くを占めた。認定看護師の約8割が何らかのネットワークに所属し、「認定看護師間での情報共有」等を行っていた。

- ・ 認定看護分野に関する現在の活動のうち、自己評価が高いのは、「認定看護分野における知識・技術の根拠に基づき、他職者に対して集団教育・指導を実践している」、「他職者と共働き、チームの一員として役割を果たす」、「認定看護分野において、個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する」であった。
- ・ 自分の活動分野による診療報酬の届出有無については、50.5%が「あり（はい）」と回答した。

■活動成果

- ・ 自身の活動成果や効果を評価するための指標は「ある」と回答した者が2割程度だった。指標の有無は、皮膚・排泄ケアや感染管理の分野では「あり」と回答した割合が高かった一方、大半が「なし」となった分野もあるなど、分野間で差があった。
- ・ 認定看護師になったの満足度は、0～10の11段階評価で、平均が6.5だった。
- ・ 認定看護師資格取得についての相談を受けることが「ある」と回答した者は85.5%だった。また、認定看護師資格の取得を他の看護師に勧めるかについては「はい」と回答した者は78.1%であった。

VII 参考資料

1 調査票

認定看護師の活動及び成果に関する調査

■ 選択肢に番号があるものは、該当する番号に○をお付けください。
 ■ 、()内には該当する数字もしくは文字をご記入ください。
 ■ 特に期日や期間に指定のない項目については、2012年8月初旬の状況をご記入ください。

A. ご自身のことについて以下の質問にお答えください。

問1. 認定看護分野について、下記のうち該当する番号1つに○をお付けください。

1. 救急看護	2. 皮膚・排泄ケア	3. 集中ケア	4. 緩和ケア
5. がん化学療法看護	6. がん性疼痛看護	7. 訪問看護	8. 感染管理
9. 糖尿病看護	10. 不妊症看護	11. 新生児集中ケア	12. 透析看護
13. 手術看護	14. 乳がん看護	15. 摂食・嚥下障害看護	16. 小児救急看護
17. 認知症看護	18. 脳卒中リハビリテーション看護	19. がん放射線療法看護	
20. 慢性呼吸器疾患看護	21. 慢性心不全看護		

問2. 看護師としての経験年数をお答えください。 ()年

問3. 認定看護師を取得してからの年数をお答えください。 ()年

問4. 性別に○をお付けください。

1. 男	2. 女
------	------

問5. ご所属施設について伺います。施設種別について、下記のうち該当する番号1つに○をお付けください。

1. 病院	2. 診療所	3. 福祉施設 (特別養護老人ホーム等)
4. 訪問看護ステーション	5. 企業	6. 教育機関 (教員)
7. 教育機関 (学生)	8. 離職中	9. その他 ()

→ 上記、問5において「1. 病院」を選択した方に伺います。(1以外を選択された方は問6にお進みください。)

副問(1). 設置主体について、該当する番号1つに○をつけ、「12. その他」の場合は()内にご記入ください。

1. 国	2. 都道府県・市町村	3. 国立大学法人	4. 公益法人	5. 医療法人
6. 学校法人	7. 国民健康保険団体連合会	8. 社会保険関連団体	9. 日本赤十字社	
10. 済生会	11. その他の法人 ()			
12. その他 ()				

副問(2). 病床数について、該当する番号1つに○をお付けください。

1. 20～99床	2. 100～199床	3. 200～299床	4. 300～399床	5. 400～499床
6. 500～599床	7. 600～699床	8. 700～799床	9. 800～899床	10. 900床以上

副問(3). 病院種別について、下記のうち該当する番号すべてに○をお付けください。

1. 特定機能病院	2. 地域医療支援病院	3. 小児救急医療拠点病院
4. 災害拠点病院	5. がん診療連携拠点病院	6. 該当なし

1

問 6. 所属部署・施設は認定看護分野と関連がありますか。

1. はい 2. いいえ

問 7. 認定資格取得後から現在までに就業場所が変わりましたか。

1. はい 2. いいえ

→ 上記、問 7 にて「1. はい」を選択した方に伺います。（「2. いいえ」を選択された方は問 8 にお進みください。）

副問(1). その理由について下記のうち該当する番号すべてに○をつけ、「5. その他」の場合は()内にご記入ください。

1. 自らの希望により施設内・同一法人内で異動した 2. 希望しなかったが施設内・同一法人内で異動した
3. より専門性を発揮できる職場へ転職した 4. より雇用条件のよい職場へ転職した
5. その他()

問 8. 職位について伺います。現在の職位について、下記のうち該当する番号 1 つに○をつけ、「10. その他」の場合は()内にご記入ください。

1. 副病院長 2. 副病院長兼看護部長相当 3. 看護部長相当 4. 副看護部長相当
5. 看護師長相当 6. 主任相当 7. スタッフ 8. 経営者 9. 教授、講師
10. その他()

問 9. 認定看護師への手当が何らかの形で支給されていますか。

1. はい 2. いいえ

→ 上記、問 9 にて「1. はい」を選択した方に伺います。（「2. いいえ」を選択された方は問 10 にお進みください。）

副問(1). 手当の名目を選択し、月額支給金額をご記入ください。

種類	1. 認定看護師手当	2. 専門職手当	3. 管理職手当として	4. その他()
金額	()円/月			

B. 認定看護師を取得するまでの過程について以下の質問にお答えください。

問 10. 認定看護師を目指した動機について、下記のうち該当する番号 1 つに○をつけ、「3. その他」の場合は()内にご記入ください。

1. 自らの希望（キャリアアップや知識・技術の習得など） 2. 所属施設（上司）のすすめ
3. その他()

問 11. 認定看護師教育機関を選択した理由について、下記のうち該当する番号すべてに○をつけ、「8. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|---------|
| 1. 立地 | 2. 開講月 | 3. 開講期間 |
| 4. 教育形態（集中型 [※] ） | 5. 教育形態（分散型 [※] ） | 6. 教員 |
| 7. 実習施設 | 8. その他（ | ） |

※集中型とは講義、演習、実習において平日の日中に開講する教育機関のことを指します。
分散型とは講義において夜間もしくは土日に開講する教育機関のことを指します。

問 12. 教育機関を選択する際、他の認定看護師教育機関への入学も検討しましたか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 13. 就学中の勤務形態、処遇上の取り扱いについて、該当する番号 1 つに○をつけ、「8. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | | | |
|-------------------|------------------|--------|-------|
| 1. 出張 | 2. 研修 | 3. 休職 | 4. 退職 |
| 5. 常勤（開講日以外は通常勤務） | 6. 常勤（週末勤務や夜勤のみ） | 7. 非常勤 | |
| 8. その他（ | ） | | |

→上記、問 13において「1. 出張」、「2. 研修」、「3. 休職」を選択した方に伺います。（それ以外の方は問 14にお進みください。）

副問(1). 給与について、該当する番号 1 つに○をお付けください。

- | | | | | | |
|---------|------------|----------|------|-------|--------|
| 1. 全額支給 | 2. 基本給のみ支給 | 3. 一部支給（ | %程度） | 4. 無給 | 5. その他 |
|---------|------------|----------|------|-------|--------|

副問(2). 賞与について、該当する番号 1 つに○をお付けください。

- | | | | |
|-------------|------------|------|---------|
| 1. 支給あり（全額） | 2. 一部支給あり（ | %程度） | 3. 支給なし |
|-------------|------------|------|---------|

副問(3). 特別手当（赴任旅費等）の支給はありましたか。該当する番号 1 つに○をつけ、支給があった場合は名目をご記入ください。

- | | | |
|---------------|---|---------|
| 1. 支給あり（主な名目： | ） | 2. 支給なし |
|---------------|---|---------|

副問(4). 教育課程受験料の支給はありましたか。該当する番号 1 つに○をお付けください。

- | | | | |
|-------------|------------|------|---------|
| 1. 支給あり（全額） | 2. 一部支給あり（ | %程度） | 3. 支給なし |
|-------------|------------|------|---------|

副問(5). 入学金や研修費など学費の援助はありましたか。該当する番号 1 つに○をお付けください。

- | | | | |
|-------------|------------|------|---------|
| 1. 援助あり（全額） | 2. 一部援助あり（ | %程度） | 3. 援助なし |
|-------------|------------|------|---------|

問 14. 認定看護師教育課程の入学にあたり奨学金を利用しましたか。「1. 利用した」場合は、奨学金名をご記入ください。

- | | | |
|---------------|---|------------|
| 1. 利用した（奨学金名： | ） | 2. 利用しなかった |
|---------------|---|------------|

C. 認定看護師としての活動について以下の質問にお答えください。

問 15. 活動範囲について伺います。現在の所属施設内における活動範囲について、下記のうち該当する番号 1 つに○をお付けください。

- | | | |
|-------------|----------|-----------|
| 1. 所属部署内に限る | 2. 施設内全体 | 3. 施設外も含む |
|-------------|----------|-----------|

▶上記、問 15 において「3. 施設外も含む」を選択した方に伺います。(3 以外を選択された方は問 16 にお進みください。)

副問(1). 施設外における活動内容について、下記のうち該当する番号すべてに○をつけ、「6. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 所属施設以外からのコンサルテーション依頼 | 2. 保健医療福祉行政の審議会や検討会委員等 |
| 3. 講演・講師等依頼 | 4. 認定看護師教育機関における講師・実習指導等 |
| 5. 都道府県看護協会等の委員会活動 | 6. その他 () |

問 16. 最近 1 週間の仕事を振り返り、認定看護師の実践、指導、相談の役割をどのような割合で行っているかお答えください。3 つの役割全体を 10 割として、それぞれの役割の程度を整数でお答えください。

<回答例> 実践(7)割 : 指導(2)割 : 相談(1)割

実践 () 割	: 指導 () 割	: 相談 () 割
----------	------------	------------

問 17. 現在実施している認定看護分野に関連する活動について伺います。

以下に示した基準に従い、0 から 4 の中であてはまる状況を 1 つ選んで、数字に○をお付けください。

なお、「0: 該当なし」はその活動を行っていない場合のみ、○をお付けください。

	活動内容	基準				
		該当なし	全くできていない	できていないことが多い	できている少し	できている
実践-1	認定看護分野において、個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する	0	1	2	3	4
2	認定看護分野において提供する看護の質を均一化するため、マニュアルを作成している	0	1	2	3	4
3	認定看護分野における知識・技術の根拠に基づき、患者に対して集団教育・指導を実施している	0	1	2	3	4
4	認定看護師として患者からの指名によるコンサルテーションを実施している	0	1	2	3	4
指導-1	認定看護分野における知識・技術の根拠に基づき、看護師に対して集団教育・指導を実施している	0	1	2	3	4
2	認定看護分野における知識・技術の根拠に基づき、他職者に対して集団教育・指導を実施している	0	1	2	3	4
3	認定看護分野における知識・技術の根拠に基づき、他施設等で集団教育・指導を実施している	0	1	2	3	4

	活動内容	基準				
		該当なし	全くできていない	できていないことが多い	できている少し	できている
相談-1	認定看護師として看護師からの指名によるコンサルテーションを実施している	0	1	2	3	4
2	認定看護師として他職者からの指名によるコンサルテーションを実施している	0	1	2	3	4
3	認定看護師として他施設からの指名によるコンサルテーションを実施している	0	1	2	3	4
4	コンサルテーション後に対象者に対してフォローアップを実施している	0	1	2	3	4
倫理-1	患者・家族の擁護者として相談・調整的役割を果たしている	0	1	2	3	4
リーダーシップ-1	認定看護分野の活動の場において、リーダーシップを発揮している	0	1	2	3	4
チーム医療-1	他職種と共働りし、チームの一員として役割を果たしている	0	1	2	3	4

問 18. 所属施設における診療報酬の届出について伺います。ご自身の活動により診療報酬の届出を行って
ますか。

1. はい 2. いいえ

→ 上記、問 18 において「1. はい」を選択した方に伺います。（「2. いいえ」を選択された方は問 19 にお進みくだ
さい。）

副問(1). 届出を行っている診療報酬について、該当する番号すべてに○をつけ、「14. その他」の場合は()
内にご記入ください。

- | | | |
|--------------------|----------------------|-----------------|
| 1. 緩和ケア診療加算 | 2. 外来緩和ケア管理料 | 3. がん患者カウンセリング料 |
| 4. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | 5. 糖尿病合併症管理料 | 6. 糖尿病透析予防指導管理料 |
| 7. 栄養サポートチーム加算 | 8. 呼吸ケアチーム加算 | 9. 感染防止対策加算 |
| 10. 精神科リエゾンチーム加算 | 11. 人工肛門・人工膀胱造設前処置加算 | |
| 12. 持続的難治性下痢便ドレナージ | 13. 摂食機能療法 | |
| 14. その他 () | | |

副問(2). 診療報酬の届出が認定看護師としての活動に与えた影響について、下記のうち該当する番号すべ
てに○をつけ、「8. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | | |
|-------------------|-------------------------|----------------|
| 1. 活動の場が確保された | 2. 活動の範囲が広がった | 3. 活動の範囲が限定された |
| 4. 活動時間が確保された | 5. ポジション（専従・専任など）が与えられた | |
| 6. 手当が支給された（増加した） | 7. 自己研鑽の機会が与えられた（増加した） | |
| 8. その他 () | | |

問 19. 認定看護師としての活動の推進力となっているものについて伺います。下記のうち該当する番号すべてに○をつけ、「12. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 活動に見合う昇給・手当等 | 2. 昇進 |
| 3. 活動に対する組織経営層の理解 (評価) | 4. 活動に対する看護部長の理解 (評価) |
| 5. 活動に対する上司の理解 (評価) | 6. 活動に対する同僚看護師の理解 (評価) |
| 7. 活動に対する患者とその家族の評価 | 8. 医師の理解 (評価) |
| 9. 他職者 (コメディカル) の理解 (評価) | 10. 管理的業務の負荷軽減 |
| 11. 認定看護師とのネットワーク | 12. その他 () |

問 20. 認定看護師としての活動にあたり困難が生じた場合に相談する主な相手について、下記のうち該当する番号1つに○をつけ、「8. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | | | |
|--------------|-----------|-----------------|--------------|
| 1. 同僚の認定看護師 | 2. 同僚の看護師 | 3. 所属部署の上司 | 4. 同分野の認定看護師 |
| 5. 所属部署以外の上司 | 6. 他職者 | 7. 認定看護師教育課程の教員 | |
| 8. その他 () | | | |

問 21. 認定看護師のネットワークについて伺います。認定看護師のネットワークに所属していますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

→ 上記、問 21 において「1. はい」を選択した方に伺います。(「2. いいえ」を選択された方はDにお進みください。)

副問(1). 所属するネットワークの母体について、下記のうち該当する番号すべてに○をつけ、「6. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | | | |
|-----------|------------|--------------|-------------|
| 1. 学会・研究会 | 2. 教育機関 | 3. 都道府県 (行政) | 4. 都道府県看護協会 |
| 5. 所属施設 | 6. その他 () | | |

副問(2). 所属するネットワークにて行っている活動について、下記のうち該当する番号すべてに○をつけ、「10. その他」の場合は()内にご記入ください。

- | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 実践における連絡・調整 | 2. 認定看護師間での情報共有 | 3. 認定看護師間での勉強会の実施 |
| 4. 看護師を対象とした勉強会の実施 | 5. 看護師を対象とした情報提供 | |
| 6. 他職者を対象とした情報提供 | 7. 一般市民を対象とした情報提供 | |
| 8. 他組織が運営する学会や研究会での発表 | 9. 研究活動 | |
| 10. その他 () | | |

D. 認定看護師としての活動の成果について以下の質問にお答えください。

問 22. 認定看護師としての活動が関連する部署や部門、施設に及ぼした成果について伺います。

以下に示した基準に従い、0 から4 の中であてはまる状況を 1 つ選んで、数字に○をお付けください。

なお、「0:該当なし」はその活動を行っていない場合のみ、○をお付けください。

	活動内容	基準				
		該当なし	全く思わない	あまり思わない	少し思う	そう思う
1	適切なケアの選択ができるようになった	0	1	2	3	4
2	標準的なケアが浸透した	0	1	2	3	4
3	意図的なケアを行うようになった	0	1	2	3	4
4	適切なケア評価ができるようになった	0	1	2	3	4
5	看護計画が充実した	0	1	2	3	4
6	ケアプランの増加が見られるようになった	0	1	2	3	4
7	家族へのケアが充実した	0	1	2	3	4
8	他職者との連携が進むようになった	0	1	2	3	4
9	在院日数が短縮された	0	1	2	3	4

問 23. 認定看護師としての活動の評価方法について伺います。ご自身の活動の成果や効果を評価するための臨床指標はありますか。

1. はい 2. いいえ

※ここで言う臨床指標とは自身の活動がもたらした臨床上のアウトカムを図る指標を指します。

▶ 上記、問 23 において「1. はい」を選択した方に伺います。（「2. いいえ」を選択された方は問 24 にお進みください。）

副問 (1). 具体的な評価指標をご記入ください。

指標	評価方法・解釈
例) 褥瘡推定発生率の低下	定点日における入院患者の入院後の褥瘡の発生率の経時的変化により、褥瘡の発生予防に対するケアの成果、効果を図る。低下は予防的介入が有効であることを示す。

問 24. 認定看護師に対するご自身の認識について伺います。認定看護師になってよかったと思いませんか。

「全くそう思わない」を 0、「非常にそう思う」を 10 とし、最もあてはまる数字に○をお付けください。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

全くそう思わない

非常にそう思う

問 25. それはなぜですか。

問 26. 他の看護師から認定看護師の資格取得について相談を受けたことはありますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問 27. 認定看護師の認定資格取得を他の看護師に勧めますか。

1. はい	2. いいえ
-------	--------

■その他、ご意見やご要望をご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒にて 9 月 28 日(金)までにご返送ください。

2 自由記述（一部抜粋）

問 24 では、認定看護師になって良かったかどうかを、0：「全くそう思わない」から 10：「非常にそう思う」の 11 段階で評価し、問 25 ではその理由を記述した。

以下、一部抜粋する。

表 26 認定看護師になってよかったと思うか(自由記述抜粋)

点数	自由記述（理由）
10	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野をもつことで特定分野への自信がついた。 ・患者、家族の信頼を得て、専門家としてのモチベーションが上がった。 ・認定看護師であるため、活動の幅が広がった。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフナースや医師からも信頼されるケアを展開できた。 ・職員や家族など全ての人間に対して、関わる内容の質が向上した。 ・自分が看護の中でもさらに興味のある分野に深く関われ、学び、実践していける。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・役割を認識し、行動、学習をするようになった。 ・仕事の広がりから、様々なことを体験できることで自分も成長できた。 ・同じ思いの仲間に出逢えたから。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動の場が院内に広がったことで充実感、達成感がある。 ・患者ケアにあてる時間がほとんど取れない管理者になっており、両立が困難。 ・学会に出向き、新たな学びと、新たな交友が生まれることが楽しい。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野として資格を持つことにより、通常業務にさらに業務が過せられ負担になる。 ・希望のとおり領域で、より深く考えながら看護を行うことができたから。 ・時間外の報酬のない仕事が莫大な量であり、プライベートへの犠牲が大きい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事にやりがいや自己成長としては大きくよかったと思う。 ・善くも悪くも、認定資格が重く、責任の重圧を感じる一方で、やりがいや達成感もある。 ・管理職業務が優先されてしまうため、なかなか実践ができない。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事量や上司からの過度の期待が増え、認定としての仕事以外も増えた。 ・日々の業務におわれて認定活動時間をつくるのが困難。 ・周囲の理解不足や他職種との連携の難しさを感じる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・思った通りの活動ができない。 ・私費での活動になるため経済的負担が非常に大きく家計を圧迫している。 ・7：1をとるために何も活動させてもらえていない。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床では教育課程で得たものを活かすための体制や周囲の理解が乏しい。 ・役職がついたため夜勤回数が減り、認定手当も無いため、以前より給与が減った。 ・保険点数で加算される項目がないため。
1	<ul style="list-style-type: none"> ・上司・同僚等からの理解が得られにくい。 ・評価されず、仕事が増えるだけで手当もない。 ・全て「専従だから」という理由で仕事が増加した。

点数	自由記述（理由）
0	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度の臨床経験が必要だった。上司、同僚との折り合いが大変である。 ・CNとしての活動を適切に組織から評価されていない。 ・病院の広告として利用されているだけの存在に感じる。

3 自由記述分析

問 24 では、認定看護師になって良かったかどうかを 0 の「全くそう思わない」から、10 の「非常にそう思う」まで 11 段階で評価している。そのうち、0～3 と評価した者、つまり「全くそう思わない」に近い 4 段階を選んだ回答者は 892 名であった。ここではこの 892 名に注目し、評価理由を記述した問 25 とその他意見要望を自由に記入した最後の設問の回答を整理・分析した。

表 27 満足度評価の理由

問 24 の回答理由 (問 25、その他意見要望の回答にみられたキーワード)	該当件数 (重複あり)
多忙 (手当無しの残業、休日等の作業)	350
上司や周囲の理解	234
体調への影響	173
金銭的な負担	74
家庭への影響	45
自らの考える理想の認定看護師像との乖離	36
経験の浅さ	33
認定を更新しない意向	15
退職・離職	11
患者と接する機会の減少	8

3-1 多忙

非常に多忙で、自分の時間がとれず、報酬面でも報われない、という趣旨の回答が 350 件寄せられた。

表 28 主な意見(「多忙」関連)

<ul style="list-style-type: none">・講義準備、会議準備、自己学習など、夜中や休日、勤務時間外も仕事しているため。・帰宅時間も遅く、理解してくれる人もいない。・業務時間外で行うことが増加した。・勉強会などの準備で休日を使用している。・学会や勉強会など自己研鑽に休日やお金を使用している。・自分の趣味や家族と過ごす時間も少なくなっている。

3-2 上司や周囲の理解が無い

次に多かったのは上司や周囲の理解が無い、認定看護師としての価値を認められていないという回答であり、234 件寄せられた。

表 29 主な意見(「上司や周囲の無理解」関連)

- ・組織、管理者の理解がない。
- ・患者の支えになりたいと思い学習したが、部長はそう見てくれない。
- ・新しい分野のためか、認知度が低い。
- ・負担は多いが評価されず、責任は負わされても権限はない。

3-3 体調への影響

次に多いのは実際に体を壊してしまったという回答であり、173 件寄せられた。中には、離職や休職など非常に深刻な状況に陥っているという回答もみられた。

表 30 主な意見(「体調への影響」関連)

- ・体調をくずしてしまい離職した。
- ・業務の負担が多くなった事に加え、認定看護師の役割についてスタッフの理解がなく、休職した。
- ・病気により倒れた。しかし、研修のための資料を作成する時間なども与えてくれない。

3-4 金銭的な負担

認定看護師になるため、そしてなったことにより、金銭的に大きな負担が強いられるという回答が 74 件寄せられた。資格取得のための経費が（地方在住者は特に）負担であったり、資格取得後も、勉強や学会参加のための経費などの自己負担が大きい等の回答であった。

表 31 主な意見(「金銭的な負担」関連)

- ・地方に住んでいるため、ブラッシュアップや学会等、都市部集中しているため、本当にお金がかかる。
- ・給与は減額（夜勤が減るため）、手当もなく、貸与分の金額を返済すると、マイナスになる
- ・資格取得に経済的負担が大きすぎる。
- ・お金もかかり、“認定貧乏”などと言われる。
- ・給料の大幅な低下、学会費など費用がかかる。

3-5 家庭への影響

多忙により、出産・育児など家庭への影響がある、とする回答が 45 件寄せられた。

表 32 主な意見(「家庭への影響」関連)

- ・子育てとの両立が厳しく、家庭が崩壊しそう。
- ・時間外勤務も増え自宅に帰る事は少なくなった。
- ・家庭、家族への負担、自分のストレスがたまってしかたがない。
- ・ワークライフバランスと言われているが仕事ばかりが中心になっている。
- ・専従者がいるので、兼任者、仕事が 9 割、認定看護師としての活動は 1 割になっている（時間外活動）。

3-6 自らの考える理想の認定看護師像との乖離

自らの考える認定看護師の理想像と乖離している、という回答が 36 件寄せられた。

表 33 主な意見(「理想像との乖離」関連)

- ・認定看護師だからと言う理由で認定看護師とは全く関係のない仕事が増えた。」
- ・認定看護師になる前の方がもっと自由に動いていた。
- ・認定看護師は、病院の看護師モデルとなるべきと、常識や人格のことや仕事量(結果)を求められている。
- ・患者のケアに重点を置きたい自分の気持ちと資格取得者に対する周囲からの思惑とに差があり、難しい。
- ・業務や責任が増えたが、給与は逆に減った(専従になるため夜勤も出来ない)。

3-7 経験の浅さ

まだ経験が浅く十分な活動ができていない、という回答が 33 件寄せられた。認定を受けてまだ日が浅いという回答だけでなく、管理業務の経験が認定看護師には必要との意見も寄せられた。

表 34 主な意見(「経験の浅さ」関連)

- ・認定看護師として活動するためには、専門分野の知識、技術だけでなく管理能力なども必要。
- ・認定看護師になってからの月日が短い。自施設における活動基盤ができていない。
- ・今年認定を受けたばかりで、まだまだ自身の活動計画などで手がいっぱいな状況。

3-8 認定制度に否定的な意向

認定制度の意義を疑問視したり、認定を更新しない、という回答が 15 件寄せられた。その理由として、多忙、金銭的負担、過重な要求、周囲の理解とモチベーションなどが挙げられた。

表 35 主な意見(「制度に否定的」関連)

- ・家庭を持ってから、活動の継続が困難となった。
- ・再認定(認定更新)のため作業が負担であり、プライベートがほとんどなくなってしまうと思うと更新しようと思えない。
- ・外部の組織団体に所属しなければならず、そこでの上下関係や学習会参加など、半強制的な活動が精神的負担になっている。
- ・周囲に認定になって退職や休職に追い込まれた人がいて、能力のある人がその現実を見て、認定看護師を含めたスキルアップをためらっている。
- ・診療報酬の届け出のない分野は、現在の所属施設では活動を希望しても不可能というイメージがある。
- ・公的な資格にする必要がある。このままでは多重業務をかかえた便利屋になってしまう可能性がある。

3-9 退職・離職

退職や離職に関連する回答が 11 件寄せられた。

表 36 主な意見(「退職・離職」関連)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・上司が不勉強な場合、認定看護師のまちがった使い方をしてしまう。認定看護師を育てる時には上司教育の場も作るべき。・バーンアウトし、その後も職を転々としている。・領域によっては活動できるが、少なくとも自分の領域は病院では必要とされていない（必要とされる患者はいるのに）と感じた。 |
|--|

3-10 患者と接する機会の減少

認定看護師を目指す理由のひとつに、より水準の高い看護を実践することがあるにもかかわらず、その機会が減ってしまった、という回答が 8 件寄せられた。

表 37 主な意見(「患者と接する機会の減少」関連)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・直接患者のケアをする機会が非常に少ない。・実践がなかなかできなくて、スタッフがうらやましい。・部署を異動して管理業務をまかされるようになり、患者のベッドサイドに行く時間が減った。・リーダーとしての業務が加わり、実践へ活かすケアを行う時間がない。・患者と接する機会がなくなり、自分のモチベーションが下がらなくなった。 |
|--|